

東京医療保健大学学則・大学院学則の一部改正について(抄)

1. 趣旨・概要。

平成 23 年度に受審しました大学基準協会の大学評価結果(委員会案)においては、理念・目的及び管理運営に関して努力課題として次のことが指摘されております。

○理念・目的に関して。

学部、学科ごと、研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が「学則」等に定められていないので、改善が望まれる。

○管理運営に関して。

管理運営に必要な職位の権限規程がないので、役職者の権限規程を定めることが望まれる。

については、次のとおり学則及び大学院学則の改正を行います。

①学則においては、医療保健学部及び看護学科・医療栄養学科・医療情報学科、東が丘看護学部の理念・目的を明記するとともに、大学院学則においては、医療保健学研究科及び看護学研究科の理念・目的を明記すること。

②学則第 51 条に定める本学の職員構成のうち、学長・副学長・学部長・学科長・図書館長・大学経営会議室長・事務局長の役職者について、それぞれの権限を明記すること。

(学長)

第 51 条の 2 学長は、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 92 条第 3 項に基づき校務をつかさどり、職員を統督する。

2 学長に関し必要な事項は、別に定める。

(副学長)

第 51 条の 3 本学に、副学長を置く。

2 副学長は、学長の職務を助ける。

3 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

(学部長)

第 51 条の 4 学部に、学部長を置く。

2 学部長は、学長の命を受け、当該学部の運営に関する校務をつかさどる。

3 学部長に関し必要な事項は、別に定める。

(学科長)

第 51 条の 5 学科に、学科長を置く。

2 学科長は、学部長の命を受け、当該学科の運営に関し、総括し、調整する。

3 学科長に関し必要な事項は、別に定める。

(図書館長)

第 51 条の 6 図書館に、館長を置く。

2 図書館長は、学長の命を受け、図書館の運営に関する校務をつかさどる。

3 図書館長に関し必要な事項は、別に定める。

(大学経営会議室長)

第 51 条の 7 本学に、大学経営会議室長を置く。

2 大学経営会議室長は、大学経営会議室の事務を総括する。

(事務局長)

第 51 条の 8 本学に、事務局長を置く。

2 事務局長は、事務局の事務を掌理する。

2. 施行年月日。

平成 24 年 4 月 1 日。

東京医療保健大学学則 新旧比較対照表(抄)

新	旧
<p>(<u>本学の建学の精神・理念・目的</u>)</p> <p>第1条 同右</p> <p>(<u>医療保健学部の理念・目的</u>)</p> <p>第1条の2 <u>医療保健学部に看護学科、医療栄養学科及び医療情報学科を設置し、医療保健学部においては「ますます高度化する医療保健活動に対応し、グローバルな視点で活動できる高度な知識・技術を持った専門職の育成」、「医療保健活動のチーム化を踏まえ、他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成」及び「医療保健活動の原点とも言うべき「現場」に興味を持ち、「現場」を愛する専門職の育成」を図るとともに、「教育研究成果のエッセンスを相互に提供し合うことで幅広い視野を持った専門職及びチーム医療人として協調・協力が出来る人材の育成」を図る。</u></p> <p>(<u>医療保健学部看護学科の理念・目的</u>)</p> <p>第1条の3 <u>医療保健学部看護学科においては、「新しい時代のニーズに対応した看護師及び保健師の養成」、「本学の教育環境を活かした、医療現場におけるチーム医療の中核として活躍できる人材の育成」及び「看護師に必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。</u></p>	<p>(目的)</p> <p>第1条 本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、また私立学校法に従い、知識社会が実現すると予想される21世紀において、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を目的とする。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>

新	旧
<p>(医療保健学部医療栄養学科の理念・目的)</p> <p>第1条の4 <u>医療保健学部医療栄養学科においては、「新しい時代のニーズに合った医療を意識した管理栄養士の養成」、「栄養学分野の高度専門職として、チーム医療において他の関連専門職とともに的確に責務を果たせる栄養サポートチームの中核として活躍できる人材の育成」及び「人間存在の根源的問題である「食」に取り組むために必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。</u></p> <p>(医療保健学部医療情報学科の理念・目的)</p> <p>第1条の5 <u>医療保健学部医療情報学科においては、「医療現場を理解することで、病院等の現場及び医療・健康に関する企業等で、情報技術の専門職として活躍できる人材の育成」及び「医療保健の専門職に必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。</u></p> <p>(東が丘看護学部の理念・目的)</p> <p>第1条の6 <u>東が丘看護学部看護学科を設置し、「変化する時代を幅広く見据えながら、専門職として自律性を持ち、臨床判断し、確かな看護の実践能力をもって発展的に未来の看護を創造しうる看護職の育成」を図るとともに、「臨床に強い高度医療に対応した、高度な看護実践能力を身につけた看護職の育成」、「自分で考え、判断し、行動できる自律した看護職の養成」及び「医療現場でチーム医療の中心的存在となり、コーディネーター役を果たせる看護職の育成」を図る。</u></p>	<p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>
<p>第2条(名称)～第50条(規定の準用) (略)</p>	<p>第2条(名称)～第50条(規定の準用) (略)</p>

新	旧
<p style="text-align: center;">第 10 章 職員組織</p> <p>(職員構成)</p> <p>第 51 条 本学職員の構成は、次のとおりとする。 <u>学長、副学長、学部長、学科長、図書館長。</u> <u>大学経営会議室長、事務局長、部長、センター長、次長、課長、</u> <u>係長、主任。</u> 教育職員（教授、准教授、講師、助教、助手）。 事務職員。 その他、必要に応じて役職者を置く。</p> <p><u>(学長)</u></p> <p>第 51 条の 2 <u>学長は、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 92 条第 3</u> <u>項に基づき校務をつかさどり、職員を統督する。</u> <u>2 学長に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p><u>(副学長)</u></p> <p>第 51 条の 3 <u>本学に、副学長を置く。</u> <u>2 副学長は、学長の職務を助ける。</u> <u>3 副学長に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p><u>(学部長)</u></p> <p>第 51 条の 4 <u>学部に、学部長を置く。</u> <u>2 学部長は、学長の命を受け、当該学部の運営に関する校務をつか</u> <u>さどる。</u> <u>3 学部長に関し必要な事項は、別に定める。</u></p>	<p style="text-align: center;">第 10 章 職員組織</p> <p>(職員構成)</p> <p>第 51 条 本学職員の構成は、次のとおりとする。 <u>学長、副学長、学部長、学科長。</u> <u>大学経営会議室長、事務局長、図書館長、部長、センター長、</u> <u>次長、課長、係長、主任。</u> 教育職員（教授、准教授、講師、助教、助手）。 事務職員。 その他、必要に応じて役職者を置く。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>

新	旧
<p><u>(学科長)</u> 第 51 条の 5 <u>学科に、学科長を置く。</u> 2 <u>学科長は、学部長の命を受け、当該学科の運営に関し、総括し、調整する。</u> 3 <u>学科長に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p><u>(図書館長)</u> 第 51 条の 6 <u>図書館に、館長を置く。</u> 2 <u>図書館長は、学長の命を受け、図書館の運営に関する校務をつかさどる。</u> 3 <u>図書館長に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p><u>(大学経営会議室長)</u> 第 51 条の 7 <u>本学に、大学経営会議室長を置く。</u> 2 <u>大学経営会議室長は、大学経営会議室の事務を総括する。</u></p> <p><u>(事務局長)</u> 第 51 条の 8 <u>本学に、事務局長を置く。</u> 2 <u>事務局長は、事務局の事務を掌理する。</u></p> <p>第 52 条（大学経営会議の設置及び組織）～第 68 条（細則） （略）</p> <p><u>附則</u> 1. <u>本学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。</u></p> <p>別表第 1 ～ 別表第 8 （略）</p>	<p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>第 52 条（大学経営会議の設置及び組織）～第 68 条（細則） （略）</p> <p>（新設）</p> <p>別表第 1 ～ 別表第 8 （略）</p>



- [大学概要](#)
- [入試情報](#)
- [学部・専攻科](#)
- [学生支援](#)
- [キャンパスライフ](#)
- [大学院](#)

HOME → [大学概要](#) → [建学の精神](#)

○ [大学概要](#)

- 建学の精神
- 大学評価（認証評価）結果
- 中期目標・計画
- 教育情報の公開
- 理事長メッセージ
- 学長メッセージ
- 学則
- 校歌
- 組織図
- 紀要
- 自己点検・評価
- 設置計画履行状況報告書
- デジタルパンフレット
- 財務情報の公開



本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、
 また私立学校法に従い、知識社会が実現すると予想される21世紀において、建学の精神である

「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」
 「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」

に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、
 時代の求める豊かな人間性と教養を備え、
 これからの社会が抱える様々な課題に対して、
 新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る
 人材の育成を目的としています。

- [オープンキャンパス](#)
- [入試説明会・進学ガイダンス](#)
- [学外進学相談会](#)
- [学部・学科見学会](#)
- [東京医療保健大学は 財団法人日本大学基準協会に適合していると認定されました。](#)
- [中期目標・計画](#)
- [点検・評価報告書](#)
- [東ヶ丘看護学部年報](#)
- [シラバス](#)
- [ご寄附のお願い](#)



- [大学概要](#)
- [入試情報](#)
- [学部・専攻科](#)
- [学生支援](#)
- [キャンパスライフ](#)
- [大学院](#)

HOME → [大学概要](#) → [教育情報の公開](#) → [理念・目的](#)

- [大学概要](#)
- 建学の精神
- 大学評価（認証評価）結果
- 中期目標・計画
- 教育情報の公開
- 理事長メッセージ
- 学長メッセージ
- 学則
- 校歌
- 組織図
- 紀要
- 自己点検・評価
- 設置計画履行状況報告書
- デジタルパンフレット
- 財務情報の公開



医療保健学部

(医療保健学部の理念・目的)

医療保健学部(看護学科、医療栄養学科及び医療情報学科)を設置し、医療保健学部においては「ますます高度化する医療保健活動に対応し、グローバルな視点で活動できる高度な知識・技術を持った専門職の育成」、「医療保健活動のチーム化を踏まえ、他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成」及び「医療保健活動の原点とも言うべき「現場」に興味を持ち、「現場」を愛する専門職の育成」を図るとともに、「教育研究成果のエッセンスを相互に提供し合うことで幅広い視野を持った専門職及びチーム医療人として協調・協力が出来る人材の育成」を図る。

(医療保健学部看護学科の理念・目的)

医療保健学部看護学科においては、「新しい時代のニーズに対応した看護師及び保健師の養成」、「本学の教育環境を活かした、医療現場におけるチーム医療の中核として活躍できる人材の育成」及び「看護師に必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

(医療保健学部医療栄養学科の理念・目的)

医療保健学部医療栄養学科においては、「新しい時代のニーズに合った医療を意識した管理栄養士の養成」、「栄養学分野の高度専門職として、チーム医療において他の関連専門職とともに的確に責務を果たせる栄養サポートチームの中核として活躍できる人材の育成」及び「人間存在の根源的問題である「食」に取り組むために必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

(医療保健学部医療情報学科の理念・目的)

医療保健学部医療情報学科においては、「医療現場を理解することで、病院等の現場及び医療・健康に関する企業等で、情報技術の専門職として活躍できる人材の育成」及び「医療保健の専門職に必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

-  [オープンキャンパス](#)
-  [入試説明会・進学ガイダンス](#)
-  [学外進学相談会](#)
-  [学部・学科見学会](#)
-  [東京医療保健大学は 助大基協会の大学基準に適合していると認定されました。](#)
-  [中期目標・計画](#)
-  [点検・評価報告書](#)
-  [東ヶ丘看護学部年報](#)
-  [シラバス](#)
-  [ご寄附のお願い](#)

東が丘看護学部

(東が丘看護学部の理念・目的)

東が丘看護学部(看護学科)を設置し、「変化する時代を幅広く見据えながら、専門職として自律性を持ち、臨床判断し、確かな看護の実践能力をもって発展的に未来の看護を創造しうる看護職の育成」を図るとともに、「臨床に強い高度医療に対応した、高度な看護実践能力を身につけた看護職の育成」、「自分で考え、判断し、行動できる自律した看護職の養成」及び「医療現場でチーム医療の中心的存在となり、コーディネーター役を果たせる看護職の育成」を図る。

医療保健学研究所

(医療保健学研究所の理念・目的)

医療保健学研究所においては、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」及び「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に基づき、「学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人の育成」を図るとともに、「教育・研究を通して医療保健学の発展に寄与する人材の育成」を図る。

看護学研究所

(看護学研究所の理念・目的)

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。

本研究所では、救急医療など的確・迅速に対応し、患者・患者家族のQOLを高めるために、高度な判断力と実践力を通して、現代のチーム医療を支えることができる力を持った看護師の育成、また、高度な助産実践能力及び女性とその家族を中心にしたケアを提供できる自律した助産師の育成を目指し、日本の医療・保健・福祉に幅広く貢献できる人材を育成します。

CAMPUS ACCESS



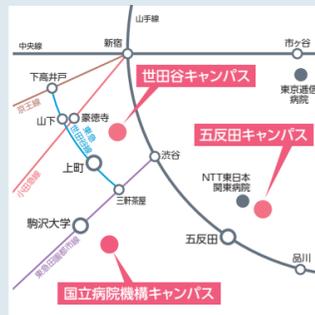
五反田キャンパス
東京都品川区東五反田
4-1-17
○JR山手線、東急池上線、
都営浅草線
五反田駅下車640m 徒歩8分



世田谷キャンパス
東京都世田谷区
世田谷3-11-3
○東急世田谷線 上町駅下車240m
徒歩3分
○小田急線 豪徳寺駅下車1300m
徒歩15分



**国立病院機構
キャンパス**
東京都目黒区東が丘2-5-1
国立病院機構敷地内
○東急田園都市線 駒沢大学駅下車
800m 徒歩10分



東京医療保健大学
<http://www.thcu.ac.jp>



大学評価(認証評価)結果
東京医療保健大学は、平成23年度に財団法人大学基準協会の大学評価(認証評価)を受け、評価の結果、同協会の大学基準に適合していると認定されました。認定期間は、2012(平成24)年4月1日より7年間(2019(平成31)年3月末日まで)となります。

2014
GUIDE
BOOK

東京医療保健大学

総合案内



医療保健学部 看護学科



医療保健学部 医療栄養学科



医療保健学部 医療情報学科



東が丘看護学部 看護学科



2014年度より
臨床看護学コースと
災害看護学コースの
2コース制に
収容定員増加の認可申請中



Tokyo Healthcare University

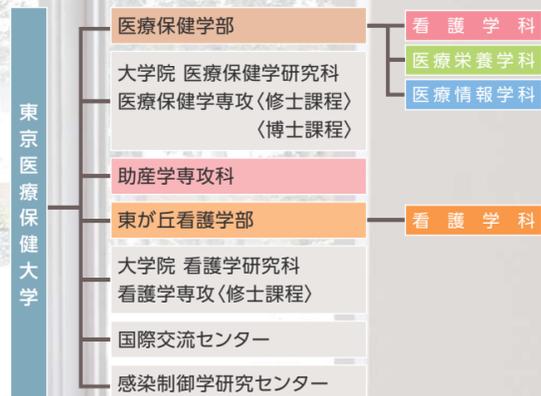
東京医療保健大学
校歌

作詞 田村哲山
作曲 津島利章

- 1、天高く 生命の神秘
やさしくも 憧憬るわが心
知性あふれ 真理の泉に
われら 集い動しまん
- 2、池田の山に いだかれし
この思いやりの 学び舎に
仰ぎ求めよ かけがえなき生命
未来へつなげ 新たな出帆
- 3、人の生命の かぎりなく
絆つなげん わが使命
自調自考の城南若人
我らが力以て きずかん理想

協力勇気 わが誇り
ともに求めん 愛の仲間
まことの魂の
鼓を高く 打ち鳴らし

東京医療保健大学
教育・研究組織



東京医療保健大学
沿革

2005	・東京医療保健大学 開学 (医療保健学部/医療情報学科/医療栄養学科/看護学科) ・NTT東日本関東病院と連携 (旧 関東通信病院)
2007	・大学院医療保健学研究科(修士課程)設置 ・東京通信病院と連携
2009	・大学院(博士課程)設置 ・助産学専攻科設置
2010	・東が丘看護学部設置 ・大学院看護学研究科(修士課程)高度実践看護コース設置 ・国立病院機構と連携
2012	・大学院医療保健学研究科(修士課程)助産学領域設置 ・大学院看護学研究科(修士課程)高度実践助産コース設置 ・国際交流センター設置 ・感染制御学研究センター設置

Tokyo Healthcare University

Guide Book 2014

contents

02 …… チーム医療とは

04 …… 東京医療保健大学を知るための5つのキーワード

05 …… 医療保健学部 看護学科

08 …… 医療保健学部 医療栄養学科

11 …… 医療保健学部 医療情報学科

14 …… 東が丘看護学部 看護学科

17 …… 助産学専攻科

18 …… 大学院 医療保健学研究科

19 …… 大学院 看護学研究科

20 …… Career
キャリア・就職支援
2013年3月卒業生
就職・進学状況と実績
卒業生からのメッセージ

24 …… Campus Life
キャンパスガイド
学生生活の一年
クラブ・サークル
サポート体制

29 …… 2014年度入学者選抜情報

33 …… 未来への扉

「チーム医療」の一角を担う スペシャリストを育成します

医療が高度化、複雑化する昨今では、
患者さんの治療やケアは医療に従事するさまざまなスタッフが、
それぞれの専門性を活かして協働する「チーム医療」が主流です。

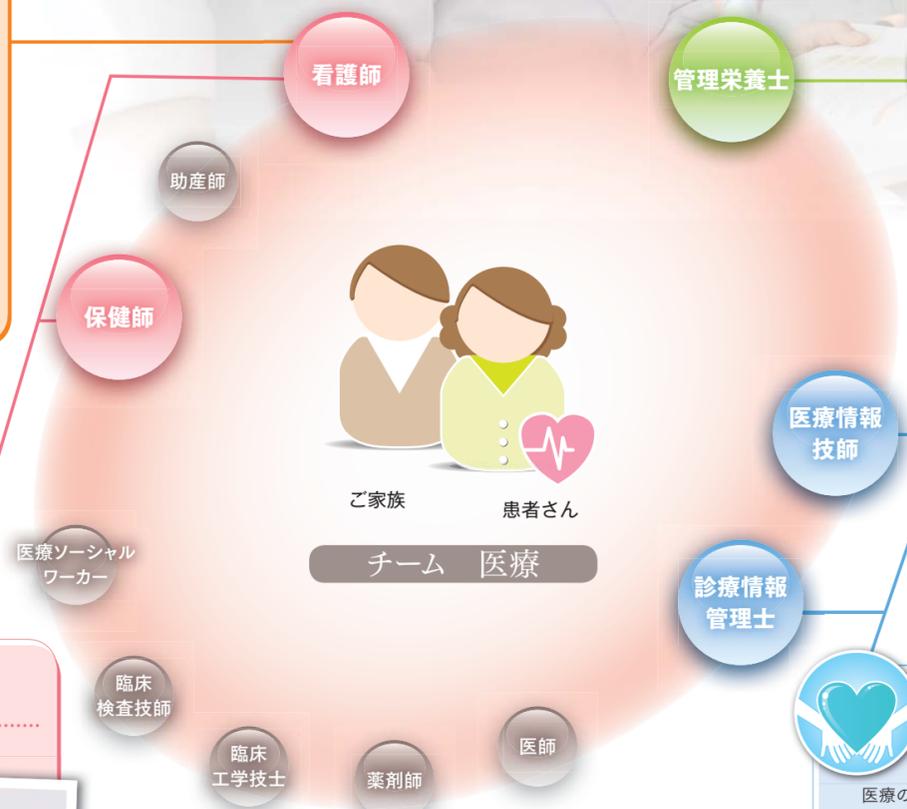


生命 (いのち) を支えるために

看護師はチーム医療の中心的存在として、
医師の診断や治療などがスムーズにいくよう
補完し、患者さんが安心して治療に専念
できるようフォローします。本学では、チーム
医療を推進するスキルミックスの基礎的能力
を養い、自分で考え判断し、行動できる自律
した看護師、高度看護実践能力を身に
つけた看護師を育成します。

**2014年度より
臨床看護学コースと
災害看護学コースの
2コース制に**
収容定員増加の認可申請中

▶ 東が丘看護学部 看護学科



生命 (いのち) を育むために

患者さんの栄養状態を改善・維持し、免疫力
低下防止や治療効果向上等を推進する観点
から、医療現場における栄養管理・栄養教育
の専門家の役割が大きくなっています。本学
では、栄養学だけでなく疾病などの幅広い知識
を身につけることで、チーム医療の一員として、
栄養の面から治療に参画できる現場に強い
管理栄養士を育成します。

▶ 医療保健学部 医療栄養学科

生命 (いのち) を支えるために

看護師は患者さんの診療・治療に関連する
業務から療養生活の支援、健康教育まで、
患者さんを身体と心の両面から支え、チーム
医療のコーディネーター役として各医療職と
協働して、患者さんに対応していきます。本学
では、多様な医療現場での実習を通し、患者
さん一人ひとりに寄り添える、臨床に強い看護
師を育成しています。

▶ 医療保健学部 看護学科

生命 (いのち) を伝えるために

医療の高度化、専門分化が進む現代、チーム
医療が機能するためには医療専門職同士が
患者さんの情報を共有することが必須になり
ます。そのために医療情報を整理、提供し
たり、情報システムを構築したりする専門家
が求められています。本学では医療現場はもち
ろん、医療を支える企業でも必要とされる医療
と情報技術の専門家を育成します。

▶ 医療保健学部 医療情報学科

東京医療保健大学を知るための5つのキーワード

東京医療保健大学での学びを理解するためには以下の5つのキーワードが欠かせません。同時にこれらのキーワードは、現代の医療現場を象徴するとともに、その状況とも密接にリンクしています。

1 チーム医療

医療に従事する多種多様な医療専門職がそれぞれの高い専門性を前提に協働して、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合うことで、患者さんの事情や状況に適した医療を提供することがチーム医療の目的です。たとえば、患者さんの生活にかかわる看護師には、ケアを通して患者さんの体調の変化に気づく能力が、

管理栄養士には、患者さんの健康状態から医師や看護師と相談して栄養補給の指導をすることが求められます。協働を迅速におこなうには情報の共有が必要で、診療情報管理士の存在は不可欠です。チーム医療ではこのような専門性を活かした協働が重要になります。今、さまざまな医療現場でチーム医療の実践が始まっています。



2 協働実践演習

「チーム医療」への意識を高めるために設けられている本学独自の実践的な授業です。疾病治療や健康づくりへの援助について、医療保健学部の3学科の学生が力を合わせてケアプランを作成し、発表します。グループに分かれ、生活習慣病など保健予防に関する与えられたテーマを基に各学科それぞれの立場から意見交換を行う中で、自分の

役割、他の医療専門職の役割や考え方を総合的に理解していきます。最後は疾患や健康予防に関するケアプランをグループで作成し、発表します。この過程を通して疾病に関する専門的知識はもちろん、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を修得し、「協働」の大切さも認識することができます。



3 特定看護師

医師の包括指示に基づき、特定の医行為も実施することができる看護師が「特定看護師」です。診療も薬の処方もできるアメリカのNP(ナースプラクティショナー)とは違い、日本では看護師の診療行為は認められていません。本学看護学研究科では、ケア(専門的支援)とケア(治療)の両面から患者さんを総合的、継続的にフォローできる「特定

看護師」の育成に取り組んでいます。これは医療とケアの質の向上のために必要であり、その結果患者さんのQOLは向上し、医療費の適正化や医師不足の解消の実現も可能になると考えられています。



4 就職率

学生支援センターでは、全学部・全学科の3、4年次生を対象に、充実した就職支援を行っています。就職活動に必要な情報を提供するとともに、各種ガイダンスや就職支援講座を実施し、就職で求められる資質や能力を高められるようバックアップしています。その結果安定した就職実績を維持しており、本学での学びを活かして就職しています。卒

業生は本学で身につけた専門性を活かし、さまざまな職場に就職しており、病院等の医療機関をはじめ、施設、その他医療系企業など、活躍の場は多岐にわたっています。卒業生の評価も高く、在学生に期待する声が高まっています。



5 実習施設

医療保健学部と強い連携を持ったNTT東日本関東病院は、五反田キャンパスに隣接しており、早くからチーム医療に取り組んでいることで知られています。ここでは、医師、看護師、管理栄養士、診療情報管理士、医療情報技師などの協働を経験することができます。また診療システムを日本で初めて電子化した病院でもあることから、実習先として最も理想的な施

設といえます。東が丘看護学部と連携する国立病院機構は、全国143病院からなるわが国最大のネットワークを持ち、地域医療の発展と充実を目指すとともに、政策医療に取り組んできた歴史と実績があります。実習病院はキャンパスに隣接する東京医療センターを中心として、東京都と埼玉、千葉、神奈川の近郊3県のエリアにある国立病院機構などの病院です。



NTT東日本関東病院

国立病院機構
東京医療センター



いのち
生命を支える

医療保健学部 看護学科

NTT東日本関東病院、東京通信病院と連携。多様な医療現場での実習を通して、さまざまな状況の患者さん一人ひとりに対応できる確かな看護技術と豊かな人間性を育成します。



MESSAGE

医療の「キーパーソン」となり多職種と「協働」できる、新しい時代の看護師を育てます

少子高齢化が進む日本では、医療を必要とする人がますます増えています。こうした社会の中で看護師には、医療の「キーパーソン」としての役割が期待されています。また、高齢化とともに急激に進む少子化によって、これからは医療を必要とする皆さんの人を、少ない人数で支えていかなければなりません。そこで重要になるのが、看護師だけでなく、医師や管理栄養士、薬剤師やケアワーカーなど、

多様な専門職が「協働」して行うチーム医療です。こうした社会のニーズを捉え、本学科は開学以来、看護師として必要とされる基本的な知識や技術はもちろん、臨床で「キーパーソン」となり、「協働」しながらチーム医療に取り組むことのできる看護師を育てるべく、「機能看護学」や「協働実践演習」などの特長的なカリキュラムを実施しています。

私たちは、教育のあり方として考える力を大事にし、お預かりした学生一人ひとりの個性を活かし、その特性がこれからの臨床で活かせるような看護師を育成します。

副学長
医療保健学部 看護学科 学科長
助産学専攻科 専攻科長
坂本 すが 教授(非常勤)
(現 日本看護協会 会長)
(元 NTT東日本関東病院 看護部長)

特色

チーム医療が求められる医療現場で、その中核となってチームを支えるのが看護師です。本学科ではNTT東日本関東病院・東京通信病院などとの連携により1年次から患者さんと直接かかわる実践的な教育を行い、多様な医療現場で活躍できる看護師を育てます。

多様な環境に対応できる自律した看護師を育成

看護師には、こどもから高齢者まで、幅広い年齢の人々を対象に、病院だけでなく、学校や職場、福祉施設など多様な環境での看護が求められています。実践基礎科目は、このようなさまざまな場面での看護実践に対応できるよう、学習内容を配置しています。実践応用科目では、患者さんの特性に合わせた看護法を修得し、演習の多い授業で、自ら学び行動できる看護師としての自律性を養います。



看護の実践力を磨く 高度な臨床看護学

今日の医療現場では、発達段階に関連する健康問題から特定の健康問題まで、さまざまな状況に対応する必要があります。臨床看護学では、慢性的な病気を持つ人や健康の危機的な状況にある人への援助など、さまざまな病期を取り上げ、さらに実践的な能力を高めます。



医療専門職として 学び続ける力を育てる

現代の看護師には、高度に専門化された先端医療を支え、かつ多岐にわたる医療領域に臨機応変に対応する能力が求められるため、生涯にわたっての学びと成長が必要です。実践展開科目では、目標を立てて学び、振り返ることで自ら学ぶ力を育てます。さらに将来のキャリアアップを見据えて、看護専門分野の科目も配置しています。



取得できる資格

- 看護師: 国家試験受験資格
- 保健師: 国家試験受験資格
- 養護教諭(一種): 本学科の所定の単位を修得し、申請により取得
- 養護教諭(二種): 本学科の所定の単位を修得し、保健師免許を取得した場合、申請により取得
- 衛生管理者: 保健師免許を取得した場合、申請により取得

卒業生からのメッセージ

VOICE

協働実践演習の経験でスムーズに チーム医療に加わることができました

現在は集中治療室に勤務しています。患者さんのほとんどは意識レベルや呼吸機能が低下しているので、どのようにコミュニケーションをとるか、あるいは何を望んでいるか、表情から察しなければなりません。難しいですが非常にやりがいがある仕事だと思っています。

治療においては時間勝負になることも多く、最初に患者さんに接する際の情報収集がとても重要です。判断できないことはすぐに医師をはじめ専門職の方に聞くことを心掛け、チーム医療の重要性を実感しています。これからの高齢化社会

では、在宅医療も多くなり、地域医療の充実も必要だと思っています。ここでの経験を活かし、いずれは地域に出て、患者さんのケアから家族の心理面のサポートまでできるような看護師になりたいと思っています。

NTT東日本関東病院勤務
日高 裕貴 さん
医療保健学部看護学科2011年3月卒業
神奈川県立座間高校出身



カリキュラム

学部共通科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
医療の「リベレーション」教育	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液・循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論 キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学)	
	発展	医学・医療概論 臨床薬理学	キャリア教育Ⅱ	医療マネジメント論 ● キャリア教育Ⅲ
	実践	ポランティア論 ポランティア活動 ●		協働実践演習
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学 ● 哲学と宗教 ● 生命倫理学 ● 医療と人間 ●	文学 ●	
	社会科学	コミュニケーション概論 ● 社会学 ● 歴史 ● 経済学 ● 認知科学 ●	国際関係論 ● 家族社会学 ● 比較文化論 ● 人間関係論 ● ジェンダー論 ●	
	自然科学	生物Ⅰ ● 生物Ⅱ ● スポーツ科学 ● 化学Ⅰ ● 化学Ⅱ ● スポーツ実習 ● 基礎数学 ● 物理学 ● データサイエンス ●		
	外国語	英語講読・記述 ● 英会話Ⅰ ● 英会話Ⅱ ●	英会話Ⅲ ●	専門英語 ●
	情報科学	情報リテラシー ●	情報科学 ●	情報通信と保健医療 ●

専門科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎	生活健康科学 ● 病原微生物学 病態生理学 治療学総論	疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系) 疾病治療論Ⅱ(骨格・筋・神経・内分泌・生殖系) 疾病治療論Ⅲ(感覚・免疫・消化器系) 社会福祉論		
実践基礎	看護対象論 家族看護論	疫学・保健統計論 保健医療福祉行政学	看護研究	
	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(看護過程の展開) 基礎看護技術Ⅱ(生活援助技術) 基礎看護学実習Ⅰ(生活援助実習)	基礎看護技術Ⅲ(治療に伴う援助技術) 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程実習)		
		地域看護活動論Ⅰ(地域看護方法論) 地域看護活動論Ⅱ(地域看護技術論)	地域看護活動論Ⅲ(地域看護管理論) ● 地域看護学実習Ⅰ ● 地域看護学実習Ⅱ ●	
実践応用		精神保健論 精神看護援助論	精神看護学実習 ●	
	機能看護学Ⅰ(セルフマネジメント)	機能看護学Ⅱ(キャリアマネジメント) 看護情報学 看護情報学演習	機能看護学Ⅲ(組織とマネジメント)	機能看護学Ⅳ(トップマネジメント) ●
		小児看護援助論Ⅰ(健康生活援助論) 母性看護援助論Ⅰ(健康生活援助論) 臨床看護援助論Ⅰ(急性期看護援助論) 臨床看護援助論Ⅱ(慢性期看護援助論) 老年看護援助論Ⅰ(健康生活援助論) 老年看護援助論Ⅱ(臨床看護援助論)	小児看護援助論Ⅱ(臨床看護援助論) 母性看護援助論Ⅱ(臨床看護援助論) 臨床看護援助論Ⅲ(終末期看護援助論) 老年看護援助論Ⅲ(在宅看護援助論) 看護概論 ● 学校健康相談 ●	小児看護学実習 母性看護学実習 臨床看護学実習Ⅰ(急性期看護実習) 臨床看護学実習Ⅱ(慢性期看護実習) 老年看護学実習
実践展開		リラクゼーション論 ● 医用機器概論 ● 国際看護論 ● 専門看護特論 ● 代替医療論 ●		
	看護の統合と実践Ⅰ(看護実践基礎演習)		看護の統合と実践Ⅱ(看護実践応用演習)	看護の統合と実践Ⅲ(看護実践展開演習) ●

*この他養護教諭1種免許取得に必要な教育職員免許状科目があります。

●:選択科目



いのち
生命を育む

医療保健学部 医療栄養学科

食を通じた健康への関心が高まる現在
「チーム医療」の一員として栄養の面から
治療に参画できる人材と、幅広く「健康社会」に
貢献できる管理栄養士を育成します。

特色

健康と食生活は切り離して考えることのできないものです。
高度化する医療分野において「チーム医療」の一員として栄養の面から治療に
参画したり、保健分野では疾病を予防したりと、食と健康にかかわるさまざま
な現場で活躍する管理栄養士を育成しています。

管理栄養士をめざす 充実したカリキュラム

本学は医療に強い高度な知識や技術を身につけ、
社会のリーダーとなる豊かな人間性を持った管理
栄養士の育成をめざしたカリキュラム編成を行って
います。栄養に関する科目の他に、医療に関する科目
も充実させて栄養サポートチーム(NST)のスタッフ
として医療分野での栄養支援を学ぶほか、実習や
実験も豊富に実践して、指示待ちの姿勢でなく、自ら
進んで行動できる管理栄養士を育成しています。



資格取得のための 指導とバックアップ

管理栄養士国家試験全員合格をめざし、最善の
サポート体制を整えています。栄養学の専門家はもち
ろん、医学、薬学などに精通した教員によるきめ
細やかな指導に加え、学生一人ひとりの習熟度に
合わせた国家試験対策を実施しています。



栄養のプロとして 活躍の場が幅広い

幅広い分野で適切な栄養指導を行える管理栄養
士の役割が重視され、活躍の場も広がっています。
病院や福祉現場だけでなく、保健所、小・中学校、保育
所、食品メーカー、スポーツ施設など、さまざまな職場
に進出することも可能です。本学では栄養士免許を
取得できるほか、管理栄養士受験資格、栄養教諭、
食品衛生管理者、食品衛生監視員及びフードスペ
シャリストの資格を取得できる科目を設置しています。



MESSAGE



管理栄養士による栄養管理は治療の原点 医療現場に強い管理栄養士を育成します

人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考
えられません。管理栄養士が医療の現場で行う
栄養指導や治療食は治療の原点といっても過言
ではありません。糖尿病や腎臓病、高血圧症など、
個々人で異なる患者さんへの栄養・食事指導は、
外来・入院のいずれの場合でも一人ひとりの患者
さんに対応しなければなりません。たとえば、私が
40年間務めていた外科においても、手術前、手術
後、退院後と、それぞれの段階で求められる栄養
管理は異なるので、患者さんの病態に応じた個別

副学長
医療保健学部 医療栄養学科 学科長
小西 敏郎 教授
(外科医師)
(前 NTT東日本関東病院 外科部長)

的な栄養・食事指導が必要です。本学科では、栄養
学だけでなく疾病とその治療について個別医療に
適した幅広い知識を身につけることで、医療の
専門家の協働による「チーム医療」の一員として活躍
できる管理栄養士を養成しています。

これからの時代、がんや生活習慣病といった
病気の予防という観点から、日常生活全般に
わたる健康管理が重要になっています。管理栄養士
の活躍の場は、病院だけでなく、学校や保健セン
ター、医薬品・食品メーカーなど食と健康にかかわ
るさまざまな職場に広がっています。国際的視野を
持った管理栄養士の育成にも取り組みたいと考え
ています。

本学科は医療現場に強い管理栄養士を育成し
ています。

取得できる資格

■管理栄養士:国家試験受験資格

管理栄養士は厚生労働大臣から免許を受けて、
病気の人の栄養管理や健康の保持・増進のため
の栄養教育、そして、病院や学校など特別な配慮
が必要な施設の給食管理などを行うという重要
な役割を担っています。
管理栄養士国家試験は、毎年3月中旬に行われま
す。本学科の所定の単位を修得して栄養士の資格
取得が見込まれる(卒業見込み)方が受験資格
を得られます。

■栄養士*

- 栄養教諭(一種)**
- 食品衛生管理者(任用資格)
- 食品衛生監視員(任用資格)
- 社会福祉主事(任用資格)

* 栄養士は、本学科の所定の単位を修得することにより、卒業と
同時に取得できます。
** 栄養教諭(一種)の資格は、本学科の所定の単位を修得するこ
とにより、取得できます。

■フードスペシャリスト:試験受験資格

「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身に
つけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消
費者に提案できる力をもつ「食」の専門職です。
社団法人フードスペシャリスト協会が認定する
フードスペシャリスト資格認定試験は、毎年12月
中旬に行われ、所定の単位を修得した方が受験
資格を得て合格者には卒業時に認定証が発行され
ます。

カリキュラム

学部共通科目

	1年次	2年次	3年次	4年次	
医療の コア レージ ン教育	入 門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、 呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論 キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学)		
	発 展	医学・医療概論	キャリア教育Ⅱ	医療マネジメント論 キャリア教育Ⅲ 臨床薬理学	
	実 践	ボランティア論 ボランティア活動 ●			協働実践演習
いのち・人間の 教育	いのち・人間	心理学 ● 哲学と宗教 生命倫理学 ● 医療と人間 ●	文学 ●		
	社会科学	コミュニケーション概論 ● 社会学 ● 歴史 ● 経済学 ● 認知科学 ● 法学 ●	国際関係論 ● 家族社会学 ● 比較文化論 ● 人間関係論 ● ジェンダー論 ●		
	自然科学	生物Ⅰ ● 生物Ⅱ ● スポーツ科学 ● 化学Ⅰ ● 化学Ⅱ ● スポーツ実習 ● 基礎数学 ● 物理学 ● データサイエンス ●			
	外国語	英語講義・記述 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ フランス語 ● 中国語 ●	英会話Ⅲ ●	専門英語 ●	
	情報科学	情報リテラシー 情報科学 ●	情報通信と保健医療 ●		

専門科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎	健康管理概論 社会福祉概論 食文化論 ● 食育論 ● 解剖生理学実験Ⅰ(生体の構造と機能) 食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能) 調理学 食品学実験Ⅰ(基礎・容量分析・機器分析) 調理学実習Ⅰ(基本調理・日本食の理解) 調理学実習Ⅱ(応用調理・食文化と献立作成)	生化学Ⅰ(生体物質の構造と機能) 生化学Ⅱ(生体物質の代謝) 解剖生理学実験Ⅱ(感覚・生理機能・病理) 生化学実験 微生物学 微生物学実験 食品学Ⅱ (各論・食品の種類・性状・栄養特性・加工) 食品衛生学 食品学実験Ⅱ(応用・食品成分分析) 食品衛生学実験 調理科学実験 ●	病理学 運動生理学 解剖生理学特論 食品加工学実習 食品機能学 ● 食品流通論 ● フードスペシャリスト論 ● フードコーディネーター論 ●	薬物療法学 ● 病態生化学 ● 臨床検査学 ● 食安全学 ●
基礎栄養学		基礎栄養学特論	栄養生理学実験	
応用栄養学		応用栄養学Ⅰ(基本的理解・総論) 応用栄養学Ⅱ(応用・特殊環境と栄養・実践) 応用栄養学実習Ⅰ(ライフステージ別栄養)	分子栄養学 応用栄養学実習Ⅱ ● (特殊環境と栄養・実践編)	
栄養教育論		栄養教育論Ⅰ(基礎) 栄養教育論Ⅱ (応用・ライフステージ別栄養指導) 栄養教育論実習Ⅰ(基礎・ライフステージ別)	栄養教育論Ⅲ (応用・ハイリスク者と栄養指導・実践) 栄養教育論実習Ⅱ (応用・傷病者、ハイリスク者別)	カウンセリング ●
臨床栄養学		医療栄養学概論Ⅰ(栄養と生活習慣病)	医療栄養学概論Ⅱ(疾患の病態生理) 臨床栄養学Ⅰ(生活習慣病と臨床栄養) 臨床栄養学Ⅱ(疾病と栄養管理・チーム医療) 臨床栄養学実習Ⅰ(基礎) 臨床栄養学実習Ⅱ(応用と実践)	臨床栄養学実習Ⅲ(NSTと臨床栄養) ●
公衆栄養学			公衆栄養学Ⅰ(集団と公衆栄養) 公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学・地域と公衆栄養) 公衆栄養学実習	
給食経営管理論		給食経営管理論Ⅰ(基礎) 給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理) 給食経営管理論実習 献立作成演習 ●		
総合演習				総合演習Ⅰ(基礎) 総合演習Ⅱ(応用・総合)
臨地実習			臨地実習Ⅰ(給食の運営・公衆栄養学)	臨地実習Ⅱ(臨床栄養学・給食経営管理) 卒業研究 ●

●:選択科目



生命を伝える

医療保健学部 医療情報学科

医療の高度化、専門分化が進む現代では
医療情報の専門家が求められています。
医療現場はもちろん、医療を支える企業でも必要と
される医療と情報技術の専門家を育成します。

MESSAGE



医療の知識と情報処理技術の融合により 医療情報を的確に処理できる IT 専門職を育成

電子診療録(電子カルテ)の普及により医療分野の
情報化が進み、それに伴い、医療現場では高い
情報処理技術を持つ専門家を求めています。医療
分野における情報化を推進するには、医療情報を的確
かつ迅速に処理できるInformation Technology
(IT:情報技術)の専門家を育成しなければなりません。
病院などの医療施設では、診療に役立つ情報はもち
ろん、膨大な医療情報を厳重に管理し必要な情報を
抽出できる人材を、また、製薬会社や医療関連企業
では、情報の精度管理や統計処理の知識を修得した
人材を求めています。

副学長
医療保健学部 学部長
医療保健学部 医療情報学科 学科長
大久保 憲 教授
(外科医師)

医療情報学科では医療の専門家と情報工学の
専門家による講義を行っており、工学系の情報科学
に加えて医療の知識も身につけられます。医療現場
と強く結びついた知識と情報処理技術を融合させ、
在学中に情報処理や医療統計、そして病院経営に
役立つ情報抽出法などを学び、「診療情報管理士」
[医療情報技師]などの資格を取得することが可能
です。

医療情報処理の専門家には、医療やITの知識
はもちろん、人間の命に携わっていることの倫理
観や使命感、確固とした生命観が求められます。
本学科ではITのプロであると同時に、医療の現場
にも精通し、人間の生命に対し深い畏敬の念と見
識を持った人材を育成しています。そのためIT企
業はもちろん、病院、医療系企業への就職率がま
ずす高くなっています。

特色

医療の高度化に伴い、現在の医療現場では詳細かつ膨大な情報が求められています。そのため、情報を適切に活用する上で「医療情報コミュニケーター」の活躍が期待されています。医療情報学科では、そうした社会のニーズに応えられる医療とITのプロフェッショナルを育成します。

医療の知識を持ったITのプロフェッショナルを育成

現在の高度化・専門化した医療情報システムを支えるためには、情報技術(IT)に精通しているだけでは十分とは言えません。医療の現場で何が行われ、各職種がどのような意見を持ち、情報システムに何が求められているのかを把握しておく必要があります。本学科では医療と情報に関する知識・技術をバランスよく習得し、次代の医療情報システムづくりに貢献できるプロフェッショナルを育成します。



チーム医療の一員として活躍できる人材を育成

チーム医療が重視される医療現場で最適な情報システムを実現するためには、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など各職種のニーズを的確に把握し、チーム内で情報を共有することが大事です。そのため、本学科のカリキュラムではディスカッションやプレゼンテーションの機会を多く設定しており、多様な立場の意見を調整する医療職間のコミュニケーターとしての能力を身につけていきます。



多彩な資格取得を支援

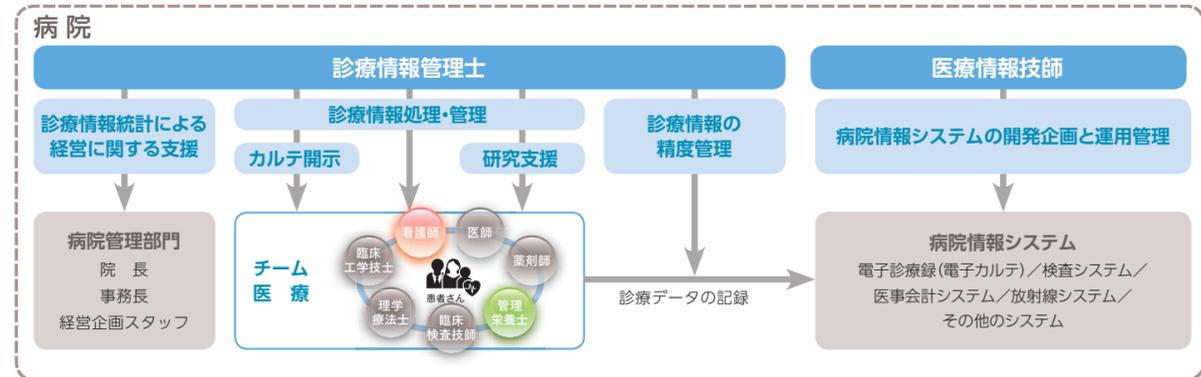
学びの成果として就職、ステップアップの土台として資格取得が目標の一つとなります。本学科では「医療情報コミュニケーター育成コース」と「診療情報管理士育成コース」という2つの履修モデルを整備しています。履修方法によっては、2年次以降、ITパスポート、医療情報基礎知識検定を受験したり、基本情報技術者、医療情報技師、診療情報管理士など関連資格のすべてにチャレンジすることが可能です。



取得できる資格	試験実施時期					
	2年次/春	2年次/秋	3年次/春	3年次/秋	4年次/春	4年次/秋
<ul style="list-style-type: none"> 診療情報管理士(受験資格) 目指す資格:医療情報技師 医療情報基礎知識検定 基本情報技術者 ITパスポート 			医療情報技師	診療情報管理士	医療情報技師	診療情報管理士
			医療情報基礎知識検定		基本情報技術者	
				ITパスポート		

科目の履修状況に応じて、2年次から各種資格試験の受験チャンスがあります。

活躍の場



カリキュラム

学部共通科目

	1年次	2年次	3年次	4年次	
医療の「リベレーション」教育	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液・循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論 キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学)		
	発展	医学・医療概論	キャリア教育Ⅱ	医療マネジメント論 キャリア教育Ⅲ 臨床薬理学	
	実践	ボランティア論 ボランティア活動			協働実践演習
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学 ● 哲学と宗教 ● 生命倫理学 ● 医療と人間 ●		文学 ●	
	社会科学		コミュニケーション概論 ● 社会学 ● 経済学 ● 法学 ●	国際関係論 ● 家族社会学 ● 歴史 ● 比較文化論 ● 人間関係論 ● ジェンダー論 ● 認知科学 ●	
	自然科学	生物Ⅰ ● 化学Ⅰ ● 基礎数学 ●	生物Ⅱ ● 化学Ⅱ ● 物理学 ●	スポーツ科学 ● スポーツ実習 ●	データサイエンス
	外国語	英語読解・記述 フランス語 ●	英会話Ⅰ ● 中国語 ●	英会話Ⅱ ● 専門英語 ●	
	情報科学	情報リテラシー	情報科学	情報通信と保健医療 ●	

専門科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
保健医療基礎	生体情報演習 ●★ 医療情報学	医学用語 社会福祉総論	健康情報概論 看護概論	医療情報管理概論 臨床検査総論 ●★
臨床医学基礎	医学医療入門 臨床医学総論 臨床医学各論Ⅰ(感染症および寄生虫症) 臨床医学各論Ⅱ(新生物) 臨床医学各論Ⅲ(血液・代謝・内分泌等) 臨床医学各論Ⅳ(脳神経・感覚器等)	臨床医学各論Ⅴ(循環器・呼吸器系) 臨床医学各論Ⅵ(消化器・泌尿器系) 臨床医学各論Ⅶ(周産期系) 臨床医学各論Ⅷ(筋骨格系)	応用臨床医学 ●★	
医療管理学		医療管理総論(病院管理) 医療管理各論(医療制度と医療評価) 国際疾病分類法概論 ●★ 国際疾病分類法演習Ⅰ・Ⅱ ●★ 医療統計学 ●★ 診療情報管理論	応用医療管理学 ●★ 応用国際疾病分類法 ●★	医療関係法規 ●
情報基礎	コンピュータシステムⅠ(ハード) コンピュータシステムⅡ(ソフト) コンピュータアーキテクチャ データ構造とアルゴリズムⅠ IT技術入門 ●★	情報システム実験 通信ネットワーク 情報ネットワーク実験 データ構造とアルゴリズムⅡ ●★ データベース論	データベース演習	
情報応用		情報システム概論 地域医療情報システム論 プログラム言語Ⅰ(C言語基礎) プログラム言語Ⅱ(C言語応用) 応用プログラム言語 ●★ 応用情報処理技術 ●★	情報システム開発論Ⅰ(プロジェクト管理) 情報システム開発論Ⅱ(分析と評価) 情報セキュリティ 情報システム運用管理論 応用医療情報技術 ●	
関連情報科学	インターネット入門 インターネット応用 ●★ 情報数学 ●	情報理論 ●	医用画像処理工学 ●★ マルチメディア工学 ●	医療機器概論 ● 意思決定論 ● 先端情報処理特論 ● オブジェクト指向言語 ●
応用研究	医療情報総合演習Ⅰ・Ⅱ	医療情報総合演習Ⅲ・Ⅳ	医療情報ゼミⅠ(医療情報入門) 医療情報ゼミⅡ(医療情報応用) 企業実習 ●★ 病院実習 ●★ 医療産業研究 ●★	卒業研究 ●★

★:医療情報コミュニケーター育成コース推奨科目 ☆:診療情報管理士育成コース推奨科目 ●:選択科目



いのち
生命を支える 

東が丘看護学部 看護学科

東が丘看護学部では、医療の多様化、変化に対応できる臨床に強い看護師、自分で考え、判断し、行動できる自律した看護師“tomorrow's Nurse”を育成しています。

MESSAGE



「ヒト、人、人間」という多様な存在を支える、自律性をもった“tomorrow's Nurse”に

医療が複雑・多様化する中で、医療現場は多職種が協働して行う「チーム医療」の時代になっています。そこでは患者さんに最も身近な存在である看護師に、チーム医療の「キーパーソン」の役割が期待されています。こうした時代の要請に応えて東が丘看護学部は、高度な知識と実践能力に基づいた、臨床に強く、自分で考え、判断し、行動できる自律性をもった看護師“tomorrow's Nurse”を育てています。

私たち看護師が向き合うのは、生物学的な「ヒト」

副学長
東が丘看護学部 学部長
山西 文子 教授

(前 独立行政法人 国立病院機構東京医療センター 副院長)

であり、心や文化をもった存在である「人」であり、社会集団の中で生きている「人間」です。この「ヒト、人、人間」という存在をしっかりと理解するために、本学では看護職に必須の専門基礎分野や専門分野の他、倫理学や哲学、統計学などを学ぶ基盤分野を置き、4年間という時間をかけて看護師を養成します。

さらに、大学院看護学研究科では、医学の分野で総合的・継続的なケアを担う「特定看護師」「診療看護師(JNP)」や、高い実践能力を持つ助産師を育成しています。

特色

東が丘看護学部の目的は、高度な看護実践力を身につけて日本の医療・保健・福祉を支える、豊かな感受性を持った、将来に向けた創造的・自律的な看護師“tomorrow's Nurse”の育成です。国立病院機構のネットワークを生かした医療現場で、質の高い看護師を育てます。

看護職に求められる スキルミックスの基礎力

現代の医療現場では、質の高いケアを実践するために、チーム医療が必須であり、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など専門職間のスキルミックスが求められます。その中で看護師は、チーム医療の中心的存在とともに、他職種との連携を促すコーディネーター役も担います。本学科では、スキルミックスで求められる看護師としての確かな技術と豊富な知識、コミュニケーション能力を養います。



看護のための確かな技術 専門的な知識を高める

基礎看護技術学では、確かな看護実践のために看護技術の本質を探究し、さらに看護技術を実践できる知識・技術・態度を修得します。臨床実践看護学では、あらゆる医療現場で看護師が遭遇する多様な状況の患者さんへの看護実践を可能にする、基礎的な能力を修得します。臨床栄養学演習や臨床検査学演習など、専門基礎分野での演習で、スキルミックスの基礎的な能力を身につけます。



高度な看護力を育む 最先端の臨床現場と連携

国立病院機構の病院と連携した実習によって、基本的な看護はもちろん、難病医療や心身障害者医療、災害医療など、他の医療施設にはない特徴的で高度な看護の実践能力を育成します。国が担うべき医療であると厚生労働省が定める、政策医療に取り組んでいる国立病院機構だからできる、急性期から緩和ケアまでの、幅広く専門的な演習・実習の機会を提供します。



2014年度より 臨床看護学コースと 災害看護学コースの 2コース制に

収容定員増加の認可申請中

臨床看護学コース

看護師国家試験受験資格を取得
医療の多様化、変化に対応できる臨床に強い看護師の育成

災害看護学コース

看護師国家試験受験資格を取得
災害に伴う防災・減災にも適切に対応できる看護師の育成

※定員増の詳細は7月下旬に、オープンキャンパスにて説明します。

東京医療センター奨学制度

東京医療センターでは、東京医療保健大学東が丘看護学部に入学者で、卒業後、東京医療センターに就職を希望する学生に対して奨学金を貸与することにより、その修学を支援します。

- 奨学金の額 50万円(年額)
- 募集人員 1・2年次生:3名以内
3・4年次生:30名程度
- 貸与方法 毎年4月頃に年額を貸与(銀行振り込み)
- ※貸与期間 奨学生になった日の属する年度から大学を卒業する年度(最長4年間)

※その他の奨学金制度、「スカラシップ制度」「独立行政法人日本学生支援機構の奨学金」等については、28頁をご覧ください。

東京医療センターとは…

独立行政法人 国立病院機構の中核病院で、救急医療、政策医療、臨床治験の推進、医療職の教育研修、災害や健康被害時の緊急医療支援などを行い、地域に信頼される医療を提供しています。東が丘看護学部の主たる実習施設になっています。

カリキュラム

科目	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎分野	人間尊重と人間関係の形成	人間関係論 心理学 哲学 倫理学 人間と社会生活(現代社会論) 家族関係論 人間と法 性と文化			
	健康問題の解決	論理的思考 自然科学の基礎 スポーツ科学			
	キャリア開発能力	情報リテラシー 実用英語I 実用英語II 韓国語 中国語	実用英語III 国際関係論 ボランティア論		
	自己啓発能力		統計学 教育学		
専門基礎分野	健康問題の解決	解剖生理学I 解剖生理学II 病理学 生化学 微生物学 薬理学 治療学概論 疾病と治療I(呼吸器系・消化器系) 疾病と治療II(血液系・循環器系)	疾病と治療III(神経系・骨筋系) 疾病と治療IV(泌尿器系・生殖器系・内分泌系) 疾病と治療V(感覚器系・統合) 臨床検査学演習 臨床栄養学演習 臨床薬理学演習 人間工学	公衆衛生学	
	キャリア開発能力	政策医療論	保健医療福祉システム論		
	人間尊重と人間関係の形成		医療と法(看護関係法規) 精神医療論		
	自己啓発能力		医療・看護情報学の基礎	英語論文の講読	
専門分野	基礎看護学	看護学概論 看護倫理 看護基礎理論 基礎看護学体験実習		看護教育学	
	基礎看護技術学	看護実践技術論I(日常生活における援助技術と判断) 看護実践技術論II(治療・処置における援助技術と判断) 看護実践技術論III(看護技術の統合) ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 基礎看護学展開実習	基礎看護学統合実習		
	臨床実践看護学	成人看護学概論 老年看護学概論	成人看護実践論II(慢性期) 成人看護実践論III(回復期) 老年看護実践論 老年看護学実習I(地域で暮らす高齢者への看護) 家族看護学 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 臨床コミュニケーション論	成人看護実践論I(急性期) 成人看護実践論IV(終末期) 成人看護学実習I(急性期) 成人看護学実習II(慢性期) 成人看護学実習III(終末期) 成人看護の探求 老年看護学実習II(病と生きる高齢者への看護) 母性看護実践論 小児看護学実習 精神看護実践論 障害者看護論 在宅看護学概論	在宅看護学実習
	地域看護学			地域看護学概論	健康教育概論 ヘルスプロモーション論
	研究			看護学研究の基礎	英語論文のクリティック 卒業研究
	看護マネジメント			医療安全学	看護管理学 災害看護学 看護学統合実習
	キャリア開発			国際看護学	チーム医療とスキルミックス 看護職とキャリア形成 NP論 看護政策論

●選択科目

取得できる資格

■看護師:国家試験受験資格

東が丘看護学部では看護師教育のみに特化したカリキュラムを編成し、4年間学ぶことで看護実践能力を養いチーム医療の中心となる看護師を育成します。

国家試験受験資格は、学部のカリキュラムに従って履修し、卒業見込みの方に与えられます。国家

試験は毎年2月下旬に全国の各地の所定の試験場で行われます。

助産学専攻科

真摯に生命と向き合い 女性と家族を支える

周産期医療に対する高度な専門知識を持ち、保健・医療チームと連携しながら、女性や家族を心身ともに支援できる助産師の育成をめざしています。



教育目標

周産期にある女性や家族、そして生殖性に関わるライフステージにある女性や家族(パートナー、新生児、乳幼児含む)、生活の場である地域社会を対象として、人間性を重視したケアを実践できる助産師の育成をめざします。特に、健康の維持増進ならびに健康問題を解決するために必要な知識と技術を修得し、問題解決能力、自己決定を支える力、判断力、実践力を基盤に、対象者の健康の向上に貢献する助産師の育成を目標とします。

教育課程

助産学の基礎知識の修得と、充実した実習体制の段階的な学びを通じて専門的な技術を着実に身につけます。

助産師として必要な基本的知識・技術の修得のみならず、科学的思考並びに判断力及び創造性を培い、自立性のある助産活動への促進を図ることを目指します。

実習体制及び実習施設

実習は、実習の内容と状況により、専任教員と施設の臨床指導者が調整し実施していきます。

- NTT東日本関東病院(品川区)
- 東京大学医学部附属病院(文京区)
- 東京慈恵会医科大学附属病院(港区)
- 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター 愛育病院(港区)
- 日本赤十字社武蔵野赤十字病院(武蔵野市)
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院(川崎市)
- 稲城市立病院(稲城市)
- 公立福生病院(福生市)
- 総合病院 厚生中央病院(目黒区)
- 医療法人 泰誠会 永井クリニック(三郷市)
- ウパウパハウス岡本助産院(川崎市)
- 松が丘助産院(中野区)
- まんまる助産院(立川市)

助産学の領域

助産学基礎・関連領域

- 女性・家族を理解するための知識を学ぶ
- 助産の基本概念に対する理解を深める

助産学実践領域

- 根拠に基づく助産診断能力と技術を培う
- 他職種との連携・協働、医療安全確保についての理解を深める

助産学実習領域

- 創造的かつ自律的に助産実践を展開するための科学的思考能力・倫理的判断力を培う
- 助産の基本概念に対する理解を深める

助産学発展領域

- 科学的根拠に基づく個別的な助産ケアへの探究心を養う
- 母子の生命に関与する助産師の責任・役割を学ぶ

取得できる資格

- 助産師:国家試験受験資格
- 受胎調節実地指導員資格:国家試験受験資格
- 新生児蘇生法「一次」コース修了認定*

*日本周産期・新生児医学会主催の「新生児蘇生法講習会」を受けると、「Aコース」新生児蘇生法「一次」コース修了認定証が得られます。

入学者選抜の概要

修業年限・募集人員等

修業年限…1年 入学定員…15名
選抜区分…推薦選抜(一般、社会人)、一般選抜

入学資格

- 看護師資格を有する女子で、次のいずれかに該当する者
- ①大学を卒業した者
 - ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を

- 我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - ⑦文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

大学院 医療保健学研究科

医療保健学専攻〈修士課程・博士課程〉

医療保健学研究科 修士課程・博士課程は、医療の質の向上をめざし、働きながら修士・博士が取れる大学院です

修士課程においては、土曜および年3回の集中講義による単位取得と修士論文の合格で、大学院修士を取得。志高い医療人が学び、卒業後はさまざまな医療現場でリーダーとして活躍しています。

教育課程編成・実施の方針

- 1 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。
- 2 医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力が豊かな人材を育成するため、6つの領域(看護マネジメント学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、医療栄養学、医療保健情報学)に共通した必修科目として、医療保健管理学、総合人間栄養学特論、安全管理情報学、サーベイランス特論及び医療経営特論の5科目を開設します。
- 3 医療の実践現場で役立つ研究課題を追求するとともに、現場の抱える関連諸問題解決に寄与するため各領域の専門分野に応じた選択科目及び研究演習を開設します。

博士課程

【募集人数】4名 【修業年限】3年
【学位】博士(感染制御学)
博士(周手術医療安全学)
【2013年3月学位取得者の博士論文】
・過酸化水素ガス滅菌法に関する新しい知見
New Concept on Hydrogen Peroxide Gas Sterilisation
・Modulatory effects of the probiotic *Bifidobacterium longum* BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding.
・感染管理認定看護師の必要人数に関する研究
・鍼灸における感染制御の基礎的研究
—人工汚染鍼とヒト皮膚代替モデルの作製—
【働きながら学び研究できる指導形態】
土曜日や休日の開講、夏期、冬期休暇などにおける集中指導を行うことにより、社会人が働きながら就学できるように配慮しております。

入学者選抜の概要

修業年限・募集人数等
【募集人数】25名 【修業年限】2年
【学位】修士(看護マネジメント学)
修士(助産学) 修士(感染制御学)
修士(周手術医療安全学)
修士(医療栄養学) 修士(医療保健情報学)

入学資格
出願することのできる者は、次の各号のいずれかの条件を満たし、平成26年3月末現在で医療・保健施設、教育研究機関、官公庁、企業等の現場において実務経験のある社会人とする。
①大学を卒業した者
②学校教育法第104条第4項の規定により、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成26年3月末日までに授与される見込みの者
③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
④文部科学大臣の指定した者(昭和28年 文部省告示第5号)。

⑤本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成26年4月1日現在で満22歳以上の者。

入学者受け入れの方針

1. **看護マネジメント学領域、感染制御学領域、周手術医療安全学領域、医療栄養学領域、医療保健情報学その他領域**
各領域における知識と技術を有し、臨床現場でのさらなる実践能力、専門的知識を体系的に学ぶ意欲を有すること。かつ医療・保健施設、教育研究機関、官公庁、企業等の現場において実務経験のある社会人であること。
2. **助産学領域**
原則として臨床経験5年以上の助産師を対象とし、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚スタッフへの教育・指導力等の向上に意欲を有すること。

修士課程の授業科目

必修科目 ●医療保健管理学 ●総合人間栄養学特論 ●安全管理情報学 ●サーベイランス特論 ●医療経営特論	周手術医療安全学領域 ●周手術医療安全学特論Ⅰ・Ⅱ
看護マネジメント学領域 ●組織の経済学 ●疫学・保健統計学 ●スピリチュアルケア ●看護マネジメント特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●ケアマネジメント特論 ●精神保健学 ●看護政策論	医療栄養学領域 ●臨床栄養学特論/演習 ●ライフステージ栄養学特論/演習 ●医療薬学特論 ●臨床消化器特論 ●医療食衛生学 ●公衆栄養学特論/演習 ●生体防御機能論 ●ニュートリションサポートチーム特論
助産学領域 ●臨床助産学特論/演習 ●助産学教育特論/演習 ●助産学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	医療保健情報学その他領域 ●医療情報コミュニケーション論 ●医療情報テクノロジー特論 ●医療知識処理論 ●死生学概論
感染制御学領域 ●感染制御学特論Ⅰ・Ⅱ ●感染制御看護学特論 ●職業感染制御学 ●殺菌消毒薬学	研究演習 ●研究演習Ⅰ・Ⅱ

大学院 看護学研究科

看護学専攻〈修士課程・博士課程※〉

※平成26年度開設に向けて届出予定

医療・保健・福祉に 広く貢献できる人材を育成する2コース

高度実践看護コースは、高度な判断力と、実践力をもって初期医療にも対応できる「特定看護師」「診療看護師(JNP)」を育成。
高度実践助産コースは、助産システムに対応できる専門性の高い助産師を育成します。

高度実践看護コース

設置目的

質の高い医療を提供するためには、医療関係職種との協働、権限移譲、及び医師との連携による医療を行うために必要な検査結果についての判断を行い、評価、初期症状軽減のための対応や、患者さんのニーズにタイムリーに対応できるようスキルミックスを推進する看護職が必要です。本研究科は、さらなる医療の効率化と看護の質の向上のため、患者さんの症状を的確に把握し、総合的、継続的にケアできる「特定看護師」「診療看護師(JNP)」の育成を図ります。

高度実践看護コースのカリキュラム

- クリティカルNP特論
- 人体構造機能論
- クリティカル疾病特論
- 診察・診断学特論(包括的健康アセスメント)
- フィジカルアセスメント学演習
- 臨床推論
- 診断のためのNP実践演習
- 臨床薬理学特論
- 治療のためのNP特論
- 治療のためのNP実践演習
- 統合実習
- 医療倫理特論
- コンサルテーション・インフォームドコンセント特論
- etc.

入学者選抜の概要

高度実践看護コース入学資格
出願することのできる者は、次の各号のいずれかの条件を満たし、平成26年3月末現在で医療機関等において、常勤の看護職(准看護師は除く)として実務経験が5年以上ある者とする。

- ①大学を卒業した者。
- ②学校教育法第104条第4項の規定に基づき学士の学位を授与された者、又は平成26年3月末日までに授与される見込みの者。
- ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者。
- ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を

我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。
⑤我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
⑥専修学校の専門課程(修業年限が4年以上である

高度実践助産コース

設置目的

周産期医療においては、助産システムへの対応とウイメンズヘルスの支援を的確にできる助産師への期待が高まっています。病院・診療所・助産所での妊婦健康診査、分娩介助ならびに保健指導を助産師が主体的に行うことができる助産システムは、高い専門性が求められます。これらに対応できるように助産師の方々がさらにスキルアップするプログラムと助産師資格を取得するプログラムを設けています。実習を重視し、実践力を徹底して育成します。

高度実践助産コースのカリキュラム

- | | |
|---|--|
| 助産師プログラム
●助産臨床推論
●地域助産活動論
●地域助産実践論
●EBPM展開論
●国際助産学概論
●特別研究 | 助産師免許取得プログラム
●助産学概論
●フィジカルアセスメント
●妊娠期診断・技術学
●産褥期診断・技術学
●ウイメンズヘルス概論
●助産学基礎実習助産実践力開発演習
●課題研究
etc. |
|---|--|

高度実践助産コース入学資格
出願することのできる者は、次の各号のいずれかの条件を満たし、看護師免許取得者または取得見込みの女子及び助産師免許取得者または取得見込みの者とする。

- ①大学を卒業した者。
 - ②学校教育法第104条第4項の規定に基づき学士の学位を授与された者、又は平成26年3月末日までに授与される見込みの者。
 - ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者。
 - ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を
- 我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。
⑤我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
⑥専修学校の専門課程(修業年限が4年以上である
- こと、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
⑦文部科学大臣の指定した者。
⑧本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成26年4月1日現在で満22歳以上の者。

高度実践看護コース

特定看護師・診療看護師(JNP)
クリティカル領域の臨床フィールドで多様な患者を対象に、高度なケア(専門的支援)とケア(診療)を提供できる能力

医療・保健・福祉の
質の向上

高度実践助産コース

助産師
助産システム(助産師外来および院内助産等)に対応できる能力と、女性とその家族の健康を生涯にわたり支援していく能力

看護学研究科看護学専攻修士課程および博士課程「研究教育」コースは平成26年度開設に向けて届出予定。

平成26年度入学者選抜

2014 学生募集要項

【AO方式による入学試験】

医療保健学部 医療情報学科

【第2期公募制推薦入学試験】

東が丘看護学部 看護学科

【一般入学試験】

【センター試験利用入学試験】

医療保健学部

- 医療情報学科
- 医療栄養学科
- 看護学科

東が丘看護学部

- 看護学科
 - 臨床看護学コース
 - 災害看護学コース

東京医療保健大学

1. 本学が求める学生像 (アドミッション・ポリシー)

1 建学の精神

本学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性、豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材の育成を目的としています。

2 本学が求める学生像

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

3-1 医療保健学部

医療情報学科

医療情報は、患者さんに最適な医療を行うために用いられ、さらに新たな治療法や機器の研究・開発的に行う材料になるなど、医療活動を円滑に推進する原点です。医療を行う医師や看護師、その他の医療関係者、福祉関係者はこれらの情報をもとに方向性を決めます。したがって、医療情報を扱う人は必要な情報を的確に収集、解析、加工し関係者に伝える力と、仕事に対する明確なポリシーや責任感、高い倫理観を持った人材が求められます。医療情報学科は、何事にも積極的で高い倫理観を持つ人を求めています。

病院など医療の現場で、情報がどのように活用されているかを知ることが、医療情報を的確に医療関係者に伝達し、より質の高い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、コミュニケーション能力が必要です。医療情報学科は、医療だけでなく広く社会に関心を持ち、自分の考えを積極的にコミュニケーションでできる人を求めています。

これからの医療においては、患者さんと医療提供者を仲立ちし、医療現場と企業とを連携するコミュニケーターとしての役割がますます重要となります。医療情報学科は、「新しいことや新しい領域を切り開きたい意欲」と「人間・社会に貢献したい高い志」を持った学生を歓迎します。

本学科を希望される方に対して、高等学校で履修すべき科目や取得が望ましい資格の指定は特にありません。ただし、医療情報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「情報A」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待します。

医療栄養学科

健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教育を行います。

また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設し、医療現場に求められる管理栄養士を育成します。

「医食同源」という言葉もあるように人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考えられません。特に、今日の少子高齢化社会への急激な変化に伴って生活習慣病対策は重要であり、管理栄養士はこれまで以上に病気の治療のみならず予防医学の観点から社会の要望に応える必要があります。さらに、医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校、保健センター、福祉施設、事業所、食品会社、給食会社、スポーツ施設など、食と健康に関わる様々な職場でも求められています。

また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。

そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

看護学科

看護学科では、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなもののでしょうか。もし皆さんや皆さんの家族が看護を受ける立場になった時、どのような看護師さんに看護してほしいと思いますか。

看護は、その人の視点に立って、心を思いやり、痛みを分かち合うことのできる人間的な温かさ豊かな知識、感性に裏打ちされた行動力、責任感、高い倫理性が求められています。そのためには、まず基礎学力の上に、自分の意見の表出や他者との交流を通して、厳しい中にも学ぶ楽しさを育てることのできる意欲と自律性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。

現在の日本は超高齢化社会を迎え、病気を抱えながら生活をする方々が増加しています。看護の活躍の場も病院のみならず、地域や職場、家庭へと拡大しつつあります。

看護は最も身近にいる医療のスペシャリストとして、一人ひとりの生命・生活・人生に目を向け、病気や心の変化を的確に把握し、得られた情報を科学的な思考で判断して問題解決できる能力と、他の専門職と協働するコミュニケーション能力が求められています。

看護を実践することは、さまざまな人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

3-2 東が丘看護学部 看護学科

東が丘看護学部は、“tomorrow's Ns”を求めています。

看護職には、患者さんや家族のもっとも身近で、四六時中患者さん達を見守り続け、患者さんの療養生活を支え、診療が効果的に進むための的確な看護を提供していくことが求められています。東が丘看護学部では、日本の医療保健福祉を支える豊かな感性と実践力を持った将来に向けた創造的な看護師=tomorrow's Nsを目指して教育します。

将来の日本の医療保健福祉を支える看護師=tomorrow's Nsを目指す意欲的な学生を求めています。

看護師は、生涯にわたって自分を磨き続け、常に自己開発ができる素晴らしい職業です。看護を学び、実践しながら、自己を啓発し、自らのキャリアを開拓し、創造していけるような能力を身につけていただきたいと思います。医療が高度化・複雑化し、病気と闘っている人々は、これまで以上に難しい課題を抱えています。患者さんのもっとも身近な存在である看護師は、チーム医療のキーパーソンであり、看護に関する知識や技術にも時代・社会のニーズに対応できるより高度な専門性が求められています。国立病院機構のネットワークを活かした臨床現場で、的確な看護の実践力を身につけるとともに多くの専門職と交流し、チーム医療を支える質の高い看護師を育てていきます。

いのちの尊厳と看護への興味と知的好奇心を持ち、看護を学ぶことで「自己を開発したい！自分を磨きたい！」との情熱を持って、将来の臨床現場を担う確かな決意と志を持った学生を求めています。東が丘看護学部で、tomorrow's Nsとしての一步を踏み出し、ともに学びあいましょう。

2. スカラシップ制度特待生選抜

本学では2種のスカラシップを設けて修学を支援しています。

スカラシップⅠ

成績上位5名程度（各学科）に対して入学金と1年間の授業料を全額免除します。

スカラシップⅡ

成績上位10名程度（各学科）に対して1年間の授業料の半額を免除します。

1. 一般入学試験（前期日程）は、スカラシップ制度特待生選抜試験を兼ねていますので、新入学生については一般入学試験（前期日程）合格者のうち成績の上位者をスカラシップ対象者として認定します。
 - (1) 結果の発表は、入学試験の合格発表と同時にを行います。
 - (2) AO入試合格者、推薦入学試験合格者で、すでに入学手続きを完了した者もスカラシップ対象者として認定を受けるために、一般入学試験（前期日程）を受験することができます。認定されたときは、すでに納入した入学金・学生納付金がスカラシップの種別に応じて返還されることとなります。
2. 2年次生以降の在在学生については、前年度の学内成績等を総合的に評価して、審査を行って認定することとなります。

3. 東京医療センター奨学制度

東京医療センターでは、東京医療保健大学（東が丘看護学部）に入学する者で、卒業後東京医療センターに就職を希望する学生に対して、奨学金を貸与することにより、その修学を支援しています。

奨学金の額：50万円（年額）

募集人数：1年次生（新入学生）3名以内

奨学金の推薦には、一般入学試験（前期日程）の成績を参考にします。

※詳細は独立行政法人国立病院機構東京医療センター事務部管理課（03-3411-0111）までお問い合わせください。

平成 26 年度 (2014 年度)

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 (修士課程)

学生募集要項

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科（修士課程）

入学者受け入れの方針

科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、各領域において医療保健分野における学際性と専門性を追求し、さらにマネジメント能力の兼備、医療保健現場における実践の質の向上を図ることとし、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質が求められます。

1. 看護マネジメント学領域、感染制御学領域、周手術医療安全学領域、医療栄養学領域、医療保健情報学その他領域
各領域における知識と技術を有し、臨床現場でのさらなる実践能力、専門的知識を体系的に学ぶ意欲を有すること。
2. 助産学領域
原則として臨床経験5年以上の助産師を対象とし、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚スタッフへの教育・指導力等の向上に意欲を有すること。

教育課程編成・実施の方針

1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。
2. 医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力豊かな人材を育成するため、6つの領域(看護マネジメント学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、医療栄養学、医療保健情報学その他)に共通した必修科目として、医療保健管理学、総合人間栄養学特論、安全管理情報学、サーベイランス特論及び医療経営特論の5科目を開設します。
3. 医療の実践現場で役立つ研究課題を追求するとともに、現場の抱える関連諸問題解決に寄与するため各領域の専門分野に応じた選択科目及び研究演習を開設します。
 - (1)看護マネジメント学領域
看護マネジメント、ケアマネジメント、疫学・保健統計等に係る履修科目を置くとともに、看護マネジメント学に関する研究演習を開設します。
 - (2)助産学領域
助産学、臨床助産学、助産学教育等に係る履修科目を置くとともに、助産学に関する研究演習を開設します。
 - (3)感染制御学領域
感染制御学、感染制御看護学、職業感染制御学等に係る履修科目を置くとともに、感染制御学に関する研究演習を開設します。
 - (4)周手術医療安全学領域
周手術医療安全学、感染制御学、職業感染制御学等に係る履修科目を置くとともに、周手術医療安全学に関する研究演習を開設します。
 - (5)医療栄養学領域
臨床栄養学、ライフステージ栄養学、公衆栄養学等に係る履修科目を置くとともに、医療栄養学に関する研究演習を開設します。
 - (6)医療保健情報学その他領域
医療情報、医療知識処理等に係る履修科目を置くとともに、医療保健情報学に関する研究演習を開設します。

学位授与の方針

1. 医療保健学研究科修士課程の修了要件を満たすとともに、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人であると認められる者を修了とし、修士の学位を授与します。
2. 学位の種類は次のとおりです。
修士（看護マネジメント学）、修士（助産学）、修士（感染制御学）、修士（周手術医療安全学）、修士（医療栄養学）、修士（医療保健情報学）

平成26年度（2014年度）

学生募集要項

— 看護学研究科（修士課程） —

東京医療保健大学大学院

1. 入学者受け入れの方針

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。また、看護の基礎教育の大学化が急速に進む中で、看護研究教育に係ることのできるスキルを備えた教育者の確保も極めて困難な状況にあります。

本研究科では、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度専門看護職の育成、また、研究・教育の探究を通して、看護学の発展に寄与することができる人材を育成します。

〔高度実践看護コース〕

救急医療などの現場において、患者ニーズに対応したタイムリーな医療を提供でき、医療従事者間のスキルミックスにより、チーム医療のキーパーソンとして自律的に活躍できる能力を備えた高度な看護職、すなわちクリティカル領域で活躍する看護師(特定看護師・診療看護師)を育成します。

本コースでは、医療における「看護」の役割を充分認識したうえで、救急医療を含むクリティカル領域で、医師等と連携・協働してプライマリ診療の実践に自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

〔高度実践助産コース〕

「科学的裏付けを活用し、自律して自然分娩の支援ができる能力」、「院内・院外助産システムを担うことができる能力」、「周産期における救急時に対応した業務ができる能力」など、これからの助産師に求められる能力を身につけた助産師を育成します。また、周産期にある母子の支援のみでなく、子育て支援や思春期・更年期にある女性への支援、DVをうけた女性への支援や不妊相談等のウィメンズヘルス、性教育、国際助産などの幅広い分野で活躍できる助産師の育成を目指しています。

本コースでは、助産師としての目的意識及び21世紀の助産師に求められる将来像を明確にもち、実践家又は研究・教育者を目指して自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

〔看護学科コース〕

看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる研究・教育者を育成します。

本コースでは、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

2. 教育課程編成・実施の方針

東京医療保健大学大学院は、科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度職業人の育成を図ることを理念として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、「教育課程編成・実施の方針」を制定します。

〔高度実践看護コース〕

1. 看護職としての専門性を高め、臨床の多様な状況において総合的な判断ができ、チーム医療の一員として高度な実践ができる能力を備えた人材を育成するための教育課程を設定し提供します。
2. 「状況を総合的に判断(診察・包括的健康アセスメント)できる能力」の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
3. 状況に対応した安全・安心な医療を提供できる能力の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
4. 病院実習では、クリティカル領域で必要とされる、診断・検査・治療の方法を修得し、多様な医療ニーズに対応できる実践能力を養うため、医師臨床研修医制度に基づく初期臨床研修(救命救急センター)のプログラムを活用し提供します。

〔高度実践助産コース〕

1. 「21世紀の助産師を目指した養成教育」を目指して、「研究マインド、研究手法の基本を修得し、EBPM (Evidence Based Practical Midwifery) を実行できる能力」の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
2. ウィメンズヘルス全般にわたる幅広い分野を自律的に支援できる助産師を養成するための教育課程を設定し提供します。
3. 現場における継続教育を担える人材の育成、管理者・指導者としての基本的なスキルを備えた人材を育成するための教育課程を設定し提供します。

〔看護科学コース〕

1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。
2. 高等教育における看護基礎教育において看護の対象であるヒト、人、人間を理解するために必須とされる看護の基盤学となる学問領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(看護基盤学領域)を設定します。
3. 高等教育における看護基礎教育において各専門領域の看護学に関する研究教育能力をもち、学部学生の臨地実習を指導できる人材を育成するための教育課程(臨床看護学領域)を設定します。
4. 臨床現場においてリーダーシップを発揮し、看護科学のスキルをベースに社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(応用看護学領域)を設定します。

3. 学位授与の方針

大学院看護学研究科では、高度実践看護、高度実践助産、看護科学のいずれかの教育プログラムを通して、次に掲げる能力を修得した者にそれぞれ修士(看護学)、修士(助産学)、修士(看護学)の学位を授与します。

〔高度実践看護コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻高度実践看護コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力。
2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意思決定能力。
3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代を変革する創造的な研究・開発能力。
4. 他職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力。

〔高度実践助産コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻高度実践助産コース(助産師プログラム及び助産師免許取得プログラム)においては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(助産学)の学位を授与します。

1. 自律して自然分娩の支援ができる能力。
2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力。
3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力。
4. 周産期の救急時に対応できる能力。
5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力。
6. 研究・開発能力。
7. 倫理的意思決定能力。

〔看護科学コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻看護科学コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力
2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力
3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力
4. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力
5. 看護管理、地域保健、放射線保健に関する研究教育ができ、臨地現場においてリーダーシップをとることができる能力

4. 募集人員(30名)

専攻	コースおよびプログラム	区 分	募集人員
看護学専攻	高度実践看護コース	一 般 推 薦	20名程度
	高度実践助産コース { 助産師プログラム※ ¹ 助産師免許取得プログラム※ ²	一 般 推 薦	10名程度
	看護学科コース※ ³	一 般	若干名

※1 助産師資格を有する者が高度実践能力を身に付け、修士の学位取得を目指す。(昼夜開講制(一部科目を除く)、但し、2年目の実習期間は全日制)

※2 助産師国家試験受験資格の取得を目指すとともに、高度実践能力を身に付け修士の学位取得を目指す。(全日制)

※3 看護学科コース(昼夜開講制)

5. 標準修業年限及び学位

専攻／コース		学位	標準修業年限
看護学専攻	高度実践看護コース	修士(看護学)	2年
	看護科学コース		
	高度実践助産コース	修士(助産学)	

6. 出願資格

○高度実践看護コース

次の各号のいずれかの条件を満たし、平成26年3月末現在で医療機関等において、常勤の看護職(准看護師は除く)として**実務経験が5年以上ある者**とする。

○高度実践助産コース

次の各号のいずれかの条件を満たし、看護師免許取得者または看護師免許取得見込みの女子及び助産師免許取得者または助産師免許取得見込みの者とする。

○看護科学コース

次の各号のいずれかの条件を満たす者。

- (1) 大学(学校教育法第83条に定める大学をいう。以下同じ)を卒業した者又は平成26年3月卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定に基づき学士の学位を授与された者、又は平成26年3月末日までに授与される見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者。

平成26年度（2014年度）

学生募集要項

— 看護学研究科（博士課程） —

東京医療保健大学大学院

1. 入学者受け入れの方針

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。

また、看護の基礎教育の大学化が急速に進む中で、看護研究教育に係ることのできるスキルを備えた教育者の確保も極めて困難な状況にあります。

本研究科では、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度専門看護職の育成、また、研究・教育の探究を通して、看護学の発展に寄与することができる人材を育成します。

〔博士課程〕

看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる研究・教育者を育成します。

博士課程では、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

2. 教育課程編成・実施の方針

東京医療保健大学大学院は、科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度職業人の育成を図ることを理念として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、「教育課程編成・実施の方針」を制定します。

〔博士課程〕

1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。
2. 看護の対象であるヒト、人、人間を科学的に捉え、その発達段階に応じた看護学の各専門領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(成育看護学領域)を設定します。
3. 看護科学をベースに地域社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(地域環境保健学領域)を設定します。

3. 学位授与の方針

大学院看護学研究科看護学専攻博士課程においては、3年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、博士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に博士(看護学)の学位を授与します。

1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力
2. 人間の発達段階に応じた看護学に関する研究能力
3. 地域社会の保健ニーズに即した実践的研究教育能力
4. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力
5. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力
6. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力

東京医療保健大学国際交流センター規程

(趣旨)

第1条 本学の建学の精神・教育理念及び「国際交流に関する基本方針」に基づき、実践を重視した教育研究の充実発展を図るため「東京医療保健大学国際交流センター」(以下「国際交流センター」という。)を設置し、国際的通用性の高い教育研究を組織的に推進する。

(所掌事項)

第2条 国際交流センターは、国際交流委員会と連携して次の業務を行う。

- (1) 教職員・学生に係る海外派遣・海外実習の推進に関すること。
- (2) 海外からの教職員・学生の受け入れの推進に関すること。
- (3) 海外の大学等との国際交流協定締結の推進に関すること。
- (4) 全学的な重点プロジェクトに沿った国際共同研究の推進に関すること。
- (5) 国際的シンポジウム等の企画・実施に関すること。
- (6) その他、国際交流の推進に関すること。

(構成員)

第3条 国際交流センターの構成員は次のとおりとし、センター長は大学経営会議において任命する副学長をもって充てる。

- (1) 本学関係者。
学長、副学長、学部長、研究科長、学科長。
大学経営会議室長、事務局長、研究協力等推進部長、大学院事務長、
国際交流コーディネータ。
- (2) 大学経営会議において任命する外国大学の非常勤教授等。
- (3) その他、学長が必要と認める者。

(事務局)

第4条 国際交流センターに関する事務は研究協力等推進部が担当する。

(その他)

第5条 この規程に定めるほか、国際交流センターに関することについては、別途定めることとする。

(附則)

本規程は平成24年4月1日から施行する。

本規程は平成25年4月1日から施行する。

東京医療保健大学感染制御学研究センター規程

(趣旨)

第1条 感染制御学に関わる教育研究の充実発展を図るため「東京医療保健大学感染制御学研究センター」(以下「感染制御学研究センター」という。)を設置し、国際的通用性の高い教育研究を組織的に推進する。

(所掌事項)

第2条 感染制御学研究センターは、国際交流委員会、国際交流センターと連携して次の業務を行う。

- (1) 感染制御学の分野で基礎、応用研究を行うこと。
- (2) 感染制御を目指した新たな学問拠点を形成すること。
- (3) 国内外における感染制御の貢献に関すること。
- (4) その他、感染制御学に関わる教育研究に関すること。

(構成員)

第3条 感染制御学研究センターの構成員は次のとおりとし、センター長は医療保健学研究科長をもって充てる。

- (1) 本学関係者。
教員の中から大学経営会議で任命する者。
大学経営会議室長、事務局長、研究協力等推進部長、大学院事務長。
- (2) 大学経営会議において任命する外国大学の非常勤教授等。
- (3) その他、研究科長が必要と認める者。

(事務局)

第4条 感染制御学研究センターに関する事務は大学院事務室が担当する。

(その他)

第5条 この規程に定めるほか、感染制御学研究センターに関することについては、別途定めることとする。

(附則)

本規程は平成24年4月1日から施行する。

東京医療保健大学メディテーションセンター規程

(趣旨)

第1条 本学の建学の精神・教育理念に基づき、医療・健康・保健面における「生命倫理観、生死観」に対する実践的理解及び「メンタルケア」の技術力向上を図るとともに、実践を重視した教育研究の充実発展を図るため、「東京医療保健大学メディテーションセンター(以下「メディテーションセンター」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 メディテーションセンターは次の業務を行う。

- (1) 医療・健康・保健面における「生命倫理観、生死観」に対する実践的理解及び「メンタルケア」の技術力向上に関すること。
- (2) 「メンタルケア」としての「カウンセリング」に関すること。
- (3) 「メディテーション」に係る講演会等の企画・実施及び普及に関すること。
- (4) 「メディテーション」に係る実践的な教育研究に関すること。
- (5) その他、「メディテーション」及び「カウンセリング」の推進に関すること。

(構成員)

第3条 メディテーションセンターの構成員は次のとおりとする。

- (1) 本学関係者
 - 副学長、大学経営会議において任命する教員。
 - 大学経営会議室長、事務局長、総務人事部長、学生支援センター長。
- (2) 大学経営会議において任命する客員教授等。
- (3) その他、学長が必要と認める者。
- 2 メディテーションセンター長は大学経営会議において任命する副学長をもって充てる。
- 3 メディテーションセンターに副センター長を置くこととし、センター長が指名する者をもって充てる。

(設置場所)

第4条 メディテーションセンターは、一般財団法人不二学道会の解散に伴い本学が寄附を受ける不二禅堂(台東区浅草橋3-21-7)に置くこととする。

- 2 不二禅堂の利用に関する事項については、別途定める。

(組織)

第5条 メディテーションセンターには「メディテーション実践部門」「カウンセリング部門」及び「研究部門」を置く。

- 2 各部門の運営等については、別途定める。

(事務局)

第6条 メディテーションセンターに関する事務は学生支援センターが担当する。

(その他)

第7条 この規程に定めるほか、メディテーションセンターに関することについては、別途定める。

(附則)

本規程は平成25年7月17日から施行する。

東京医療保健大学の国際交流に関する基本方針

- 本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としている。
- この教育目標に基づき、実践を重視した教育・研究の充実・発展を図るため、国際的通用性の高い教育・研究を組織的に推進することとし、「国際交流に関する基本方針」を次のとおり定める。
 - 1、教職員・学生に係る海外派遣・海外実習を積極的に推進するとともに、海外派遣・海外実習プログラムの充実を図る。
 - 2、海外からの教職員・学生の受け入れを積極的に行うとともに、これを通して本学の国際化を推進する。
 - 3、海外の大学等との国際交流協定の締結を推進する。
 - 4、全学的な重点プロジェクトに沿って国際共同研究の推進を図るとともに、国際的シンポジウム等の企画・実施を図る。
 - 5、国際交流に係る事業実施及び推進に伴う経費については、補助金その他の外部資金の確保に努める。

海外研修の実施状況（平成 18 年度～平成 25 年度）

<全学合同海外研修> 毎年度各学科において希望する学生概ね 30 名程度が参加。

実施 年度	訪 問 地	訪 問 先 (医療施設、大学等)	内 容
平成 25 年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 26. 3. 9(日) ～ 3.17(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ハワイ大学看護・歯科衛生学部看護学科シミュレーションセンター。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○ダイヤモンドヘッド・クリニック。 ○シュライナーズ小児病病院。 ○コクア・カヒリ・バレーヘルスセンター。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療の現状と課題～日米の比較から。 ・米国におけるシミュレーション教育。 ・シミュレーションの基礎。 ・ハワイにおける地域保健。 ・米国の看護教育。 ・重症患者への看護・栄養サービスシミュレーション。 ・シミュレーション教育における IT 専門家の役割。 ・遠隔医療。 ・アメリカの病院における医療提供体制。
平成 24 年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 25. 3. 11(月) ～ 3.18(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ハワイ大学医学部シミュレーション研究センター、看護学部、栄養学部。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○シュライナーズ小児病病院。 ○クアキニ・ナーシングホーム。 ○クアキニ医療センター。 ○ダイヤモンドヘッド・クリニック。 ○ハワイ州防災センター。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療の現状と課題～日米の比較から。 ・アメリカにおける医療安全の最近の動向。 ・ハワイ原住民の歴史と健康。 ・アメリカの看護教育。 ・ハワイの公衆食育活動。 ・病院管理栄養士の仕事及び厨房見学。 ・医療 IT の動向。 ・遠隔医療による慢性疾患管理。 ・防災時に使う医療 IT。 ・病院見学、シミュレーションセンターでの演習。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成23年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 24. 3. 12(月) ～ 3. 19(月)	○ハワイ大学医学部シミュレーション研究センター、看護学部、社会学部。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○シュライナーズ小児病院。 ○クアキニ・ナーシングホーム。 ○クアキニ医療センター。	・アメリカの医療の現状と課題。 ・アメリカにおける医療安全の最近の動向。 ・ハワイ原住民の歴史と健康。 ・アメリカの看護教育。 ・ハワイの救急医療システム。 ・ハワイの公衆食育活動。 ・病院管理栄養士の仕事及び厨房見学。 ・医療ITの動向。 ・遠隔医療による慢性疾患管理。 ・病院見学、シミュレーションセンターでの演習等。
平成22年度	東日本大震災のため中止	—	—
平成21年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 22. 3. 15(月) ～ 3. 22(月)	○ハワイ大学医学部、看護学部、栄養学部。 ○クアキニ医療センター。 ○クィーンズ医療センター救命センター。 ○トリップラー陸軍医療センター。 ○クアキニ・ナーシングホーム。	・アメリカの医療制度。 ・アメリカの看護・栄養・医療情報の最近の傾向。 ・医療IT機器実習、医療ITプログラムデモ。 ・大学の授業見学、学生との交流。 ・アメリカの栄養士の職域と役割。 ・さまざまな医療職の役割。 ・遠隔医療見学、医療英語レッスン、介護施設慰問等。 ・座学だけでなく実習、大学の授業を体験、また慰問を通じた現地の高齢者との交流。
平成20年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 21. 3. 24(火) ～ 3. 30(月)	○セント・ポール。 ○ロイヤル・ジュビリー。 ○ビクトリア州立大学。 ○カナダ医療情報センター。	・カナダの医療制度及びその問題点。 ・カナダの病院における医療IT技師・看護師・管理栄養士の役割。 ・看護教育制度及び医療情報教育制度。 ・医療情報センターの役割。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成19年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 19.9.19(水) ～ 9.26(水)	○ロイヤル・ジュビリー。 ○セント・ポール。 ○ブリティッシュ・コロンビア 大学病院。 ○ビクトリア州立大学。 ○フレーザー保健局。	・カナダの医療制度。 ・カナダの医療における医療 IT 技師・看護師・管理栄養 士の役割。 ・保健局の役割。
平成18年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 18.9.23(土) ～ 9.30(土)	○ロイヤル・ジュビリー。 ○セント・ポール。 ○バンクーバー・ジェネラル病院。 ○ビクトリア州立大学。 ○カモソンカレッジ。 ○フレーザー保健局。	同 上

<医療保健学部医療情報学科による海外専門研修> 毎年度希望する学生概ね10名程度が参加。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成25年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 26.2.13(木) ～ 2.24(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○グループヘルス。 ○ノースウエスト医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○シアトル大学。 ○スエディッシュ医療センター。	・アメリカの医療制度全般と 医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が 果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の 質改善。 ・患者用電子カルテ(PHR)。 ・看護テレフォントリアージ の実態と IT。 ・e-ICU。
平成24年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 25.2.18(月) ～ 3.4(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○グループヘルス。 ○ベイビューマナー。 ○ノースウエスト医療センター。 ○ヴァリー・コミュニケーションズ ・センター。 ○シアトル大学。 ○スエディッシュ医療センター。 ○クオリスヘルス。	・アメリカの医療制度全般と 医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が 果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の 質改善。 ・患者用電子カルテ(PHR)。 ・救急車派遣における IT 活用。 ・e-ICU。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成23年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 24.2.21(火) ～ 3.4(日)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○マルタイケア。 ○クオリスヘルス。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス ○タコマジェネラル病院 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・救急車派遣における IT 活用。 ・e-ICU。
平成22年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 23.2.20(日) ～ 3.5(土)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 最新事情。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・テレヘルス、在宅ケアに関する医療情報の導入。 ・模擬電子カルテへの入力、遠隔手術ロボットの操作体験等、座学だけでなく実践を通じた体験。
平成21年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 22.2.22(月) ～ 3.8(月)	○シアトル大学看護学部シミュレーションセンター。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 最新事情。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT。 ・患者用電子カルテ、テレヘルス等。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成 20年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 21. 2. 23(月) ～ 3. 9(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○州立ワシントン大学。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター 等。	・アメリカの医療制度全般。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・ITと医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT、等。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。
平成 19年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 20. 2. 18(月) ～ 3. 2(日)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○ノースウエスタン大学。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター 等。	・アメリカの医療制度全般。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。

<医療保健学部看護学科による海外専門研修>

平成 18年度	アメリカ ワシントン州 シアトル 19. 3. 17(土) ～ 3. 29(木)	○シアトル・パシフィック大学 保健科学学部。	・大学での各種講義及び関連医療施設での講義・見学を通じて、アメリカの医療制度、看護制度、看護師の役割拡大のあり方等を学習。
------------	--	---------------------------	---

大学院医療保健学研究科における海外研修実施状況(平成23年度～平成25年度)

年度	期間	訪問地	参加院生数	実施内容
平成 23年度	10月13日(木) ～ 10月15日(土)	大韓民国 釜山	5名	<p>第10回東アジア感染制御カンファレンス (EACIC 2011 The 10th East Asian Conference on Infection Control and Prevention)に参加して、院生が次のテーマで発表等を行った。</p> <p>「A Respiratory Protector to Use When a Disaster Occurred」(災害時における呼吸用防護具の適切な使用について)(黒須一見 博士課程2回生)</p> <p>「The Contamination of Loan Instruments Detected by Adenosine Tri-Phosphate Quantitatively」(業者貸出手術器械の汚染についてATP測定による定量的評価)(岡崎悦子 博士課程3回生)</p> <p>「Microbial Flora Recovered from Surgical Instruments Used in Abdominal Surgery」(開腹手術に使用された手術器械から検出される微生物叢)(齋藤祐平 修士課程 平成19年度生)</p> <p>「The Quantitative Evaluation of Alcohol Hand Rubbing Reflecting Busy Healthcare Setting」(臨床現場を反映したアルコールラビングの視覚的評価)(嶽本智子 修士課程 平成21年度生)</p> <p>また、仁済大(Inje Univ.)の附属病院 海雲台白病院を見学後、金容鎬学長(Prof. Yong-Ho Kim)との合同ミーティングにおいて、中央材料室、無菌病棟、外科系集中治療室等についてディスカッションを行った。</p>
	11月8日(火) ～ 11月11日(金)	オーストラリア メルボルン	8名	<p>第5回アジア太平洋感染制御学会 (APSIC 2011 The 5th International Congress of the Asia Pacific Society of Infection Control)に参加して院生が次のテーマで発表等を行った。</p> <p>「The Role of Leadership of Infection Control Nurse in Clinical Setting」(医療現場におけるリーダーシップ ICNの役割)(吉田理香 博士課程2回生)</p> <p>「Infection Control Measures in Disaster Area of Tsunami」(津波災害における感染制御対策)(菅原えりさ 博士課程1回生)</p> <p>「Efficacy of Repeated Application of Povidone-Iodine on Skin: a Preliminary Study」(皮膚に対するポビドンヨード反復使用の効果についての予備検討)(齋藤祐平 修士課程 平成19年度生)</p> <p>「A Comparison of Residual Antimicrobial Activity in Some Chlorhexidine-containing Antiseptic Formulations」(Chlorhexidine含有殺菌消毒薬の残留殺菌活性の比較)(曾川芳郎 博士課程1回生)</p> <p>「Removal of the Bloody Soil among Thin Space of Surgical Instruments After Use」(細小間隙器材の洗浄効果)(竹内千恵 博士課程1回生)</p>

平成 24年度	—	—	—	—
平成 25年度	9月30日(月) ～ 10月2日(水)	イギリス ロンドン	2名	<p>感染制御ソサエティー2013 (Infection Prevention Society 2013)に参加して、 教員および院生が次のテーマでポスター発表を 行った。</p> <p>「Duration time for hand rub based on the hand hygiene behavior of healthcare workers in hospital wards」 (臨床現場の手指衛生行動に基づくアルコールラビング 時間の検討)(菅原えりさ准教授)</p> <p>「The Influence of Hydrogen Peroxide Sterilisation on Plastic Surface」 (過酸化水素滅菌におけるプラスチック表面への影響) (吉田理香准教授)</p> <p>「Influence of different guidelines on actual practices for SSI prevention in hospitals」 (病院におけるSSI防止実践業務におよぼす多種ガイド ラインの影響)(齋藤祐平研究生)</p> <p>「The Optimal Number of Beds Able to be Managed by One Infection Control Nurse or Doctor in Japan」 (感染管理認定看護師およびインフェクションコントロ ールドクターの必要人数)(中田諭研究生)</p> <p>「Decontamination of non-critical vessels used for patients in ward by small dishwasher」 (家庭用食器洗浄機による病棟でのノンクリティカル容 器清浄化)(神明朱美 修士課程 平成24年度生)</p>
	11月6日(水) ～ 11月9日(土)	トルコ アンタルヤ	2名	<p>第14回滅菌供給業務世界会議 (WFHSS2013 World Forum for Hospital Sterile Supply)、教員および院生が次のテーマで ポスター発表を行った。</p> <p>「The Influence of Low Temperature Sterilisation on Plastic Surface」 (低温滅菌におけるプラスチック表面への影響) (吉田理香准教授)</p> <p>「A study on the reliability of pouch with a side gusset type of sealing quality」 (滅菌バッグの信頼性、ガゼットタイプパウチのシーリン グの質の評価に関する研究) (神貴子 博士課程3回生)</p> <p>「Study on Cleanliness of Loan Instruments by Adenosine Triphosphate」 (アデノシン三リン酸検査キットを使用した業者貸出手術 器械洗浄後の評価) (田中加津美 修士課程 平成25年度生)</p>

大学院医療保健学研究科における外国からの講師による講演等一覧(平成24年度～平成25年度)

年度	実施年月日	場所	参加者数	講義等の内容
平成 24年度	11月16日(金) 7:45～8:25	東京ビッグサイト 1F Room1 (Reception HallA)	教員 及び 院生 50名	<p>“Infection Prevention and Control System in China” (「中国における感染制御システム」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるリュイ・リー(Liuyi Li MD) 中国 北京大学第一病院 感染制御部主任教授が、第11回東アジア感染制御カンファレンス(EACIC 2012)のため来日した機会に「中国における感染制御システム」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月23日 (金・祝日) 7:30～8:00	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 30名	<p>“Properties of antiseptics in wound management-comparison of efficacy and tolerance” (「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるアクセル・クラマー(Axel Kramer PhD) ドイツ グライフスワルド大学医学部主任教授が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」に関する講演及び意見交換等を行った。</p> <p>“Sterilisation and Supply in Hospital” (「病院における滅菌と供給」)</p> <p>本学客員教授である ジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「病院における滅菌と供給」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月24日(土) 8:00～8:30	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 35名	<p>“Hospital infection control in 2012: new solutions for old and resurgent problems” (「2012年 病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」)</p> <p>本学客員教授であるジョナサン・オッター(Jonathan Otter PhD) 英国 キングス・カレッジ特別研究員が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「2012年病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
平成 25年度	5月29日(水) 17:30～18:30	大学院 別館 D104室	教員 及び 院生 20名	<p>“Topics on Infection Prevention and Control” (「感染制御のトピックス」)</p> <p>本学客員教授であるジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、日本企業への講演のため来日した機会に「感染制御のトピックス」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>

大学院公開講座等実施状況 医療保健学研究科（平成23年度～平成25年度）

	平成23年度 大学院公開講座	平成24年度 大学院公開講座
実施日時	23.7.9（土） 13：00～16：00	24.7.7（土） 13：00～16：00
実施場所	時事通信ホール	時事通信ホール
受講料	3,000円	3,000円
講座名	「新しい時代に向けての感染制御」	「感染制御策の向上を目指して」
講座の内容	感染制御学コースの大学院生及び感染制御実践看護学講座修了生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報を解説。	感染制御学コースの大学院生及び感染制御実践看護学講座修了生、受講生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、国内外の最新の情報解説。
講師	小林 寛伊（東京医療保健大学長） 大久保 憲（東京医療保健大学医療情報学科長） 東京医療保健大学大学院生15名 感染制御実践看護学講座修了生1名	小林 寛伊（東京医療保健大学長） 大久保 憲（東京医療保健大学医療情報学科長） 東京医療保健大学大学院生12名、修了生1名 感染制御実践看護学講座修了生2名
参加者数	177名	176名
アンケート回答者数	72名(40.7%)	50名(28.4%)
講座を知った方法	勤務先等からの案内 67% 大学院のホームページ 19% チラシ・ポスター・雑誌 14%	大学院からの案内メール、郵送物 45% 勤務先・知人からの案内 27% 大学ホームページ 8% 雑誌の広告 4% その他 16%
公開講座の時間	ちょうど良い 90% 長い 2% 短い 8%	ちょうど良い 94% 長い 4% 短い 2%
公開講座の内容	妥当 79% 難しい 11% もう少し専門的でも良い 10%	妥当 80% 難しい 12% もう少し専門的でも良い 6% その他 2%

	平成25年度 大学院公開講座	
実施日時	25.7.6(土) 12:30~16:00	
実施場所	時事通信ホール	
受講料	3,000円	
講座名	「感染制御 -2013年の話題-」	
講座の内容	感染制御学の大学院生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報、感染関連法規等を解説。感染制御実践看護学講座及び感染制御学研究センター東京・大阪の紹介。	
講師	小林 寛伊 (東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科長) 大久保 憲 (東京医療保健大学 医療情報学科長) 菅原 えりさ (東京医療保健大学大学院 准教授) 吉田 理香 (東京医療保健大学大学院 准教授) 東京医療保健大学大学院生10名	
参加者数	173名	
アンケート回答者数	63名 (36.4%)	
講座を知った方法	大学院からの案内メール、郵送物	49%
	勤務先・知人からの案内	27%
	大学ホームページ	8%
	雑誌の広告	6%
	その他	10%
公開講座の時間	ちょうど良い	92%
	長い	4%
	短い	4%
公開講座の内容	妥当	87%
	難しい	9%
	もう少し専門的でも良い	4%

大学院公開講座の実施概要(25.7.6(土))

平成25年7月6日(土) 12:30~16:00 時事通信ホールにおいて「感染制御-2013年の話題-」と題し、大学院公開講座を開催しました。小林研究科長の基調講演、大久保副学長による教育講演、大学院在学生による発表及びパネルディスカッションを行いました。参加者は173名でした。

○実施内容

・テーマ 「感染制御 -2013年の話題-」

基調講演	最近の新しい動き	小林 寛伊 研究科長 教授
教育講演	感染関連法規／通知にみる感染制御策の変遷	大久保 憲 教授
研究発表等	「インфекション・コントロール・チーム ラウンド時介入リスト」による実用評価の分析	修士課程2年 萱島 すが
	軟性内視鏡細管の洗浄について	修士課程2年 小林 マキ子
	家庭用小型食器洗浄機を用いた再使用医用器材の除菌・洗浄効果	修士課程2年 神明 朱美
	低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌装置における滅菌コンテナを使用した滅菌性能の検証	修士課程2年 鈴木 美千代
	カーテンに付着した微生物の生存	修士課程2年 中島 由美子
	電子機器や映像を使用した手指衛生場面の評価～データロガー、ビデオカメラを使用して～	修士課程2年 森山 由紀
	感染防止対策加算による感染制御効果と課題	博士課程2年 鈴木 明子
	培養細胞に対する過酸化水素の影響	博士課程2年 高野 海哉
	熱水消毒用インジケータの開発	博士課程3年 岡崎 悦子
	滅菌の質保証 -滅菌バッグシールの問題点-	博士課程3年 神 貴子
	感染制御実践看護学講座の紹介	大学院准教授 菅原 えりさ
感染制御学研究センター東京・大阪について	大学院准教授 吉田 理香	

○参加者の状況

区分	人数
企業関係者	51名
医療機関関係者	50名
本学大学院生・修了生	47名
本学教職員	25名
合計	173名

○参加者からの主な感想

- ・興味深いテーマでした。一所懸命取り組まれている内容で、感銘を受けました。
- ・最新情報、また、エビデンスに基づいた研究結果が参考になりました。
- ・とても興味深い研究内容でした。食洗機の使用は、今後検討を深めていきたいと考えます。IIL (ICT ラウンド時介入項目リスト) の結果は当院と同じような結果です。どのように比較検討するか考えていたところなので、参考になりました。
- ・学生の皆さんの発表を聞くことで、自分自身の研究についての課題を確認することができ、大変勉強になりました。滅菌バッグの種類やヒートの組合せについて自施設をすぐに確認したいと思います。
- ・過酸化水素の生体に関する影響の続報が大変気になります。
- ・素晴らしい取り組みだと思います。最近の動向が分かり、とても有益な講座だと思います。

東京医療保健大学の教員組織の編成方針の制定について

1. 趣旨・概要。

○本学の建学の精神及び理念・目的を達成するために、教育・研究を担当するに相応しい能力を有するとともに、熱意を持って、かつ、真摯に教育・研究に取り組む教員を求めるとし、本学の教員組織の編成方針を定めるものです。

○教員組織の編成方針においては、医療系の大学として関係法令に基づき教育課程に相応しい教員組織を適切に編成・整備することとし、医療保健学部看護学科・医療栄養学科・医療情報学科、東が丘看護学部看護学科、医療保健学研究科、看護学研究科が求める教員像を明記しております。

平成23年度に大学基準協会による大学評価を受審した際に、大学評価分科会報告書における評価基準の「教員・教員組織」においては、努力課題として「理念・目的の実現のために教員組織の編成方針を定めることが必要である」と指摘されております。

2. 施行年月日。

平成24年3月7日。

在学生、教職員 各位

学長 木村 哲

平成 24 年度授業評価実施結果について

本学では、教育の質の向上を図るため、皆様のご協力のもと全科目について授業評価を実施しておりますが、このたび平成 24 年度の実施結果がまとまりましたのでご報告いたします。

在学生の皆さんから提出していただいた授業評価については、各科目の担当教員が 1 枚ずつ目を通してその感想及び授業への工夫等をまとめた上で、各学科長において整理願ったものを公表するとともに、授業評価実施結果についての概要及び質問項目別集計結果等についても公表いたします。

この実施結果を生かして授業内容・方法の創意工夫を行うなど、今後も教育の質の向上に努めることといたしますので、よろしく願いたします。

看護学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部看護学科長
坂本 すが

1. 授業評価に関して

- 総合評価は全体的には 4.0 前後で平均以上でもあり、学生は総合的に授業には満足しているようでした。今後も学生の興味・関心に応えつつ、質を担保する授業を目指します。
- 授業内容については、一部の専門科目で、「他学科の学生等にも薦めたいと思うか」という点について評価が低くなっており、この点については評価項目自体に課題があるかと思えます。
- 教員の教え方についても、板書や教科書・プリントの活用について授業内容に即した教材などの活用であったかどうか評価されて然るべきだと思えます。
- 同様に学生への配布資料が詳細であることが必ずしも必要とは限らないと考えております。大学生としての学びができるようスキルが身につくように支援する必要があると感じます。
- 学生は多様な入試方法によって入学してくることから、学力差がある集団であることを大前提として、一斉講義だけではなく GW においても習熟度に合わせた授業展開を進める必要があると考えています。
- 学生自身が自分の授業態度を評価する項目では例年評価が高く、学生の意欲や取り組みに応える授業を提供したいと思えます。

2. 授業において工夫した点について

- ① 昨年度の授業評価を生かし、双方向型の授業やグループワークを活用し、能動的に授業に参加できるような方法を拡大・継続しました。
- ② 授業の初回ガイダンスで授業計画を説明し、課題の内容や提出の時期を伝え、課題で扱った内容を授業で展開するなど、授業方法を改善する科目が増え、結果が授業評価にも表れています。
- ③ 視聴覚教材を取り入れ、現実体験の少ない学生がイメージしやすいように工夫しました。
- ④ 配布する印刷物をカラー印刷にすることによって、より理解しやすい資料を作成するよう努めました。
- ⑤ 授業前にガイダンスを行い、学生が見通しをもって授業に望めるようにしました。また、授業で扱った内容をテストするなど、学生の意欲が出るように意識しました。
- ⑥ 授業内容についての学生の疑問点、意見、感想を聞くにとどまらず、授業資料の見やすさ、教員の授業スピード、声の大きさ等についてもコメントをもらい、それを次回の授業内容に反映させました。

- ⑦ 毎回の授業でポイントになる部分のミニテストを実施し、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分だった点については次回の授業で説明し、理解度を確認しながら授業を進めました。
- ⑧ 学生個人の学習成果が分かるように、成果物は個人名で提出させ、解説を行い学生各自が自己点検できるようにしました。

3. 今後の授業について

学生の意見を真摯に受けとめ、平成23年度から「授業力・教育力の強化」を目指し、各領域・各種委員会が様々な取り組みを計画してきました。平成25年度は学科内で共有したことを評価し、課題として生成することを考え、FD活動と連携していきます。

4. 学生に対して

- 看護学科では、進級制度を導入した平成23年度に入学した学生が今年から本格的に実習科目を履修します。各学年で学ぶべき内容を確実に身につけた皆さんがどのように実習科目に取り組み、成果を上げるか教員たちは関心を持って見守り、力を十分に発揮できるよう支援します。
- 3年前期までにどのように学んできたかが実習での学びを左右します。付け焼刃の知識は実習で通用しません。知識は使える形にして、自分の言葉で関連付けて整理しておきましょう。
- 平成24年度からは、成績の補助資料として5ポイント法を導入しました。資料は学習支援のためにも使用しますが、何よりも学生が自分自身の成績状況を学期ごとに正確に把握するとともに、学習の結果を俯瞰するためのものです。それによって卒業までにやるべきことに計画的に取り組めるようにしました。
- 今年度から国家試験対策を一新しました。どの科目も授業態度・出席率・取り組み姿勢は満点に近い自己評価となっております。授業以外の対策講座においても機会を活用して、主体的に学習しましょう。
- 教員は学生が将来において問題を抱えたとき、「へこたれない学生、へこたれても立ち上がる学生」を目指し教育を行っています。皆さんもその力を身につけるべく、多くの本を読み、教養を積み、仲間を思いやり、人間としての基本的な力を大学で身につけてください。自らが秘めている能力を自ら発見し、能力を活用できるような人になってください。

看護学科においては、今後も教育内容の充実に努めてまいります。

医療栄養学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部医療栄養学科長
小西 敏郎

1. 授業評価に関して

- 平成 24 年度の授業に対する学生の総合評価は平均 4.0 であり、前年の講義系の平均 4.1 及び実習系の平均 4.4 との評価に比しやや低下している。内訳をみると「教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか（評価 4.13）」や「教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか（評価 4.19）」などの「教員の姿勢について」の項目は好印象を与えているようだが、「教員は適切に板書を活用したと思うか（評価 3.81）」や「教科書・プリントを適切に用いたと思うか（評価 3.78）」あるいは「教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか（評価 3.78）」などの「教員の教え方」の項目に対して不満が強い結果であった。各教員の感想を確認したが、指摘を受けたいずれの教員もこの点については反省し、それぞれの方法で改善を図っており、今後も努力してゆく所存である。
- また「授業内容をよく理解できたと思うか（評価 3.90）」について評価が低いのは教育スタッフの立場からは残念であるが、「この授業は他学科の学生等にも薦めたいと思うか（評価 3.90）」が低かったことについては、医療栄養学科では管理栄養士資格取得を目指す高度に専門的な授業を多く行っているのではやむを得ないと思われる。むしろ学生諸君が「この授業内容は将来役立つと思うか（評価 4.16）」について多くの学生が肯定していることから、当学科の教育内容を受容しているものと思われる。
- 全体としては、多くの授業科目において高い点数が記載されており、個別的にも特に問題となる授業が行われているような評価結果ではないので、当学科のすべての授業において、学生が自分たちの将来を見据えて、集中して授業に取り組めたものと感じた。また各教員はこれらの評価を踏まえて担当科目の授業の改善・工夫に一層努力するとしており、各教員の更なる授業評価の向上に努力する姿勢がうかがえた。

2. 授業において工夫した点について

各教員は、医療栄養に関するより最新の情報を伝えながら、学生の学習意欲が高まるように、そして緊張感を持って学生が授業に臨めるように、講義に改善を加えている。また学生の理解度を注意しつつ講義を進行するために、様々な方法で、できるだけ多くの学生と双方向となるような形式を目指して改善を加えながら進めている。

具体的には、

- ① 授業の開始時に前回の授業内容についての小テストを行ったり、あるいは授業途中や終了時に小テストを行い、学生が緊張感を持って授業に臨むようにした。

- ② 演習や実験あるいは大クラスでの授業では、できるだけ大きな声で授業を行っている。
- ③ 実習・実験においてもスライドやテキストを準備し、実習・実験内容がより理解できるような授業を心がけた。
- ④ グループ別に論文のまとめ方を詳細にかつ親切に指導した。
- ⑤ 科目により、専用ノートを持たせ、テキストから重要と思われる部分を手書きで図や表を書かせ、印象を強くさせる工夫をした。
- ⑥ 科目によっては、グループで考えて結論を導き出す手法も取り入れるなどの改善を行ってきた。
- ⑦ 「食文化論」においては、日本の風土・歴史から我が国特有の食文化を理解させるようにし、そして築地市場などの食文化の中心となる現場を見学しレポートをまとめさせるように試みた。

3. 今後の授業について

- 今回の学生の意見を真摯に受けとめ、学生が学ぶことの楽しさや学び方に、興味を持って取り組めるように更に授業改善に努めてまいります。
特に当学科の考えとして、これからの医療栄養学は各種疾患の治療食のみならず、予防・健康維持のための栄養管理が求められていると考えている。したがって当学科での教育内容としては、「おいしいものを作る」という工夫は基本として習熟してもらうが、更に健康増進のための「体にバランスの取れる良い食事作り」を目標にしている。すなわち各種の疾患を念頭に置いた調理、栄養を目指しているので、病院における臨地実習及び3学科合同でチームを作って検討する「協働実践演習」などの必修科目を通して、医療現場に触れる機会をできるだけ設けて、更に疾患や医療への関心が高まるように教育していくことが非常に重要と考えている。
- そこで医療現場での見学・実習において学生の実習がスムーズに進行し、教育効果が向上するために OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) を導入することを計画している。
わが国では医学教育や薬剤師の教育では OSCE は実施されているが、栄養教育分野ではまだ少ない大学においてしか行われていない。そこで先行して OSCE を導入している医療保健学部看護学科におけるこれまでの導入経過と成果・問題点を参考にして検討してまいります。

4. 学生に対して

- いずれの教員も、能力、意欲に大きく個人差のある学生諸君に対して、すべての学生が学ぶことの楽しさや学び方に、興味を持って取り組めるように熱意を持って授業改善に努めて取り組んでいる。学生諸君は、それを良く理解して、授業中に自分が理解できないことがあれば自ら質問し、不満があればその都度教員に伝えてもらいたい。むしろ教員が質問はないか問いかけても応えがないことが多い。もし、授業中に質問するのは恥ずかしい、気後れがするようならば、授業終了後でも構わないので、どん

ん質問し、また意見を述べてほしい。

- アンケートの記述に「授業中に眠っている学生を起こすな」という意見があったが、できるだけ多くの学生に自分の重要な講義内容をよく理解してもらいたいとの気持ちで教員が授業にかけている情熱・エネルギーをよく理解すれば、このような意見は出るはずがないであろう。学習意欲がなく眠っている学生を積極的に起こす必要があるかどうかは議論の余地はあるが、とにかく眠る学生数を減らすことに教員は一層努力するので、学生諸君はそれに応えてほしい。
- またあらかじめ配布されているシラバスと実際の教育内容が異なることがあるが、年々変化する医療栄養の分野では時宜を得た最新の情報を伝えなければならない授業が多く、授業内容や順序が変わることがありうることを理解していただきたい。

医療情報学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部医療情報学科長
大久保 憲

1. 授業評価アンケート結果の感想

- 授業の総合評価において、全体的に 4.0 であり、多くの科目において高い点数が記載されています。授業内容の「関心」において高点数でも、「理解」については点数が低い場合があります。関心を理解につなげる工夫が必要と感じました。
- 学生自身の授業態度に対する評価も良好であり、熱心に授業を受けていた状況がわかりました。
- 「実験」では、毎回長時間拘束を余儀なくされ、取り組み方によっては時間内に終わらない学生もいます。教員としては実験の準備を怠らないようにしていかななくてはならないと思います。各種の資格認定試験をパスできるようにレベルを設定して授業を進めていく必要があります。
- 最近話題となった医療にかかわるニュースに興味を示す傾向があります。学生が医療に興味を持ってきている状況がわかりました。
- 教室の制約から、同じ授業を複数のクラスに分けて実施しているものがありますが、総合的な満足度に偏りがあることが分りました。その理由を考えなくてはなりません。

2. 授業において工夫した点について

- ① エクセルを使用して、統計処理ができるように教材を工夫して使用しました。
- ② 医療用データベースとして評判の高いものを紹介して、パソコンを使用したデモンストレーションを行いました。
- ③ 学生の自由記述にもあるように、理解しやすいようにゆっくり授業を行うことに注意を払い、学生の質問を受けながら授業を進めるようにしました。
- ④ 企業見学において、予め企業内容を調べたうえで参加し、翌週の授業では、獲得した知見を学生と共有するために発表会を実施しました。
- ⑤ 病院や IT 企業の社員の講演を聞いた後に講師を交えてグループワークを行いました。個人演習やグループ演習を交えて、質問しやすい雰囲気づくりに心がけました。
- ⑥ Desknet' s の活用として、回覧レポート機能を用いて報告してもらい、この報告をもとに授業の進捗に付き調査しました。
- ⑦ パワーポイントの配布資料を要点だけにして、細部は学生自身に記入してもらうようにしました。
- ⑧ 演習形式のプログラムの講義では、プログラム自体をホワイトボードに記載し、学生と双方向で学習するスタイルを取り入れています。

3. 今後の授業にどう生かすか

- 講義の最初に、毎回学習目標を明示するように心がけています。最初の1コマを前回の復習にあて、新規項目は残りの時間で展開して、少しずつ理解度が高まるように進めていきます。
- グループワークを中心にした講義では、学生個人とのインタラクションが少なかったと考え、授業中に学生個人とのやり取りをする時間を増やします。
- 授業評価からすると、授業内容に対する理解が不足しているように見受けられます。実験・実習科目では基礎的な問題量を増やして基本の定着に力を入れたいと思います。
- 授業評価アンケートにおいて、点数の低い値の項目を中心に授業を振り返り、早速改善できることを抽出して、次年度以降のシラバスにも反映させていきたいと思います。
- プリント、マルチメディア、板書をバランスよく取り入れて、興味ある授業を展開していきたいと考えています。

4. その他

- 学生の理解が想定していたより早い場合、シラバスの記載内容より深めることがあります。この設問の後に「シラバス通りに進んでいないが、それは良かった・悪かった」という設問があるとより正確に状況が把握できると考えます。
- ホワイトボードを使用せずに学生貸与のPC画面へ教員PCの内容を写すようにしていますので、「板書等を適切に活用したか」と「等」を入れた設問にさせていただくと評価が正しく表れるのではないかと考えます。

助産学専攻科の授業評価結果に対する考察（平成24年度）

助産学専攻科長 坂本 すが

1. 授業評価に関して

- 総合評価は全体的には4.0以上でした。学生が自ら評価する意欲的に授業に出席したかどうかの項目では、学生の出席率が高い点になっていました。学生にとってより重要である「授業内容をよく理解できたと思うか」という評価も同様でしたが、前年度より上昇しておりました。しかし、家族支援論や地域母子保健の科目で、取り組んだ事例や課題の意図が反映できず、「わかりにくい」というご意見がありました。この点は授業内容に関して学生が分かりやすいような授業方法や資料などを検討していきたいと考えます。
- 具体的には、幅広い知識や技術を得るために、多くの分野の講師による授業展開とすることや周産期医療などの動きを知るために、授業の一環としてセミナーや学会に参加することなども盛り込んでいきたいと考えています。
- また、教員の姿勢については高い評価をいただきました。今後も学生が授業を理解し、意欲が持てるように、更に分かる授業を目指していきます。

2. 授業において工夫した点について

- ① 授業等では、授業や実習に関する報告会を通し、進行状況に合わせて具体的な支援方法について教員間であらかじめ詳細にすり合わせをして授業に望むこと。
- ② 演習形式で行う授業では、学生の理解度が図れるように複数の教員が対応すること。
- ③ 授業ごとに学生の意見、感想を聞き、それを資料などに反映させること。
- ④ 記載されていた質問や疑問点は、次の授業でしっかりと答えること。
- ⑤ 学生の実践力を高めるために、演習時間を多く取り、実習に沿う形式をとること。

3. 今後の授業や実習について

授業や実習の評価を分析し、助産学専攻科内で統一した講義にできるように、授業計画立案時、領域会議において、授業や実習に関する報告会をして共有し、改善を図りたいと思います。そのため、教員間（非常勤含む）での授業や実習などの教育目標や指導方針を十分に共有してよい授業や教育が行えるように発展させていきます。また、助産師に必要な主体性・自立性を伸ばしていけるように、グループ演習やグループディスカッションを取り入れておりますが、新たな学習方法の検討と共に、教員が自ら成長するための研修プログラムも導入していきます。

4. 学生に対して

- 助産学専攻科は、助産師国家試験に合格できることを最重要課題としております。しかし、助産師は国家試験だけでは測れない能力も必要となります。知的な部分は国家試験でも評価されますが、それだけでは現場では助産師としての業務ができません。例えばチーム医療が重要といわれている中で、コミュニケーションなどの人との対応能力と確実な知識や技術の実施、それが妥当かどうかの判断力、予測力、そしてそれらを支える倫理的な態度が必要です。
- 教員は学生が将来において問題を抱えたとき、自ら考え行動できる能力を培える教育を探求し、実行していきたいと思っています。助産学専攻科においては、大学を卒業した後、すでに看護師及び保健師の国家試験に合格し、国家資格を持った方々を対象として、助産師を育成しております。そのため、学生の皆さんには、学びに対して自立した姿勢が求められます。
- 助産学専攻科の学生として、自らも多くの本を読み、積極的に授業や演習・実などから学習し、仲間を思いやり、分娩介助実習などの大きな壁を乗り越えてください。自らが秘めている能力を見つけ、自信を持って知識や実践力をつけていってください。教員も支援します。頑張ってください。

平成 24 年度授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学医療保健学部
助産学専攻科

○本学では、毎年度全授業科目について学生による授業評価を実施しています。この授業評価結果については当該教員に配布し、記述内容を確認した後、調査結果に対する感想及び授業内容・方法への改善などの取り組みについて記述したレポートを各教員から直接各学科長等に提出することとしており、各学科長は感想をまとめ学科長会議で報告した後、授業評価結果と併せて公表しております。

○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合（％）により表記して、前年度との比較をわかりやすくするとともに、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」について、その内容の主なものを表記しております。

○平成 24 年度の授業評価結果における肯定的な回答の「そう思う」及び「ややそう思う」の割合の合計でみると、質問項目のうち 5 つの大項目別の合計（ポイント）の高い順では、次のとおりです。
授業評価結果の経年比較では、各項目とも着実にポイントが増えておりますので、授業評価実施の効果が確実に上がっており学生及び教員の双方に、良い結果をもたらしていると評価することができます。
これらの集計結果を、公表することにより、授業評価に対する理解推進・意識啓発及び授業内容・方法の改善・充実がより一層図られるものと判断されます。

		前年度
・学生として、自分自身の授業態度について	81.9%	(81.7%)
・教員の姿勢について	77.2%	(77.1%)
・総合評価（この授業は総合的に満足できたと思うか）	74.7%	(74.4%)
・授業内容について	73.3%	(73.4%)
・教員の教え方について	71.2%	(71.2%)

○なお、授業評価アンケートは、今まで講義・演習・実習・実験とも同じ質問項目により実施しておりましたが、平成 25 年度の授業評価アンケートからは「講義・演習」と「実習・実験」によって質問項目を分けて実施することといたしておりますので、より詳細な授業評価結果を得られるものと考えられます。

平成24年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学 医療保健学部・助産学専攻科

○全科目数 324科目 ○調査対象者数 29,322人(延人数)
○総回答数 19,599枚(回答率 67%)

◆ 質問項目別集計結果(上段()は平成23年度アンケート結果)

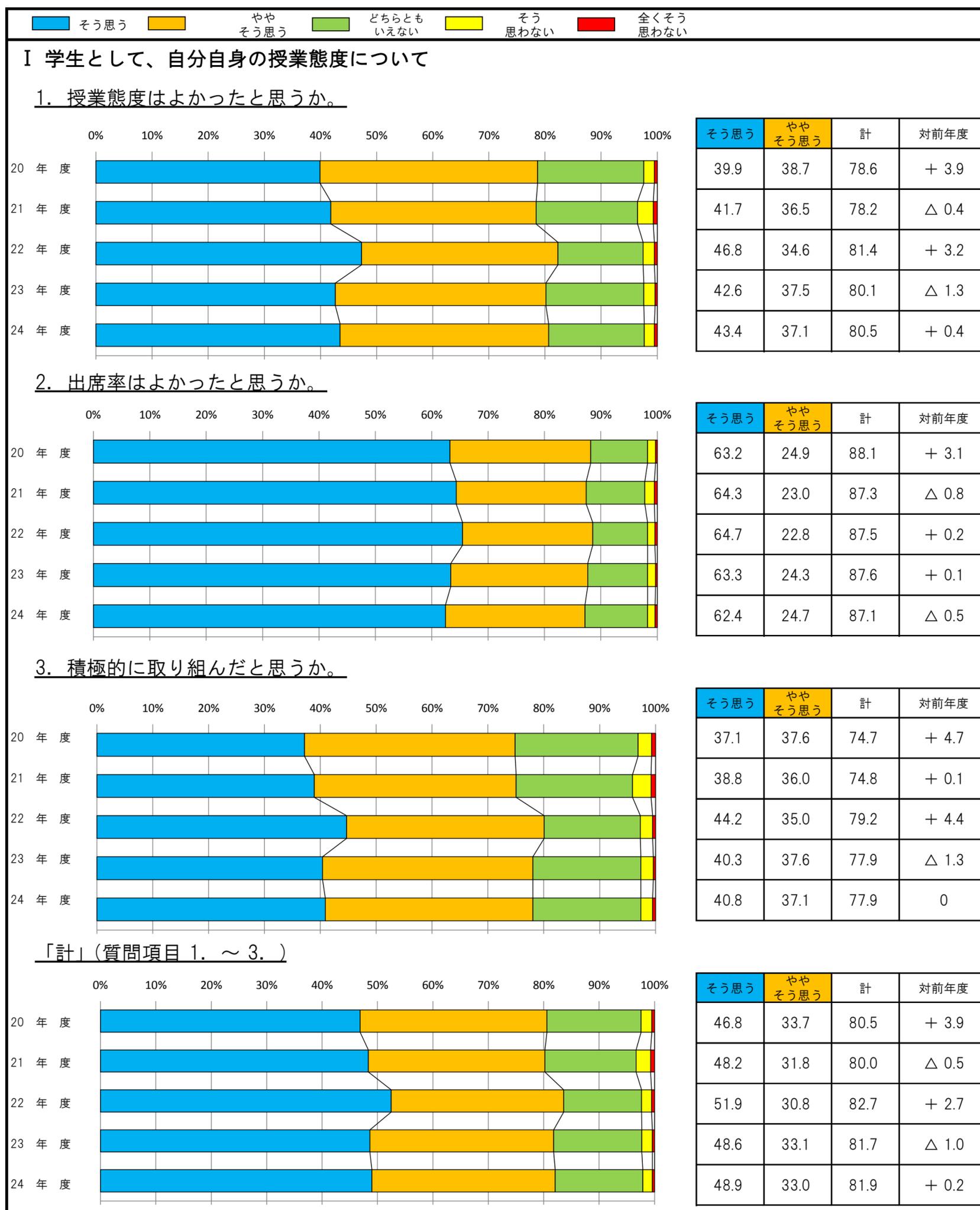
質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	%	%	%	%	%	%	%
1. 授業態度はよかったと思うか。	(42.6) 43.4	(37.5) 37.1	(17.4) 17.0	(2.0) 1.8	(0.4) 0.5	(0.1) 0.2	(100) 100
2. 出席率はよかったと思うか。	(63.3) 62.4	(24.3) 24.7	(10.6) 11.1	(1.4) 1.3	(0.3) 0.4	(0.1) 0.1	(100) 100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(40.3) 40.8	(37.6) 37.1	(19.3) 19.3	(2.2) 2.1	(0.4) 0.5	(0.2) 0.2	(100) 100
計	(48.6) 48.9	(33.1) 33.0	(15.9) 15.8	(1.9) 1.7	(0.4) 0.4	(0.1) 0.2	(100) 100
II 授業内容について	%	%	%	%	%	%	%
4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。	(36.8) 36.9	(40.5) 40.1	(18.6) 18.7	(2.9) 2.9	(1.0) 1.1	(0.2) 0.3	(100) 100
5. 授業内容をよく理解できたと思うか。	(27.5) 28.3	(41.6) 41.0	(24.9) 24.4	(4.6) 4.7	(1.4) 1.4	(0.1) 0.2	(100) 100
6. この授業内容は将来役立つと思うか。	(42.9) 42.0	(36.3) 36.8	(17.3) 17.7	(2.4) 2.2	(0.9) 1.0	(0.2) 0.3	(100) 100
7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。	(32.3) 31.4	(35.9) 36.2	(25.9) 26.2	(3.6) 4.0	(2.0) 1.9	(0.3) 0.3	(100) 100
計	(34.9) 34.7	(38.5) 38.6	(21.6) 21.7	(3.4) 3.4	(1.4) 1.3	(0.2) 0.3	(100) 100
III 教員の教え方について	%	%	%	%	%	%	%
8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	(38.7) 38.0	(37.4) 37.3	(21.3) 20.7	(1.6) 1.7	(0.7) 0.9	(0.3) 1.4	(100) 100
9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。	(36.9) 36.0	(38.0) 38.3	(20.6) 20.4	(3.2) 2.8	(1.1) 1.1	(0.2) 1.4	(100) 100
10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	(41.0) 40.4	(35.1) 36.1	(19.1) 18.5	(3.3) 3.2	(1.2) 1.3	(0.3) 0.5	(100) 100
11. 主として板書による授業が行われた場合には、 わかりやすい板書であったと思うか。	(32.6) 32.5	(33.9) 34.4	(26.4) 24.1	(3.5) 3.6	(1.4) 1.5	(2.2) 3.9	(100) 100
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施 内容はわかりやすかったと思うか。	(32.7) 32.5	(33.0) 33.5	(26.8) 24.8	(2.8) 2.9	(1.2) 1.4	(3.5) 4.9	(100) 100
13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイント による説明を聞くだけでなく、授業内容の要点 を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	(31.3) 31.8	(33.9) 33.5	(27.2) 25.9	(2.8) 3.0	(1.3) 1.3	(3.5) 4.5	(100) 100
14. (後期)教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(37.3) 37.6	(35.8) 36.9	(22.5) 21.3	(2.8) 2.6	(1.2) 1.1	(0.4) 0.5	(100) 100
計	(35.9) 35.5	(35.3) 35.7	(23.3) 22.3	(2.9) 2.8	(1.1) 1.2	(1.5) 2.5	(100) 100
IV 教員の姿勢について	%	%	%	%	%	%	%
15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(41.2) 40.8	(36.9) 37.2	(18.4) 18.1	(2.2) 2.3	(0.9) 1.1	(0.4) 0.5	(100) 100
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(44.2) 43.8	(35.8) 36.2	(17.0) 16.9	(1.8) 1.6	(0.8) 0.9	(0.4) 0.6	(100) 100
17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(35.8) 35.9	(37.6) 37.6	(21.5) 21.3	(3.4) 3.4	(1.3) 1.4	(0.4) 0.4	(100) 100
計	(40.4) 40.2	(36.7) 37.0	(19.0) 18.7	(2.5) 2.4	(1.0) 1.2	(0.4) 0.5	(100) 100
V 総合評価	%	%	%	%	%	%	%
18. この授業は総合的に満足できたと思うか。	(36.3) 35.8	(38.1) 38.9	(19.8) 19.4	(3.0) 3.0	(1.3) 1.3	(1.5) 1.6	(100) 100
全質問項目の平均	(38.7) 38.4	(35.9) 36.3	(20.9) 20.3	(2.7) 2.7	(1.0) 1.1	(0.8) 1.2	(100) 100

授業評価アンケート集計結果 年度別比較

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果

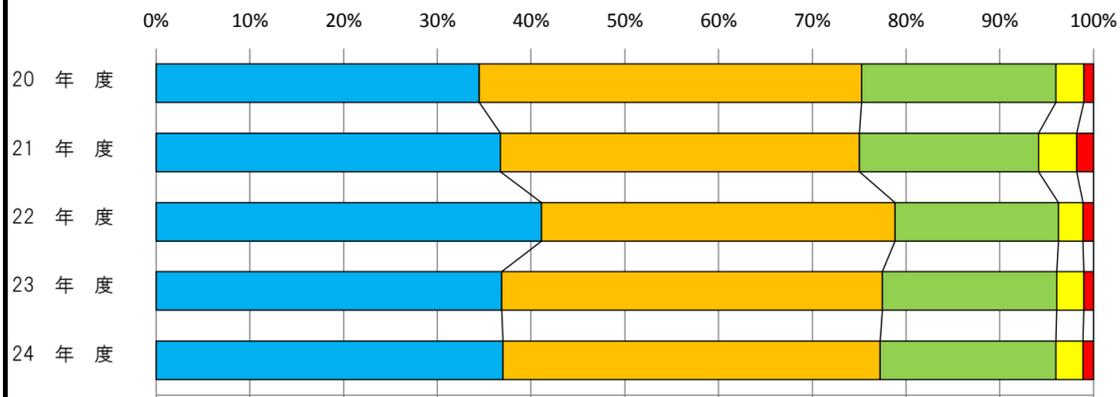
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
全科目数	236 科目	273 科目	297 科目	317科目	324科目
調査対象者数	25,285 人	25,318 人	27,806人	29,104人	29,322人
総回答数 (回答率)	20,596枚 (81%)	19,551枚 (77%)	22,698枚 (82%)	19,868枚 (68%)	19,599枚 (67%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



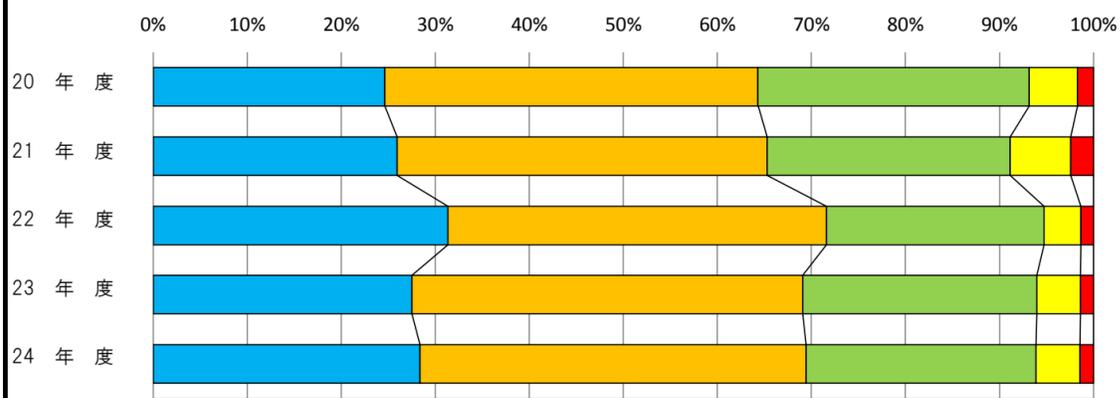
II 授業内容について

4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。



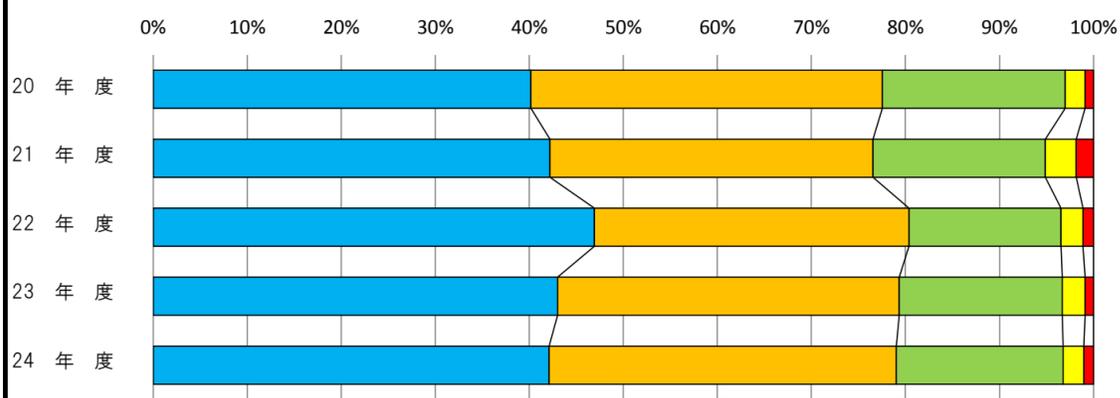
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
34.4	40.7	75.1	+ 5.0
36.5	38.1	74.6	△ 0.5
40.6	37.3	77.9	+ 3.3
36.8	40.5	77.3	△ 0.6
36.9	40.1	77.0	△ 0.3

5. 授業内容をよく理解できたと思うか。



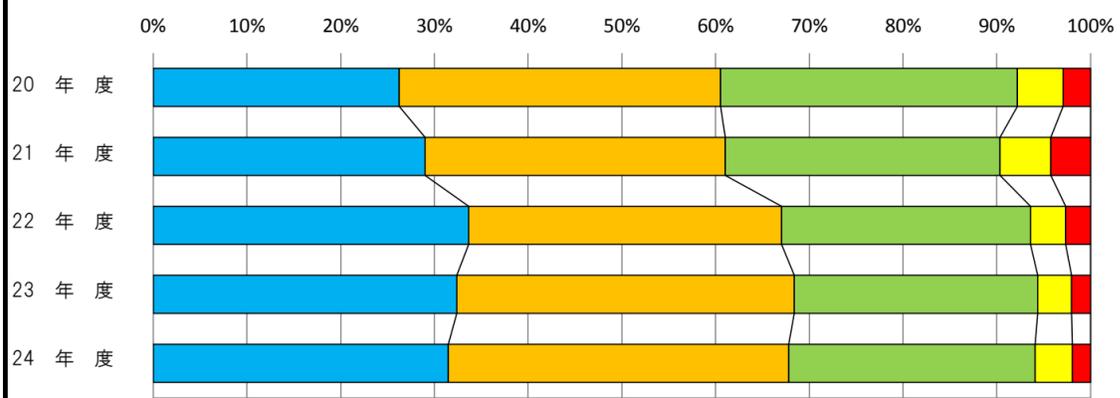
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24.6	39.6	64.2	+ 5.7
25.8	39.1	64.9	+ 0.7
31.0	39.8	70.8	+ 5.9
27.5	41.6	69.1	△ 1.7
28.3	41.0	69.3	+ 0.2

6. この授業内容は将来役立つと思うか。



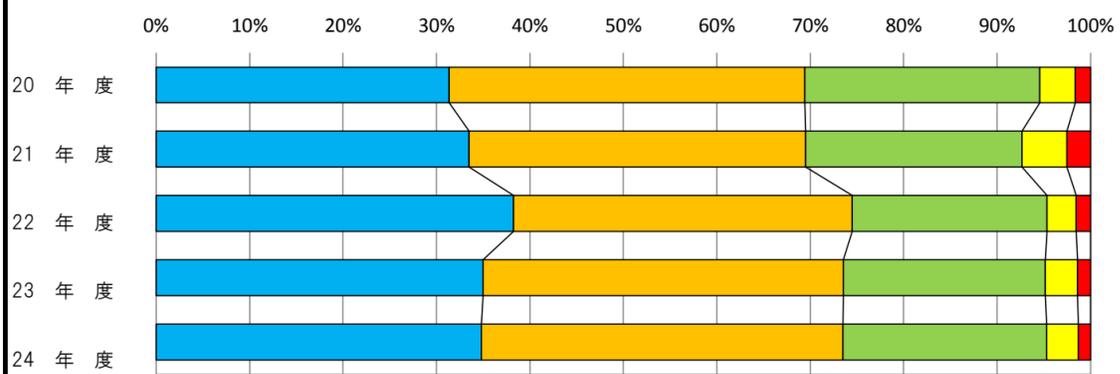
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
40.1	37.3	77.4	+ 4.8
41.9	34.1	76.0	△ 1.4
46.4	33.1	79.5	+ 3.5
42.9	36.3	79.2	△ 0.3
42.0	36.8	78.8	△ 0.4

7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
26.2	34.2	60.4	+ 5.0
28.8	31.8	60.6	+ 0.2
33.1	32.8	65.9	+ 5.3
32.3	35.9	68.2	+ 2.3
31.4	36.2	67.6	△ 0.6

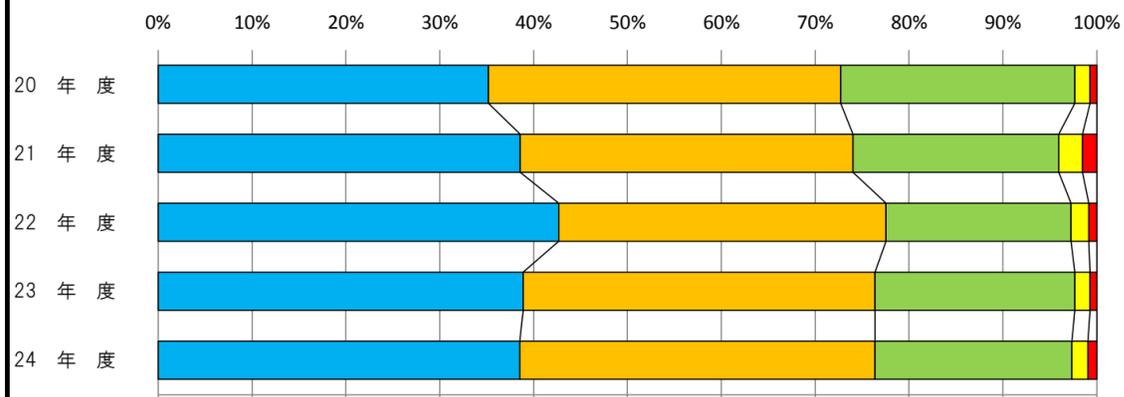
「計」(質問項目 4. ~ 7.)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
31.3	38.0	69.3	+ 5.1
33.3	35.8	69.1	△ 0.2
37.8	35.8	73.6	+ 4.5
34.9	38.5	73.4	△ 0.2
34.7	38.6	73.3	△ 0.1

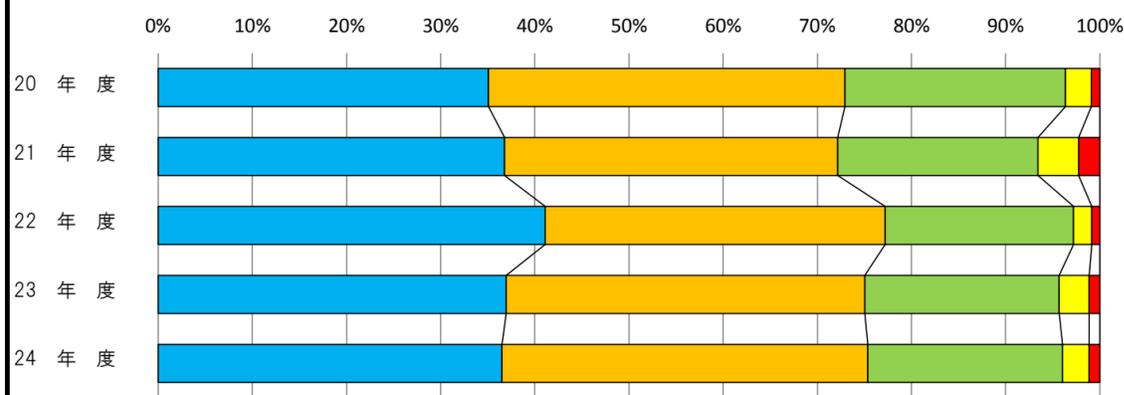
Ⅲ 教員の教え方について

8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。



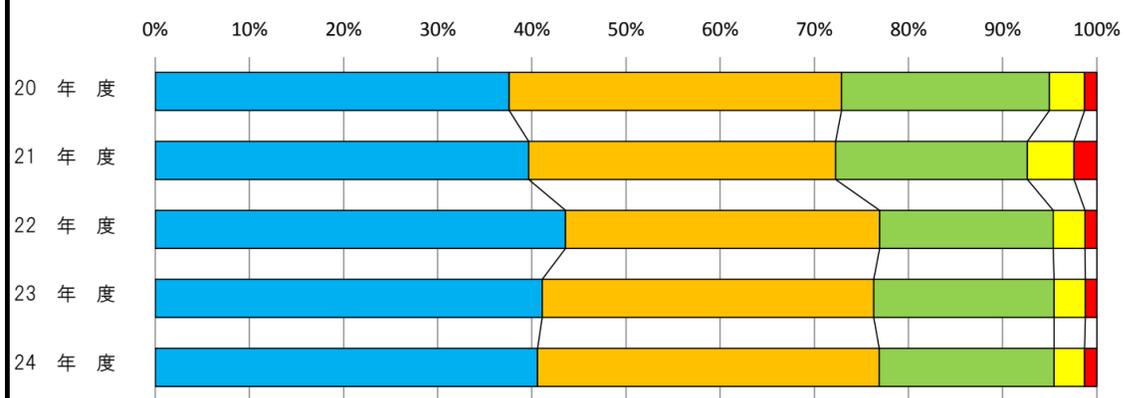
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.1	37.4	72.5	+ 5.2
38.2	35.1	73.3	+ 0.8
40.7	33.3	74.0	+ 0.7
38.7	37.3	76.0	+ 2.0
38.0	37.3	75.3	△ 0.7

9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。



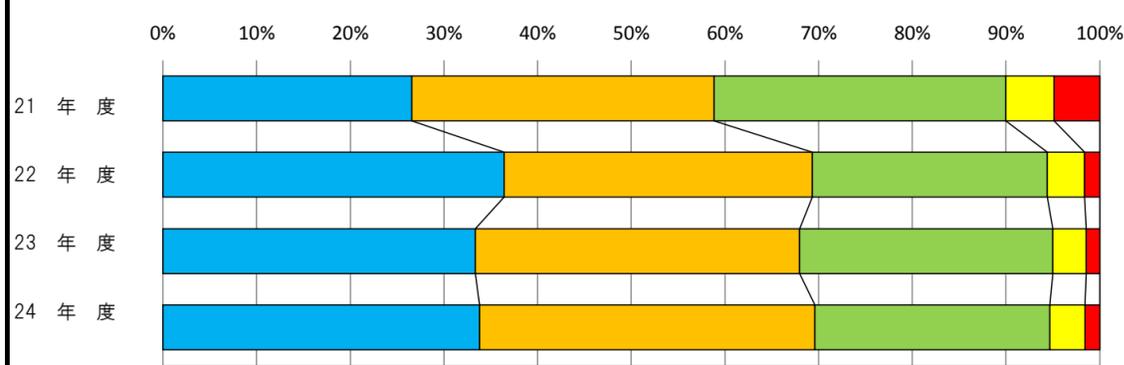
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.0	37.8	72.8	+ 7.5
36.5	35.1	71.6	△ 1.2
38.6	33.9	72.5	+ 0.9
36.9	38.0	74.9	+ 2.4
36.0	38.3	74.3	△ 0.6

10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。



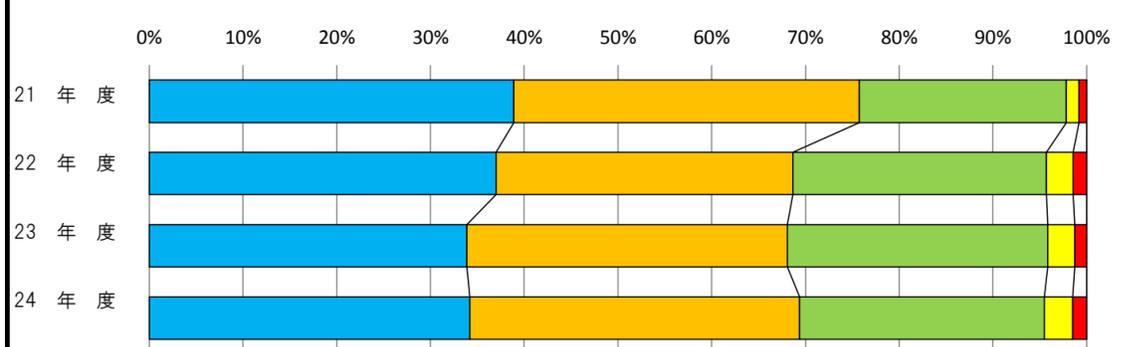
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
37.5	35.2	72.7	+ 7.5
39.3	32.3	71.6	△ 1.1
41.6	31.9	73.5	+ 1.9
41.0	35.1	76.1	+ 2.6
40.4	36.1	76.5	+ 0.4

11. 主として板書による授業が行われた場合には、わかりやすい板書であったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
26.3	31.9	58.2	-
34.0	30.7	64.7	+ 6.5
32.6	33.9	66.5	+ 1.8
32.5	34.4	66.9	+ 0.4

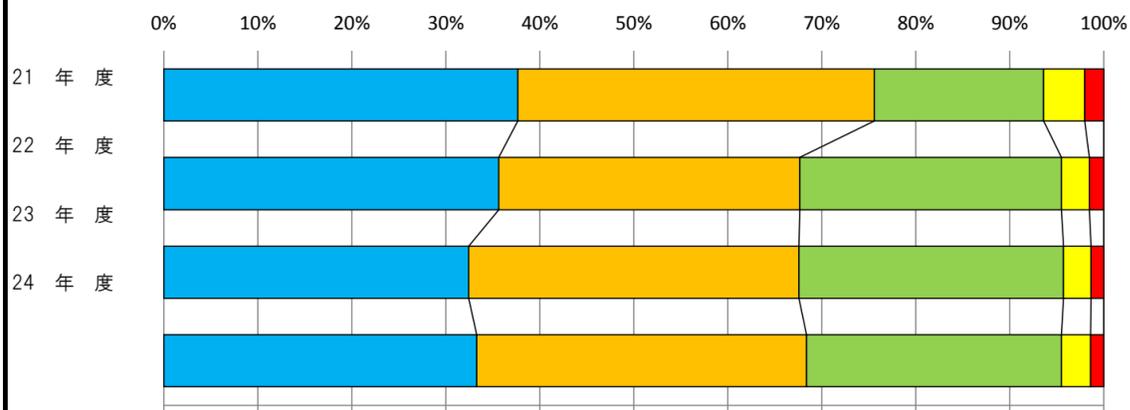
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施内容はわかりやすかったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
38.3	36.3	74.6	-
33.9	29.0	62.9	△11.7
32.7	33.0	65.7	+ 2.8
32.5	33.5	66.0	+ 0.3

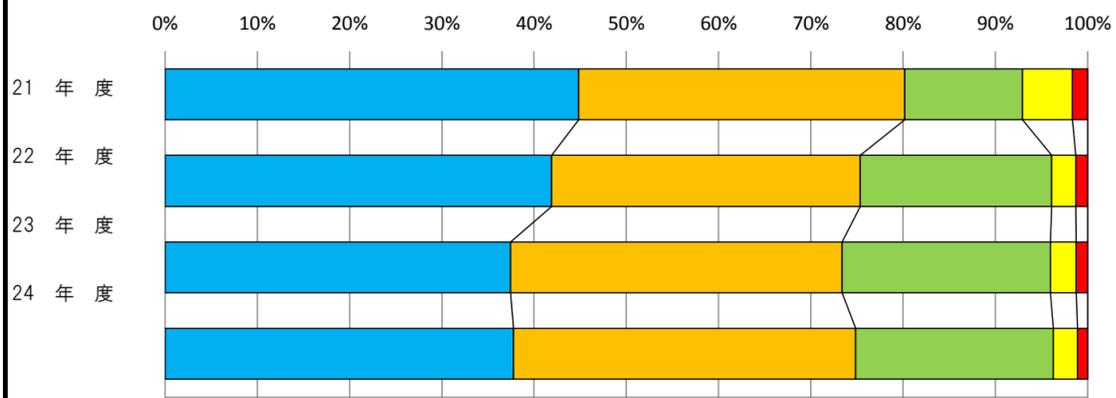
Ⅲ 教員の教え方について

13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイントによる説明を聞くだけでなく、授業内容の要点を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。



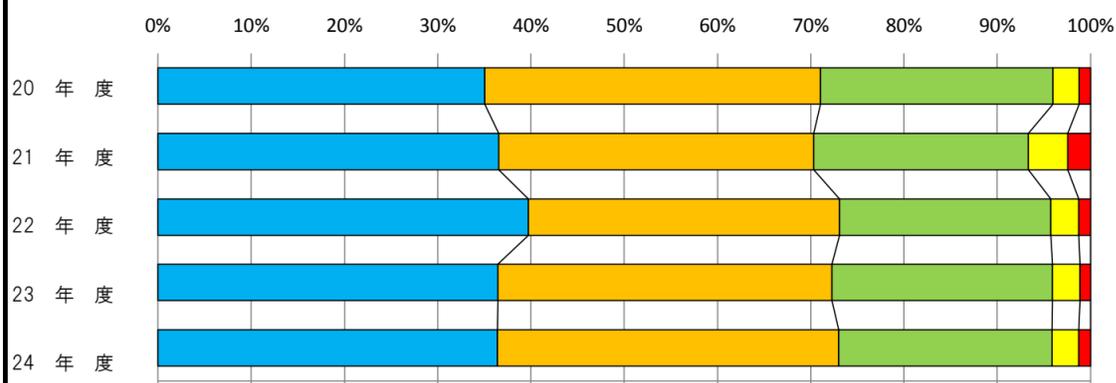
そう思う	ややそう思う	計	対前年度
37.2	37.5	74.7	-
32.7	29.4	62.1	△12.6
31.3	33.9	65.2	+ 3.1
31.8	33.5	65.3	+ 0.1

14. (後期) 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
44.4	35.0	79.4	-
40.0	31.9	71.9	△ 7.5
37.3	35.8	73.1	+ 1.2
37.6	36.9	74.5	+ 1.4

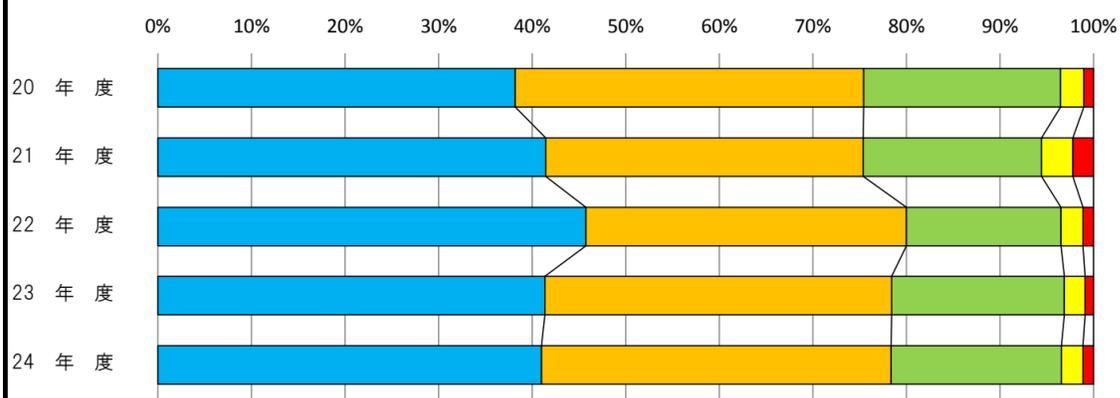
「計」(質問項目 8. ~ 14.)



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
35.0	35.9	70.9	+ 7.0
34.3	29.1	63.4	△ 7.5
37.4	31.4	68.8	+ 5.4
35.9	35.3	71.2	+ 2.4
35.5	35.7	71.2	0

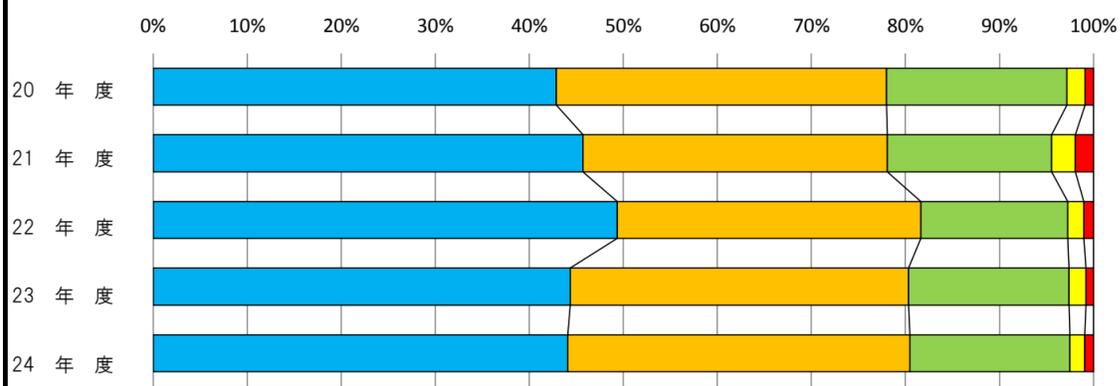
Ⅳ 教員の姿勢について

15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
38.1	37.2	75.3	+ 6.0
42.6	31.8	74.4	△ 0.9
45.1	33.8	78.9	+ 4.5
41.2	36.9	78.1	△ 0.8
40.8	37.2	78.0	△ 0.1

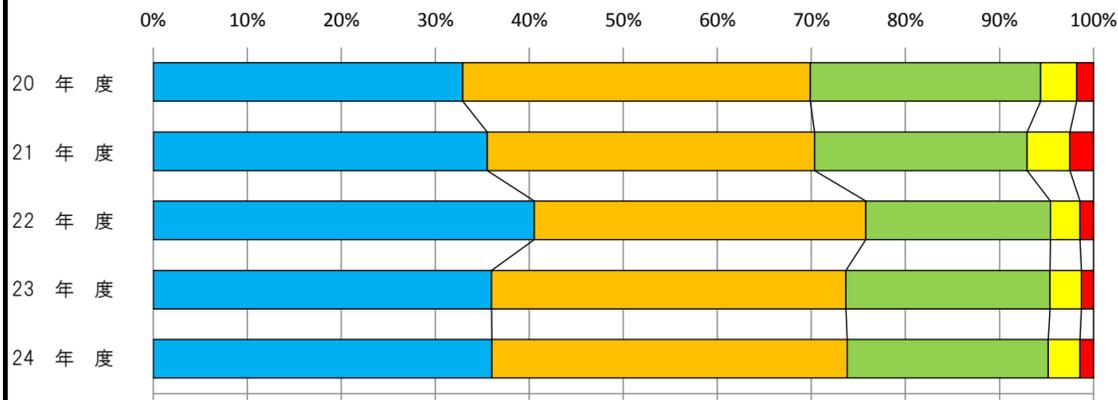
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
42.7	35.0	77.7	+ 4.7
46.8	31.2	78.0	+ 0.3
48.6	31.8	80.4	+ 2.4
44.2	35.8	80.0	△ 0.4
43.8	36.2	80.0	0

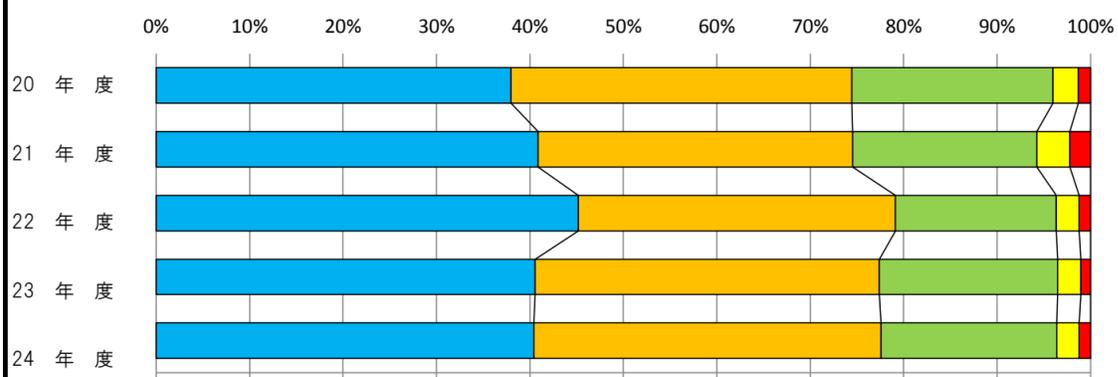
IV 教員の姿勢について

17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
32.8	36.9	69.7	+ 8.1
32.5	30.5	63.0	△ 6.7
40.0	34.8	74.8	+11.8
35.8	37.5	73.3	△ 1.5
35.9	37.6	73.5	+ 0.2

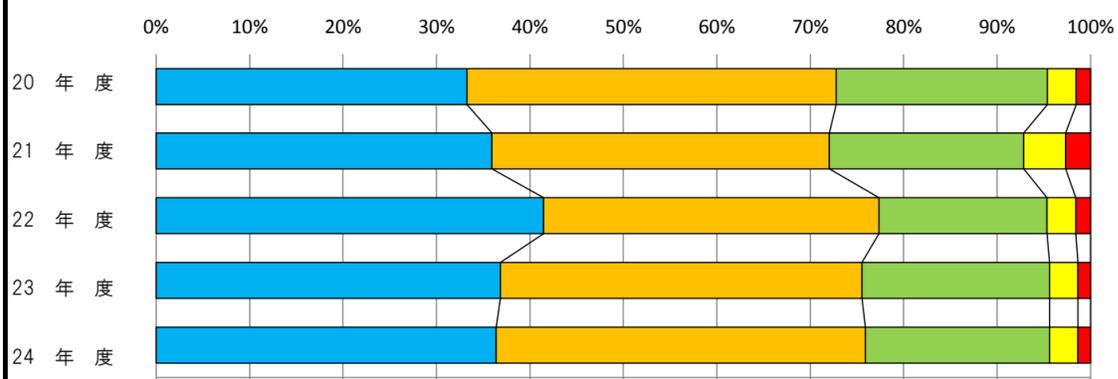
「計」(質問項目 15. ~ 17.)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
37.9	36.4	74.3	+ 6.3
40.7	31.2	71.9	△ 2.4
44.6	33.5	78.1	+ 6.2
40.4	36.7	77.1	△ 1.0
40.2	37.0	77.2	+ 0.1

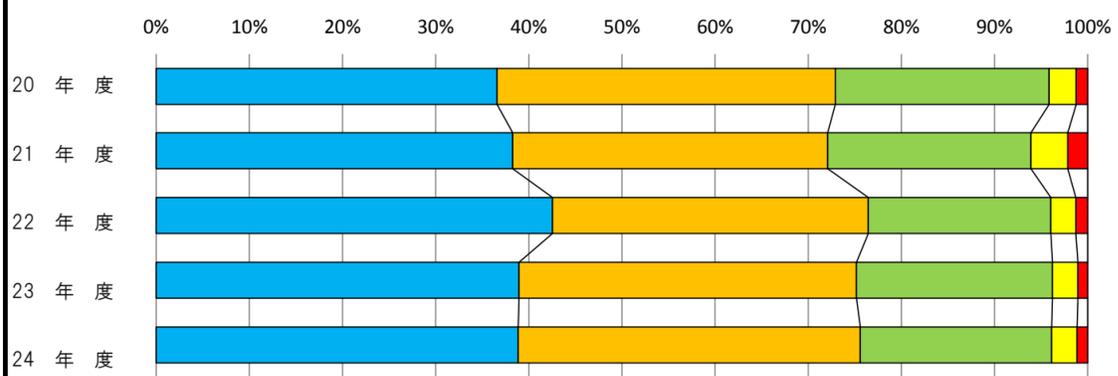
V 総合評価

18. この授業は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
32.5	38.6	71.1	+ 7.2
32.6	33.6	66.2	△ 4.9
40.1	34.7	74.8	+ 8.6
36.3	38.1	74.4	△ 0.4
35.8	38.9	74.7	+ 0.3

全質問項目の平均

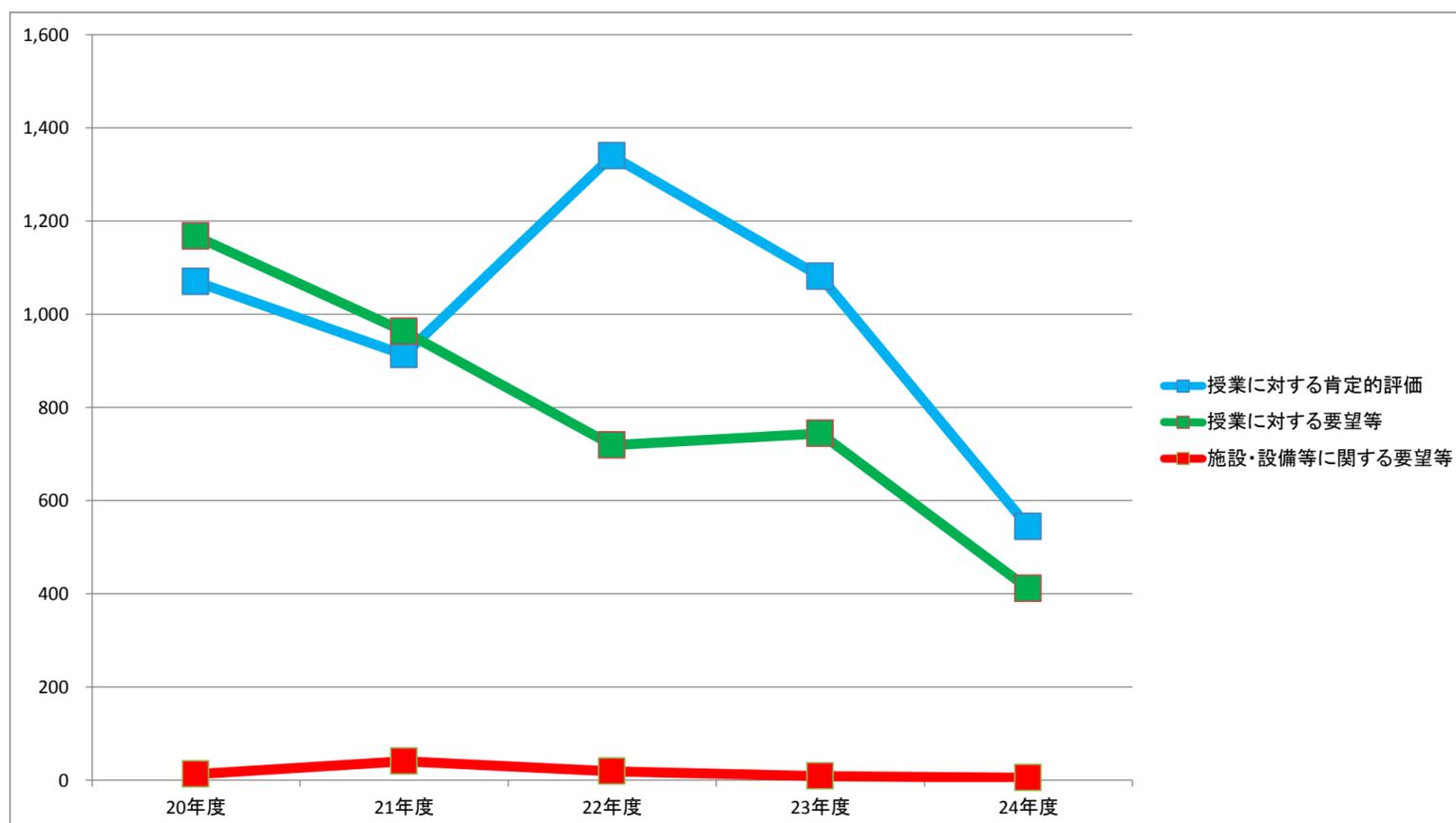


そう思う	やや そう思う	計	対前年度
36.5	36.2	72.7	+ 5.9
37.1	30.4	67.5	△ 5.2
41.2	32.8	74.0	+ 6.5
38.6	35.9	74.5	+ 0.5
38.4	36.3	74.7	+ 0.2

◆ 年度別 自由記述集計結果

分類項目／年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
授業に対する肯定的評価	(47.6%) 1,070	(47.6%) 913	(64.5%) 1,340	(58.9%) 1,081	(56.7%) 546
授業に対する要望等	(51.8%) 1,167	(50.2%) 963	(34.6%) 719	(40.6%) 744	(42.8%) 413
施設・設備等に関する要望等	(0.6%) 13	(2.2%) 41	(0.9%) 19	(0.5%) 9	(0.5%) 5
総件数	(100.0%) 2,250	(100.0%) 1,917	(100.0%) 2,078	(100.0%) 1,834	(100.0%) 964

※ () 内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	546	<ul style="list-style-type: none"> 看護学科の治療学総論の授業においては手術の映像はとても面白くて興味深かったです。他の手術についても聞いてみたかったです。 看護学科の疾病治療論Ⅱの授業においてはリハビリのことも分かったのですが、その前の人との関わりの大切さも学ぶことが出来ました。 医療栄養学科の臨床薬理学の授業においては、研究所見学など、興味深い内容の授業でとても良かった。座学だけでなく、こういうのも増やした方が面白いかもしれないと思いました。 医療栄養学科の応用栄養学実習Ⅱの授業においては様々なライフステージ別の献立をたてる難しさ、イメージのズレを実感できた。とても為になった。 医療情報学科のマルチメディア工学の授業においては情報処理の幅が広がる授業だった。パターン認識や画像処理がとても面白かった。
授業に対する要望等	413	<ul style="list-style-type: none"> レジュメを使うか、ビジュアルブックを使うかして大事なところを教えてください。 パワーポイントの速度が早過ぎて写せませんでした。 スライドの文字が多くて見づらかったのとどこを押さえておくのかが分かりづらかった。 テスト前の集中講義で日程的に詰まっていた大変だった。 事前課題でも理解できるものと授業でないと理解できないものを区別して欲しい。
施設・設備等に関する要望等	5	<ul style="list-style-type: none"> 教室が狭かったのでスライドも見にくかった。場所をもう少し考えて欲しい。 マイクの音が悪かった。 いつも教室が暑いです。
計	964	

大学院医療保健学研究科修士課程の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

大学院医療保健学研究科長 小林 寛伊

1. 授業評価アンケートに対する感想

- 平成 19 年度から開始された大学院授業評価の年次推移をみると、すべての項目において改善されてきている様子が受け取れます。授業内容や方法の改善が図られてきているものと評価できます。具体的な数値を以下に示します。
- 全 44 科目に対して項目別に集計した結果では、「授業に意欲的に取り組めた」とする者は 74.9%（前年 64.9%）であり、「ややそう思う」とする意見 21.4%（前年 28.4%）を加えると 96.3%（前年 93.3%）となり、前年に比較して更に良い評価となっています。院生が授業に積極的に取り組めたものと判断できました。
- 授業に興味・関心が持てたかどうかについては、97.8%（前年 91.2%）が「そう思う」もしくは「ややそう思う」であり、院生にとって興味ある授業であったと理解できます。
- 授業の理解に関しては、「ややそう思う」までを加えると、89.4%（前年 88.2%）であり、昨年同様に概ね授業内容が理解され、教員の意図することが伝わっていると思われました。
- 授業が将来に役立つかどうかでは、96.6%が肯定的な意見を述べているため、有益な内容の授業が展開されていることを示しています。
- 期待通りの授業であったかどうかにおいては、8.6%が否定的な判定をしていますが、その理由について具体的記載がありません。
- 授業の進め方については、92.9%が適切であったと評価をしていました。学生のレベルに沿った授業であったとする者は 93.8%でした。
- 授業の教材などに対しては、94.5%が満足しており、パワーポイントのハンドアウト資料やプリントなどが適切に配布できていたと評価できます。教員の授業に対する熱意に関しても 97.2%が評価している現状でした。一方、院生においては、資料配布に頼ってしまう事の無いように授業中に筆記していく訓練も必要と思われます。
- 以上、総合的満足度に関して、95.1%（前年 89.8%）が「ややそう思う」以上であったことは、これまで培ってきた授業の工夫が良い方向で満足度に影響したものであると思われます。

2. 授業において工夫した点とその評価

- 受講生に主体的にプレゼンテーションをしてもらい議論するようにしました。そして、受講生自身の体験を含めて発表する機会を設けました。
- 開講する科目の全体を見通してタイムスケジュールの作成と科目調整（現場調整）をしました。

- 講義は大部分 Power Point を使用し、資料はカラーを中心に作成したものを配布しました。また、受講生の理解度を知らうえて講義のポイントを次回の講義の前に簡単なテストを実施しました。全員が 60 点以上でした。
- 修士に見合った授業内容とすることに心がけました。
- 最新情報を加えて分かり易く興味を持てる授業となるように工夫しました。しかし学生から核心に触れるような質問は残念ながら寄せられませんでした。

3. 授業評価結果を今後の授業にどの様に生かしていくか

- 全体的に高い評価の中でも低い項目もあったため、その点を踏まえて今後の授業に生かしていきたいと思います。
- プレゼンテーションや主体的な発言を取り入れた授業が高い評価を受けているので、次年度も受講生が主体的に取り組めるような授業をしたいと思います。
- 次回のシラバス作成時に、科目責任者を明確にして改善し、早い段階で受講生に授業計画を示したい。そうすれば、受講生が職場との調整もしやすくなると思われます。
- コース教育理念に対して、各科目が時間配置を行って教育内容が検討されていることが大切です。
- 臨床経験の豊富な受講生に対して、教育内容や受講生自身の期待を明確にしていきたいと思います。
- 授業評価結果を真摯に受け止めることは大切ですが、極端な少数意見には左右されることがないように、内容を整理して、受講者が興味を持って勉強できるように努力します。

4. その他の記述

- 大学院では、学部学生と異なり免許を持つ受講生に対しての授業コンセプトがやや曖昧になっている部分があるので、キャリア形成の一環としての修士教育をどの様に考えるか、具体的な道筋や方向性の明確化に努めていきたいと思います。
- 受講生はお互いの連携もよく、一丸となって勉強しており、熱心に講義を聞いていただくことができました。
- 自由記述において肯定的評価としては以下の記述がありました。
 - 1) どの講義も面白く、皆のプレゼンテーションや忌憚のない意見交換が刺激となった。
 - 2) 質的研究の具体的なやり方に触れられてよかった。
 - 3) 臨床現場で役に立つ自分のメンタルコントロールにも役立つ授業であった。
 - 4) 資料が多すぎて驚きもしたが、その後も見返すことができるとても役立っている。
 - 5) 政策現場の生の声も聞くことができ良かった。

- 自由記述において授業に対する要望事項として以下の記述がありました。
- 1) 授業概念の枠組みや研究計画の立て方の具体的方法を詳しく学びたかった。
→ 研究計画の立案や進行に関する問い合わせには速やかに応じて、研究テーマに即した適切な個別対応に心がけたいと思います。
 - 2) 授業内容が直前までわからなかったため、興味が持てない内容となったものがあった。
→ シラバスに忠実な授業の展開に努め、毎回の授業の終わりに次回授業のポイントを説明できるようにしたいと思います。
 - 3) 担当講師により差があるが、質疑応答では学生のレベルに応じた回答がほしかった。
→ 丁寧に分かり易く回答するように心がけます。

以上

平成24年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

○全科目数 44科目 ○調査対象者数 375人（延人数）
 ○総回答数 323枚（回答率86.1%）

◆ 質問項目別集計結果 【上段（ ）は平成23年度集計結果】 (％)

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらと も いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思うか	(64.9)	(28.4)	(6.0)	(0.7)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	74.9	21.4	3.1	0.6	0.0	0.0	100.0
2. この授業に興味、関心が持てたと思うか	(67.5)	(23.7)	(6.8)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	80.5	17.3	1.9	0.0	0.0	0.3	100.0
3. 授業内容をよく理解できたと思うか	(48.2)	(40.0)	(11.0)	(0.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	56.3	33.1	9.9	0.3	0.0	0.3	100.0
4. この授業内容は将来役立つと思うか	(74.3)	(20.3)	(3.4)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	82.4	14.2	3.1	0.0	0.0	0.3	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容だったか	(61.4)	(25.7)	(7.5)	(4.1)	(1.3)	(0.0)	(100.0)
	69.3	21.7	7.7	0.9	0.0	0.3	100.0
6. この授業を、他の人にも勧めたいと思うか	(62.2)	(20.3)	(10.8)	(4.7)	(2.0)	(0.0)	(100.0)
	74.6	18.3	5.6	0.9	0.3	0.3	100.0
7. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか	(66.2)	(18.9)	(12.2)	(2.7)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	78.9	14.2	6.5	0.3	0.0	0.0	100.0
8. この授業の進め方は適切だったと思うか	(62.2)	(25.7)	(10.1)	(1.4)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	75.9	17.0	5.9	0.9	0.0	0.3	100.0
9. この授業の教材・教具等は適切だったと思うか	(63.8)	(20.3)	(12.2)	(3.1)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	76.2	18.3	4.6	0.6	0.0	0.3	100.0
10. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか	(76.4)	(16.2)	(6.8)	(0.6)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	85.8	9.6	3.7	0.3	0.3	0.3	100.0
11. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか	(77.0)	(14.2)	(7.4)	(1.4)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	83.3	10.8	4.6	0.6	0.3	0.3	100.0
12. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか	(79.1)	(17.6)	(2.7)	(0.0)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	87.0	10.2	1.5	0.6	0.3	0.3	100.0
13. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか	-	-	-	-	-	-	-
	71.8	22.0	5.0	0.9	0.0	0.3	100.0
14. この授業は総合的に満足出来たと思うか	(67.5)	(22.3)	(8.2)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	76.2	18.9	3.7	0.9	0.0	0.3	100.0
質問項目13以外の平均	平成23年度	(67.0)	(22.6)	(8.1)	(2.0)	(0.4)	(100.0)
	平成24年度	77.0	17.3	4.8	0.5	0.1	100.0
全質問項目の平均（平成24年度）		76.6	17.6	4.8	0.6	0.1	100.0

※質問項目13は平成24年度に新たに加えたもの。

授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

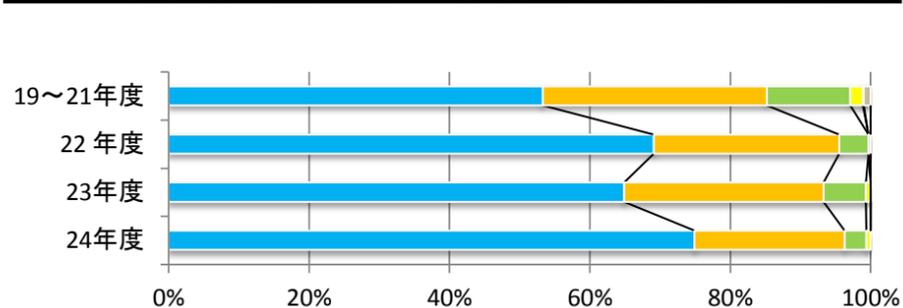
◆ 年度別 授業評価集計結果 (平成19~21年度は平均。以下同じ)

	19~21年度	22年度	23年度	24年度
全科目数	37科目	37科目	37科目	44科目
調査対象者数 (延人数)	956人	375人	347人	375人
総回答数 (回答率)	661枚(69%)	266枚(71%)	243枚 (70%)	323枚 (86%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

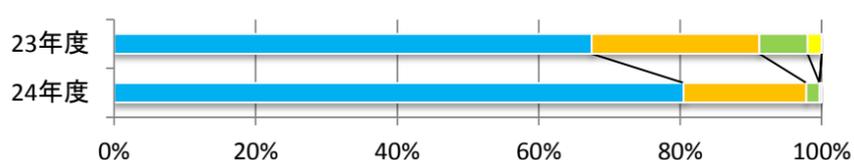
■ そう思う	■ ややそう思う	■ どちらとも いえない	■ そう思わない	■ 全くそう 思わない
--	--	--	--	---

Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか



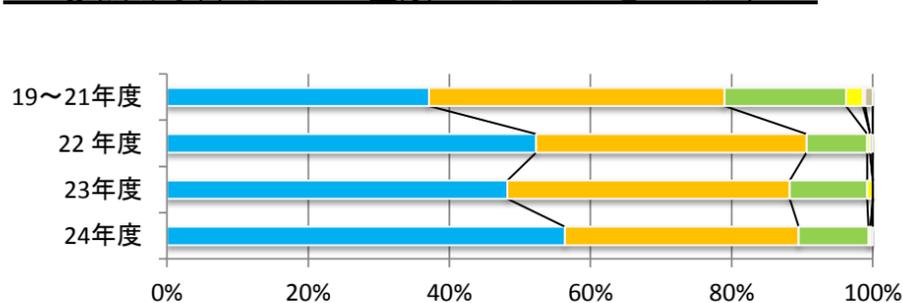
	そう思う	ややそう思う	計	対前年度
19~21年度	53.3	31.9	85.2	—
22年度	69.1	26.4	95.5	+10.3
23年度	64.9	28.4	93.3	△2.2
24年度	74.9	21.4	96.3	+3.0

Q2.この授業に興味・関心が持てたと思いますか (23年度新規質問項目)



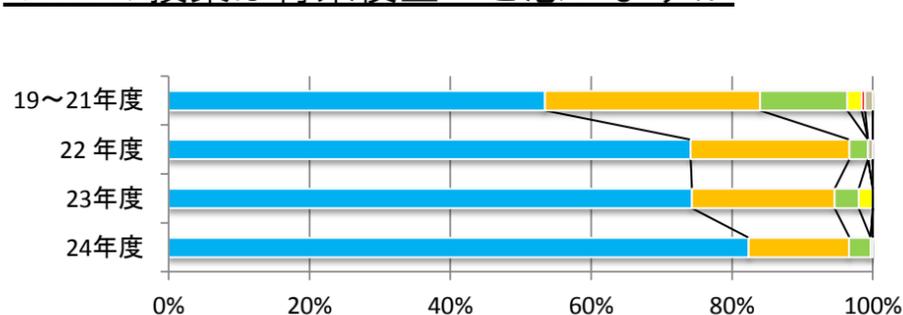
	そう思う	ややそう思う	計	対前年度
23年度	67.5	23.7	91.2	—
24年度	80.5	17.3	97.8	+6.6

Q3.授業内容をよく理解できたと思いますか



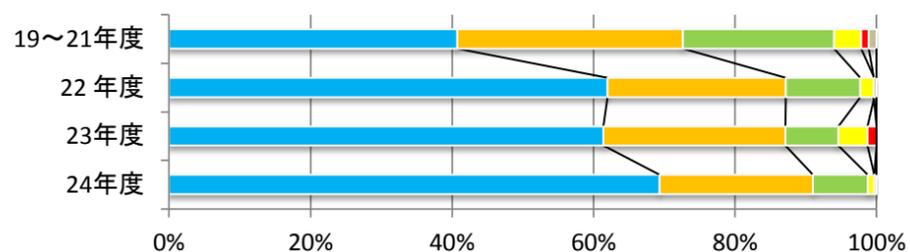
	そう思う	ややそう思う	計	対前年度
19~21年度	37.1	41.9	79.0	—
22年度	52.3	38.3	90.6	+11.6
23年度	48.2	40.0	88.2	△2.4
24年度	56.3	33.1	89.4	+1.2

Q4.この授業は将来役立つと思いますか



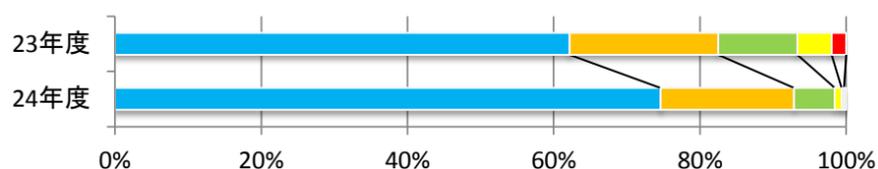
	そう思う	ややそう思う	計	対前年度
19~21年度	53.5	30.6	84.1	—
22年度	74.1	22.6	96.7	+12.6
23年度	74.3	20.3	94.6	△2.1
24年度	82.4	14.2	96.6	+2.0

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか



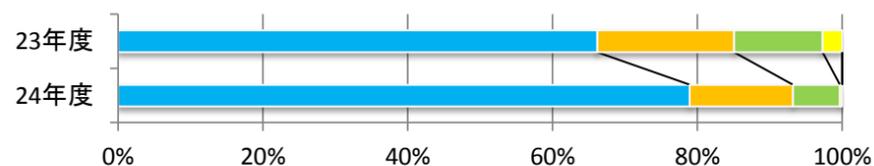
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	40.8	32.0	72.8	—
22年度	62.0	25.2	87.2	+14.4
23年度	61.4	25.7	87.1	△0.1
24年度	69.3	21.7	91.0	+3.9

Q6.この授業を、ほかの人にも勧めたいと思いますか (23年度新規質問項目)



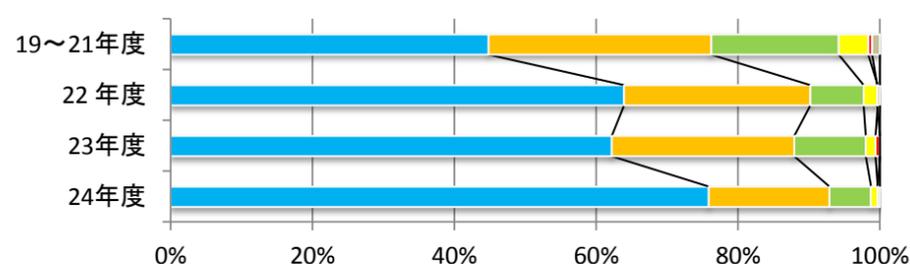
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	62.2	20.3	82.5	—
24年度	74.6	18.3	92.9	+10.4

Q7.授業はシラバスに沿って行われたと思いますか (23年度新規質問項目)



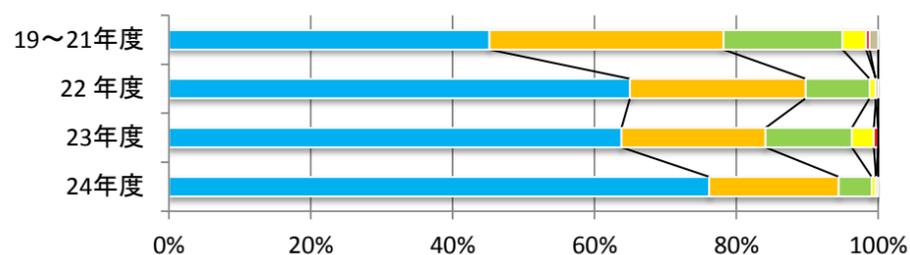
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	66.2	18.9	85.1	—
24年度	78.9	14.2	93.1	+8.0

Q8.この授業の進め方は適切だったと思いますか



(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	44.8	31.4	76.2	—
22年度	63.9	26.3	90.2	+14.0
23年度	62.2	25.7	87.9	△2.3
24年度	75.9	17.0	92.9	+5.0

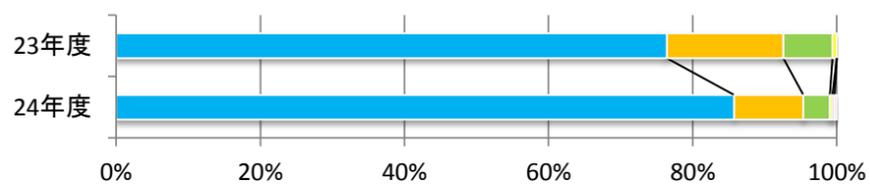
Q9.この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか



(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	45.2	33.0	78.2	—
22年度	65.0	24.8	89.8	+11.6
23年度	63.8	20.3	84.1	△5.7
24年度	76.2	18.3	94.5	+10.4

Q10.教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思いますか

(23年度新規質問項目)

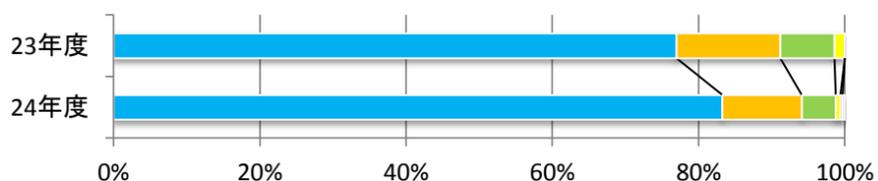


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	76.4	16.2	92.6	—
24年度	85.8	9.6	95.4	+2.8

Q11.教員は限られた授業時間を適切に活用したと思いますか

(23年度新規質問項目)

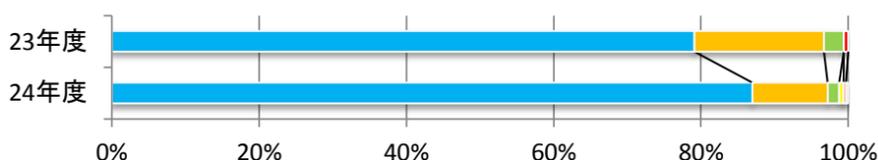


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	77.0	14.2	91.2	—
24年度	83.3	10.8	94.1	+2.9

Q12.教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思いますか

(23年度新規質問項目)

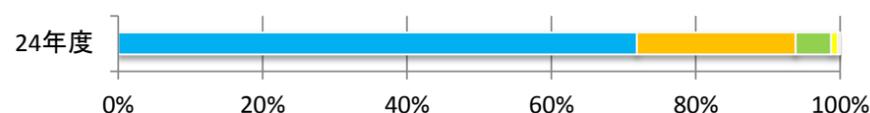


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	79.1	17.6	96.7	—
24年度	87.0	10.2	97.2	+0.5

Q13.教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思いますか

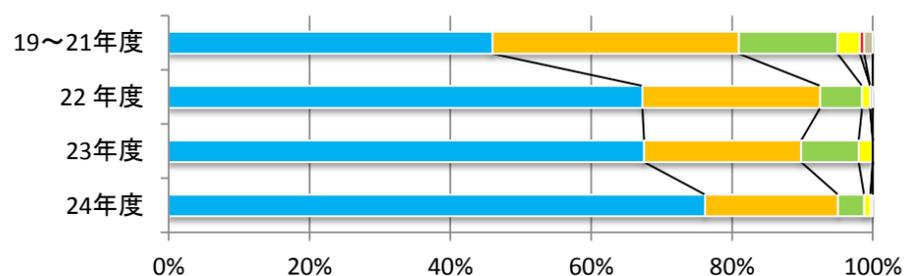
(24年度新規質問項目)



(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	71.8	22.0	93.8	—

Q14.この授業は総合的に満足出来たと思いますか



(%)

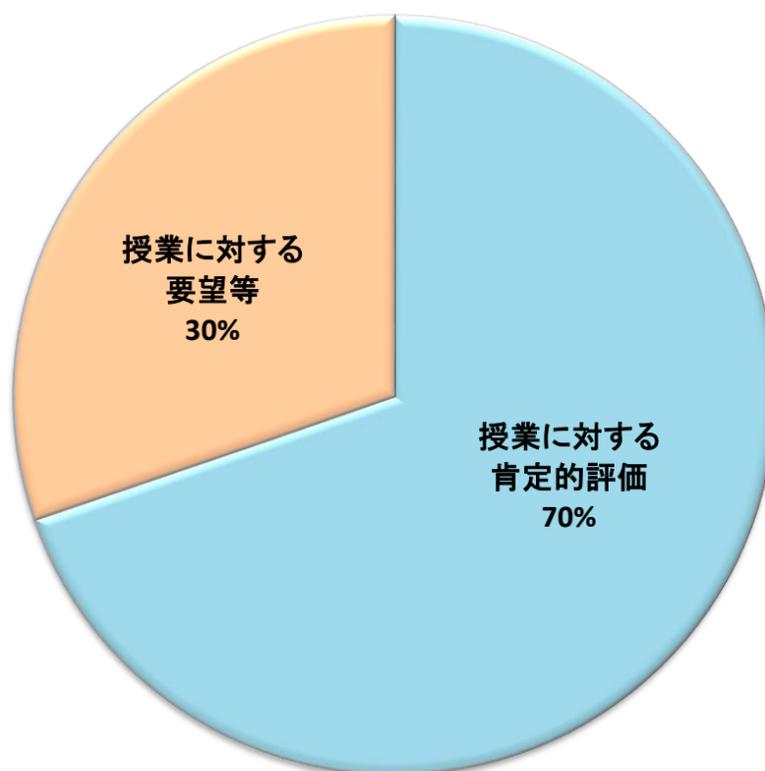
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	46.0	35.0	81.0	—
22年度	67.3	25.2	92.5	+11.5
23年度	67.5	22.3	89.8	△2.7
24年度	76.2	18.9	95.1	+5.3

◆ 自由記述の主な内容（平成24年度）

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	23	どの講義も非常に面白かった。みんなのプレゼンや忌憚ない意見交換がすごく刺激になった。
		質的研究の具体的なやり方に触れられて良かった。 (本を読むだけでは分からない大変さや注意点などが理解できた。)
		非常に興味深く、臨床の現場でも活かせる、自分のメンタルコントロールにも役立つ授業だと思いました。
		資料が多くて驚いたが、今でも時々見返すことができ、とても助かっています。あまり接することがない内容もあってよかったです。
		政策現場の生の声を聞くことができ、大変興味深かった。
授業に対する要望等	10	概念枠組みや研究計画の立て方の具体的方法を詳しく学びたかったです。
		授業内容が直前までわからなかったのが残念。わかっていたら評価も変わっていたと思います。今は興味がいまひとつ湧かない内容もありましたが、いつか役立つ日が来るかと思うので、資料は大切にしておこうと思う。
		担当講師により差がある。質疑応答の答えが今ひとつ。学生のレベルにあった答えがほしかった。
計	33	

◆ 自由記述集計結果

平成24年度



記述総件数: 33件

東が丘看護学部の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長 草間 朋子

- 本学部は、平成 22 年度にスタートしており、平成 24 年度は 3 年目を迎えております。今回の授業評価は 1 年次生から 3 年次生の授業科目 103 科目に対する授業評価の結果です。
- 授業評価を行う対象学生数は延べ 9,499 人であり、回答率は 93.4%でした。昨年に比べて回答率は増加しており、授業評価の重要性に対する学生の意識が高まりつつあることを示しております。
- 学生の授業態度に関する 3 つの質問に対して、85%の学生がポジティブな回答をしており、学生たちの授業態度に対する自己評価は大変高い。これは、本学部が 1 年次から看護に関する専門的な授業科目を取り入れており、学生の授業に対するモチベーションを高めている結果ではないかと考えられます。このことは、授業内容に対する評価結果からも推測することができます。
- 授業内容に関する質問に対しては、将来役に立つとの思いを持ち、関心を持っている学生が 80%を超えていますが、授業内容をよく理解できたか否かに関する質問に対してポジティブ回答（「そう思う」及び「ややそう思う」）をした学生は 80%未満でした。学部の特徴からほとんどの科目が必須であることを考えると、授業内容を学生がしっかり理解できるように教授法に工夫が必要と判断されます。
- 教員の教え方に関する結果からは、プレゼンテーションの仕方についてさらに工夫が必要であると思われれます。本学部は、平成 24 年 4 月から現在の新しい校舎に移転し、施設・設備面での教育環境を大幅に改善したことを踏まえ、施設・設備を有効に活用し学生に分かり易いプレゼンテーションをしていく努力が求められます。
- 教員の教育姿勢については学生からの評価も高く、本学教員の教育に積極的に取り組んでいる姿勢を学生達が見近に感じてくれており、授業評価の結果から、本学部の教育の質は保たれていると考えます。

以上

平成 24 年度授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学東が丘看護学部

○東が丘看護学部では、前期・後期に実施された全授業科目について、学生による授業評価を実施しました。授業評価結果については、当該教員に配布し、次年度以降の授業改善の基礎データとして活用していただくこととしており、その具体的な内容等については、学部年報に記載し、公表するとともに、授業評価結果に対する考察を公表しております。

○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合（％）により表記しております。また、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」に分類するとともに、その主な具体的意見等が分かるよう表記しております。

○質問項目別の肯定的な回答の「そう思う」「ややそう思う」の割合は以下のとおりとなっています。

		前年度
I. 学生として自分自身の態度について	85.9%	(87.0%)
II. 授業内容について	81.0%	(83.0%)
III. 教員の教え方について	75.6%	(78.1%)
IV. 教員の姿勢について	81.0%	(83.6%)
V. 総合評価	77.9%	(80.2%)

平成24年度 授業評価集計結果

東が丘看護学部

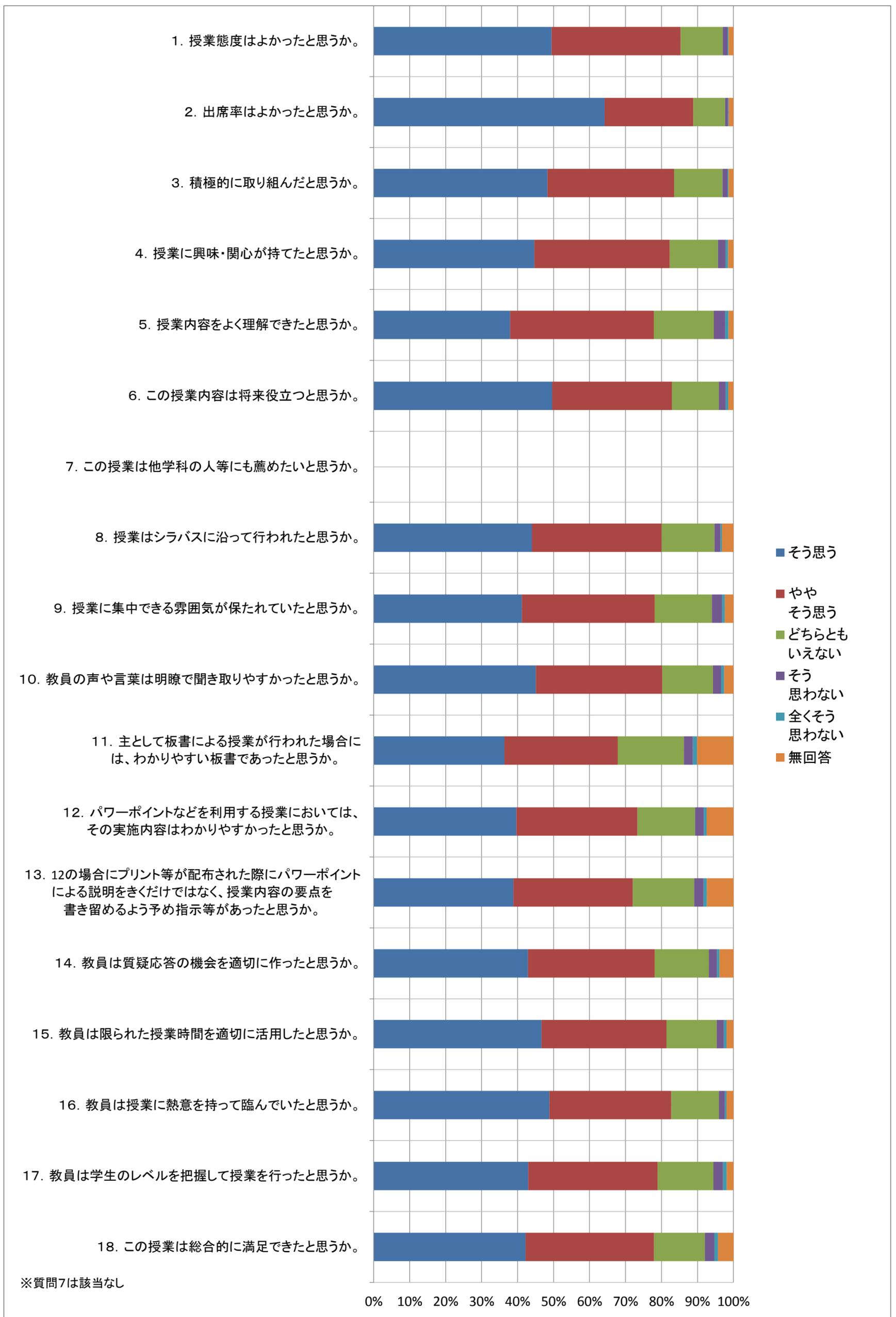
○全科目数 103科目

○調査対象者数 9,499人（延人数）

○総回答数 8,876枚（回答率 93.4%）

◆ 質問項目別集計結果（上段（ ）は平成23年度集計結果）

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	%	%	%	%	%	%	%
1. 授業態度はよかったと思うか。	(49.1) 49.5	(36.4) 35.8	(12.9) 11.8	(1.1) 1.3	(0.1) 0.3	(0.4) 1.4	(100) 100
2. 出席率はよかったと思うか。	(70.6) 64.2	(21.6) 24.7	(6.8) 8.9	(0.5) 0.8	(0.1) 0.2	(0.4) 1.3	(100) 100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(46.8) 48.3	(36.6) 35.2	(14.4) 13.4	(1.4) 1.3	(0.2) 0.3	(0.5) 1.4	(100) 100
計	(55.5) 54.0	(31.5) 31.9	(11.4) 11.3	(1.0) 1.1	(0.1) 0.3	(0.4) 1.4	(100) 100
II 授業内容について	%	%	%	%	%	%	%
4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。	(48.6) 44.6	(35.7) 37.6	(12.6) 13.5	(2.0) 2.1	(0.5) 0.7	(0.5) 1.5	(100) 100
5. 授業内容をよく理解できたと思うか。	(39.2) 37.9	(39.4) 39.9	(16.7) 16.7	(3.4) 3.1	(0.8) 0.9	(0.4) 1.4	(100) 100
6. この授業内容は将来役立つと思うか。	(53.3) 49.6	(32.4) 33.3	(11.7) 13.0	(1.5) 1.9	(0.5) 0.7	(0.5) 1.4	(100) 100
7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
計	(47.1) 44.1	(35.9) 36.9	(13.7) 14.4	(2.3) 2.4	(0.6) 0.8	(0.5) 1.4	(100) 100
III 教員の教え方について	%	%	%	%	%	%	%
8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	(48.8) 44.0	(34.2) 36.0	(14.8) 14.7	(1.2) 1.7	(0.4) 0.4	(0.6) 3.2	(100) 100
9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。	(43.7) 41.2	(36.8) 36.9	(15.2) 15.9	(3.3) 2.8	(0.6) 0.8	(0.4) 2.4	(100) 100
10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	(50.0) 45.1	(33.7) 35.2	(13.0) 14.1	(2.2) 2.2	(0.5) 0.8	(0.6) 2.6	(100) 100
11. 主として板書による授業が行われた場合には、 わかりやすい板書であったと思うか。	(39.0) 36.3	(29.7) 31.5	(22.8) 18.4	(2.0) 2.5	(0.8) 1.1	(5.8) 10.2	(100) 100
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施 内容はわかりやすかったと思うか。	(43.4) 39.7	(33.0) 33.6	(18.2) 16.0	(2.0) 2.4	(0.6) 0.8	(2.9) 7.4	(100) 100
13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイント による説明を聞くだけでなく、授業内容の要点 を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	(41.7) 38.8	(32.4) 33.2	(19.2) 17.1	(2.5) 2.6	(0.8) 0.9	(3.3) 7.4	(100) 100
14. (後期)教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(47.3) 42.9	(33.0) 35.2	(15.8) 15.1	(2.1) 2.2	(0.8) 0.8	(1.0) 3.9	(100) 100
計	(44.8) 41.1	(33.3) 34.5	(17.0) 15.9	(2.2) 2.4	(0.6) 0.8	(2.1) 5.3	(100) 100
IV 教員の姿勢について	%	%	%	%	%	%	%
15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(50.0) 46.6	(34.1) 34.8	(12.9) 14.0	(1.8) 2.0	(0.6) 0.7	(0.6) 1.9	(100) 100
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(53.7) 48.8	(32.5) 33.9	(11.3) 13.3	(1.5) 1.6	(0.5) 0.5	(0.6) 1.9	(100) 100
17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(45.9) 42.9	(34.6) 36.0	(15.3) 15.5	(2.7) 2.7	(0.9) 1.0	(0.6) 1.9	(100) 100
計	(49.9) 46.1	(33.7) 34.9	(13.2) 14.2	(2.0) 2.1	(0.7) 0.7	(0.6) 1.9	(100) 100
V 総合評価	%	%	%	%	%	%	%
18. この授業は総合的に満足できたと思うか。	(45.7) 42.2	(34.5) 35.7	(13.2) 14.2	(2.6) 2.6	(0.9) 1.0	(3.1) 4.3	(100) 100
全質問項目の平均	(48.0) 44.9	(33.6) 34.6	(14.5) 14.4	(2.0) 2.1	(0.6) 0.7	(1.3) 3.3	(100) 100



◆自由記述集計結果

分類/年度	22年度		23年度		24年度	
	(パーセント)	件数	(パーセント)	件数	(パーセント)	件数
授業に対する肯定的評価	(88.7%)	1,563	(85.3%)	1,699	(75.6%)	1,853
授業に対する要望等	(11.1%)	195	(14.4%)	287	(24.0%)	589
施設・設備に関する要望等	(0.2%)	4	(0.3%)	5	(0.4%)	9
総件数	(100.0%)	1,762	(100.0%)	1,991	(100.0%)	2,451

※()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す。

◆自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	1,853	<ul style="list-style-type: none"> ・資料もパワーポイントも見やすく、授業も分かりやすかったです。 ・事例などを多くあげていただき内容の濃い授業でした。 ・体験談をたくさん聞くことができ良かったです。 ・とても分かりやすく、いつでも質問に丁寧に答えていただきました。 ・文献をたくさん紹介していただいたので、勉強になった。
授業に対する要望等	589	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメは授業前に欲しい。 ・グループワークの時間をもう少し取って欲しかったです。 ・プリントのどこが大切なかわからない。 ・授業のスピードが早かった。 ・演習を多くしてほしい。
施設・設備に関する要望等	9	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクの調子が悪かった。 ・教室が暑くて集中できなかった。
総件数	2,451	

大学院看護学研究科授業評価実施結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・研究科長 草間 朋子

○看護学研究科では、平成 22 年度に「高度実践看護コース」を設置し、平成 24 年度から「高度実践助産コース」を設置しました。したがって、「高度実践助産コース」は 1 年次生のみでの授業評価でした。授業評価の対象となる科目数及び評価を行う学生数は、「高度実践看護コース」は、20 科目、延べ 410 名、「高度実践助産コース」は、28 科目、延べ 178 名でした。

○回答率は、「高度実践看護コース」は 80.7%、「高度実践助産コース」は 6.7% でした。

授業評価の実施目的等を考え、学生の評価の偏り（回答する学生は関心が高いことによる偏り等）をなくすためには、大学としては回答率が低いという結果を真摯に受け止め、回答率を 100%に近づけるよう努力してまいります。

「高度実践助産コース」に関しては、回答率が極端に低く学生全体の意見を反映しているとは言い難い。そこで、今回は「高度実践助産コース」の評価結果に対するコメントは差し控えます。したがって、以下の考察は、「高度実践看護コース」授業評価実施結果に対するコメントのみを記述いたします。

○授業内容については、ほぼすべての科目に対して回答した学生の 80%以上が将来役に立つと受け止めており、平成 22 年度に設置した当時からカリキュラムや授業内容の改善を重ねてきた成果が出てきたものと考えております。

○授業に対する期待度や理解度は、科目によってかなりばらつきがあるので、担当する教員に授業評価の結果を参考に授業の進め方等の改善をお願いすることとしたい。

○平成 24 年度には、大学全体が新校舎に移転し、「高度実践看護コース」の演習室も新設し、大学としては教具、教材もかなり充実させたが、学生の「教材、教具は適切か」に対する評価は意外に低い。これは、設備、備品に対する評価ではなく、教材、特にパワーポイントなどをプリントアウトしたものを要求している場合が多いので、担当教員に改善をお願いすることとしたい。

○自由記述は、全体で 453 件あり、図に示すように授業に対する要望等が、肯定的な評価を上回っている。自由記載が多いことや批判的な意見は、このコースに対する学生の期待に大学側が十分応えきれていないものと思われるので、自由記載の意見を参考に学生が受けてきた基礎教育・継続教育や実践経験の背景などを考慮した改善を重ね、教育の質の担保を図っていくこととしたい。

以上

平成24年度 授業評価アンケート集計結果

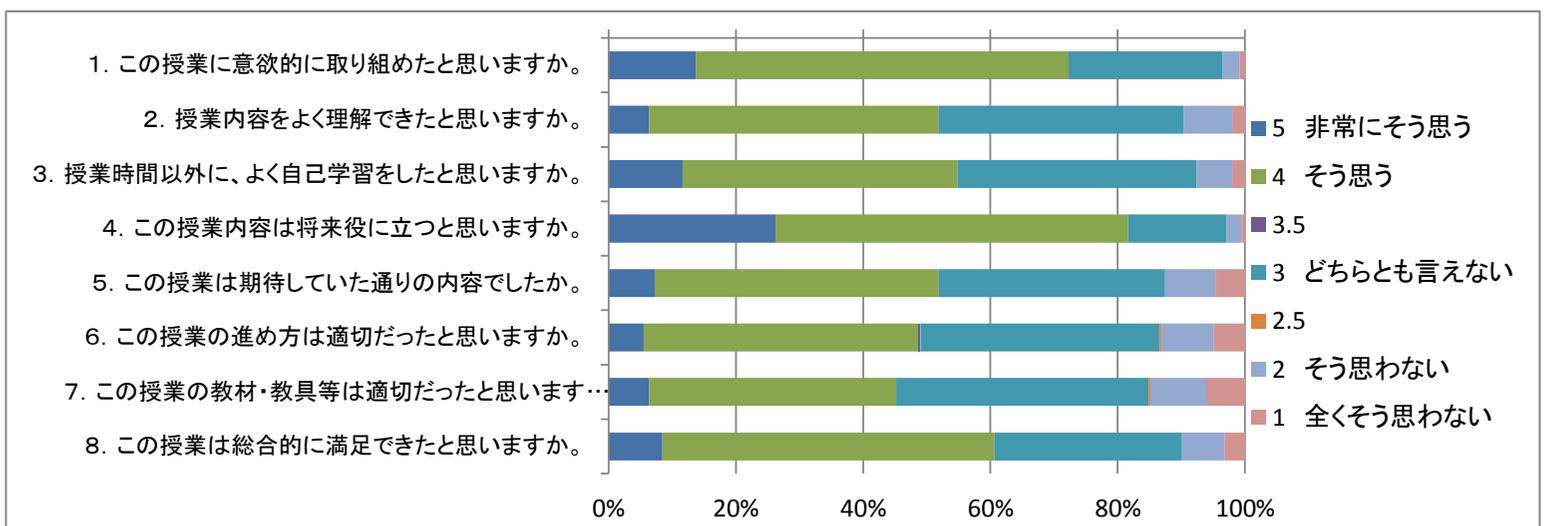
東京医療保健大学大学院 看護学研究科

○全科目数 48科目 ○調査対象者数 588人（延人数）
○総回答数 343枚（回答率58.3%）

◆ 質問項目別集計結果

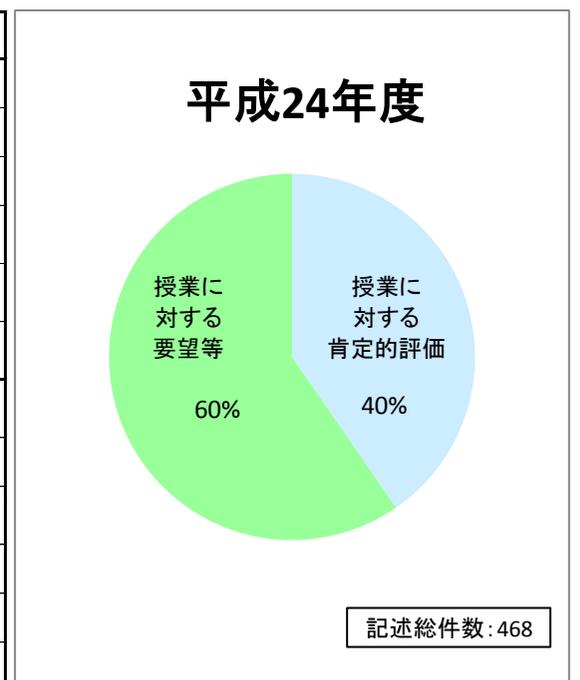
(%)

質問項目	非常に そう思う 5	そう思う 4	3.5	どちらとも 言えない 3	2.5	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	13.7	58.6	0.0	24.2	0.0	2.6	0.9	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	6.4	45.5	0.0	38.5	0.0	7.6	2.0	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	11.7	43.1	0.0	37.6	0.0	5.5	2.0	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	26.2	55.4	0.0	15.5	0.0	2.3	0.6	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	7.3	44.6	0.0	35.6	0.0	7.9	4.7	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	5.5	43.1	0.3	37.6	0.3	8.2	5.0	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	6.4	38.8	0.0	39.7	0.3	8.7	6.1	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	8.5	52.2	0.0	29.4	0.0	6.7	3.2	100.0
全質問項目の平均	10.7	47.7	0.0	32.3	0.1	6.2	3.1	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	189	縫合の講義、実技練習の内容は良かった。
		ディスカッションの時間が多く、考えながら進められたのでよかった。
		世界の助産ケアの水準を学び、刺激になった。
		研究のスキルについて丁寧に教えて頂きました。役立つ知識をたくさん学ぶことができました。
		それぞれの講師の先生方の臨床に則した講義は、実践的で今後役に立つと思いました。
		全体的に満足しています。自分が学ぶことが多く、これからも学習しないとイケないと思いました。
授業に対する要望等	279	医学的な知識はとても深く、難しいため、各分野にもう少し時間数をかけて学べたら良かったと思います。
		事例をもらい、事前学習をして授業にのぞみたい。
		科目の開始時期は、前期では早すぎ、後期の内容ではないかと思った。
		課題の目的が、全体的に伝わりにくかった。
		授乳中、妊娠中の内服について、具体例を出してほしかった。
		NP、CNS、CNで話し合う機会があっても面白いかなと思います。
計	468	



平成24年度 授業評価アンケート集計結果

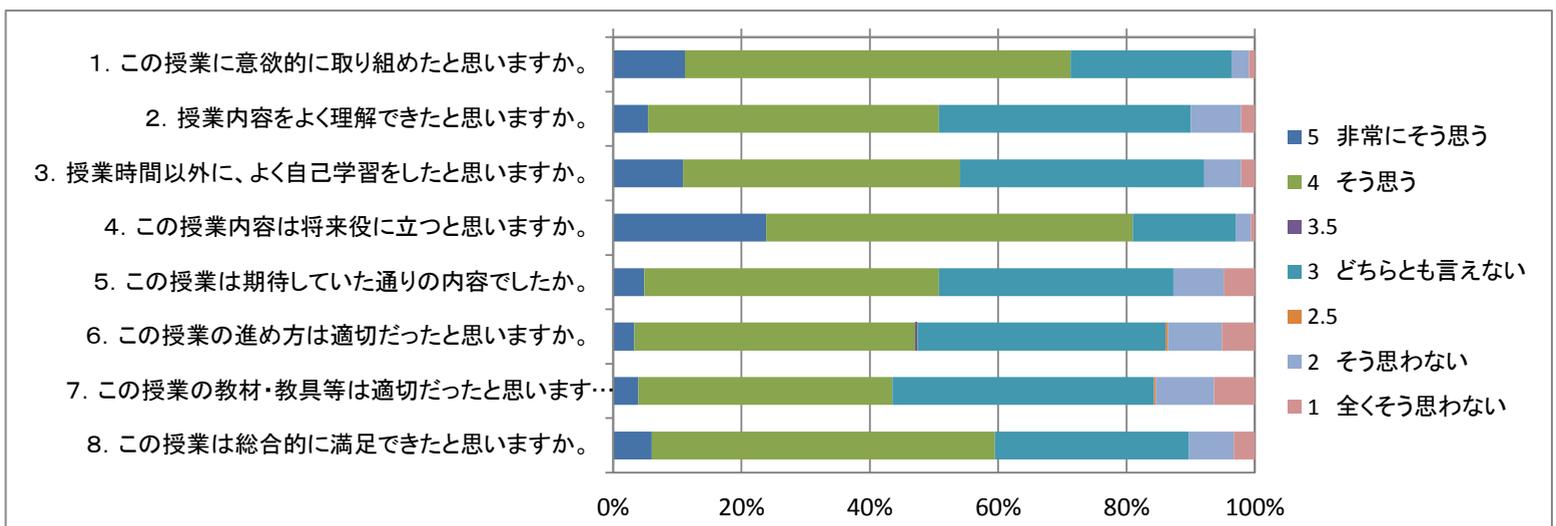
東京医療保健大学大学院 看護学研究科 高度実践看護コース

○全科目数 20科目 ○調査対象者数 410人（延人数）
○総回答数 331枚（回答率80.7%）

◆ 質問項目別集計結果

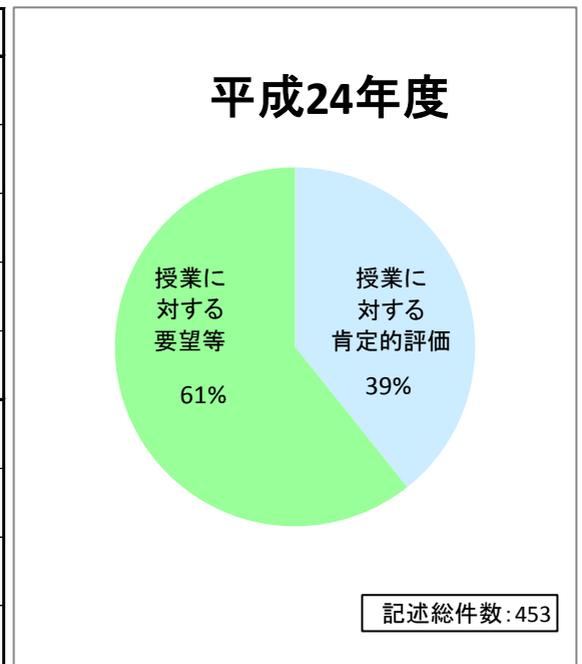
(%)

質問項目	非常に そう思う 5	そう思う 4	3.5	どちらとも 言えない 3	2.5	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	11.2	60.1	0.0	25.1	0.0	2.7	0.9	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	5.4	45.3	0.0	39.3	0.0	7.9	2.1	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	10.9	43.2	0.0	38.1	0.0	5.7	2.1	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	23.9	57.1	0.0	16.0	0.0	2.4	0.6	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	4.8	45.9	0.0	36.6	0.0	7.9	4.8	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	3.3	43.8	0.3	38.7	0.3	8.5	5.1	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	3.9	39.6	0.0	40.8	0.3	9.1	6.3	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	6.0	53.5	0.0	30.2	0.0	6.9	3.3	100.0
全質問項目の平均	8.7	48.6	0.3	33.1	6.4	6.4	3.2	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	178	今後自分がNPになった時、自分の役割を示すためにとても役立つと思います。
		研究のスキルについて丁寧に教えて頂きました。役立つ知識をたくさん学ぶことができたと思います。
		医学生の学習の進め方も知ることができ、刺激を受けた。
		それぞれの講師の先生方の臨床に則した講義は、実践的で今後役に立つと思いました。
		全体的に満足しています。自分が学ぶことが多く、これからも学習しないといけないと思いました。
授業に対する要望等	275	医学的な知識はとても深く、難しいため、各分野にももう少し時間数をかけて学べたら良かったと思います。
		事例をもらい、事前学習をして授業にのぞみたい。
		(前期科目について)後期にも少し講義があるといい。
		NP、CNS、CNで話し合う機会があっても面白いかなと思います。
計	453	



平成24年度 授業評価アンケート集計結果

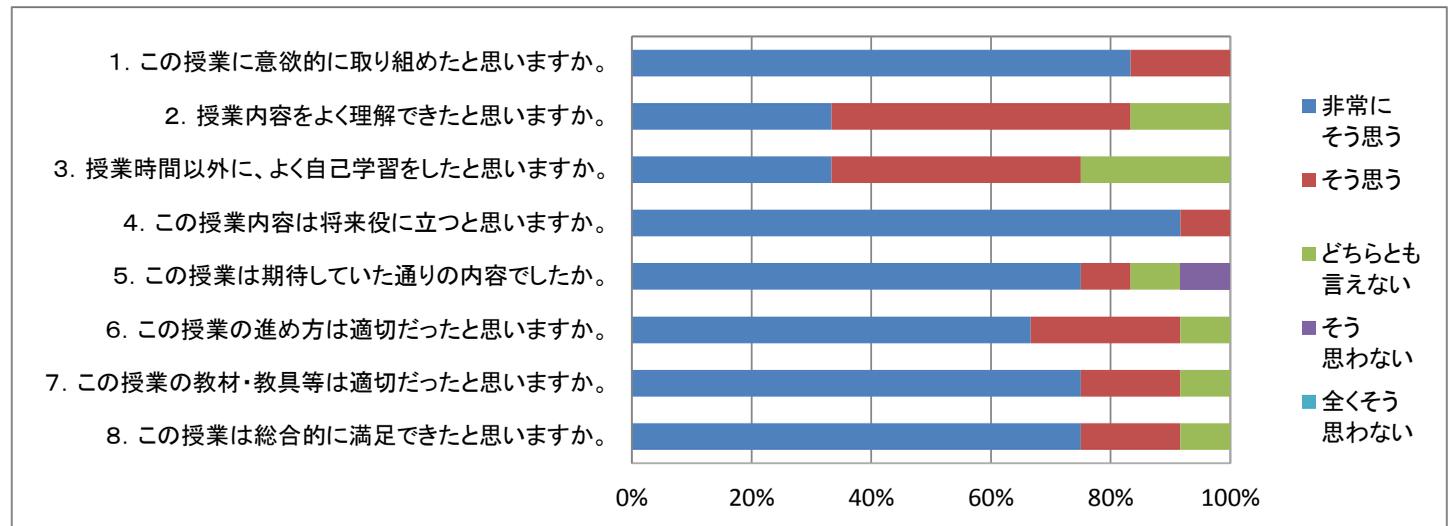
東京医療保健大学大学院 看護学研究科 高度実践助産コース

○全科目数 28科目 ○調査対象者数 178人（延人数）
○総回答数 12枚 6.7%

◆ 質問項目別集計結果

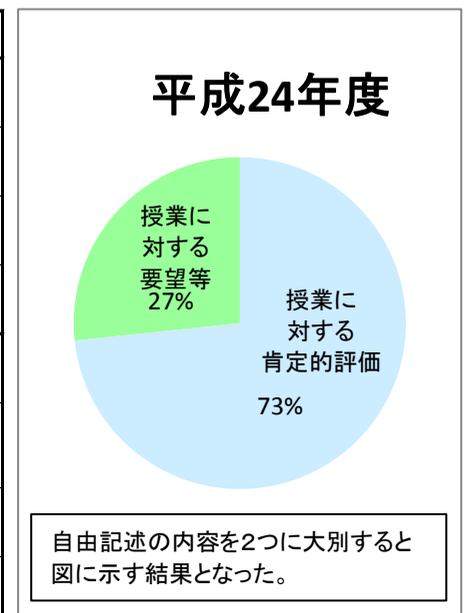
(%)

質問項目	非常に そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	33.3	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	75.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
全質問項目の平均	66.7	22.9	9.4	1.0	0.0	0.0	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	11	医師と助産師の診断過程は勉強になった。
		縫合の講義、実技練習の内容は良かった。
		ディスカッションの時間が多く、考えながら進められたのでよかった。
		世界の助産ケアの水準を学び、刺激になった。
授業に対する要望等	4	課題の目的が、全体的に伝わりにくかった。
		技術試験は、明確に告知してほしい。(実技練習後、そのまま試験を同時に行うのは難しい)
		科目の開始時期は、前期では早すぎ、後期の内容ではないかと思った。
		授乳中、妊娠中の内服について、具体例を出してほしかった。
計	15	



平成 25 年度「学生による授業評価」実施要綱

医療保健学部及び東が丘看護学部の学生を対象とした平成 25 年度授業評価を次により実施いたします。

なお、各大学院においてもこの実施要綱に準じて授業評価を実施することといたします。

1 目的

学生による授業評価を実施し、その結果を分析評価することにより本学のカリキュラム作成の参考、教員の教育力の向上及び授業内容・方法の改善・充実に資する。

2 対象授業

医療保健学部全学科及び東が丘看護学部看護学科の全授業科目。

3 調査実施時期

原則として、各セメスターの最終授業日とする。

4 調査方法

授業担当教員の下承を得て、事務局から授業評価質問用紙（講義・演習科目用または実習・実験科目用）を配布し原則としてその場で記入させた後、回収する。

ただし、授業科目によっては、質問用紙を学生に配布しペーパーボックス（事務局前設置）により回収する。

5 調査の集計等

質問用紙はマークシート方式により記入し、学内において集計する。

6 主な評価項目

- (1) 自分自身の授業(実習・実験)態度について
- (2) 授業(実習・実験)内容について
- (3) 教員の教え方(実習・実験指導)について
- (4) 教員の姿勢について
- (5) 総合評価
- (6) 自由記述 等

7 授業評価結果の分析、公表等

- (1) 個々の授業の調査結果の分析等は、当該授業の担当教員が行う。
- (2) 授業評価結果については、各学科長が各教員の感想等を取りまとめた分析等を行った後、全学分を公表する。
- (3) 各教員においては、授業評価結果を授業方法の改善工夫等に活用する。

24. 11. 28
学科長会議

学生による授業評価アンケートの質問項目の見直しについて

本学では、教育の質の向上を図るため、毎年度全授業科目について学部学生による授業評価アンケートを実施しておりますが、平成 23 年度の授業評価結果に対する各学科長の考察において、授業評価アンケートの評価項目に関して下記のご意見がありました。

については、平成 25 年度から実施する学生による授業評価アンケートにおいては、別紙のとおり講義・演習科目と実習・実験科目によってアンケート用紙を分けるとともに、併せて、質問項目の見直しを行うことといたします。

記

平成 23 年度授業評価結果に対する各学科長の考察における 授業評価アンケートの評価項目に関するご意見

1. 本授業評価は講義・演習科目と実習科目については同じ評価項目で評価していますが、それぞれの授業形態の特性に応じて評価項目及び評価方法を検討する必要があると考えます。
2. 授業評価のアンケート項目では、改善されるべき点に加えて、良い点も抽出できるような内容となると、双方の意見が得られてより詳しい評価ができると思いました。したがって、講義形式の授業と実践形式の授業とでは、評価項目や評価方法を変えるべきではないかと思われました。

FD活動の一環として外部講師を招いての講演会等の実施一覧(平成23年度～平成25年度)

実施年度	平成23年度		
実施日時	23. 8. 4(木) 18:00～19:30	23. 10. 29(土) 15:30～17:00	23. 11. 25(金) 18:00～19:30
実施場所	国立病院機構キャンパス	五反田校舎	五反田校舎
主催	大学	国際交流委員会	国際交流委員会
テーマ	科学研究費助成事業の概要等について	医療シミュレーション教育のポイント：医療・看護系大学での活用	今なぜナイチンゲールか？
講師	大分県立看護科学大学 甲斐 倫明研究科長	ハワイ大学医学部 ベン・バーグ教授	カナダゲルフ大学社会学 リン・マクドナルド教授
対象者	教職員	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等
参加者数	40名	32名	81名

実施年度	平成23年度		平成24年度
実施日時	24. 1. 6(金) 14:30～16:30	24. 3. 13(火) 18:00～20:00	24. 4. 6(金) 11:00～12:00
実施場所	五反田校舎	国立病院機構キャンパス	五反田校舎
主催	国際交流委員会	大学院看護学研究科	医療保健学部看護学科 国際交流委員会
テーマ	これから期待される看護の役割：米国の看護師・NP・CRNAの教育と臨床現場から	急性期のナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割	がんサバイバーの心理社会的支援とは～米国サポートの実際から学ぶ～
講師	カリフォルニア Valley Anesthesia社 看護麻酔師 岩田 恵里子氏	米国スタンフォード大学病院 チャン・ガレット臨床准教授	元ミネソタ大学教授 Judith Johnson 先生
対象者	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教員
参加者数	54名	115名	40名

実施年度	平成 24 年度		
実施日時	24. 5. 30(水) 16:30~18:00 24. 9. 26(水) 16:30~18:10 25. 3. 7(木) 15:00~17:00	24. 6. 13(水) 18:00~20:00	24. 8. 1(水) 16:30~18:00
実施場所	五反田校舎	世田谷校舎	五反田校舎
主 催	医療保健学部看護学科 FD 委員会	国際交流委員会	大 学
テ ー マ	学生のメンタルヘルスに関する FD 研修会	米国登録栄養士 Registered Dietitian とその働き	科学研究費助成事業の概要等について
講 師	東京大学大学院教育学研究科 佐々木 司教授	米国スコッツブラフ市血液透析センター 登録栄養士 明美 グラス氏	独立行政法人 日本学術振興会 研究事業部 研究助成第一課 中山 亮課長代理
対 象 者	教職員	教職員・学生	教職員
参加者数	各回概ね 60 名	65 名	62 名

実施年度	平成 24 年度		
実施日時	24. 9. 15(土) 13:00~14:30	24. 10. 29(月) 17:30~19:00	25. 2. 15(金) 14:30~17:30
実施場所	五反田校舎	国立病院機構キャンパス	NTT 東日本関東病院
主 催	国際交流委員会	大学院看護学研究科	国際交流委員会
テ ー マ	医療事故データ分析の世界の流れ及び HON の活動について	オーストラリアにおける看とり～現状と課題～	医療者と患者のパートナーシップで自殺を予防する - タイダルモデルの理論と実践 -
講 師	WHO(世界保健機構)コンサルタント及び HON(Health On the Net Foundation) リサーチアシスタント 梶原 麻喜氏	オーストラリア、モナシュ大学医療看護科学学部 マーガレット・オコナー教授	ケンブリッジ大学病院 ナーススペシャリスト Joy Bray 先生
対 象 者	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等
参加者数	34 名	90 名	58 名

実施年度	平成 25 年度		
実施日時	25. 4. 18(木) 17:30~19:00	25. 6. 10(月) 18:00~19:30	25. 7. 5(金) 18:00~20:30
実施場所	国立病院機構キャンパス	国立病院機構キャンパス	五反田校舎
主 催	東が丘看護学部	大学院看護学研究科	国際交流委員会
テ ー マ	看護政策を考える	米国におけるナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割	医療者のためのセルフ・ヒーリング～より健康に生きるための心身への気づき～
講 師	日本看護連盟参与 石田 昌宏氏	米国スタンフォード大学病院 チャン・ガレット臨床准教授	米国サンフランシスコ州立 大学健康教育学部 エリック・ペパー教授
対 象 者	教員・大学院生	教職員・学生、外部医療機関 関係者等	教職員・学生、外部医療機関 関係者等
参加者数	86 名	79 名	100 名

実施年度	平成 25 年度		
実施日時	25. 7. 31(水) 16:30~18:00	25. 9. 2(月) 9:30~11:30	26. 1. 8(水) 18:00~19:30
実施場所	五反田校舎	世田谷校舎	国立病院機構キャンパス
主 催	大 学	医療保健学部医療栄養学科	大学院看護学研究科
テ ー マ	科学研究費助成事業の概要等 について	医学教育における OSCE の 役割と現状－医療職としての 管理栄養士の卒前教育に OSCE を導入することの意義 －」（仮題）	スタンフォード大学病院に おける NP 活動の状況等
講 師	文部科学省研究振興局 学術研究助成課 中塚 淳子課長補佐	東京大学医学部附属病院 総合研修センター長 北村 聖教授	スタンフォード大学病院 ICU 医師 御手洗 剛氏
対 象 者	教職員	教職員	教員・大学院生
参加者数	67 名	41 名	名

大学院医療保健学研究科における外国からの講師による講演等一覧(平成24年度～平成25年度)

年度	実施年月日	場所	参加者数	講義等の内容
平成 24年度	11月16日(金) 7:45～8:25	東京ビッグサイト 1F Room1 (Reception HallA)	教員 及び 院生 50名	<p>“Infection Prevention and Control System in China” (「中国における感染制御システム」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるリュイ・リー(Liuyi Li MD) 中国 北京大学第一病院 感染制御部主任教授が、第11回東アジア感染制御カンファレンス(EACIC 2012)のため来日した機会に「中国における感染制御システム」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月23日 (金・祝日) 7:30～8:00	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 30名	<p>“Properties of antiseptics in wound management-comparison of efficacy and tolerance” (「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるアクセル・クラマー(Axel Kramer PhD) ドイツ グライフスワルド大学医学部主任教授が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」に関する講演及び意見交換等を行った。</p> <p>“Sterilisation and Supply in Hospital” (「病院における滅菌と供給」)</p> <p>本学客員教授である ジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「病院における滅菌と供給」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月24日(土) 8:00～8:30	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 35名	<p>“Hospital infection control in 2012: new solutions for old and resurgent problems” (「2012年 病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」)</p> <p>本学客員教授であるジョナサン・オッター(Jonathan Otter PhD) 英国 キングス・カレッジ特別研究員が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「2012年病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
平成 25年度	5月29日(水) 17:30～18:30	大学院 別館 D104室	教員 及び 院生 20名	<p>“Topics on Infection Prevention and Control” (「感染制御のトピックス」)</p> <p>本学客員教授であるジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、日本企業への講演のため来日した機会に「感染制御のトピックス」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>

科目分類	医療コラボレーションの教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18043	4	前期集中	必修	1	30
授業科目名 (英文)	協働実践演習 (InterProfessional Education)				
担当教員名	佐々木 美奈子／伊藤 美千代／近藤 浩子／渡會 睦子／秋山 美紀 林 世津子／永田 裕子／阿達 瞳／三国 和美／大舘 順子／北島 幸枝 小城 明子／下田 妙子／鈴木 礼子／森本 修三／中村 早百合／齋藤 さな恵 駒崎 俊剛／今泉 一哉／瀬戸 僚馬／津村 宏／山下和彦／西大 明美				
授業の概要及び到達目標					
<p>1. 協働実践演習の目的 看護学科、医療栄養学科、医療情報学科の学生が、生活習慣病（糖尿病等）や健康障害を題材に、問題解決や援助計画について意見交換し、各専門職の役割を認識するとともに、今まで学んだ専門科目の内容を総合的かつ深く理解することをねらいとする。</p> <p>2. 到達目標 対象者が、健康や生活の質の向上に向けて主体的な実践力を形成できるように、他の学生と協働し、支援するための基礎的能力を養う。</p> <p>1) 協働実践演習の目的や意義を説明できる 2) 協働するための基本的なコミュニケーション能力を取得する。 3) 課題に取り組むために必要な情報の種類と、収集手段や手順を説明できる 4) 収集した情報を分析し、その結果を効果的に情報発信することができる。 5) グループ活動において求められた自分の役割を明確にし、それに対しどのように貢献できたかを説明できる。 6) 取り組んだ課題に対し、演習を通して得られた成果（知見）を説明できる。</p>					
準備学習等					
春期休暇中に事前課題に関して、文献、インターネット等を利用して、調査、検討し、レポートとしてまとめておくこと。					
成績評価の方法	グループワークへの参加状況と発表会の内容および発表態度 50% 個人レポート 50%で評価定する。				
テキスト	なし				
参考図書	必要の都度、紹介する。				

備 考

授 業 計 画

1. 糖尿病を主テーマとして、健康障害などの問題解決や援助計画について看護学科・医療栄養学科・医療情報学科の学生が、意見交換するグループワークを主体に実施する。

2. クラス・グループ

履修対象学生を5クラスに分け、更に各クラスは5グループに分けてグループワーク等を行う。

なお各グループは、看護学科4名、医療栄養学科4名、医療情報学科3名を目安として3学科の学生が混在する。

3. 授業日程

第1回 チームビルディングのミニ演習

第2回 ガイダンス

グループワークの進め方、成績評価方法等

第3回～第4回 事前課題を基にした基礎学習

第5回～第13回 テーマに対するグループワーク

第14回 協働実践演習発表会

第15回 まとめ

協働実践演習を通じて獲得した専門職間の関連をグループ討議して図としてまとめる

2013年度の授業日は下記の通り

	4月1日(月)	4月2日(火)	4月3日(水)	4月4日(木)	4月5日(金)	4月6日(土)
1時限	①	③	⑤	⑧	⑪	⑭
2時限	②	④	⑥	⑨	⑫	⑮
3時限			⑦	⑩	⑬	

4. 個人レポート

協働実践演習で得られたものを個人レポートとしてまとめ期日までに提出する。



- [大学概要](#)
- [入試情報](#)
- [学部・専攻科](#)
- [学生支援](#)
- [キャンパスライフ](#)
- [大学院](#)

HOME → 大学概要 → 教育情報の公開 → 入学者受け入れの方針

大学概要

- 建学の精神
- 大学評価（認証評価）結果
- 中期目標・計画
- 教育情報の公開
- 理事長メッセージ
- 学長メッセージ
- 学則
- 校歌
- 組織図
- 紀要
- 自己点検・評価
- 設置計画履行状況報告書
- デジタルパンフレット
- 財務情報の公開

- オープンキャンパス
- 入試説明会・進学ガイダンス
- 学外進学相談会
- 学部・学科見学会
- 東京医療保健大学は 助大学基準協会の大学基準に適合していると認定されました。
- 中期目標・計画
- 点検・評価報告書
- 東ヶ丘看護学部年報
- シラバス
- ご寄附のお願い



学士課程

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

医療保健学部

▼ 看護学科

看護学科では、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなものでしょうか。もし皆さんや皆さんの家族が看護を受ける立場になった時、どのような看護師さんに看護してほしいと思いますか。

看護は、その人の視点に立って、心を思いやり、痛みを分かち合うことのできる人間的な温かさや豊かな知識、感性に裏打ちされた行動力、責任感、高い倫理性が求められています。そのためには、まず基礎学力の上に、自分の意見の表出や他者との交流を通して、厳しい中にも学ぶ楽しさを育てることのできる意欲と自律性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。

現在の日本は超高齢化社会を迎え、病気を抱えながら生活をする方々が増加しています。看護の活躍の場も病院のみならず、地域や職場、家庭へと拡大しつつあります。

看護は最も身近にいる医療のスペシャリストとして、一人ひとりの生命・生活・人生に目を向け、病気や心の変化を的確に把握し、得られた情報を科学的な思考で判断して問題解決できる能力と、他の専門職と協働するコミュニケーション能力が求められています。

看護を実践することは、様々な人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。

大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

▼ 医療栄養学科

健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教育を行います。

また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設し、医療現場に求められる管理栄養士を育成します。

「医食同源」という言葉もあるように人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考えられません。特に、今日の少子高齢化社会への急激な変化に伴って、高齢者の健康管理や生活習慣病対策は重要であり、管理栄養士はこれまで以上に病気の治療のみならず予防医学の観点から社会の要望に応える必要があります。さらに、医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校、保健センター、福祉施設、事業所、食品会社、給食会社、スポーツ施設など、食と健康に関わる様々な職場でも求められています。

また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。

そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

▼ 医療情報学科

図書館	
公開講座	
就職・進路	
学内専用コンテンツ	

東京医療保健大学
携帯サイトはこちら



大学紹介動画



医療情報は、患者さんに最適な医療を行うために用いられ、さらに新たな治療法や機器の研究・開発を的確に行う材料になるなど、医療活動を円滑に推進する原点です。医療を行う医師や看護師、その他の医療関係者、福祉関係者はこれらの情報をもとに方向性を決めます。したがって、医療情報を扱う人は必要な情報を的確に収集、解析、加工し関係者に伝える力と、仕事に対する明確なポリシーや責任感、高い倫理観を持った人材が求められます。医療情報学科は、何事にも積極的で高い倫理観を持つ人を求めています。

病院など医療の現場で、情報がどのように活用されているかを知ることは、医療情報を的確に医療関係者に伝達し、より質の高い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、コミュニケーション能力が必要です。医療情報学科は、医療だけでなく広く社会に関心を持ち、自分の考えを積極的にコミュニケーションできる人を求めています。

これからの医療においては、患者さんと医療提供者を仲立ちし、医療現場と企業とを連携するコミュニケーターとしての役割が益々重要となります。医療情報学科は、「新しいことや新しい領域を切り開きたい意欲」と「人間・社会に貢献したい高い志」を持った学生を歓迎します。

本学科を希望される方に対して、高等学校で履修すべき科目や取得が望ましい資格の指定は特にありません。ただし、医療情報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「情報A」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たった個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待します。

● 東が丘看護学部

▼ 看護学科

東が丘看護学部は、"tomorrow's Ns"を求めています。

看護職には、患者さんや家族のもっとも身近で、四六時中患者さん達を見守り続け、患者さんの療養生活を支え、診療が効果的に進むための的確な看護を提供していくことが求められています。東が丘看護学部では、日本の医療保健福祉を支える豊かな感性と実践力を持った看護師=tomorrow's Nsを目指して教育します。

未来の日本の医療保健福祉を支える看護師=tomorrow's Nsを目指す意欲的な学生を求めています。

看護師は、生涯にわたって自分を磨き続け、常に自己開発ができる素晴らしい職業です。看護を学び、実践しながら、自己を啓発し、自らのキャリアを開拓し、創造していけるような能力を身につけていただきたいと思います。医療が高度化・複雑化し、病氣と闘う人々は、これまで以上に難しい課題を抱えています。患者さんのもっとも身近な存在である看護師は、チーム医療のキーパーソンであり、看護に関する知識や技術にも、より高度な専門性が求められています。国立病院機構のネットワークを活かした臨床現場で、的確な看護の実践力を身につけるとともに多くの専門職と交流し、チーム医療を支える質の高い看護師を育てていきます。

いのちの尊厳と看護への興味と知的好奇心を持ち、看護を学ぶことで「自己を開発したい！自分を磨きたい！」との情熱を持って、未来の臨床現場を担う確かな決意と志を持った学生を求めています。東が丘看護学部で、tomorrow's Nsとしての一歩を踏み出し、ともに学びあいましょう。

医療保健学研究科修士課程

科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、各領域において医療保健分野における学際性と専門性を追求し、さらにマネジメント能力の兼備、医療保健現場における実践の質の向上を図ることとし、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するため、入学者には次のような資質が求められます。

- 1.看護マネジメント学領域、感染制御学領域、周手術医療安全学領域、医療栄養学領域、医療保健情報学その他領域

各領域における知識と技術を有し、臨床現場でのさらなる実践能力、専門的知識を体系的に学ぶ意欲を有すること。

- 2.助産学領域

原則として臨床経験5年以上の助産師を対象とし、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚スタッフへの教育・指導力等の向上に意欲を有すること。

医療保健学研究科博士課程

科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するため、入学者には次のような資質が求められます。

- 感染制御学領域、周手術医療安全学領域

感染制御学領域における専門知識と技術を有し、臨床現場でのさらなる実践能力の向上を目指し、学際的・国際的な視点から専門的知識を体系的に学ぶとともに、感染制御学に関する研究能力の向上に向けて、意欲を有すること。

看護学研究科修士課程

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。

本研究科では、救急医療などに的確・迅速に対応し、患者・患者家族のQOLを高めるために、高度な判断力と実践力を通して、現代のチーム医療を支えることができる力を持った看護師の育成、また、高度な助産実践能力及び女性とその家族を中心としたケアを提供できる自律した助産師の育成を目指し、日本の医療・保健・福祉に幅広く貢献できる人材を育成します。

▼ 高度実践看護コース

救急医療などの現場において、患者ニーズに対応したタイムリーな医療を提供でき、医療従事者間のスキルミックスにより、チーム医療のキーパーソンとして自律的に活躍できる能力を備えた高度な看護職、すなわちクリティカル領域で活躍する看護師（特定看護師（仮称）・診療看護師（NP））を育成します。

本コースでは、医療における「看護」の役割を充分認識したうえで、救急医療を含むクリティカル領域で、医師等と連携・協働してプライマリ診療の実践に自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

▼ 高度実践助産コース

「科学的裏付けを活用し、自律して自然分娩の支援ができる能力」、「院内・院外助産システムを担うことができる能力」、「周産期における救急時に対応した業務ができる能力」など、これからの助産師に求められる能力を身につけた助産師を育成します。また、周産期にある母子の支援のみでなく、子育て支援や思春期・更年期にある女性への支援、DVをうけた女性への支援や不妊相談等のウイメンズヘルス、性教育、国際助産などの幅広い分野で活躍できる助産師の育成を目指しています。

本コースでは、助産師としての目的意識及び21世紀の助産師に求められる将来像を明確に持ち、実践家又は研究・教育者を旨して自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

[▲ ページの先頭へ戻る](#)

東京医療保健大学 所在地

五反田キャンパス	〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
世田谷キャンパス	〒154-8568 東京都世田谷区世田谷3-11-3
国立病院機構キャンパス	〒152-8558 東京都目黒区東が丘2-5-1

Copyright © 2010 東京医療保健大学 All rights reserved.

平成26年度入学者選抜

2014 学生募集要項

【AO方式による入学試験】

医療保健学部 医療情報学科

【第2期公募制推薦入学試験】

東が丘看護学部 看護学科

【一般入学試験】

【センター試験利用入学試験】

医療保健学部

- 医療情報学科
- 医療栄養学科
- 看護学科

東が丘看護学部

- 看護学科
 - 臨床看護学コース
 - 災害看護学コース

東京医療保健大学

1. 本学が求める学生像 (アドミッション・ポリシー)

1 建学の精神

本学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性、豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材の育成を目的としています。

2 本学が求める学生像

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

3-1 医療保健学部

医療情報学科

医療情報は、患者さんに最適な医療を行うために用いられ、さらに新たな治療法や機器の研究・開発的確に行う材料になるなど、医療活動を円滑に推進する原点です。医療を行う医師や看護師、その他の医療関係者、福祉関係者はこれらの情報をもとに方向性を決めます。したがって、医療情報を扱う人は必要な情報を的確に収集、解析、加工し関係者に伝える力と、仕事に対する明確なポリシーや責任感、高い倫理観を持った人材が求められます。医療情報学科は、何事にも積極的で高い倫理観を持つ人を求めています。

病院など医療の現場で、情報がどのように利活用されているかを知ることが、医療情報を的確に医療関係者に伝達し、より質の高い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、コミュニケーション能力が必要です。医療情報学科は、医療だけでなく広く社会に関心を持ち、自分の考えを積極的にコミュニケーションでできる人を求めています。

これからの医療においては、患者さんと医療提供者を仲立ちし、医療現場と企業とを連携するコミュニケーターとしての役割がますます重要となります。医療情報学科は、「新しいことや新しい領域を切り開きたい意欲」と「人間・社会に貢献したい高い志」を持った学生を歓迎します。

本学科を希望される方に対して、高等学校で履修すべき科目や取得が望ましい資格の指定は特にありません。ただし、医療情報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「情報A」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待します。

医療栄養学科

健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教育を行います。

また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設し、医療現場に求められる管理栄養士を育成します。

「医食同源」という言葉もあるように人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考えられません。特に、今日の少子高齢化社会への急激な変化に伴って生活習慣病対策は重要であり、管理栄養士はこれまで以上に病気の治療のみならず予防医学の観点から社会の要望に応える必要があります。さらに、医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校、保健センター、福祉施設、事業所、食品会社、給食会社、スポーツ施設など、食と健康に関わる様々な職場でも求められています。

また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。

そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

看護学科

看護学科では、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなもののでしょうか。もし皆さんや皆さんの家族が看護を受ける立場になった時、どのような看護師さんに看護してほしいと思いますか。

看護は、その人の視点に立って、心を思いやり、痛みを分かち合うことのできる人間的な温かさ豊かな知識、感性に裏打ちされた行動力、責任感、高い倫理性が求められています。そのためには、まず基礎学力の上に、自分の意見の表出や他者との交流を通して、厳しい中にも学ぶ楽しさを育てることのできる意欲と自律性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。

現在の日本は超高齢化社会を迎え、病気を抱えながら生活をする方々が増加しています。看護の活躍の場も病院のみならず、地域や職場、家庭へと拡大しつつあります。

看護は最も身近にいる医療のスペシャリストとして、一人ひとりの生命・生活・人生に目を向け、病気や心の変化を的確に把握し、得られた情報を科学的な思考で判断して問題解決できる能力と、他の専門職と協働するコミュニケーション能力が求められています。

看護を実践することは、さまざまな人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」を履修されていることを望みます。

3-2 東が丘看護学部 看護学科

東が丘看護学部は、“tomorrow's Ns”を求めています。

看護職には、患者さんや家族のもっとも身近で、四六時中患者さん達を見守り続け、患者さんの療養生活を支え、診療が効果的に進むための的確な看護を提供していくことが求められています。東が丘看護学部では、日本の医療保健福祉を支える豊かな感性と実践力を持った将来に向けた創造的な看護師=tomorrow's Nsを目指して教育します。

将来の日本の医療保健福祉を支える看護師=tomorrow's Nsを目指す意欲的な学生を求めています。

看護師は、生涯にわたって自分を磨き続け、常に自己開発ができる素晴らしい職業です。看護を学び、実践しながら、自己を啓発し、自らのキャリアを開拓し、創造していけるような能力を身につけていただきたいと思います。医療が高度化・複雑化し、病気と闘っている人々は、これまで以上に難しい課題を抱えています。患者さんのもっとも身近な存在である看護師は、チーム医療のキーパーソンであり、看護に関する知識や技術にも時代・社会のニーズに対応できるより高度な専門性が求められています。国立病院機構のネットワークを活かした臨床現場で、的確な看護の実践力を身につけるとともに多くの専門職と交流し、チーム医療を支える質の高い看護師を育てていきます。

いのちの尊厳と看護への興味と知的好奇心を持ち、看護を学ぶことで「自己を開発したい！自分を磨きたい！」との情熱を持って、将来の臨床現場を担う確かな決意と志を持った学生を求めています。東が丘看護学部で、tomorrow's Nsとしての一步を踏み出し、ともに学びあいましょう。

2. スカラシップ制度特待生選抜

本学では2種のスカラシップを設けて修学を支援しています。

スカラシップⅠ

成績上位5名程度（各学科）に対して入学金と1年間の授業料を全額免除します。

スカラシップⅡ

成績上位10名程度（各学科）に対して1年間の授業料の半額を免除します。

1. 一般入学試験（前期日程）は、スカラシップ制度特待生選抜試験を兼ねていますので、新入学生については一般入学試験（前期日程）合格者のうち成績の上位者をスカラシップ対象者として認定します。
 - (1) 結果の発表は、入学試験の合格発表と同時にを行います。
 - (2) AO入試合格者、推薦入学試験合格者で、すでに入学手続きを完了した者もスカラシップ対象者として認定を受けるために、一般入学試験（前期日程）を受験することができます。認定されたときは、すでに納入した入学金・学生納付金がスカラシップの種別に応じて返還されることとなります。
2. 2年次生以降の在在学生については、前年度の学内成績等を総合的に評価して、審査を行って認定することとなります。

3. 東京医療センター奨学制度

東京医療センターでは、東京医療保健大学（東が丘看護学部）に入学する者で、卒業後東京医療センターに就職を希望する学生に対して、奨学金を貸与することにより、その修学を支援しています。

奨学金の額：50万円（年額）

募集人数：1年次生（新入学生）3名以内

奨学金の推薦には、一般入学試験（前期日程）の成績を参考にします。

※詳細は独立行政法人国立病院機構東京医療センター事務部管理課（03-3411-0111）までお問い合わせください。

平成 26 年度 (2014 年度)

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 (修士課程)

学生募集要項

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科（修士課程）

入学者受け入れの方針

科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、各領域において医療保健分野における学際性と専門性を追求し、さらにマネジメント能力の兼備、医療保健現場における実践の質の向上を図ることとし、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質が求められます。

1. 看護マネジメント学領域、感染制御学領域、周手術医療安全学領域、医療栄養学領域、医療保健情報学その他領域
各領域における知識と技術を有し、臨床現場でのさらなる実践能力、専門的知識を体系的に学ぶ意欲を有すること。
2. 助産学領域
原則として臨床経験5年以上の助産師を対象とし、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚スタッフへの教育・指導力等の向上に意欲を有すること。

教育課程編成・実施の方針

1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。
2. 医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力豊かな人材を育成するため、6つの領域(看護マネジメント学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、医療栄養学、医療保健情報学その他)に共通した必修科目として、医療保健管理学、総合人間栄養学特論、安全管理情報学、サーベイランス特論及び医療経営特論の5科目を開設します。
3. 医療の実践現場で役立つ研究課題を追求するとともに、現場の抱える関連諸問題解決に寄与するため各領域の専門分野に応じた選択科目及び研究演習を開設します。
 - (1)看護マネジメント学領域
看護マネジメント、ケアマネジメント、疫学・保健統計等に係る履修科目を置くとともに、看護マネジメント学に関する研究演習を開設します。
 - (2)助産学領域
助産学、臨床助産学、助産学教育等に係る履修科目を置くとともに、助産学に関する研究演習を開設します。
 - (3)感染制御学領域
感染制御学、感染制御看護学、職業感染制御学等に係る履修科目を置くとともに、感染制御学に関する研究演習を開設します。
 - (4)周手術医療安全学領域
周手術医療安全学、感染制御学、職業感染制御学等に係る履修科目を置くとともに、周手術医療安全学に関する研究演習を開設します。
 - (5)医療栄養学領域
臨床栄養学、ライフステージ栄養学、公衆栄養学等に係る履修科目を置くとともに、医療栄養学に関する研究演習を開設します。
 - (6)医療保健情報学その他領域
医療情報、医療知識処理等に係る履修科目を置くとともに、医療保健情報学に関する研究演習を開設します。

学位授与の方針

1. 医療保健学研究科修士課程の修了要件を満たすと同時に、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人であると認められる者を修了とし、修士の学位を授与します。
2. 学位の種類は次のとおりです。
修士（看護マネジメント学）、修士（助産学）、修士（感染制御学）、修士（周手術医療安全学）、修士（医療栄養学）、修士（医療保健情報学）

平成26年度（2014年度）

学生募集要項

— 看護学研究科（修士課程） —

東京医療保健大学大学院

1. 入学者受け入れの方針

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。また、看護の基礎教育の大学化が急速に進む中で、看護研究教育に係ることのできるスキルを備えた教育者の確保も極めて困難な状況にあります。

本研究科では、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度専門看護職の育成、また、研究・教育の探究を通して、看護学の発展に寄与することができる人材を育成します。

〔高度実践看護コース〕

救急医療などの現場において、患者ニーズに対応したタイムリーな医療を提供でき、医療従事者間のスキルミックスにより、チーム医療のキーパーソンとして自律的に活躍できる能力を備えた高度な看護職、すなわちクリティカル領域で活躍する看護師(特定看護師・診療看護師)を育成します。

本コースでは、医療における「看護」の役割を充分認識したうえで、救急医療を含むクリティカル領域で、医師等と連携・協働してプライマリ診療の実践に自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

〔高度実践助産コース〕

「科学的裏付けを活用し、自律して自然分娩の支援ができる能力」、「院内・院外助産システムを担うことができる能力」、「周産期における救急時に対応した業務ができる能力」など、これからの助産師に求められる能力を身につけた助産師を育成します。また、周産期にある母子の支援のみでなく、子育て支援や思春期・更年期にある女性への支援、DVをうけた女性への支援や不妊相談等のウィメンズヘルス、性教育、国際助産などの幅広い分野で活躍できる助産師の育成を目指しています。

本コースでは、助産師としての目的意識及び21世紀の助産師に求められる将来像を明確にもち、実践家又は研究・教育者を目指して自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

〔看護学科コース〕

看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる研究・教育者を育成します。

本コースでは、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

2. 教育課程編成・実施の方針

東京医療保健大学大学院は、科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度職業人の育成を図ることを理念として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、「教育課程編成・実施の方針」を制定します。

〔高度実践看護コース〕

1. 看護職としての専門性を高め、臨床の多様な状況において総合的な判断ができ、チーム医療の一員として高度な実践ができる能力を備えた人材を育成するための教育課程を設定し提供します。
2. 「状況を総合的に判断(診察・包括的健康アセスメント)できる能力」の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
3. 状況に対応した安全・安心な医療を提供できる能力の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
4. 病院実習では、クリティカル領域で必要とされる、診断・検査・治療の方法を修得し、多様な医療ニーズに対応できる実践能力を養うため、医師臨床研修医制度に基づく初期臨床研修(救命救急センター)のプログラムを活用し提供します。

〔高度実践助産コース〕

1. 「21世紀の助産師を目指した養成教育」を目指して、「研究マインド、研究手法の基本を修得し、EBPM (Evidence Based Practical Midwifery) を実行できる能力」の養成を主眼にカリキュラムを編成します。
2. ウィメンズヘルス全般にわたる幅広い分野を自律的に支援できる助産師を養成するための教育課程を設定し提供します。
3. 現場における継続教育を担える人材の育成、管理者・指導者としての基本的なスキルを備えた人材を育成するための教育課程を設定し提供します。

〔看護科学コース〕

1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。
2. 高等教育における看護基礎教育において看護の対象であるヒト、人、人間を理解するために必須とされる看護の基盤学となる学問領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(看護基盤学領域)を設定します。
3. 高等教育における看護基礎教育において各専門領域の看護学に関する研究教育能力をもち、学部学生の臨地実習を指導できる人材を育成するための教育課程(臨床看護学領域)を設定します。
4. 臨床現場においてリーダーシップを発揮し、看護科学のスキルをベースに社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(応用看護学領域)を設定します。

3. 学位授与の方針

大学院看護学研究科では、高度実践看護、高度実践助産、看護科学のいずれかの教育プログラムを通して、次に掲げる能力を修得した者にそれぞれ修士(看護学)、修士(助産学)、修士(看護学)の学位を授与します。

〔高度実践看護コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻高度実践看護コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力。
2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意思決定能力。
3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代を変革する創造的な研究・開発能力。
4. 他職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力。

〔高度実践助産コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻高度実践助産コース(助産師プログラム及び助産師免許取得プログラム)においては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(助産学)の学位を授与します。

1. 自律して自然分娩の支援ができる能力。
2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力。
3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力。
4. 周産期の救急時に対応できる能力。
5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力。
6. 研究・開発能力。
7. 倫理的意思決定能力。

〔看護科学コース〕

大学院看護学研究科看護学専攻看護科学コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力
2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力
3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力
4. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力
5. 看護管理、地域保健、放射線保健に関する研究教育ができ、臨地現場においてリーダーシップをとることができる能力

4. 募集人員(30名)

専攻	コースおよびプログラム	区分	募集人員
看護学専攻	高度実践看護コース	一般 推薦	20名程度
	高度実践助産コース { 助産師プログラム※ ¹ 助産師免許取得プログラム※ ²	一般 推薦	10名程度
	看護学科コース※ ³	一般	若干名

※1 助産師資格を有する者が高度実践能力を身に付け、修士の学位取得を目指す。(昼夜開講制(一部科目を除く)、但し、2年目の実習期間は全日制)

※2 助産師国家試験受験資格の取得を目指すとともに、高度実践能力を身に付け修士の学位取得を目指す。(全日制)

※3 看護学科コース(昼夜開講制)

5. 標準修業年限及び学位

専攻／コース		学位	標準修業年限
看護学専攻	高度実践看護コース	修士(看護学)	2年
	看護科学コース		
	高度実践助産コース	修士(助産学)	

6. 出願資格

○高度実践看護コース

次の各号のいずれかの条件を満たし、平成26年3月末現在で医療機関等において、常勤の看護職(准看護師は除く)として**実務経験が5年以上ある者**とする。

○高度実践助産コース

次の各号のいずれかの条件を満たし、看護師免許取得者または看護師免許取得見込みの女子及び助産師免許取得者または助産師免許取得見込みの者とする。

○看護科学コース

次の各号のいずれかの条件を満たす者。

- (1) 大学(学校教育法第83条に定める大学をいう。以下同じ)を卒業した者又は平成26年3月卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定に基づき学士の学位を授与された者、又は平成26年3月末日までに授与される見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者。

平成26年度（2014年度）

学生募集要項

— 看護学研究科（博士課程） —

東京医療保健大学大学院

1. 入学者受け入れの方針

現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。

また、看護の基礎教育の大学化が急速に進む中で、看護研究教育に係ることのできるスキルを備えた教育者の確保も極めて困難な状況にあります。

本研究科では、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度専門看護職の育成、また、研究・教育の探究を通して、看護学の発展に寄与することができる人材を育成します。

〔博士課程〕

看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる研究・教育者を育成します。

博士課程では、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。

2. 教育課程編成・実施の方針

東京医療保健大学大学院は、科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度職業人の育成を図ることを理念として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、「教育課程編成・実施の方針」を制定します。

〔博士課程〕

1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。
2. 看護の対象であるヒト、人、人間を科学的に捉え、その発達段階に応じた看護学の各専門領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(成育看護学領域)を設定します。
3. 看護科学をベースに地域社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程(地域環境保健学領域)を設定します。

3. 学位授与の方針

大学院看護学研究科看護学専攻博士課程においては、3年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、博士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に博士(看護学)の学位を授与します。

1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力
2. 人間の発達段階に応じた看護学に関する研究能力
3. 地域社会の保健ニーズに即した実践的研究教育能力
4. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力
5. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力
6. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力

医療保健学部学生による課外活動の状況について（平成21年度以降の主なもの）

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
1. 医療に関わる活動・参加	N T T 東日本 関東病院（品川区）におけるトリアージ訓練	21.10.8（木）	110名	・大事故、災害時における救命の順序を決める訓練に参加し、医療系の大学で学ぶ学生としてその重要性を認識する機会となった。
		22.10.7（木）	110名	
		23.10.13（木）	113名	
		24.10.11（木）	96名	
		25.10.10（木）	34名	
2. 高齢者・障がい者等への介助及び支援活動	中延複合施設（品川区）のくつろぎ祭り	21.9.5（土）	12名	・祭りの当日、高齢者・障がい者の食事等の支援活動により介護の深みを体験することができた。
		22.9.4（土）	3名	
		23.9.17（土）	5名	
		24.10.6（土）	8名	
		25.10.12（土）	8名	
	社会福祉法人 三徳会（品川区）の成幸ホームの成幸まつり	21.8.29（土）	3名	同上
	社会福祉法人 三徳会 荏原ホーム（品川区）の荏原まつり	21.8.8（土）	1名	同上
		22.9.4（土）	3名	
	一般社団法人 たまみずき基金 第1回オータムキャンプ	25.10.13（日）～ 14（月）	4名	・障がいを持った方の支援を行っている「たまみずき基金」が障がい児を対象として企画実施した新潟県湯沢町の1泊2日のオータムキャンプにおいて、障がい児に1対1で付添い介護を行うことにより、障がいを持った子供たちとの関わりを体験する貴重な機会となった。
	松が谷福社会館（台東区）における車いすのメンバーとベネチアンガラスのストラップ作り	24.8.5（日）	3名	・医療栄養学科の学生が調理等に関する支援を行うことにより自己啓発に役立った。

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
2. 高齢者・障がい者等への介助及び支援活動	西宮工場キッチンスタジオ(兵庫県西宮市)における小学生を対象とした料理教室のスタッフ	23. 8.10(水)	7名	・医療栄養学科の学生が調理等に関する支援を行うことにより自己啓発に役立った。
	武蔵野市立千川小学校における小学生に対する食育活動	23. 9. 5(月)～ 9.29(木)	9名	同上
		24. 9.12(水)～ 9.26(水)	4名	
3. 地元の行事等に参加して地域との交流を深める活動	公益社団法人日本リウマチ友の会東京支部第50回総会・記念大会	24. 4. 29(月)	3名	・医療保健学部看護学科の学生がボランティアで参加し受付・案内・誘導等の業務を行い、自己啓発に役立った。
		五反田相生町会例大祭における神輿担ぎ等	22.10. 2(土)～ 10. 3(日)	9名
	23.10. 1(土)～ 10. 2(日)		8名	
	24.10. 6(土)～ 10. 7(日)		12名	
	25.10. 5(土)～ 6(日)		9名	
	N T T 東日本 関東病院(品川区)ふれあいフェスティバル		21. 5.23(土)	30名
		22. 5.29(土)	42名	
23. 5.28(土)		40名		
24. 5.26(土)		40名		
25. 5.18(土)		40名		
東京都看護協会が主宰する看護の日の記念行事である看護フェスタ2013に参加	25. 5.12(日)	8名	・看護フェスタ2013においては、看護学科学生等で構成するチアダンスサークルが参加して、日頃の練習の成果を披露するとともに来場者の誘導を積極的に行うなど記念行事の円滑な実施に貢献した。	

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
3. 地元の行事等に 参加して地域と の交流を深める 活動	せたがや福祉区民学 会 第1回学生交流会 に参加	25.10.23(水)	5名	・世田谷区にある本学等 4大学の学生、世田谷区、 福祉施設の職員等が参加 して、福祉の心をキーワー ドとした区民学会に本学の 手話ボランティアサークル が参加してサークルの活動 内容の発表を行うとともに 意見交換等を行っており、 福祉に関心を持つ有意義な 機会となった。
	品川区立日野第三 小学校養護教諭不在 期間の保健室におけ るボランティア	21.11.30(月)～ 12.11(金)	27名	・地元の小学生への支援を 通して医療系の大学の学生 として教員及び保護者の信 頼を得るとともに参加した 学生の勉学意欲を一層向上 させる機会となった。
	品川区立日野第三 小学校 発育測定ボラ ンティア	22. 5.17(月)	2名	同上
	品川区立日野第三 小学校 3・4年生遠足 引率	22. 5.20(木)	1名	・地元の小学生への支援を 通して医療系の大学の学生 として教員及び保護者の信 頼を得るとともに参加した 学生の勉学意欲を一層向上 させる機会となった。
	世田谷線沿線上町 周辺のクリーン活動	24. 9. 2(日)	8名	・地域活動に参加し地元商店 街の方々との交流を深める ことができた。
	天祖神社(上町)子供 神輿を地元の方々と 担ぐお手伝い	24. 9. 9(日)	8名	同上
	世田谷八幡宮の大人 神輿を地元の方々と 担ぐお手伝い	24. 9. 16(日)	12名	同上

東が丘看護学部学生による課外活動の状況について(平成22年度以降の主なもの)

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
1. 医療に関わる活動・参加	東京医療センター(目黒区)における大規模災害訓練への参加	23.10.25(火) 24.10.11(木) 25.10.29(火)	101名 134名 90名	・大事故、災害時における救命のトリアージ訓練に参加し、医療系の大学で学ぶ学生としてその重要性を認識する機会となった。
	東日本大震災で被災し福島県南相馬市、宮城県山元町、岩手県釜石市等の病院・仮設住宅におられる方々に足浴の後にアロマトリートメントの実施	24.12~ 25.12	述べ30名	・年に数回、学生が被災地の病院・仮設住宅を訪問してアロマトリートメントを行うことにより被災者等の癒しと元気回復に寄与する有意義な活動となっている。
2. 病院等における活動	東京医療センター(目黒区)における各種コンサート演奏	22.12.10(金)	11名	・器楽によるクラシック音楽を演奏し、入院患者さん等への癒しに寄与いたしました。
		23.8.8(月)	9名	
		23.12.26(月)	9名	
		24.8.8(水)	12名	
東埼玉病院(埼玉県蓮田市)における「芸術鑑賞会」等参加	23.8.16(火)	9名	同上	
	24.5.29(火)	9名		
東京医療センター(目黒区)における七タイイベント		23.6.30(木)~ 7.8(金)	5名	・東京医療センター1階外来ホールにおける七タイイベントの笹の飾り付けや短冊を作成し、朝・夕に枯笹の清掃などを行い、イベント終了後、短冊を神社に奉納し祈禱を行っていただきました。
		24.6.29(金)~ 7.9(月)	5名	
		25.6.29(土)~ 7.8(月)	15名	
3. 地元の行事等に参加して地域との交流を深める活動	あきさみよ豪徳寺 沖縄祭り(世田谷区)	22.10.10(月)	3名	・地域の祭りにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
3. 地元の行事等に 参加して地域と の交流を深める 活動	フィオーレコンサート 深沢区民センター (世田谷区)	22.11.3(水)	3名	・ピアノ教室のクリスマスコンサートにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。
	HugHugChu 子育てボランティアコンサート (中野区)	23.9.11(水)	9名	・子育てをしている親子と0～3歳児の子供に音楽を楽しんでいただきました。
	豪徳寺商店街「たまにゃん祭り」(世田谷区)	24.5.13(日)	9名	・地域の祭りにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。
	八幡親子のつどいの 広場 子育てボランティアコンサート (千葉県市川市)	24.8.28(火)	10名	・子育てをしている親子と0～3歳児の子供に音楽を楽しんでいただきました。
4. 目黒区消防団に 入団して消防 活動に参加	目黒区内	23.1.1(土) 39名入団 24.7.25(水) 24名入団 25.7.18(木) 55名入団	現在 112名が 在籍	・消防団の活動は、消防団始式、東京消防出初式、水防訓練、消防操法大会、総合防災訓練等の活動があり、わが街を災害から守るという使命感のもと、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っています。

東京医療保健大学の国際交流に関する基本方針

- 本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としている。
- この教育目標に基づき、実践を重視した教育・研究の充実・発展を図るため、国際的通用性の高い教育・研究を組織的に推進することとし、「国際交流に関する基本方針」を次のとおり定める。
 - 1、教職員・学生に係る海外派遣・海外実習を積極的に推進するとともに、海外派遣・海外実習プログラムの充実を図る。
 - 2、海外からの教職員・学生の受け入れを積極的に行うとともに、これを通して本学の国際化を推進する。
 - 3、海外の大学等との国際交流協定の締結を推進する。
 - 4、全学的な重点プロジェクトに沿って国際共同研究の推進を図るとともに、国際的シンポジウム等の企画・実施を図る。
 - 5、国際交流に係る事業実施及び推進に伴う経費については、補助金その他の外部資金の確保に努める。

在学生、教職員 各位

学長 木村 哲

平成 24 年度授業評価実施結果について

本学では、教育の質の向上を図るため、皆様のご協力のもと全科目について授業評価を実施しておりますが、このたび平成 24 年度の実施結果がまとまりましたのでご報告いたします。

在学生の皆さんから提出していただいた授業評価については、各科目の担当教員が 1 枚ずつ目を通してその感想及び授業への工夫等をまとめた上で、各学科長において整理願ったものを公表するとともに、授業評価実施結果についての概要及び質問項目別集計結果等についても公表いたします。

この実施結果を生かして授業内容・方法の創意工夫を行うなど、今後も教育の質の向上に努めることといたしますので、よろしく願いいたします。

看護学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部看護学科長
坂本 すが

1. 授業評価に関して

- 総合評価は全体的には 4.0 前後で平均以上でもあり、学生は総合的に授業には満足しているようでした。今後も学生の興味・関心に応えつつ、質を担保する授業を目指します。
- 授業内容については、一部の専門科目で、「他学科の学生等にも薦めたいと思うか」という点について評価が低くなっており、この点については評価項目自体に課題があるかと思えます。
- 教員の教え方についても、板書や教科書・プリントの活用について授業内容に即した教材などの活用であったかどうか評価されて然るべきだと思えます。
- 同様に学生への配布資料が詳細であることが必ずしも必要とは限らないと考えております。大学生としての学びができるようスキルが身につくように支援する必要があると感じます。
- 学生は多様な入試方法によって入学してくることから、学力差がある集団であることを大前提として、一斉講義だけではなく GW においても習熟度に合わせた授業展開を進める必要があると考えています。
- 学生自身が自分の授業態度を評価する項目では例年評価が高く、学生の意欲や取り組みに応える授業を提供したいと思えます。

2. 授業において工夫した点について

- ① 昨年度の授業評価を生かし、双方向型の授業やグループワークを活用し、能動的に授業に参加できるような方法を拡大・継続しました。
- ② 授業の初回ガイダンスで授業計画を説明し、課題の内容や提出の時期を伝え、課題で扱った内容を授業で展開するなど、授業方法を改善する科目が増え、結果が授業評価にも表れています。
- ③ 視聴覚教材を取り入れ、現実体験の少ない学生がイメージしやすいように工夫しました。
- ④ 配布する印刷物をカラー印刷にすることによって、より理解しやすい資料を作成するよう努めました。
- ⑤ 授業前にガイダンスを行い、学生が見通しをもって授業に望めるようにしました。また、授業で扱った内容をテストするなど、学生の意欲が出るように意識しました。
- ⑥ 授業内容についての学生の疑問点、意見、感想を聞くにとどまらず、授業資料の見やすさ、教員の授業スピード、声の大きさ等についてもコメントをもらい、それを次回の授業内容に反映させました。

- ⑦ 毎回の授業でポイントになる部分のミニテストを実施し、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分だった点については次回の授業で説明し、理解度を確認しながら授業を進めました。
- ⑧ 学生個人の学習成果が分かるように、成果物は個人名で提出させ、解説を行い学生各自が自己点検できるようにしました。

3. 今後の授業について

学生の意見を真摯に受けとめ、平成 23 年度から「授業力・教育力の強化」を目指し、各領域・各種委員会が様々な取り組みを計画してきました。平成 25 年度は学科内で共有したことを評価し、課題として生成することを考え、FD 活動と連携していきます。

4. 学生に対して

- 看護学科では、進級制度を導入した平成 23 年度に入学した学生が今年から本格的に実習科目を履修します。各学年で学ぶべき内容を確実に身につけた皆さんがどのように実習科目に取り組み、成果を上げるか教員たちは関心を持って見守り、力を十分に発揮できるよう支援します。
- 3 年前期までにどのように学んできたかが実習での学びを左右します。付け焼刃の知識は実習で通用しません。知識は使える形にして、自分の言葉で関連付けて整理しておきましょう。
- 平成 24 年度からは、成績の補助資料として 5 ポイント法を導入しました。資料は学習支援のためにも使用しますが、何よりも学生が自分自身の成績状況を学期ごとに正確に把握するとともに、学習の結果を俯瞰するためのものです。それによって卒業までにやるべきことに計画的に取り組めるようにしました。
- 今年度から国家試験対策を一新しました。どの科目も授業態度・出席率・取り組み姿勢は満点に近い自己評価となっております。授業以外の対策講座においても機会を活用して、主体的に学習しましょう。
- 教員は学生が将来において問題を抱えたとき、「へこたれない学生、へこたれても立ち上がる学生」を目指し教育を行っています。皆さんもその力を身につけるべく、多くの本を読み、教養を積み、仲間を思いやり、人間としての基本的な力を大学で身につけてください。自らが秘めている能力を自ら発見し、能力を活用できるような人になってください。

看護学科においては、今後も教育内容の充実に努めてまいります。

医療栄養学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部医療栄養学科長
小西 敏郎

1. 授業評価に関して

- 平成 24 年度の授業に対する学生の総合評価は平均 4.0 であり、前年の講義系の平均 4.1 及び実習系の平均 4.4 との評価に比しやや低下している。内訳をみると「教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか（評価 4.13）」や「教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか（評価 4.19）」などの「教員の姿勢について」の項目は好印象を与えているようだが、「教員は適切に板書を活用したと思うか（評価 3.81）」や「教科書・プリントを適切に用いたと思うか（評価 3.78）」あるいは「教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか（評価 3.78）」などの「教員の教え方」の項目に対して不満が強い結果であった。各教員の感想を確認したが、指摘を受けたいずれの教員もこの点については反省し、それぞれの方法で改善を図っており、今後も努力してゆく所存である。
- また「授業内容をよく理解できたと思うか（評価 3.90）」について評価が低いのは教育スタッフの立場からは残念であるが、「この授業は他学科の学生等にも薦めたいと思うか（評価 3.90）」が低かったことについては、医療栄養学科では管理栄養士資格取得を目指す高度に専門的な授業を多く行っているのではやむを得ないと思われる。むしろ学生諸君が「この授業内容は将来役立つと思うか（評価 4.16）」について多くの学生が肯定していることから、当学科の教育内容を受容しているものと思われる。
- 全体としては、多くの授業科目において高い点数が記載されており、個別的にも特に問題となる授業が行われているような評価結果ではないので、当学科のすべての授業において、学生が自分たちの将来を見据えて、集中して授業に取り組めたものと感じた。また各教員はこれらの評価を踏まえて担当科目の授業の改善・工夫に一層努力するとしており、各教員の更なる授業評価の向上に努力する姿勢がうかがえた。

2. 授業において工夫した点について

各教員は、医療栄養に関するより最新の情報を伝えながら、学生の学習意欲が高まるように、そして緊張感を持って学生が授業に臨めるように、講義に改善を加えている。また学生の理解度を注意しつつ講義を進行するために、様々な方法で、できるだけ多くの学生と双方向となるような形式を目指して改善を加えながら進めている。

具体的には、

- ① 授業の開始時に前回の授業内容についての小テストを行ったり、あるいは授業途中や終了時に小テストを行い、学生が緊張感を持って授業に臨むようにした。

- ② 演習や実験あるいは大クラスでの授業では、できるだけ大きな声で授業を行っている。
- ③ 実習・実験においてもスライドやテキストを準備し、実習・実験内容がより理解できるような授業を心がけた。
- ④ グループ別に論文のまとめ方を詳細にかつ親切に指導した。
- ⑤ 科目により、専用ノートを持たせ、テキストから重要と思われる部分を手書きで図や表を書かせ、印象を強くさせる工夫をした。
- ⑥ 科目によっては、グループで考えて結論を導き出す手法も取り入れるなどの改善を行ってきた。
- ⑦ 「食文化論」においては、日本の風土・歴史から我が国特有の食文化を理解させるようにし、そして築地市場などの食文化の中心となる現場を見学しレポートをまとめさせるように試みた。

3. 今後の授業について

- 今回の学生の意見を真摯に受けとめ、学生が学ぶことの楽しさや学び方に、興味を持って取り組めるように更に授業改善に努めてまいります。
特に当学科の考えとして、これからの医療栄養学は各種疾患の治療食のみならず、予防・健康維持のための栄養管理が求められていると考えている。したがって当学科での教育内容としては、「おいしいものを作る」という工夫は基本として習熟してもらうが、更に健康増進のための「体にバランスの取れる良い食事作り」を目標にしている。すなわち各種の疾患を念頭に置いた調理、栄養を目指しているので、病院における臨地実習及び3学科合同でチームを作って検討する「協働実践演習」などの必修科目を通して、医療現場に触れる機会をできるだけ設けて、更に疾患や医療への関心が高まるように教育していくことが非常に重要と考えている。
- そこで医療現場での見学・実習において学生の実習がスムーズに進行し、教育効果が向上するために OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) を導入することを計画している。
わが国では医学教育や薬剤師の教育では OSCE は実施されているが、栄養教育分野ではまだ少ない大学においてしか行われていない。そこで先行して OSCE を導入している医療保健学部看護学科におけるこれまでの導入経過と成果・問題点を参考にして検討してまいります。

4. 学生に対して

- いずれの教員も、能力、意欲に大きく個人差のある学生諸君に対して、すべての学生が学ぶことの楽しさや学び方に、興味を持って取り組めるように熱意を持って授業改善に努めて取り組んでいる。学生諸君は、それを良く理解して、授業中に自分が理解できないことがあれば自ら質問し、不満があればその都度教員に伝えてもらいたい。むしろ教員が質問はないか問いかけても応えがないことが多い。もし、授業中に質問するのは恥ずかしい、気後れがするようならば、授業終了後でも構わないので、どん

ん質問し、また意見を述べてほしい。

- アンケートの記述に「授業中に眠っている学生を起こすな」という意見があったが、できるだけ多くの学生に自分の重要な講義内容をよく理解してもらいたいとの気持ちで教員が授業にかけている情熱・エネルギーをよく理解すれば、このような意見は出るはずがないであろう。学習意欲がなく眠っている学生を積極的に起こす必要があるかどうかは議論の余地はあるが、とにかく眠る学生数を減らすことに教員は一層努力するので、学生諸君はそれに応えてほしい。
- またあらかじめ配布されているシラバスと実際の教育内容が異なることがあるが、年々変化する医療栄養の分野では時宜を得た最新の情報を伝えなければならない授業が多く、授業内容や順序が変わることがありうることを理解していただきたい。

医療情報学科の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・医療保健学部医療情報学科長
大久保 憲

1. 授業評価アンケート結果の感想

- 授業の総合評価において、全体的に 4.0 であり、多くの科目において高い点数が記載されています。授業内容の「関心」において高点数でも、「理解」については点数が低い場合があります。関心を理解につなげる工夫が必要と感じました。
- 学生自身の授業態度に対する評価も良好であり、熱心に授業を受けていた状況がわかりました。
- 「実験」では、毎回長時間拘束を余儀なくされ、取り組み方によっては時間内に終わらない学生もいます。教員としては実験の準備を怠らないようにしていかななくてはならないと思います。各種の資格認定試験をパスできるようにレベルを設定して授業を進めていく必要があります。
- 最近話題となった医療にかかわるニュースに興味を示す傾向があります。学生が医療に興味を持ってきている状況がわかりました。
- 教室の制約から、同じ授業を複数のクラスに分けて実施しているものがありますが、総合的な満足度に偏りがあることが分りました。その理由を考えなくてはなりません。

2. 授業において工夫した点について

- ① エクセルを使用して、統計処理ができるように教材を工夫して使用しました。
- ② 医療用データベースとして評判の高いものを紹介して、パソコンを使用したデモンストレーションを行いました。
- ③ 学生の自由記述にもあるように、理解しやすいようにゆっくり授業を行うことに注意を払い、学生の質問を受けながら授業を進めるようにしました。
- ④ 企業見学において、予め企業内容を調べたうえで参加し、翌週の授業では、獲得した知見を学生と共有するために発表会を実施しました。
- ⑤ 病院や IT 企業の社員の講演を聞いた後に講師を交えてグループワークを行いました。個人演習やグループ演習を交えて、質問しやすい雰囲気づくりに心がけました。
- ⑥ Desknet' s の活用として、回覧レポート機能を用いて報告してもらい、この報告をもとに授業の進捗に付き調査しました。
- ⑦ パワーポイントの配布資料を要点だけにして、細部は学生自身に記入してもらうようにしました。
- ⑧ 演習形式のプログラムの講義では、プログラム自体をホワイトボードに記載し、学生と双方向で学習するスタイルを取り入れています。

3. 今後の授業にどう生かすか

- 講義の最初に、毎回学習目標を明示するように心がけています。最初の1コマを前回の復習にあて、新規項目は残りの時間で展開して、少しずつ理解度が高まるように進めていきます。
- グループワークを中心にした講義では、学生個人とのインタラクションが少なかったと考え、授業中に学生個人とのやり取りをする時間を増やします。
- 授業評価からすると、授業内容に対する理解が不足しているように見受けられます。実験・実習科目では基礎的な問題量を増やして基本の定着に力を入れたいと思います。
- 授業評価アンケートにおいて、点数の低い値の項目を中心に授業を振り返り、早速改善できることを抽出して、次年度以降のシラバスにも反映させていきたいと思います。
- プリント、マルチメディア、板書をバランスよく取り入れて、興味ある授業を展開していきたいと考えています。

4. その他

- 学生の理解が想定していたより早い場合、シラバスの記載内容より深めることがあります。この設問の後に「シラバス通りに進んでいないが、それは良かった・悪かった」という設問があるとより正確に状況が把握できると考えます。
- ホワイトボードを使用せずに学生貸与のPC画面へ教員PCの内容を写すようにしていますので、「板書等を適切に活用したか」と「等」を入れた設問にさせていただくと評価が正しく表れるのではないかと考えます。

助産学専攻科の授業評価結果に対する考察（平成24年度）

助産学専攻科長 坂本 すが

1. 授業評価に関して

- 総合評価は全体的には4.0以上でした。学生が自ら評価する意欲的に授業に出席したかどうかの項目では、学生の出席率が高い点になっていました。学生にとってより重要である「授業内容をよく理解できたと思うか」という評価も同様でしたが、前年度より上昇しておりました。しかし、家族支援論や地域母子保健の科目で、取り組んだ事例や課題の意図が反映できず、「わかりにくい」というご意見がありました。この点は授業内容に関して学生が分かりやすいような授業方法や資料などを検討していきたいと考えます。
- 具体的には、幅広い知識や技術を得るために、多くの分野の講師による授業展開とすることや周産期医療などの動きを知るために、授業の一環としてセミナーや学会に参加することなども盛り込んでいきたいと考えています。
- また、教員の姿勢については高い評価をいただきました。今後も学生が授業を理解し、意欲が持てるように、更に分かる授業を目指していきます。

2. 授業において工夫した点について

- ① 授業等では、授業や実習に関する報告会を通し、進行状況に合わせて具体的な支援方法について教員間であらかじめ詳細にすり合わせをして授業に望むこと。
- ② 演習形式で行う授業では、学生の理解度が図れるように複数の教員が対応すること。
- ③ 授業ごとに学生の意見、感想を聞き、それを資料などに反映させること。
- ④ 記載されていた質問や疑問点は、次の授業でしっかりと答えること。
- ⑤ 学生の実践力を高めるために、演習時間を多く取り、実習に沿う形式をとること。

3. 今後の授業や実習について

授業や実習の評価を分析し、助産学専攻科内で統一した講義にできるように、授業計画立案時、領域会議において、授業や実習に関する報告会をして共有し、改善を図りたいと思います。そのため、教員間（非常勤含む）での授業や実習などの教育目標や指導方針を十分に共有してよい授業や教育が行えるように発展させていきます。また、助産師に必要な主体性・自立性を伸ばしていけるように、グループ演習やグループディスカッションを取り入れておりますが、新たな学習方法の検討と共に、教員が自ら成長するための研修プログラムも導入していきます。

4. 学生に対して

- 助産学専攻科は、助産師国家試験に合格できることを最重要課題としております。しかし、助産師は国家試験だけでは測れない能力も必要となります。知的な部分は国家試験でも評価されますが、それだけでは現場では助産師としての業務ができません。例えばチーム医療が重要といわれている中で、コミュニケーションなどの人との対応能力と確実な知識や技術の実施、それが妥当かどうかの判断力、予測力、そしてそれらを支える倫理的な態度が必要です。
- 教員は学生が将来において問題を抱えたとき、自ら考え行動できる能力を培える教育を探求し、実行していきたいと思っています。助産学専攻科においては、大学を卒業した後、すでに看護師及び保健師の国家試験に合格し、国家資格を持った方々を対象として、助産師を育成しております。そのため、学生の皆さんには、学びに対して自立した姿勢が求められます。
- 助産学専攻科の学生として、自らも多くの本を読み、積極的に授業や演習・実などから学習し、仲間を思いやり、分娩介助実習などの大きな壁を乗り越えてください。自らが秘めている能力を見つけ、自信を持って知識や実践力をつけていってください。教員も支援します。頑張ってください。

平成 24 年度授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学医療保健学部
助産学専攻科

○本学では、毎年度全授業科目について学生による授業評価を実施しています。この授業評価結果については当該教員に配布し、記述内容を確認した後、調査結果に対する感想及び授業内容・方法への改善などの取り組みについて記述したレポートを各教員から直接各学科長等に提出することとしており、各学科長は感想をまとめ学科長会議で報告した後、授業評価結果と併せて公表しております。

○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合（％）により表記して、前年度との比較をわかりやすくするとともに、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」について、その内容の主なものを表記しております。

○平成 24 年度の授業評価結果における肯定的な回答の「そう思う」及び「ややそう思う」の割合の合計でみると、質問項目のうち 5 つの大項目別の合計（ポイント）の高い順では、次のとおりです。
授業評価結果の経年比較では、各項目とも着実にポイントが増えておりますので、授業評価実施の効果が確実に上がっており学生及び教員の双方に、良い結果をもたらしていると評価することができます。
これらの集計結果を、公表することにより、授業評価に対する理解推進・意識啓発及び授業内容・方法の改善・充実がより一層図られるものと判断されます。

		前年度
・学生として、自分自身の授業態度について	81.9%	(81.7%)
・教員の姿勢について	77.2%	(77.1%)
・総合評価（この授業は総合的に満足できたと思うか）	74.7%	(74.4%)
・授業内容について	73.3%	(73.4%)
・教員の教え方について	71.2%	(71.2%)

○なお、授業評価アンケートは、今まで講義・演習・実習・実験とも同じ質問項目により実施しておりましたが、平成 25 年度の授業評価アンケートからは「講義・演習」と「実習・実験」によって質問項目を分けて実施することといたしておりますので、より詳細な授業評価結果を得られるものと考えられます。

平成24年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学 医療保健学部・助産学専攻科

○全科目数 324科目 ○調査対象者数 29,322人(延人数)
○総回答数 19,599枚(回答率 67%)

◆ 質問項目別集計結果(上段()は平成23年度アンケート結果)

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	%	%	%	%	%	%	%
1. 授業態度はよかったと思うか。	(42.6) 43.4	(37.5) 37.1	(17.4) 17.0	(2.0) 1.8	(0.4) 0.5	(0.1) 0.2	(100) 100
2. 出席率はよかったと思うか。	(63.3) 62.4	(24.3) 24.7	(10.6) 11.1	(1.4) 1.3	(0.3) 0.4	(0.1) 0.1	(100) 100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(40.3) 40.8	(37.6) 37.1	(19.3) 19.3	(2.2) 2.1	(0.4) 0.5	(0.2) 0.2	(100) 100
計	(48.6) 48.9	(33.1) 33.0	(15.9) 15.8	(1.9) 1.7	(0.4) 0.4	(0.1) 0.2	(100) 100
II 授業内容について	%	%	%	%	%	%	%
4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。	(36.8) 36.9	(40.5) 40.1	(18.6) 18.7	(2.9) 2.9	(1.0) 1.1	(0.2) 0.3	(100) 100
5. 授業内容をよく理解できたと思うか。	(27.5) 28.3	(41.6) 41.0	(24.9) 24.4	(4.6) 4.7	(1.4) 1.4	(0.1) 0.2	(100) 100
6. この授業内容は将来役立つと思うか。	(42.9) 42.0	(36.3) 36.8	(17.3) 17.7	(2.4) 2.2	(0.9) 1.0	(0.2) 0.3	(100) 100
7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。	(32.3) 31.4	(35.9) 36.2	(25.9) 26.2	(3.6) 4.0	(2.0) 1.9	(0.3) 0.3	(100) 100
計	(34.9) 34.7	(38.5) 38.6	(21.6) 21.7	(3.4) 3.4	(1.4) 1.3	(0.2) 0.3	(100) 100
III 教員の教え方について	%	%	%	%	%	%	%
8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	(38.7) 38.0	(37.4) 37.3	(21.3) 20.7	(1.6) 1.7	(0.7) 0.9	(0.3) 1.4	(100) 100
9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。	(36.9) 36.0	(38.0) 38.3	(20.6) 20.4	(3.2) 2.8	(1.1) 1.1	(0.2) 1.4	(100) 100
10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	(41.0) 40.4	(35.1) 36.1	(19.1) 18.5	(3.3) 3.2	(1.2) 1.3	(0.3) 0.5	(100) 100
11. 主として板書による授業が行われた場合には、 わかりやすい板書であったと思うか。	(32.6) 32.5	(33.9) 34.4	(26.4) 24.1	(3.5) 3.6	(1.4) 1.5	(2.2) 3.9	(100) 100
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施 内容はわかりやすかったと思うか。	(32.7) 32.5	(33.0) 33.5	(26.8) 24.8	(2.8) 2.9	(1.2) 1.4	(3.5) 4.9	(100) 100
13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイント による説明を聞くだけでなく、授業内容の要点 を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	(31.3) 31.8	(33.9) 33.5	(27.2) 25.9	(2.8) 3.0	(1.3) 1.3	(3.5) 4.5	(100) 100
14. (後期)教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(37.3) 37.6	(35.8) 36.9	(22.5) 21.3	(2.8) 2.6	(1.2) 1.1	(0.4) 0.5	(100) 100
計	(35.9) 35.5	(35.3) 35.7	(23.3) 22.3	(2.9) 2.8	(1.1) 1.2	(1.5) 2.5	(100) 100
IV 教員の姿勢について	%	%	%	%	%	%	%
15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(41.2) 40.8	(36.9) 37.2	(18.4) 18.1	(2.2) 2.3	(0.9) 1.1	(0.4) 0.5	(100) 100
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(44.2) 43.8	(35.8) 36.2	(17.0) 16.9	(1.8) 1.6	(0.8) 0.9	(0.4) 0.6	(100) 100
17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(35.8) 35.9	(37.6) 37.6	(21.5) 21.3	(3.4) 3.4	(1.3) 1.4	(0.4) 0.4	(100) 100
計	(40.4) 40.2	(36.7) 37.0	(19.0) 18.7	(2.5) 2.4	(1.0) 1.2	(0.4) 0.5	(100) 100
V 総合評価	%	%	%	%	%	%	%
18. この授業は総合的に満足できたと思うか。	(36.3) 35.8	(38.1) 38.9	(19.8) 19.4	(3.0) 3.0	(1.3) 1.3	(1.5) 1.6	(100) 100
全質問項目の平均	(38.7) 38.4	(35.9) 36.3	(20.9) 20.3	(2.7) 2.7	(1.0) 1.1	(0.8) 1.2	(100) 100

授業評価アンケート集計結果 年度別比較

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果

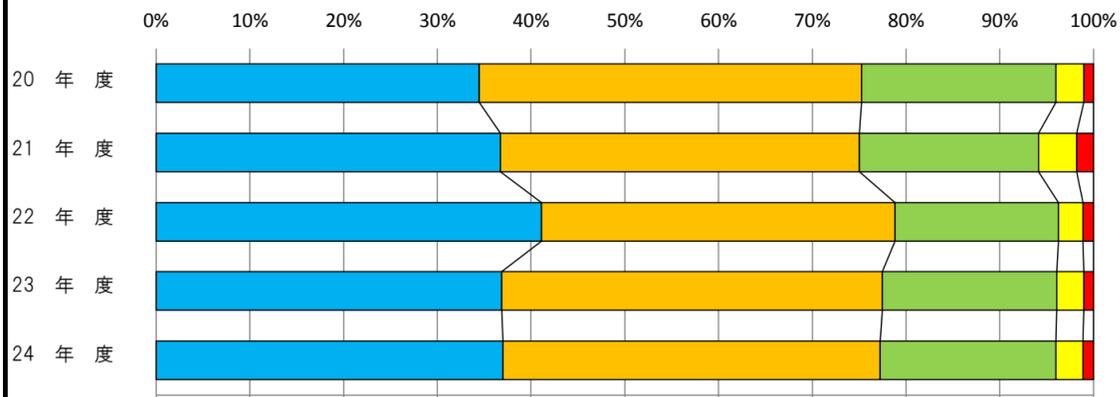
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
全科目数	236 科目	273 科目	297 科目	317科目	324科目
調査対象者数	25,285 人	25,318 人	27,806人	29,104人	29,322人
総回答数 (回答率)	20,596枚 (81%)	19,551枚 (77%)	22,698枚 (82%)	19,868枚 (68%)	19,599枚 (67%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

		そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない		
I 学生として、自分自身の授業態度について								
1. 授業態度はよかったと思うか。								
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%						そう思う	やや そう思う
20 年度		39.9	38.7	18.6	2.8	0.0	計	対前年度
21 年度		41.7	36.5	17.2	4.6	0.0	78.2	△ 0.4
22 年度		46.8	34.6	15.6	3.0	0.0	81.4	+ 3.2
23 年度		42.6	37.5	16.1	3.8	0.0	80.1	△ 1.3
24 年度		43.4	37.1	15.5	4.0	0.0	80.5	+ 0.4
2. 出席率はよかったと思うか。								
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%						そう思う	やや そう思う
20 年度		63.2	24.9	10.9	1.0	0.0	計	対前年度
21 年度		64.3	23.0	11.7	1.0	0.0	87.3	△ 0.8
22 年度		64.7	22.8	11.5	1.0	0.0	87.5	+ 0.2
23 年度		63.3	24.3	11.4	1.0	0.0	87.6	+ 0.1
24 年度		62.4	24.7	11.9	1.0	0.0	87.1	△ 0.5
3. 積極的に取り組んだと思うか。								
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%						そう思う	やや そう思う
20 年度		37.1	37.6	18.3	7.0	0.0	計	対前年度
21 年度		38.8	36.0	18.2	7.0	0.0	74.8	+ 0.1
22 年度		44.2	35.0	16.8	4.0	0.0	79.2	+ 4.4
23 年度		40.3	37.6	17.1	5.0	0.0	77.9	△ 1.3
24 年度		40.8	37.1	17.1	5.0	0.0	77.9	0
「計」(質問項目 1. ~ 3.)								
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%						そう思う	やや そう思う
20 年度		46.8	33.7	15.5	4.0	0.0	計	対前年度
21 年度		48.2	31.8	15.0	5.0	0.0	80.0	△ 0.5
22 年度		51.9	30.8	14.5	2.8	0.0	82.7	+ 2.7
23 年度		48.6	33.1	15.5	2.8	0.0	81.7	△ 1.0
24 年度		48.9	33.0	15.0	3.1	0.0	81.9	+ 0.2

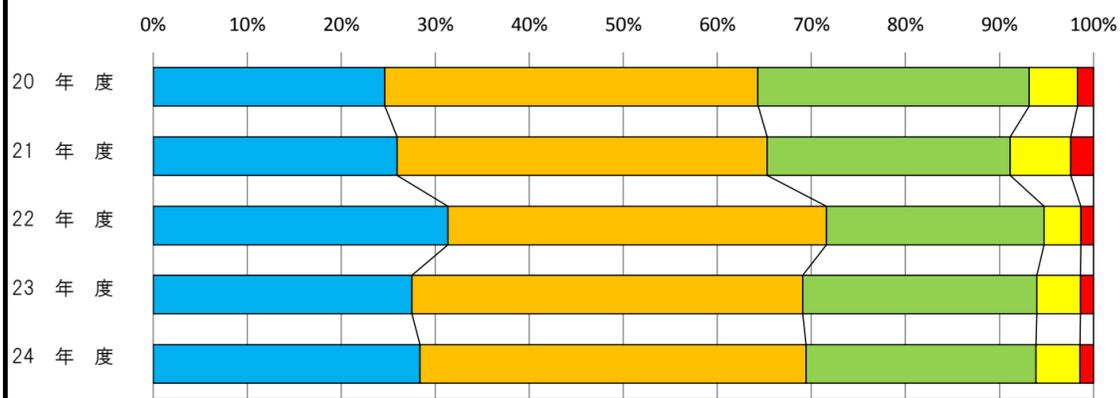
II 授業内容について

4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。



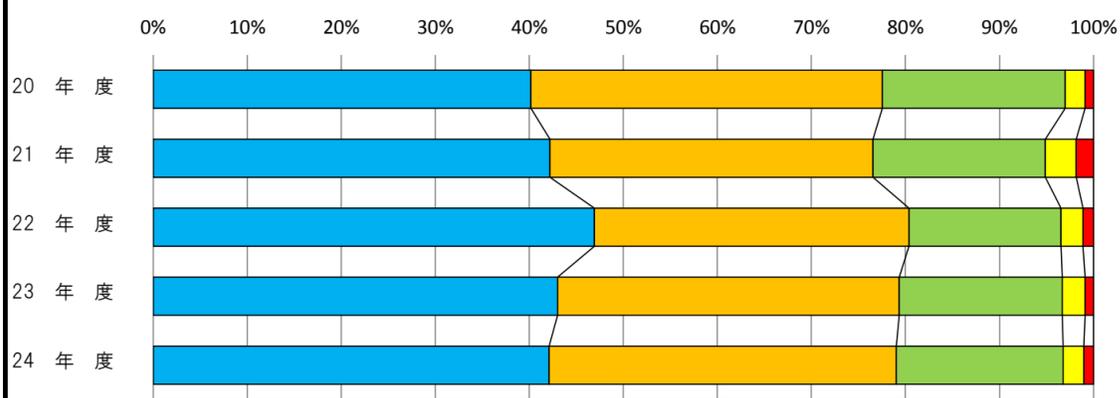
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
34.4	40.7	75.1	+ 5.0
36.5	38.1	74.6	△ 0.5
40.6	37.3	77.9	+ 3.3
36.8	40.5	77.3	△ 0.6
36.9	40.1	77.0	△ 0.3

5. 授業内容をよく理解できたと思うか。



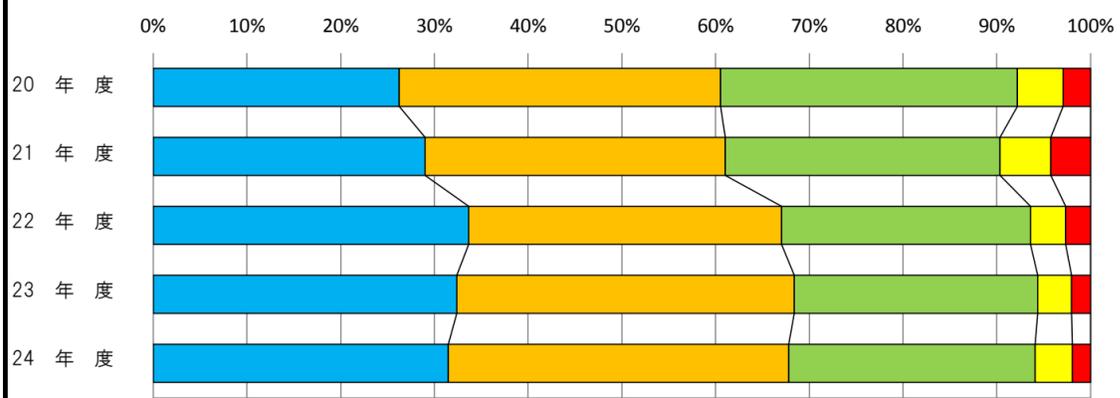
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24.6	39.6	64.2	+ 5.7
25.8	39.1	64.9	+ 0.7
31.0	39.8	70.8	+ 5.9
27.5	41.6	69.1	△ 1.7
28.3	41.0	69.3	+ 0.2

6. この授業内容は将来役立つと思うか。



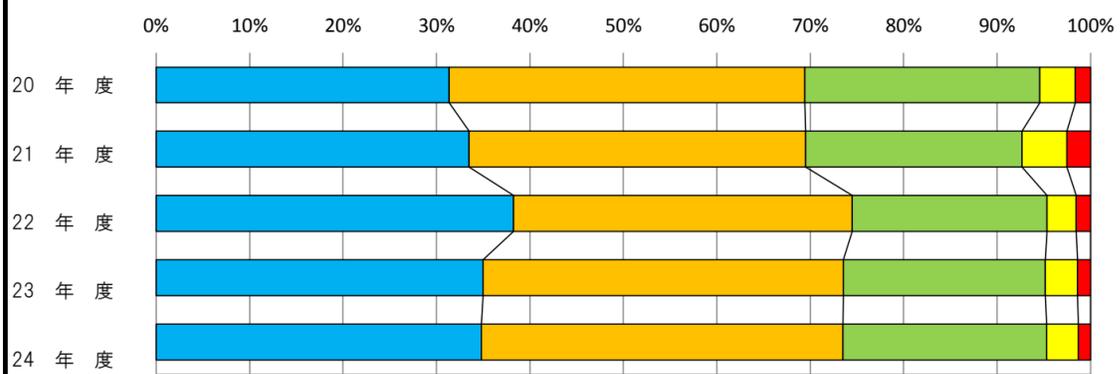
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
40.1	37.3	77.4	+ 4.8
41.9	34.1	76.0	△ 1.4
46.4	33.1	79.5	+ 3.5
42.9	36.3	79.2	△ 0.3
42.0	36.8	78.8	△ 0.4

7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
26.2	34.2	60.4	+ 5.0
28.8	31.8	60.6	+ 0.2
33.1	32.8	65.9	+ 5.3
32.3	35.9	68.2	+ 2.3
31.4	36.2	67.6	△ 0.6

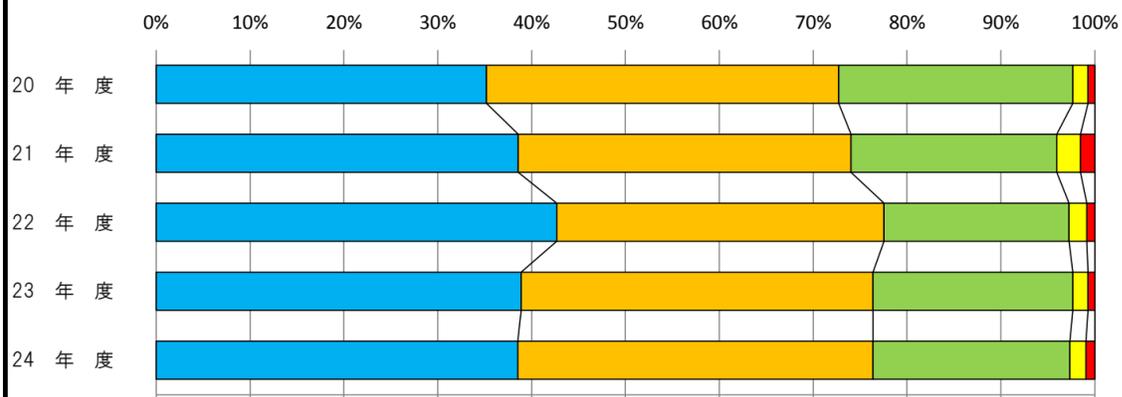
「計」(質問項目 4. ~ 7.)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
31.3	38.0	69.3	+ 5.1
33.3	35.8	69.1	△ 0.2
37.8	35.8	73.6	+ 4.5
34.9	38.5	73.4	△ 0.2
34.7	38.6	73.3	△ 0.1

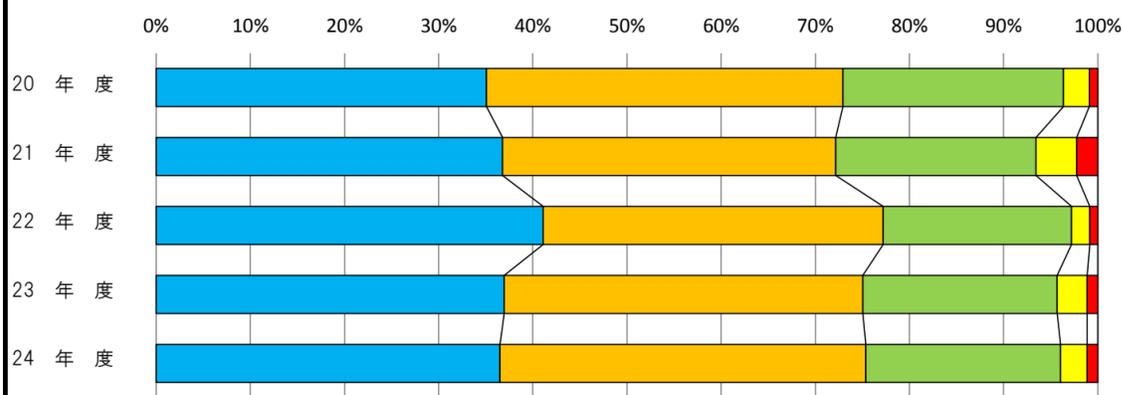
Ⅲ 教員の教え方について

8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。



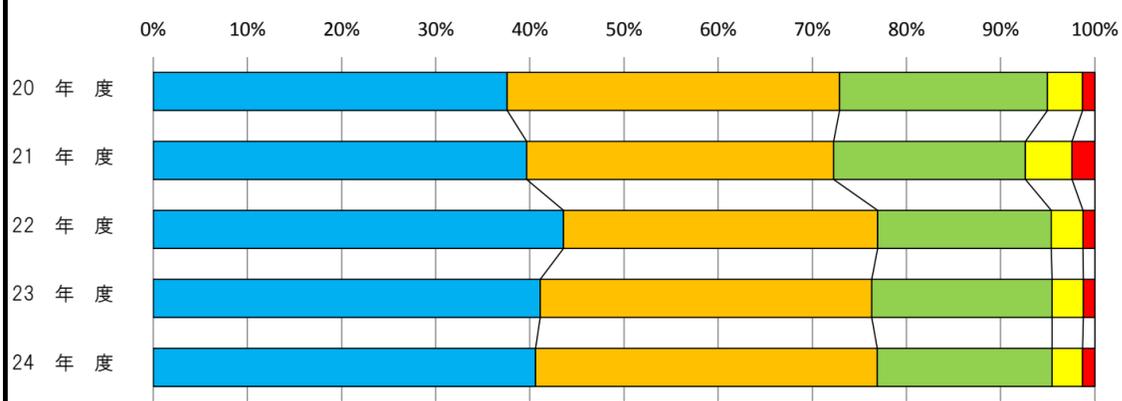
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.1	37.4	72.5	+ 5.2
38.2	35.1	73.3	+ 0.8
40.7	33.3	74.0	+ 0.7
38.7	37.3	76.0	+ 2.0
38.0	37.3	75.3	△ 0.7

9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。



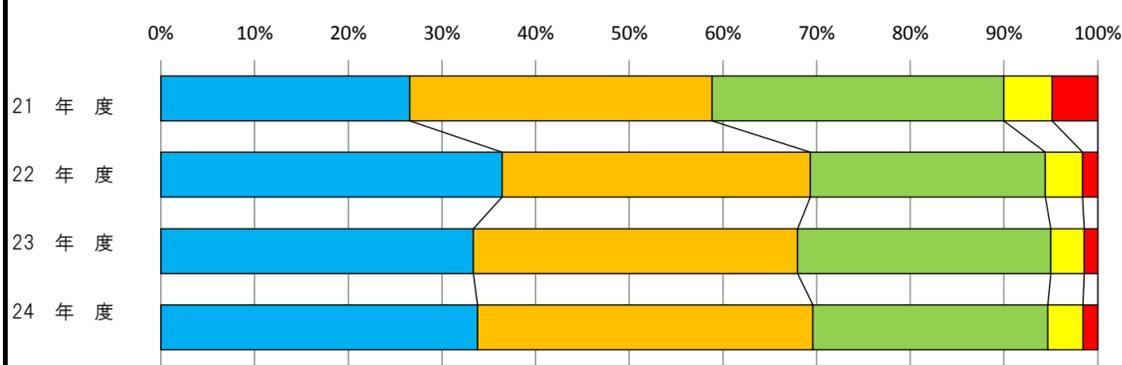
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.0	37.8	72.8	+ 7.5
36.5	35.1	71.6	△ 1.2
38.6	33.9	72.5	+ 0.9
36.9	38.0	74.9	+ 2.4
36.0	38.3	74.3	△ 0.6

10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。



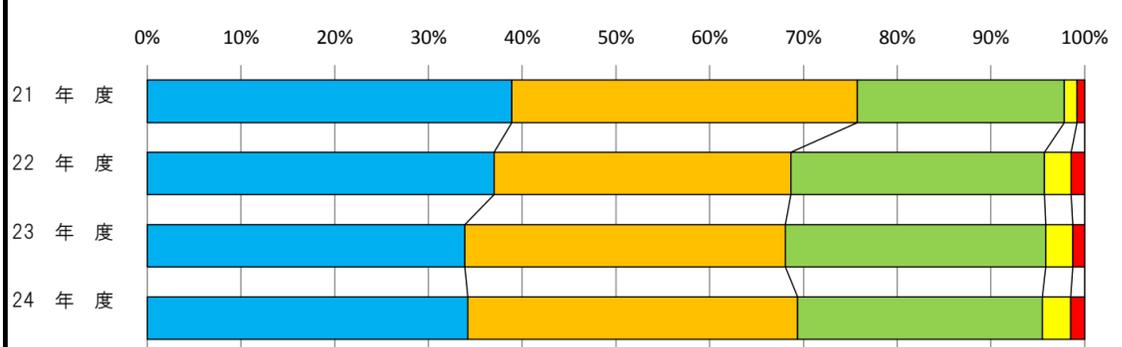
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
37.5	35.2	72.7	+ 7.5
39.3	32.3	71.6	△ 1.1
41.6	31.9	73.5	+ 1.9
41.0	35.1	76.1	+ 2.6
40.4	36.1	76.5	+ 0.4

11. 主として板書による授業が行われた場合には、わかりやすい板書であったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
26.3	31.9	58.2	-
34.0	30.7	64.7	+ 6.5
32.6	33.9	66.5	+ 1.8
32.5	34.4	66.9	+ 0.4

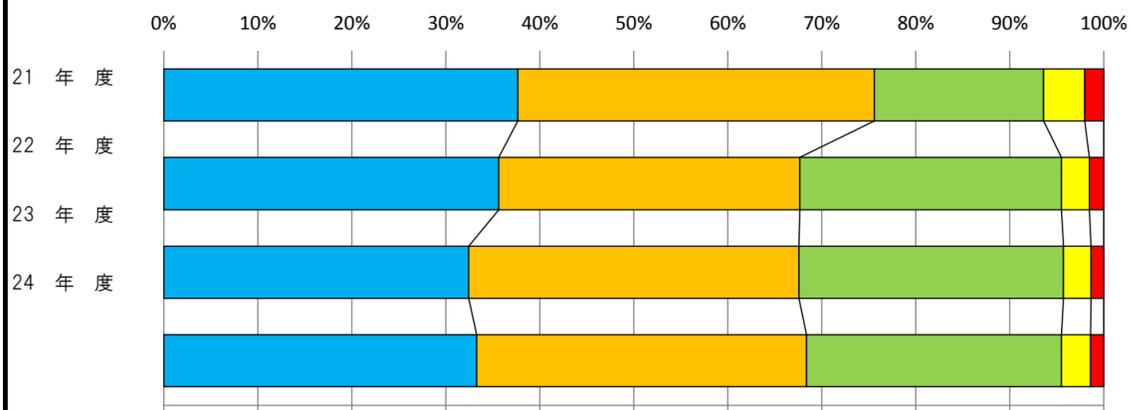
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施内容はわかりやすかったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
38.3	36.3	74.6	-
33.9	29.0	62.9	△11.7
32.7	33.0	65.7	+ 2.8
32.5	33.5	66.0	+ 0.3

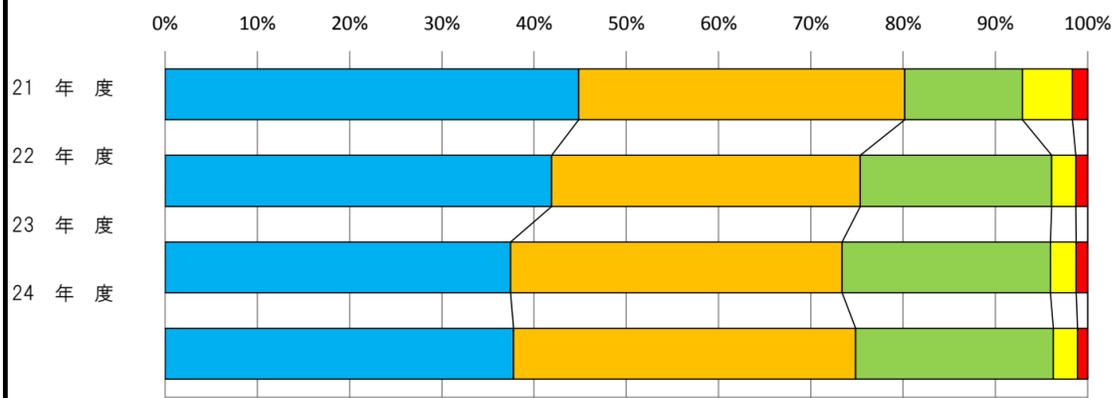
Ⅲ 教員の教え方について

13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイントによる説明を聞くだけでなく、授業内容の要点を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。



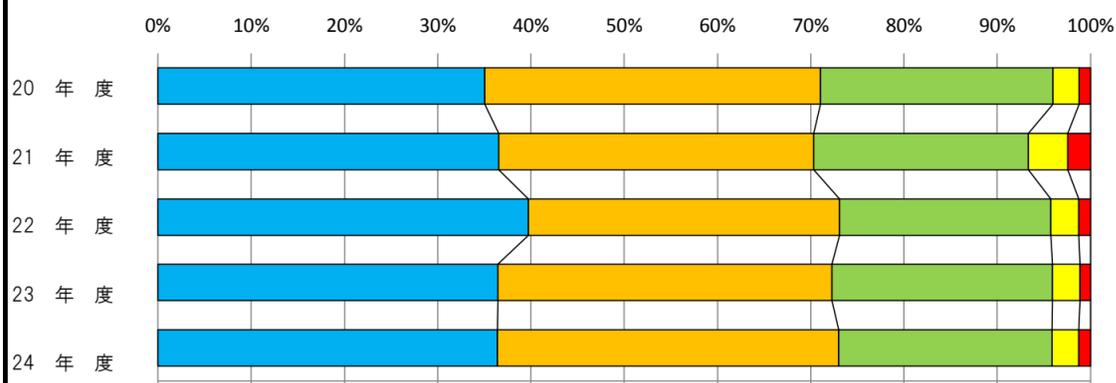
そう思う	ややそう思う	計	対前年度
37.2	37.5	74.7	-
32.7	29.4	62.1	△12.6
31.3	33.9	65.2	+ 3.1
31.8	33.5	65.3	+ 0.1

14. (後期) 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
44.4	35.0	79.4	-
40.0	31.9	71.9	△ 7.5
37.3	35.8	73.1	+ 1.2
37.6	36.9	74.5	+ 1.4

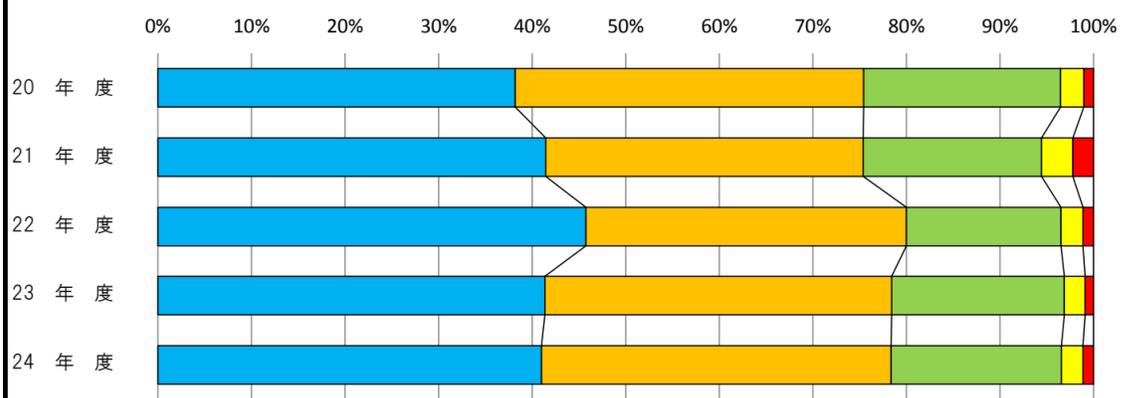
「計」(質問項目 8. ~ 14.)



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
35.0	35.9	70.9	+ 7.0
34.3	29.1	63.4	△ 7.5
37.4	31.4	68.8	+ 5.4
35.9	35.3	71.2	+ 2.4
35.5	35.7	71.2	0

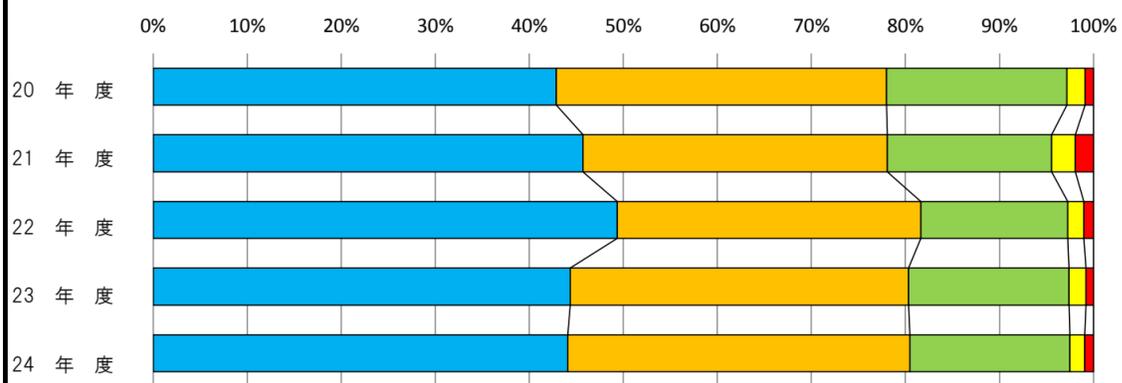
Ⅳ 教員の姿勢について

15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
38.1	37.2	75.3	+ 6.0
42.6	31.8	74.4	△ 0.9
45.1	33.8	78.9	+ 4.5
41.2	36.9	78.1	△ 0.8
40.8	37.2	78.0	△ 0.1

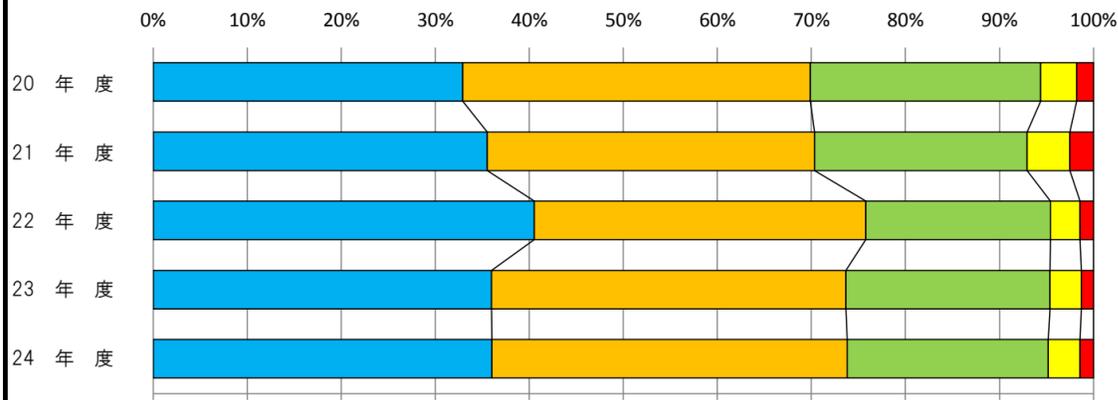
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。



そう思う	ややそう思う	計	対前年度
42.7	35.0	77.7	+ 4.7
46.8	31.2	78.0	+ 0.3
48.6	31.8	80.4	+ 2.4
44.2	35.8	80.0	△ 0.4
43.8	36.2	80.0	0

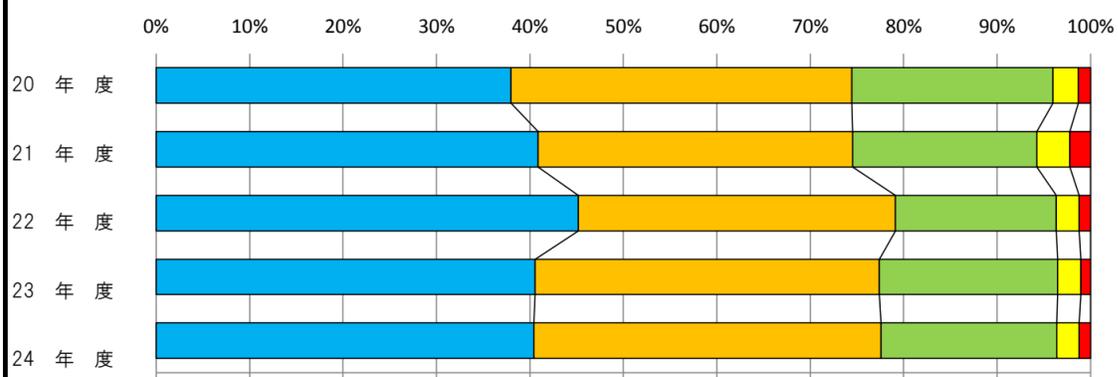
IV 教員の姿勢について

17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
32.8	36.9	69.7	+ 8.1
32.5	30.5	63.0	△ 6.7
40.0	34.8	74.8	+11.8
35.8	37.5	73.3	△ 1.5
35.9	37.6	73.5	+ 0.2

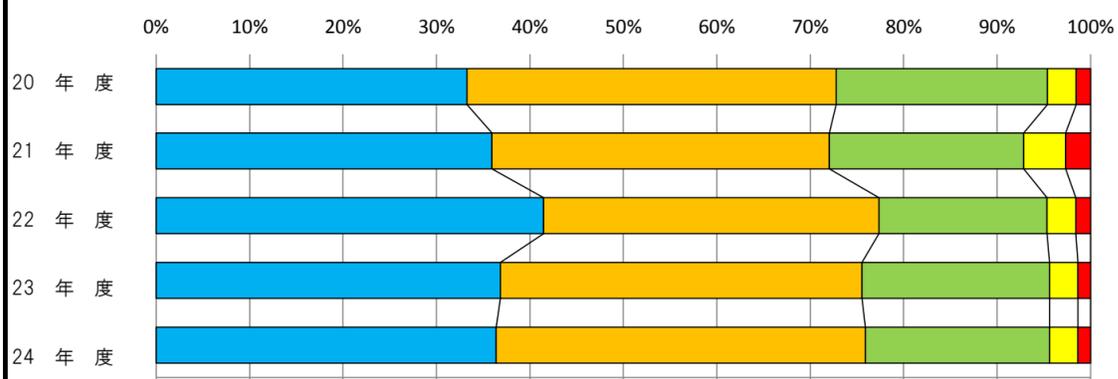
「計」(質問項目 15. ~ 17.)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
37.9	36.4	74.3	+ 6.3
40.7	31.2	71.9	△ 2.4
44.6	33.5	78.1	+ 6.2
40.4	36.7	77.1	△ 1.0
40.2	37.0	77.2	+ 0.1

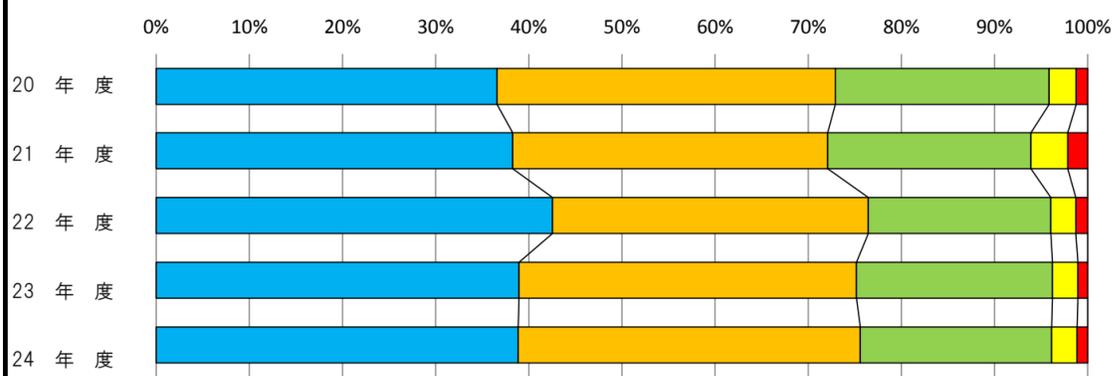
V 総合評価

18. この授業は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
32.5	38.6	71.1	+ 7.2
32.6	33.6	66.2	△ 4.9
40.1	34.7	74.8	+ 8.6
36.3	38.1	74.4	△ 0.4
35.8	38.9	74.7	+ 0.3

全質問項目の平均

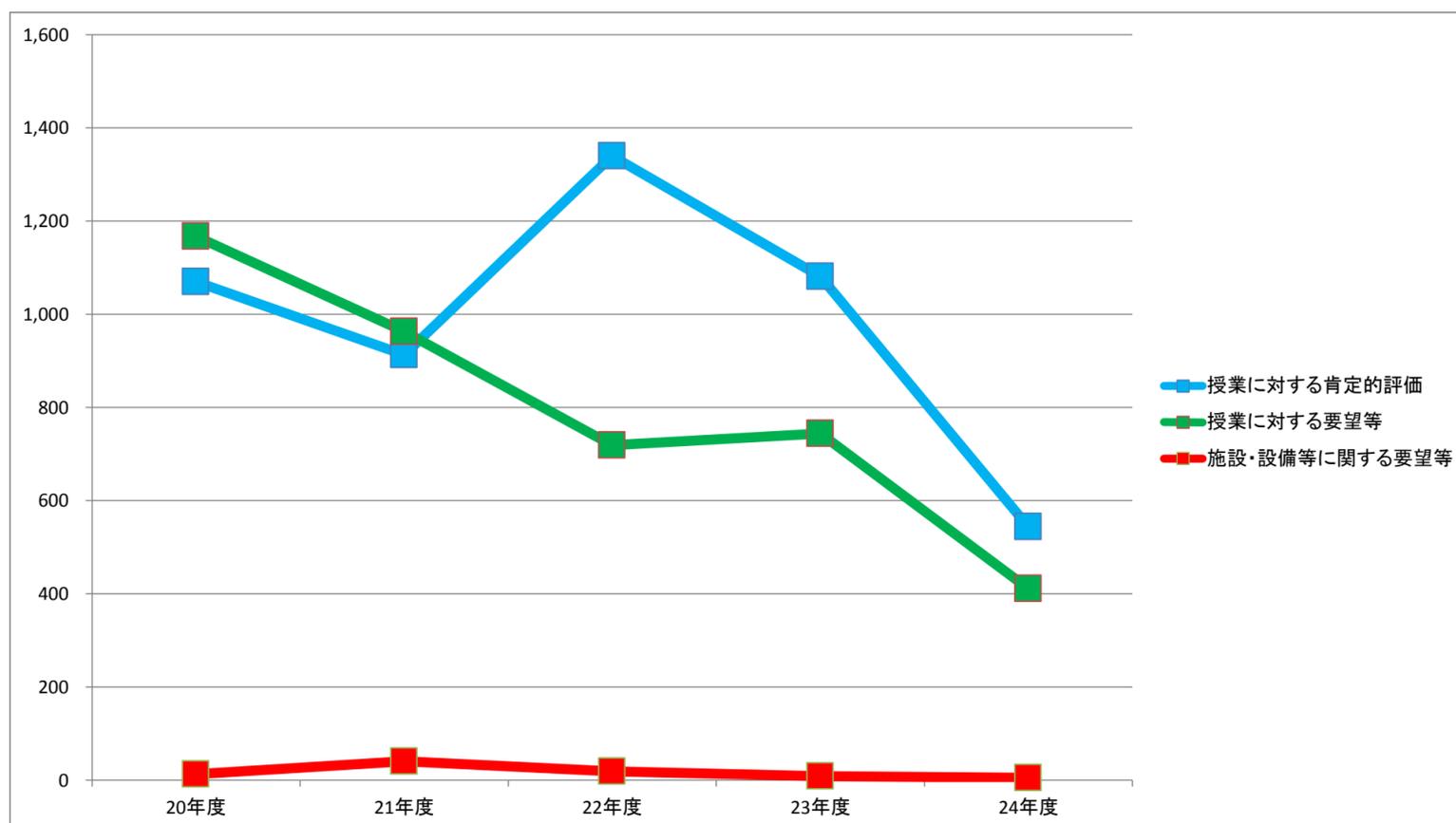


そう思う	やや そう思う	計	対前年度
36.5	36.2	72.7	+ 5.9
37.1	30.4	67.5	△ 5.2
41.2	32.8	74.0	+ 6.5
38.6	35.9	74.5	+ 0.5
38.4	36.3	74.7	+ 0.2

◆ 年度別 自由記述集計結果

分類項目／年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
授業に対する肯定的評価	(47.6%) 1,070	(47.6%) 913	(64.5%) 1,340	(58.9%) 1,081	(56.7%) 546
授業に対する要望等	(51.8%) 1,167	(50.2%) 963	(34.6%) 719	(40.6%) 744	(42.8%) 413
施設・設備等に関する要望等	(0.6%) 13	(2.2%) 41	(0.9%) 19	(0.5%) 9	(0.5%) 5
総件数	(100.0%) 2,250	(100.0%) 1,917	(100.0%) 2,078	(100.0%) 1,834	(100.0%) 964

※ () 内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	546	<ul style="list-style-type: none"> 看護学科の治療学総論の授業においては手術の映像はとても面白くて興味深かったです。他の手術についても聞いてみたかったです。 看護学科の疾病治療論Ⅱの授業においてはリハビリのことも分かったのですが、その前の人との関わりの大切さも学ぶことが出来ました。 医療栄養学科の臨床薬理学の授業においては、研究所見学など、興味深い内容の授業でとても良かった。座学だけでなく、こういうのも増やした方が面白いかもしれないと思いました。 医療栄養学科の応用栄養学実習Ⅱの授業においては様々なライフステージ別の献立をたてる難しさ、イメージのズレを実感できた。とても為になった。 医療情報学科のマルチメディア工学の授業においては情報処理の幅が広がる授業だった。パターン認識や画像処理がとても面白かった。
授業に対する要望等	413	<ul style="list-style-type: none"> レジュメを使うか、ビジュアルブックを使うかして大事なところを教えてください。 パワーポイントの速度が早過ぎて写せませんでした。 スライドの文字が多くて見づらかったのとどこを押さえておくのかが分かりづらかった。 テスト前の集中講義で日程的に詰まっていた大変だった。 事前課題でも理解できるものと授業でないと理解できないものを区別して欲しい。
施設・設備等に関する要望等	5	<ul style="list-style-type: none"> 教室が狭かったのでスライドも見にくかった。場所をもう少し考えて欲しい。 マイクの音が悪かった。 いつも教室が暑いです。
計	964	

大学院医療保健学研究科修士課程の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

大学院医療保健学研究科長 小林 寛伊

1. 授業評価アンケートに対する感想

- 平成 19 年度から開始された大学院授業評価の年次推移をみると、すべての項目において改善されてきている様子が受け取れます。授業内容や方法の改善が図られてきているものと評価できます。具体的な数値を以下に示します。
- 全 44 科目に対して項目別に集計した結果では、「授業に意欲的に取り組めた」とする者は 74.9%（前年 64.9%）であり、「ややそう思う」とする意見 21.4%（前年 28.4%）を加えると 96.3%（前年 93.3%）となり、前年に比較して更に良い評価となっています。院生が授業に積極的に取り組めたものと判断できました。
- 授業に興味・関心が持てたかどうかについては、97.8%（前年 91.2%）が「そう思う」もしくは「ややそう思う」であり、院生にとって興味ある授業であったと理解できます。
- 授業の理解に関しては、「ややそう思う」までを加えると、89.4%（前年 88.2%）であり、昨年同様に概ね授業内容が理解され、教員の意図することが伝わっていると思われました。
- 授業が将来に役立つかどうかでは、96.6%が肯定的な意見を述べているため、有益な内容の授業が展開されていることを示しています。
- 期待通りの授業であったかどうかにおいては、8.6%が否定的な判定をしていますが、その理由について具体的記載がありません。
- 授業の進め方については、92.9%が適切であったと評価をしていました。学生のレベルに沿った授業であったとする者は 93.8%でした。
- 授業の教材などに対しては、94.5%が満足しており、パワーポイントのハンドアウト資料やプリントなどが適切に配布できていたと評価できます。教員の授業に対する熱意に関しても 97.2%が評価している現状でした。一方、院生においては、資料配布に頼ってしまう事の無いように授業中に筆記していく訓練も必要と思われます。
- 以上、総合的満足度に関して、95.1%（前年 89.8%）が「ややそう思う」以上であったことは、これまで培ってきた授業の工夫が良い方向で満足度に影響したものであると思われます。

2. 授業において工夫した点とその評価

- 受講生に主体的にプレゼンテーションをしてもらい議論するようにしました。そして、受講生自身の体験を含めて発表する機会を設けました。
- 開講する科目の全体を見通してタイムスケジュールの作成と科目調整（現場調整）をしました。

- 講義は大部分 Power Point を使用し、資料はカラーを中心に作成したものを配布しました。また、受講生の理解度を知らうえて講義のポイントを次回の講義の前に簡単なテストを実施しました。全員が 60 点以上でした。
- 修士に見合った授業内容とすることに心がけました。
- 最新情報を加えて分かり易く興味を持てる授業となるように工夫しました。しかし学生から核心に触れるような質問は残念ながら寄せられませんでした。

3. 授業評価結果を今後の授業にどの様に生かしていくか

- 全体的に高い評価の中でも低い項目もあったため、その点を踏まえて今後の授業に生かしていきたいと思います。
- プレゼンテーションや主体的な発言を取り入れた授業が高い評価を受けているので、次年度も受講生が主体的に取り組めるような授業をしたいと思います。
- 次回のシラバス作成時に、科目責任者を明確にして改善し、早い段階で受講生に授業計画を示したい。そうすれば、受講生が職場との調整もしやすくなると思われます。
- コース教育理念に対して、各科目が時間配置を行って教育内容が検討されていることが大切です。
- 臨床経験の豊富な受講生に対して、教育内容や受講生自身の期待を明確にしていきたいと思います。
- 授業評価結果を真摯に受け止めることは大切ですが、極端な少数意見には左右されることがないように、内容を整理して、受講者が興味を持って勉強できるように努力します。

4. その他の記述

- 大学院では、学部学生と異なり免許を持つ受講生に対しての授業コンセプトがやや曖昧になっている部分があるので、キャリア形成の一環としての修士教育をどの様に考えるか、具体的な道筋や方向性の明確化に努めていきたいと思います。
- 受講生はお互いの連携もよく、一丸となって勉強しており、熱心に講義を聞いていただくことができました。
- 自由記述において肯定的評価としては以下の記述がありました。
 - 1) どの講義も面白く、皆のプレゼンテーションや忌憚のない意見交換が刺激となった。
 - 2) 質的研究の具体的なやり方に触れられてよかった。
 - 3) 臨床現場で役に立つ自分のメンタルコントロールにも役立つ授業であった。
 - 4) 資料が多すぎて驚きもしたが、その後も見返すことができるとても役立っている。
 - 5) 政策現場の生の声も聞くことができ良かった。

- 自由記述において授業に対する要望事項として以下の記述がありました。
- 1) 授業概念の枠組みや研究計画の立て方の具体的方法を詳しく学びたかった。
→ 研究計画の立案や進行に関する問い合わせには速やかに応じて、研究テーマに即した適切な個別対応に心がけたいと思います。
 - 2) 授業内容が直前までわからなかったため、興味が持てない内容となったものがあった。
→ シラバスに忠実な授業の展開に努め、毎回の授業の終わりに次回授業のポイントを説明できるようにしたいと思います。
 - 3) 担当講師により差があるが、質疑応答では学生のレベルに応じた回答がほしかった。
→ 丁寧に分かり易く回答するように心がけます。

以上

平成24年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

○全科目数 44科目 ○調査対象者数 375人（延人数）
○総回答数 323枚（回答率86.1%）

◆ 質問項目別集計結果 【上段（ ）は平成23年度集計結果】 (％)

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらと も いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思うか	(64.9)	(28.4)	(6.0)	(0.7)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	74.9	21.4	3.1	0.6	0.0	0.0	100.0
2. この授業に興味、関心が持てたと思うか	(67.5)	(23.7)	(6.8)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	80.5	17.3	1.9	0.0	0.0	0.3	100.0
3. 授業内容をよく理解できたと思うか	(48.2)	(40.0)	(11.0)	(0.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	56.3	33.1	9.9	0.3	0.0	0.3	100.0
4. この授業内容は将来役立つと思うか	(74.3)	(20.3)	(3.4)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	82.4	14.2	3.1	0.0	0.0	0.3	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容だったか	(61.4)	(25.7)	(7.5)	(4.1)	(1.3)	(0.0)	(100.0)
	69.3	21.7	7.7	0.9	0.0	0.3	100.0
6. この授業を、他の人にも勧めたいと思うか	(62.2)	(20.3)	(10.8)	(4.7)	(2.0)	(0.0)	(100.0)
	74.6	18.3	5.6	0.9	0.3	0.3	100.0
7. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか	(66.2)	(18.9)	(12.2)	(2.7)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	78.9	14.2	6.5	0.3	0.0	0.0	100.0
8. この授業の進め方は適切だったと思うか	(62.2)	(25.7)	(10.1)	(1.4)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	75.9	17.0	5.9	0.9	0.0	0.3	100.0
9. この授業の教材・教具等は適切だったと思うか	(63.8)	(20.3)	(12.2)	(3.1)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	76.2	18.3	4.6	0.6	0.0	0.3	100.0
10. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか	(76.4)	(16.2)	(6.8)	(0.6)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	85.8	9.6	3.7	0.3	0.3	0.3	100.0
11. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか	(77.0)	(14.2)	(7.4)	(1.4)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	83.3	10.8	4.6	0.6	0.3	0.3	100.0
12. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか	(79.1)	(17.6)	(2.7)	(0.0)	(0.6)	(0.0)	(100.0)
	87.0	10.2	1.5	0.6	0.3	0.3	100.0
13. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか	-	-	-	-	-	-	-
	71.8	22.0	5.0	0.9	0.0	0.3	100.0
14. この授業は総合的に満足出来たと思うか	(67.5)	(22.3)	(8.2)	(2.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	76.2	18.9	3.7	0.9	0.0	0.3	100.0
質問項目13以外の平均	平成23年度	(67.0)	(22.6)	(8.1)	(2.0)	(0.4)	(100.0)
	平成24年度	77.0	17.3	4.8	0.5	0.1	100.0
全質問項目の平均（平成24年度）		76.6	17.6	4.8	0.6	0.1	100.0

※質問項目13は平成24年度に新たに加えたもの。

授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

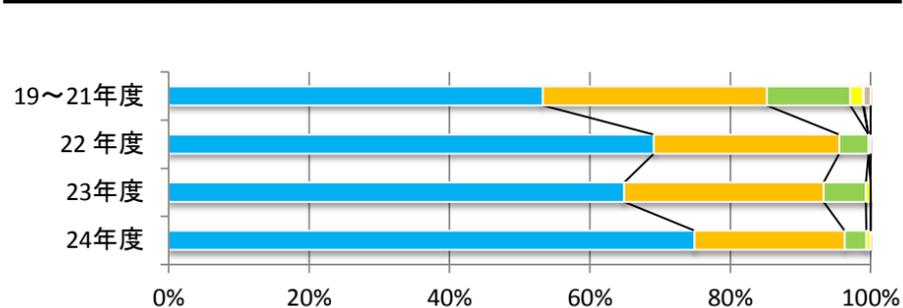
◆ 年度別 授業評価集計結果 (平成19~21年度は平均。以下同じ)

	19~21年度	22年度	23年度	24年度
全科目数	37科目	37科目	37科目	44科目
調査対象者数 (延人数)	956人	375人	347人	375人
総回答数 (回答率)	661枚(69%)	266枚(71%)	243枚 (70%)	323枚 (86%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

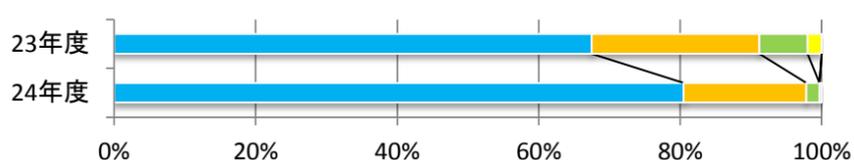
■ そう思う	■ ややそう思う	■ どちらとも いえない	■ そう思わない	■ 全くそう 思わない
--	--	--	--	---

Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか



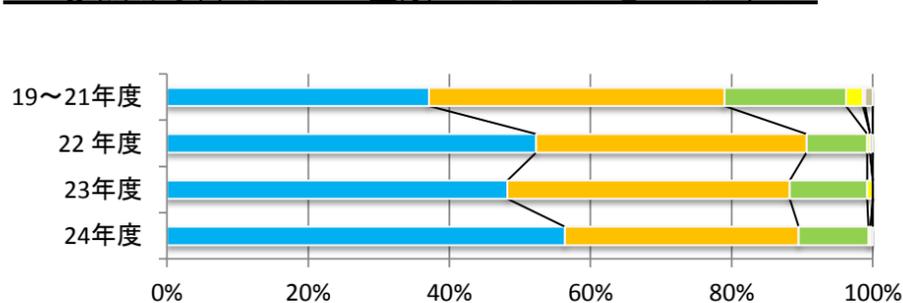
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	53.3	31.9	85.2	—
22年度	69.1	26.4	95.5	+10.3
23年度	64.9	28.4	93.3	△2.2
24年度	74.9	21.4	96.3	+3.0

Q2.この授業に興味・関心が持てたと思いますか (23年度新規質問項目)



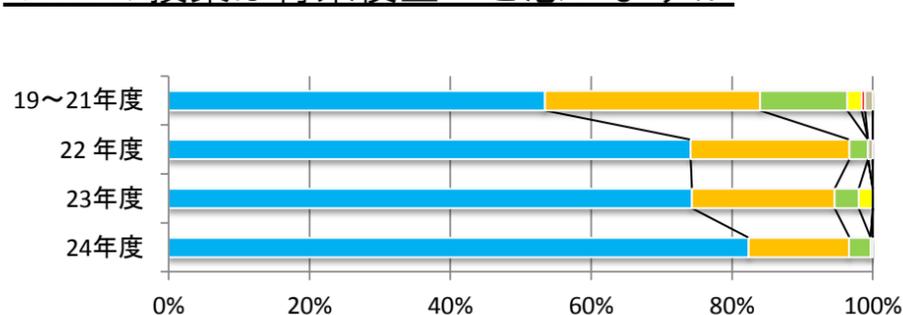
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	67.5	23.7	91.2	—
24年度	80.5	17.3	97.8	+6.6

Q3.授業内容をよく理解できたと思いますか



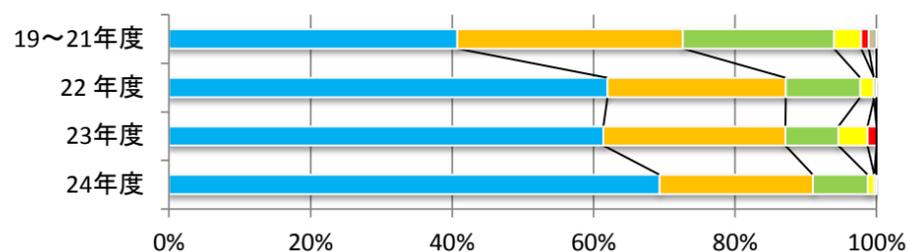
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	37.1	41.9	79.0	—
22年度	52.3	38.3	90.6	+11.6
23年度	48.2	40.0	88.2	△2.4
24年度	56.3	33.1	89.4	+1.2

Q4.この授業は将来役立つと思いますか



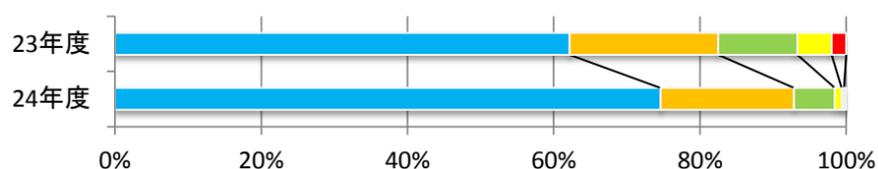
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	53.5	30.6	84.1	—
22年度	74.1	22.6	96.7	+12.6
23年度	74.3	20.3	94.6	△2.1
24年度	82.4	14.2	96.6	+2.0

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか



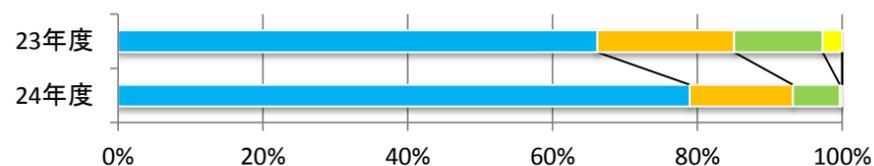
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	40.8	32.0	72.8	—
22年度	62.0	25.2	87.2	+14.4
23年度	61.4	25.7	87.1	△0.1
24年度	69.3	21.7	91.0	+3.9

Q6.この授業を、ほかの人にも勧めたいと思いますか (23年度新規質問項目)



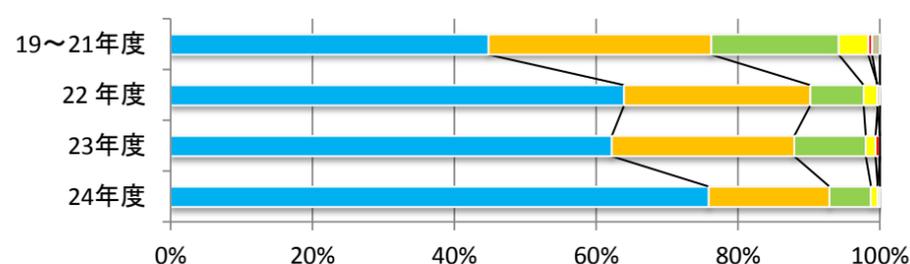
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	62.2	20.3	82.5	—
24年度	74.6	18.3	92.9	+10.4

Q7.授業はシラバスに沿って行われたと思いますか (23年度新規質問項目)



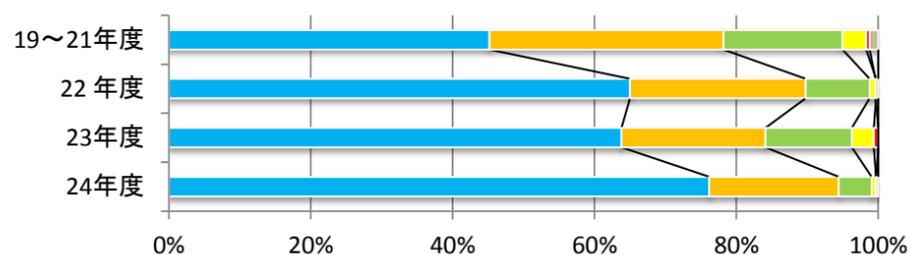
(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	66.2	18.9	85.1	—
24年度	78.9	14.2	93.1	+8.0

Q8.この授業の進め方は適切だったと思いますか



(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	44.8	31.4	76.2	—
22年度	63.9	26.3	90.2	+14.0
23年度	62.2	25.7	87.9	△2.3
24年度	75.9	17.0	92.9	+5.0

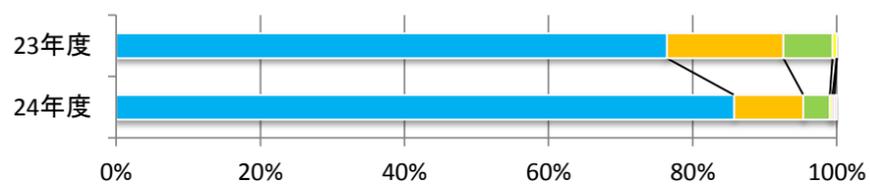
Q9.この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか



(%)				
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	45.2	33.0	78.2	—
22年度	65.0	24.8	89.8	+11.6
23年度	63.8	20.3	84.1	△5.7
24年度	76.2	18.3	94.5	+10.4

Q10.教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思いますか

(23年度新規質問項目)

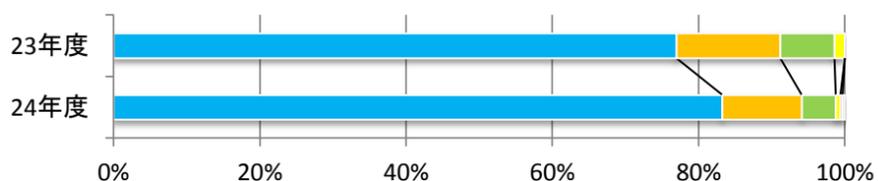


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	76.4	16.2	92.6	—
24年度	85.8	9.6	95.4	+2.8

Q11.教員は限られた授業時間を適切に活用したと思いますか

(23年度新規質問項目)

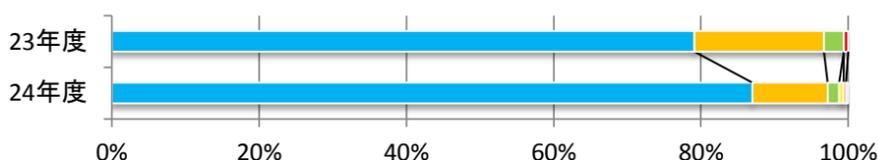


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	77.0	14.2	91.2	—
24年度	83.3	10.8	94.1	+2.9

Q12.教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思いますか

(23年度新規質問項目)

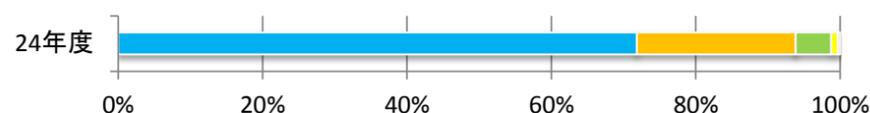


(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
23年度	79.1	17.6	96.7	—
24年度	87.0	10.2	97.2	+0.5

Q13.教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思いますか

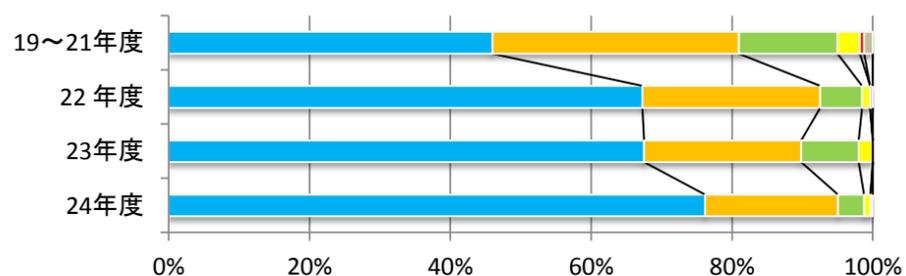
(24年度新規質問項目)



(%)

	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	71.8	22.0	93.8	—

Q14.この授業は総合的に満足出来たと思いますか



(%)

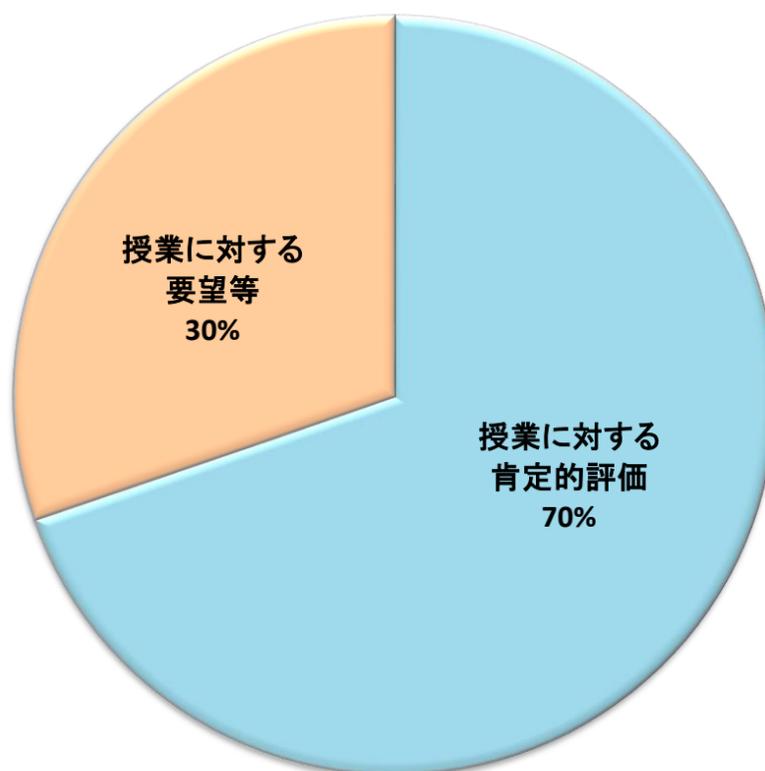
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
19~21年度	46.0	35.0	81.0	—
22年度	67.3	25.2	92.5	+11.5
23年度	67.5	22.3	89.8	△2.7
24年度	76.2	18.9	95.1	+5.3

◆ 自由記述の主な内容（平成24年度）

内容	件数	主な内容
授業に対する 肯定的評価	23	どの講義も非常に面白かった。みんなのプレゼンや忌憚ない意見交換がすごく刺激になった。
		質的研究の具体的なやり方に触れられて良かった。 (本を読むだけでは分からない大変さや注意点などが理解できた。)
		非常に興味深く、臨床の現場でも活かせる、自分のメンタルコントロールにも役立つ授業だと思いました。
		資料が多くて驚いたが、今でも時々見返すことができ、とても助かっています。あまり接することがない内容もあって良かったです。
		政策現場の生の声を聞くことができ、大変興味深かった。
授業に対する 要望等	10	概念枠組みや研究計画の立て方の具体的方法を詳しく学びたかったです。
		授業内容が直前までわからなかったのが残念。わかっていたら評価も変わっていたと思います。今は興味がいまひとつ湧かない内容もありましたが、いつか役立つ日が来るかと思うので、資料は大切にしておこうと思う。
		担当講師により差がある。質疑応答の答えが今ひとつ。学生のレベルにあった答えがほしかった。
計	33	

◆ 自由記述集計結果

平成24年度



記述総件数: 33件

東が丘看護学部の授業評価結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長 草間 朋子

- 本学部は、平成 22 年度にスタートしており、平成 24 年度は 3 年目を迎えております。今回の授業評価は 1 年次生から 3 年次生の授業科目 103 科目に対する授業評価の結果です。
- 授業評価を行う対象学生数は延べ 9,499 人であり、回答率は 93.4%でした。昨年に比べて回答率は増加しており、授業評価の重要性に対する学生の意識が高まりつつあることを示しております。
- 学生の授業態度に関する 3 つの質問に対して、85%の学生がポジティブな回答をしており、学生たちの授業態度に対する自己評価は大変高い。これは、本学部が 1 年次から看護に関する専門的な授業科目を取り入れており、学生の授業に対するモチベーションを高めている結果ではないかと考えられます。このことは、授業内容に対する評価結果からも推測することができます。
- 授業内容に関する質問に対しては、将来役に立つとの思いを持ち、関心を持っている学生が 80%を超えていますが、授業内容をよく理解できたか否かに関する質問に対してポジティブ回答（「そう思う」及び「ややそう思う」）をした学生は 80%未満でした。学部の特徴からほとんどの科目が必須であることを考えると、授業内容を学生がしっかり理解できるように教授法に工夫が必要と判断されます。
- 教員の教え方に関する結果からは、プレゼンテーションの仕方についてさらに工夫が必要であると思われれます。本学部は、平成 24 年 4 月から現在の新しい校舎に移転し、施設・設備面での教育環境を大幅に改善したことを踏まえ、施設・設備を有効に活用し学生に分かり易いプレゼンテーションをしていく努力が求められます。
- 教員の教育姿勢については学生からの評価も高く、本学教員の教育に積極的に取り組んでいる姿勢を学生達が見近に感じてくれており、授業評価の結果から、本学部の教育の質は保たれていると考えます。

以上

平成 24 年度授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学東が丘看護学部

○東が丘看護学部では、前期・後期に実施された全授業科目について、学生による授業評価を実施しました。授業評価結果については、当該教員に配布し、次年度以降の授業改善の基礎データとして活用していただくこととしており、その具体的な内容等については、学部年報に記載し、公表するとともに、授業評価結果に対する考察を公表しております。

○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合（％）により表記しております。また、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」に分類するとともに、その主な具体的意見等が分かるよう表記しております。

○質問項目別の肯定的な回答の「そう思う」「ややそう思う」の割合は以下のとおりとなっています。

		前年度
I. 学生として自分自身の態度について	85.9%	(87.0%)
II. 授業内容について	81.0%	(83.0%)
III. 教員の教え方について	75.6%	(78.1%)
IV. 教員の姿勢について	81.0%	(83.6%)
V. 総合評価	77.9%	(80.2%)

平成24年度 授業評価集計結果

東が丘看護学部

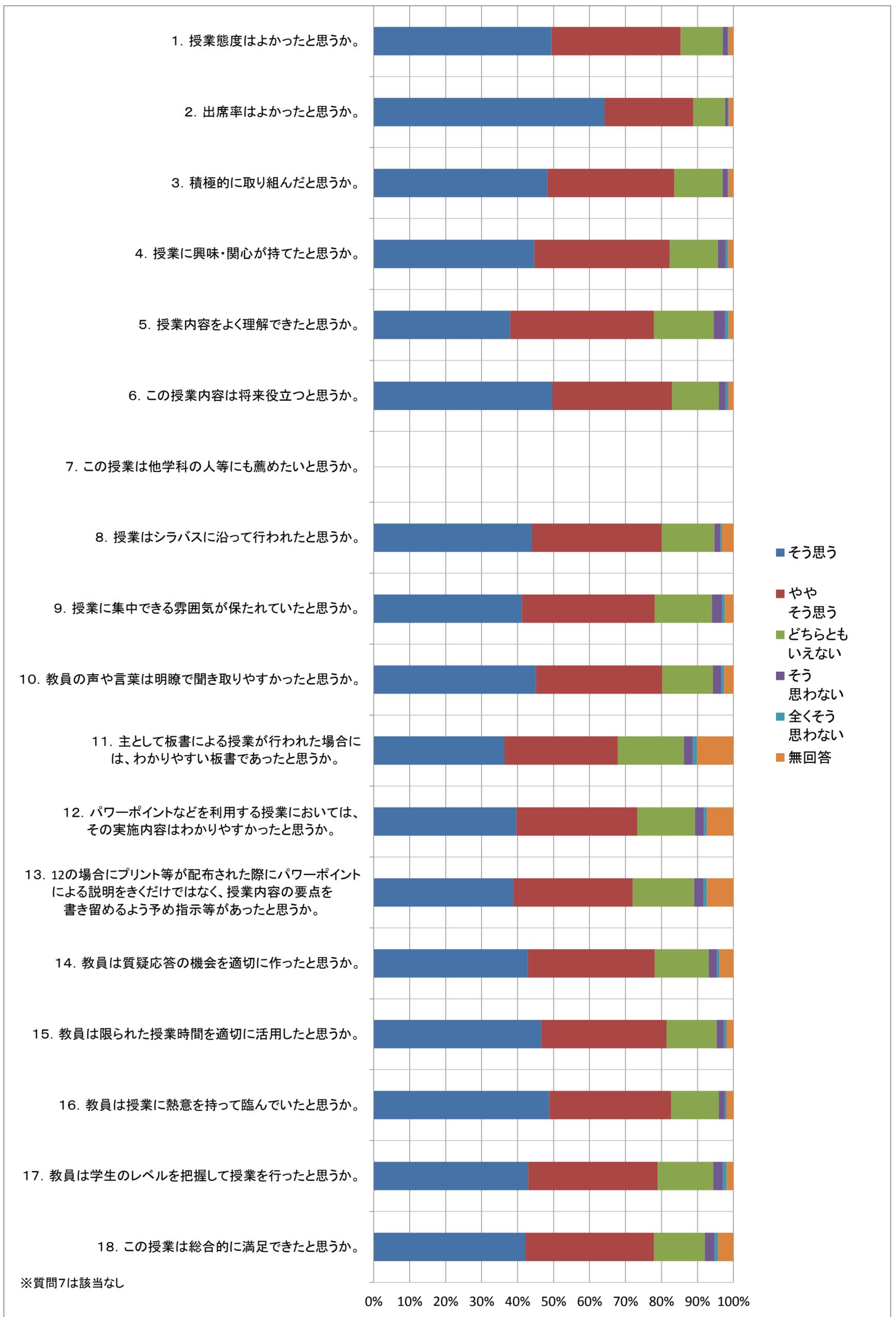
○全科目数 103科目

○調査対象者数 9,499人（延人数）

○総回答数 8,876枚（回答率 93.4%）

◆ 質問項目別集計結果（上段（ ）は平成23年度集計結果）

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	%	%	%	%	%	%	%
1. 授業態度はよかったと思うか。	(49.1) 49.5	(36.4) 35.8	(12.9) 11.8	(1.1) 1.3	(0.1) 0.3	(0.4) 1.4	(100) 100
2. 出席率はよかったと思うか。	(70.6) 64.2	(21.6) 24.7	(6.8) 8.9	(0.5) 0.8	(0.1) 0.2	(0.4) 1.3	(100) 100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(46.8) 48.3	(36.6) 35.2	(14.4) 13.4	(1.4) 1.3	(0.2) 0.3	(0.5) 1.4	(100) 100
計	(55.5) 54.0	(31.5) 31.9	(11.4) 11.3	(1.0) 1.1	(0.1) 0.3	(0.4) 1.4	(100) 100
II 授業内容について	%	%	%	%	%	%	%
4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。	(48.6) 44.6	(35.7) 37.6	(12.6) 13.5	(2.0) 2.1	(0.5) 0.7	(0.5) 1.5	(100) 100
5. 授業内容をよく理解できたと思うか。	(39.2) 37.9	(39.4) 39.9	(16.7) 16.7	(3.4) 3.1	(0.8) 0.9	(0.4) 1.4	(100) 100
6. この授業内容は将来役立つと思うか。	(53.3) 49.6	(32.4) 33.3	(11.7) 13.0	(1.5) 1.9	(0.5) 0.7	(0.5) 1.4	(100) 100
7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
計	(47.1) 44.1	(35.9) 36.9	(13.7) 14.4	(2.3) 2.4	(0.6) 0.8	(0.5) 1.4	(100) 100
III 教員の教え方について	%	%	%	%	%	%	%
8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	(48.8) 44.0	(34.2) 36.0	(14.8) 14.7	(1.2) 1.7	(0.4) 0.4	(0.6) 3.2	(100) 100
9. 授業に集中できる雰囲気は保たれていたと思うか。	(43.7) 41.2	(36.8) 36.9	(15.2) 15.9	(3.3) 2.8	(0.6) 0.8	(0.4) 2.4	(100) 100
10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	(50.0) 45.1	(33.7) 35.2	(13.0) 14.1	(2.2) 2.2	(0.5) 0.8	(0.6) 2.6	(100) 100
11. 主として板書による授業が行われた場合には、 わかりやすい板書であったと思うか。	(39.0) 36.3	(29.7) 31.5	(22.8) 18.4	(2.0) 2.5	(0.8) 1.1	(5.8) 10.2	(100) 100
12. パワーポイント等を利用する授業においては、その実施 内容はわかりやすかったと思うか。	(43.4) 39.7	(33.0) 33.6	(18.2) 16.0	(2.0) 2.4	(0.6) 0.8	(2.9) 7.4	(100) 100
13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイント による説明を聞くだけでなく、授業内容の要点 を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	(41.7) 38.8	(32.4) 33.2	(19.2) 17.1	(2.5) 2.6	(0.8) 0.9	(3.3) 7.4	(100) 100
14. (後期)教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(47.3) 42.9	(33.0) 35.2	(15.8) 15.1	(2.1) 2.2	(0.8) 0.8	(1.0) 3.9	(100) 100
計	(44.8) 41.1	(33.3) 34.5	(17.0) 15.9	(2.2) 2.4	(0.6) 0.8	(2.1) 5.3	(100) 100
IV 教員の姿勢について	%	%	%	%	%	%	%
15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(50.0) 46.6	(34.1) 34.8	(12.9) 14.0	(1.8) 2.0	(0.6) 0.7	(0.6) 1.9	(100) 100
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(53.7) 48.8	(32.5) 33.9	(11.3) 13.3	(1.5) 1.6	(0.5) 0.5	(0.6) 1.9	(100) 100
17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(45.9) 42.9	(34.6) 36.0	(15.3) 15.5	(2.7) 2.7	(0.9) 1.0	(0.6) 1.9	(100) 100
計	(49.9) 46.1	(33.7) 34.9	(13.2) 14.2	(2.0) 2.1	(0.7) 0.7	(0.6) 1.9	(100) 100
V 総合評価	%	%	%	%	%	%	%
18. この授業は総合的に満足できたと思うか。	(45.7) 42.2	(34.5) 35.7	(13.2) 14.2	(2.6) 2.6	(0.9) 1.0	(3.1) 4.3	(100) 100
全質問項目の平均	(48.0) 44.9	(33.6) 34.6	(14.5) 14.4	(2.0) 2.1	(0.6) 0.7	(1.3) 3.3	(100) 100



◆自由記述集計結果

分類/年度	22年度		23年度		24年度	
	(パーセント)	件数	(パーセント)	件数	(パーセント)	件数
授業に対する肯定的評価	(88.7%)	1,563	(85.3%)	1,699	(75.6%)	1,853
授業に対する要望等	(11.1%)	195	(14.4%)	287	(24.0%)	589
施設・設備に関する要望等	(0.2%)	4	(0.3%)	5	(0.4%)	9
総件数	(100.0%)	1,762	(100.0%)	1,991	(100.0%)	2,451

※()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す。

◆自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	1,853	<ul style="list-style-type: none"> ・資料もパワーポイントも見やすく、授業も分かりやすかったです。 ・事例などを多くあげていただき内容の濃い授業でした。 ・体験談をたくさん聞くことができ良かったです。 ・とても分かりやすく、いつでも質問に丁寧に答えていただきました。 ・文献をたくさん紹介していただいたので、勉強になった。
授業に対する要望等	589	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメは授業前に欲しい。 ・グループワークの時間をもう少し取って欲しかったです。 ・プリントのどこが大切なかわからない。 ・授業のスピードが早かった。 ・演習を多くしてほしい。
施設・設備に関する要望等	9	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクの調子が悪かった。 ・教室が暑くて集中できなかった。
総件数	2,451	

大学院看護学研究科授業評価実施結果に対する考察（平成 24 年度）

副学長・研究科長 草間 朋子

○看護学研究科では、平成 22 年度に「高度実践看護コース」を設置し、平成 24 年度から「高度実践助産コース」を設置しました。したがって、「高度実践助産コース」は 1 年次生のための授業評価でした。授業評価の対象となる科目数及び評価を行う学生数は、「高度実践看護コース」は、20 科目、延べ 410 名、「高度実践助産コース」は、28 科目、延べ 178 名でした。

○回答率は、「高度実践看護コース」は 80.7%、「高度実践助産コース」は 6.7% でした。

授業評価の実施目的等を考え、学生の評価の偏り（回答する学生は関心が高いことによる偏り等）をなくすためには、大学としては回答率が低いという結果を真摯に受け止め、回答率を 100%に近づけるよう努力してまいります。

「高度実践助産コース」に関しては、回答率が極端に低く学生全体の意見を反映しているとは言い難い。そこで、今回は「高度実践助産コース」の評価結果に対するコメントは差し控えます。したがって、以下の考察は、「高度実践看護コース」授業評価実施結果に対するコメントのみを記述いたします。

○授業内容については、ほぼすべての科目に対して回答した学生の 80%以上が将来役に立つと受け止めており、平成 22 年度に設置した当時からカリキュラムや授業内容の改善を重ねてきた成果が出てきたものと考えております。

○授業に対する期待度や理解度は、科目によってかなりばらつきがあるので、担当する教員に授業評価の結果を参考に授業の進め方等の改善をお願いすることとしたい。

○平成 24 年度には、大学全体が新校舎に移転し、「高度実践看護コース」の演習室も新設し、大学としては教具、教材もかなり充実させたが、学生の「教材、教具は適切か」に対する評価は意外に低い。これは、設備、備品に対する評価ではなく、教材、特にパワーポイントなどをプリントアウトしたものを要求している場合が多いので、担当教員に改善をお願いすることとしたい。

○自由記述は、全体で 453 件あり、図に示すように授業に対する要望等が、肯定的な評価を上回っている。自由記載が多いことや批判的な意見は、このコースに対する学生の期待に大学側が十分応えきれていないものと思われるので、自由記載の意見を参考に学生が受けてきた基礎教育・継続教育や実践経験の背景などを考慮した改善を重ね、教育の質の担保を図っていくこととしたい。

以上

平成24年度 授業評価アンケート集計結果

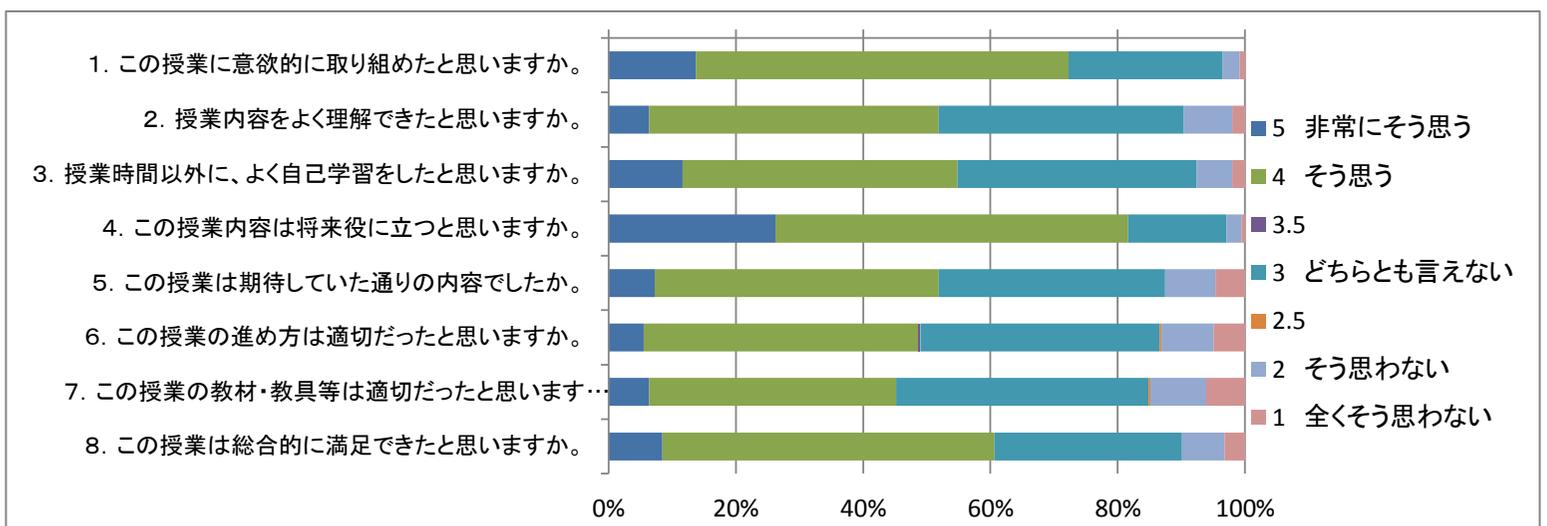
東京医療保健大学大学院 看護学研究科

○全科目数 48科目 ○調査対象者数 588人（延人数）
○総回答数 343枚（回答率58.3%）

◆ 質問項目別集計結果

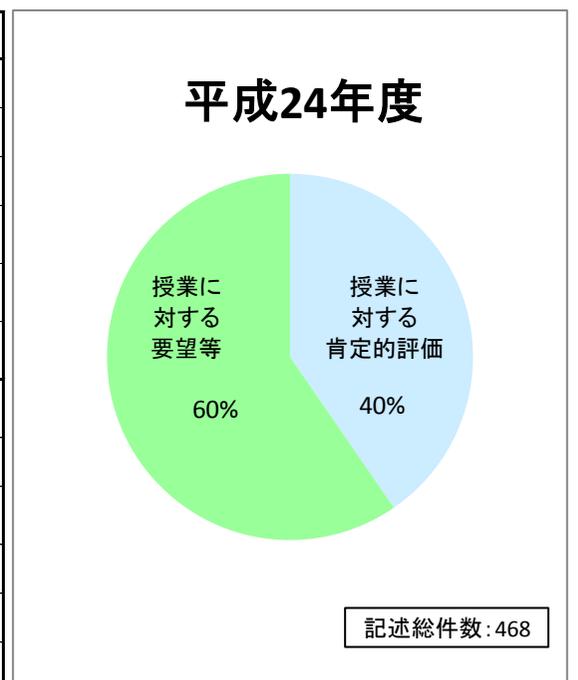
(%)

質問項目	非常に そう思う 5	そう思う 4	3.5	どちらとも 言えない 3	2.5	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	13.7	58.6	0.0	24.2	0.0	2.6	0.9	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	6.4	45.5	0.0	38.5	0.0	7.6	2.0	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	11.7	43.1	0.0	37.6	0.0	5.5	2.0	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	26.2	55.4	0.0	15.5	0.0	2.3	0.6	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	7.3	44.6	0.0	35.6	0.0	7.9	4.7	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	5.5	43.1	0.3	37.6	0.3	8.2	5.0	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	6.4	38.8	0.0	39.7	0.3	8.7	6.1	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	8.5	52.2	0.0	29.4	0.0	6.7	3.2	100.0
全質問項目の平均	10.7	47.7	0.0	32.3	0.1	6.2	3.1	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する 肯定的 評価	189	縫合の講義、実技練習の内容は良かった。
		ディスカッションの時間が多く、考えながら進められたのでよかった。
		世界の助産ケアの水準を学び、刺激になった。
		研究のスキルについて丁寧に教えて頂きました。役立つ知識をたくさん学ぶことができました。
		それぞれの講師の先生方の臨床に則した講義は、実践的で今後役に立つと思いました。
		全体的に満足しています。自分が学ぶことが多く、これからも学習しないとイケないと思いました。
授業に対する 要望等	279	医学的な知識はとても深く、難しいため、各分野にもう少し時間数をかけて学べたら良かったと思います。
		事例をもらい、事前学習をして授業にのぞきたい。
		科目の開始時期は、前期では早すぎ、後期の内容ではないかと思った。
		課題の目的が、全体的に伝わりにくかった。
		授乳中、妊娠中の内服について、具体例を出してほしかった。
		NP、CNS、CNで話し合う機会があっても面白いかなと思います。
計	468	



平成24年度 授業評価アンケート集計結果

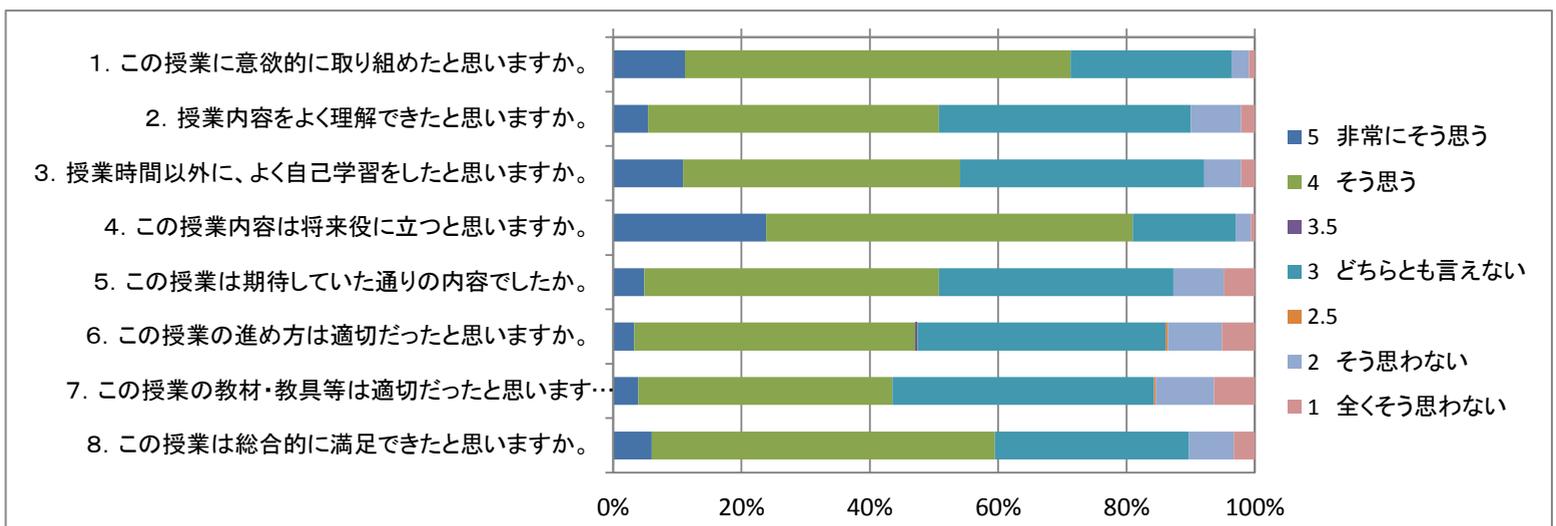
東京医療保健大学大学院 看護学研究科 高度実践看護コース

○全科目数 20科目 ○調査対象者数 410人（延人数）
○総回答数 331枚（回答率80.7%）

◆ 質問項目別集計結果

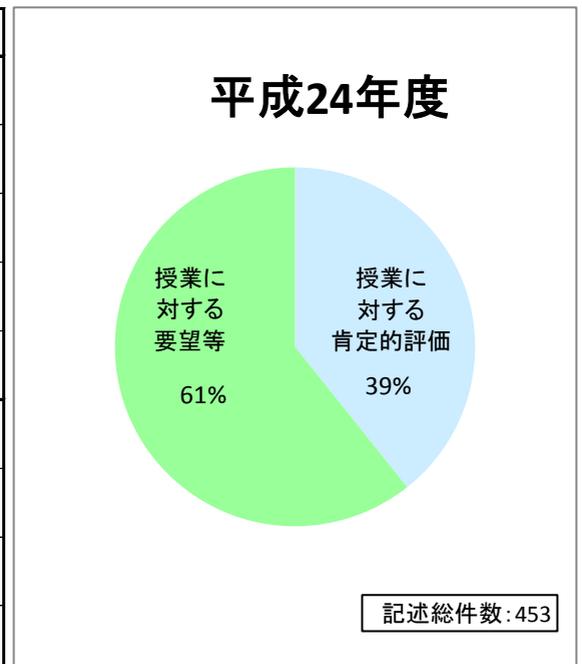
(%)

質問項目	非常に そう思う 5	そう思う 4	3.5	どちらとも 言えない 3	2.5	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	11.2	60.1	0.0	25.1	0.0	2.7	0.9	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	5.4	45.3	0.0	39.3	0.0	7.9	2.1	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	10.9	43.2	0.0	38.1	0.0	5.7	2.1	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	23.9	57.1	0.0	16.0	0.0	2.4	0.6	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	4.8	45.9	0.0	36.6	0.0	7.9	4.8	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	3.3	43.8	0.3	38.7	0.3	8.5	5.1	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	3.9	39.6	0.0	40.8	0.3	9.1	6.3	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	6.0	53.5	0.0	30.2	0.0	6.9	3.3	100.0
全質問項目の平均	8.7	48.6	0.3	33.1	6.4	6.4	3.2	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	178	今後自分がNPになった時、自分の役割を示すためにとても役立つと思います。
		研究のスキルについて丁寧に教えて頂きました。役立つ知識をたくさん学ぶことができたと思います。
		医学生の学習の進め方も知ることができ、刺激を受けた。
		それぞれの講師の先生方の臨床に則した講義は、実践的で今後役に立つと思いました。
		全体的に満足しています。自分が学ぶことが多く、これからも学習しないといけないと思いました。
授業に対する要望等	275	医学的な知識はとても深く、難しいため、各分野にももう少し時間数をかけて学べたら良かったと思います。
		事例をもらい、事前学習をして授業にのぞみたい。
		(前期科目について)後期にも少し講義があるといい。
		NP、CNS、CNで話し合う機会があっても面白いかなと思います。
計	453	



平成24年度 授業評価アンケート集計結果

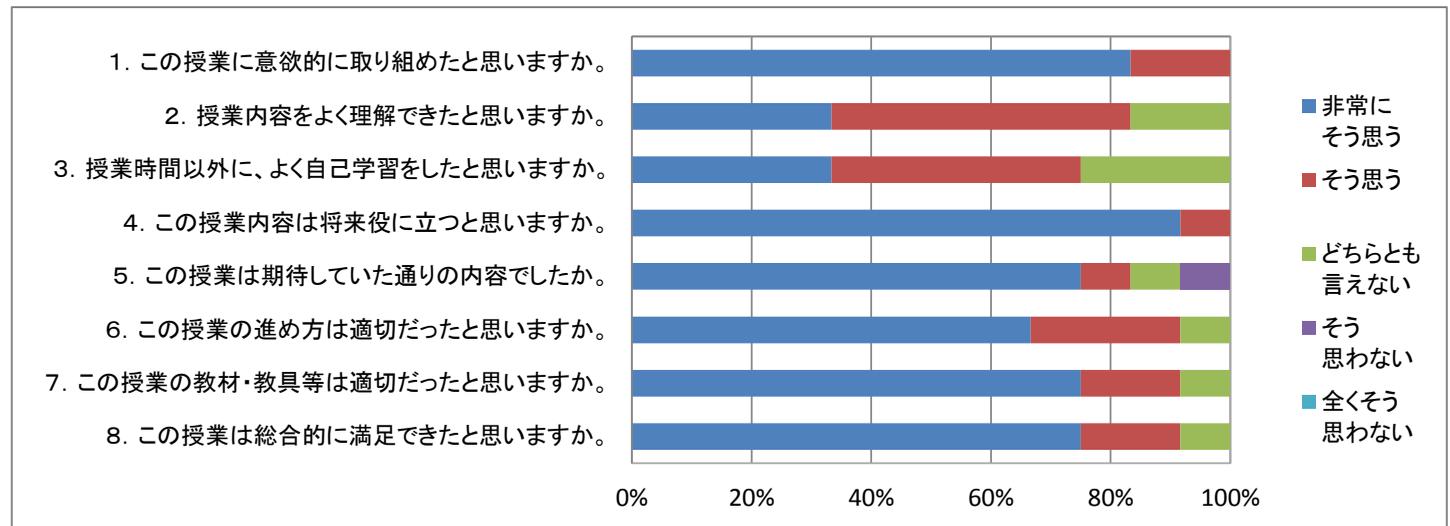
東京医療保健大学大学院 看護学研究科 高度実践助産コース

○全科目数 28科目 ○調査対象者数 178人（延人数）
○総回答数 12枚 6.7%

◆ 質問項目別集計結果

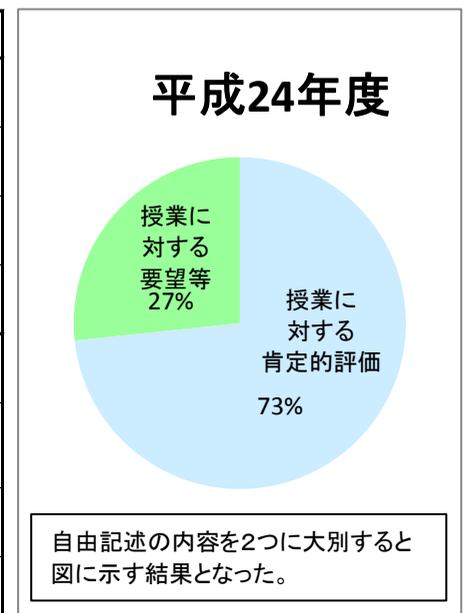
(%)

質問項目	非常に そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。	33.3	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。	75.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	100.0
6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
全質問項目の平均	66.7	22.9	9.4	1.0	0.0	0.0	100.0



◆ 自由記述の主な内容

内容	件数	主な内容
授業に対する肯定的評価	11	医師と助産師の診断過程は勉強になった。
		縫合の講義、実技練習の内容は良かった。
		ディスカッションの時間が多く、考えながら進められたのでよかった。
		世界の助産ケアの水準を学び、刺激になった。
授業に対する要望等	4	課題の目的が、全体的に伝わりにくかった。
		技術試験は、明確に告知してほしい。(実技練習後、そのまま試験を同時に行うのは難しい)
		科目の開始時期は、前期では早すぎ、後期の内容ではないかと思った。
		授乳中、妊娠中の内服について、具体例を出してほしかった。
計	15	



平成 25 年度「学生による授業評価」実施要綱

医療保健学部及び東が丘看護学部の学生を対象とした平成 25 年度授業評価を次により実施いたします。

なお、各大学院においてもこの実施要綱に準じて授業評価を実施することといたします。

1 目的

学生による授業評価を実施し、その結果を分析評価することにより本学のカリキュラム作成の参考、教員の教育力の向上及び授業内容・方法の改善・充実に資する。

2 対象授業

医療保健学部全学科及び東が丘看護学部看護学科の全授業科目。

3 調査実施時期

原則として、各セメスターの最終授業日とする。

4 調査方法

授業担当教員の下承を得て、事務局から授業評価質問用紙（講義・演習科目用または実習・実験科目用）を配布し原則としてその場で記入させた後、回収する。

ただし、授業科目によっては、質問用紙を学生に配布しペーパーボックス（事務局前設置）により回収する。

5 調査の集計等

質問用紙はマークシート方式により記入し、学内において集計する。

6 主な評価項目

- (1) 自分自身の授業(実習・実験)態度について
- (2) 授業(実習・実験)内容について
- (3) 教員の教え方(実習・実験指導)について
- (4) 教員の姿勢について
- (5) 総合評価
- (6) 自由記述 等

7 授業評価結果の分析、公表等

- (1) 個々の授業の調査結果の分析等は、当該授業の担当教員が行う。
- (2) 授業評価結果については、各学科長が各教員の感想等を取りまとめた分析等を行った後、全学分を公表する。
- (3) 各教員においては、授業評価結果を授業方法の改善工夫等に活用する。

24. 11. 28
学科長会議

学生による授業評価アンケートの質問項目の見直しについて

本学では、教育の質の向上を図るため、毎年度全授業科目について学部学生による授業評価アンケートを実施しておりますが、平成 23 年度の授業評価結果に対する各学科長の考察において、授業評価アンケートの評価項目に関して下記のご意見がありました。

ついでには、平成 25 年度から実施する学生による授業評価アンケートにおいては、別紙のとおり講義・演習科目と実習・実験科目によってアンケート用紙を分けるとともに、併せて、質問項目の見直しを行うことといたします。

記

平成 23 年度授業評価結果に対する各学科長の考察における 授業評価アンケートの評価項目に関するご意見

1. 本授業評価は講義・演習科目と実習科目については同じ評価項目で評価していますが、それぞれの授業形態の特性に応じて評価項目及び評価方法を検討する必要があると考えます。
2. 授業評価のアンケート項目では、改善されるべき点に加えて、良い点も抽出できるような内容となると、双方の意見が得られてより詳しい評価ができると思われました。したがって、講義形式の授業と実践形式の授業とでは、評価項目や評価方法を変えるべきではないかと思われました。

FD活動の一環として外部講師を招いての講演会等の実施一覧(平成23年度～平成25年度)

実施年度	平成23年度		
実施日時	23. 8. 4(木) 18:00～19:30	23. 10. 29(土) 15:30～17:00	23. 11. 25(金) 18:00～19:30
実施場所	国立病院機構キャンパス	五反田校舎	五反田校舎
主催	大学	国際交流委員会	国際交流委員会
テーマ	科学研究費助成事業の概要等について	医療シミュレーション教育のポイント：医療・看護系大学での活用	今なぜナイチンゲールか？
講師	大分県立看護科学大学 甲斐 倫明研究科長	ハワイ大学医学部 ベン・バーグ教授	カナダゲルフ大学社会学 リン・マクドナルド教授
対象者	教職員	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等
参加者数	40名	32名	81名

実施年度	平成23年度		平成24年度
実施日時	24. 1. 6(金) 14:30～16:30	24. 3. 13(火) 18:00～20:00	24. 4. 6(金) 11:00～12:00
実施場所	五反田校舎	国立病院機構キャンパス	五反田校舎
主催	国際交流委員会	大学院看護学研究科	医療保健学部看護学科 国際交流委員会
テーマ	これから期待される看護の役割：米国の看護師・NP・CRNAの教育と臨床現場から	急性期のナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割	がんサバイバーの心理社会的支援とは～米国サポートの実際から学ぶ～
講師	カリフォルニア Valley Anesthesia社 看護麻酔師 岩田 恵里子氏	米国スタンフォード大学病院 チャン・ガレット臨床准教授	元ミネソタ大学教授 Judith Johnson 先生
対象者	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教員
参加者数	54名	115名	40名

実施年度	平成 24 年度		
実施日時	24. 5. 30(水) 16:30~18:00 24. 9. 26(水) 16:30~18:10 25. 3. 7(木) 15:00~17:00	24. 6. 13(水) 18:00~20:00	24. 8. 1(水) 16:30~18:00
実施場所	五反田校舎	世田谷校舎	五反田校舎
主 催	医療保健学部看護学科 FD 委員会	国際交流委員会	大 学
テ ー マ	学生のメンタルヘルスに関する FD 研修会	米国登録栄養士 Registered Dietitian とその働き	科学研究費助成事業の概要等について
講 師	東京大学大学院教育学研究科 佐々木 司教授	米国スコッツブラフ市血液透析センター 登録栄養士 明美 グラス氏	独立行政法人 日本学術振興会 研究事業部 研究助成第一課 中山 亮課長代理
対 象 者	教職員	教職員・学生	教職員
参加者数	各回概ね 60 名	65 名	62 名

実施年度	平成 24 年度		
実施日時	24. 9. 15(土) 13:00~14:30	24. 10. 29(月) 17:30~19:00	25. 2. 15(金) 14:30~17:30
実施場所	五反田校舎	国立病院機構キャンパス	NTT 東日本関東病院
主 催	国際交流委員会	大学院看護学研究科	国際交流委員会
テ ー マ	医療事故データ分析の世界的流れ及び HON の活動について	オーストラリアにおける看とり～現状と課題～	医療者と患者のパートナーシップで自殺を予防する - タイダルモデルの理論と実践 -
講 師	WHO(世界保健機構)コンサルタント及び HON(Health On the Net Foundation) リサーチアシスタント 梶原 麻喜氏	オーストラリア、モナシュ大学医療看護科学学部 マーガレット・オコナー教授	ケンブリッジ大学病院 ナーススペシャリスト Joy Bray 先生
対 象 者	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等	教職員・学生、外部医療機関関係者等
参加者数	34 名	90 名	58 名

実施年度	平成 25 年度		
実施日時	25. 4. 18(木) 17:30~19:00	25. 6. 10(月) 18:00~19:30	25. 7. 5(金) 18:00~20:30
実施場所	国立病院機構キャンパス	国立病院機構キャンパス	五反田校舎
主 催	東が丘看護学部	大学院看護学研究科	国際交流委員会
テ ー マ	看護政策を考える	米国におけるナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割	医療者のためのセルフ・ヒーリング～より健康に生きるための心身への気づき～
講 師	日本看護連盟参与 石田 昌宏氏	米国スタンフォード大学病院 チャン・ガレット臨床准教授	米国サンフランシスコ州立 大学健康教育学部 エリック・ペパー教授
対 象 者	教員・大学院生	教職員・学生、外部医療機関 関係者等	教職員・学生、外部医療機関 関係者等
参加者数	86 名	79 名	100 名

実施年度	平成 25 年度		
実施日時	25. 7. 31(水) 16:30~18:00	25. 9. 2(月) 9:30~11:30	26. 1. 8(水) 18:00~19:30
実施場所	五反田校舎	世田谷校舎	国立病院機構キャンパス
主 催	大 学	医療保健学部医療栄養学科	大学院看護学研究科
テ ー マ	科学研究費助成事業の概要等 について	医学教育における OSCE の 役割と現状－医療職としての 管理栄養士の卒前教育に OSCE を導入することの意義 －」（仮題）	スタンフォード大学病院に おける NP 活動の状況等
講 師	文部科学省研究振興局 学術研究助成課 中塚 淳子課長補佐	東京大学医学部附属病院 総合研修センター長 北村 聖教授	スタンフォード大学病院 ICU 医師 御手洗 剛氏
対 象 者	教職員	教職員	教員・大学院生
参加者数	67 名	41 名	名

大学院医療保健学研究科における外国からの講師による講演等一覧(平成24年度～平成25年度)

年度	実施年月日	場所	参加者数	講義等の内容
平成 24年度	11月16日(金) 7:45～8:25	東京ビッグサイト 1F Room1 (Reception HallA)	教員 及び 院生 50名	<p>“Infection Prevention and Control System in China” (「中国における感染制御システム」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるリュイ・リー(Liuyi Li MD) 中国 北京大学第一病院 感染制御部主任教授が、第11回東アジア感染制御カンファレンス(EACIC 2012)のため来日した機会に「中国における感染制御システム」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月23日 (金・祝日) 7:30～8:00	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 30名	<p>“Properties of antiseptics in wound management-comparison of efficacy and tolerance” (「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるアクセル・クラマー(Axel Kramer PhD) ドイツ グライフスワルド大学医学部主任教授が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」に関する講演及び意見交換等を行った。</p> <p>“Sterilisation and Supply in Hospital” (「病院における滅菌と供給」)</p> <p>本学客員教授である ジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「病院における滅菌と供給」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月24日(土) 8:00～8:30	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 35名	<p>“Hospital infection control in 2012: new solutions for old and resurgent problems” (「2012年 病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」)</p> <p>本学客員教授であるジョナサン・オッター(Jonathan Otter PhD) 英国 キングス・カレッジ特別研究員が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「2012年病院感染制御: 古くて復活した問題に対する新しい解決法」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
平成 25年度	5月29日(水) 17:30～18:30	大学院 別館 D104室	教員 及び 院生 20名	<p>“Topics on Infection Prevention and Control” (「感染制御のトピックス」)</p> <p>本学客員教授であるジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、日本企業への講演のため来日した機会に「感染制御のトピックス」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>

IV 学生の受け入れ

(表12) 学部・学科、大学院研究科の志願者・合格者・入学者数の推移

<学部>

学部名	学科名	入試の種類		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2013年度 入学者の 学科計に対す る割合(%)	2013年度 入学者の 学部計に対す る割合(%)
医療保健学部	看護学科	一般入試	志願者	1,150	1,427	1,548	1,511	1,604	67.0	23.4
			合格者	237	253	243	258	261		
			入学者(A)	84	83	84	76	71		
			入学定員(B)	70	70	70	70	70		
			A/B	1.20	1.19	1.20	1.09	1.01		
		AO入試	志願者	93	88	89	120	113	9.4	3.3
			合格者	10	12	12	10	10		
			入学者(A)	10	12	12	10	10		
			入学定員(B)	10	10	10	8	8		
			A/B	1.00	1.20	1.20	1.25	1.25		
		指定校推薦入試	志願者	17	16	14	16	14	13.2	4.6
			合格者	17	16	14	16	14		
			入学者(A)	17	16	14	16	14		
			入学定員(B)	10	10	10	12	12		
			A/B	1.70	1.60	1.40	1.33	1.17		
		公募制推薦入試	志願者	22	43	28	45	50	10.4	3.6
	合格者		10	11	10	10	11			
	入学者(A)		10	11	10	10	11			
	入学定員(B)		10	10	10	10	10			
	A/B		1.00	1.10	1.00	1.00	1.10			
学科計			志願者	1,282	1,574	1,679	1,692	1,781	100.0	
			合格者	274	292	279	294	296		
			入学者(A)	121	122	120	112	106		
			入学定員(B)	100	100	100	100	100		
			A/B	1.21	1.22	1.20	1.12	1.06		
医療栄養学科	一般入試	志願者	437	353	477	453	578	70.1	24.7	
		合格者	183	193	215	215	196			
		入学者(A)	86	76	89	86	75			
		入学定員(B)	70	70	70	70	70			
		A/B	1.23	1.09	1.27	1.23	1.07			
	AO入試	志願者	45	36	29	30	44	11.2	3.9	
		合格者	13	10	15	12	12			
		入学者(A)	13	10	15	11	12			
		入学定員(B)	10	10	10	10	10			
		A/B	1.30	1.00	1.50	1.10	1.20			

学部名	学科名	入試の種類		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2013年度 入学者の 学科計に対す る割合(%)	2013年度 入学者の 学部計に対す る割合(%)
医療 保健 学部	医療 栄養 学科	指定校推薦入試	志願者	6	8	5	3	9	8.4	3.0
			合格者	6	8	5	3	9		
			入学者(A)	6	8	5	3	9		
			入学定員(B)	10	10	10	10	10		
			A/B	0.60	0.80	0.50	0.30	0.90		
		公募制推薦入試	志願者	27	14	9	26	20	10.3	3.6
			合格者	13	11	9	14	11		
			入学者(A)	13	11	9	14	11		
			入学定員(B)	10	10	10	10	10		
			A/B	1.30	1.10	0.90	1.40	1.10		
	学 科 計	志願者	515	411	520	512	651	100.0		
		合格者	215	222	244	244	228			
		入学者(A)	118	105	118	114	107			
		入学定員(B)	100	100	100	100	100			
		A/B	1.18	1.05	1.18	1.14	1.07			
	医 療 情 報 学 科	一 般 入 試	志願者	96	99	112	121	129	36.3	10.9
			合格者	78	82	87	103	104		
			入学者(A)	27	29	34	34	33		
			入学定員(B)	45	35	35	35	35		
			A/B	0.60	0.83	0.97	0.97	0.94		
		A O 入 試	志願者	21	41	32	27	38	40.7	12.2
			合格者	20	40	30	27	37		
			入学者(A)	20	39	30	27	37		
			入学定員(B)	15	30	30	30	30		
			A/B	1.33	1.30	1.00	0.90	1.23		
		指 定 校 推 薦 入 試	志願者	9	22	17	22	18	19.8	5.9
			合格者	9	21	17	22	18		
			入学者(A)	9	21	17	22	18		
			入学定員(B)	10	10	10	10	10		
			A/B	0.90	2.10	1.70	2.20	1.80		
公 募 制 推 薦 入 試	志願者	4	1	1	2	3	3.3	1.0		
	合格者	4	1	1	2	3				
	入学者(A)	4	1	1	2	3				
	入学定員(B)	10	5	5	5	5				
	A/B	0.40	0.20	0.20	0.40	0.60				
学 科 計	志願者	130	163	162	172	188	100.0			
	合格者	111	144	135	154	162				
	入学者(A)	60	90	82	85	91				
	入学定員(B)	80	80	80	80	80				
	A/B	0.75	1.13	1.03	1.06	1.14				
学 部 合 計	志願者	1,927	2,148	2,361	2,376	2,620		100.0		
	合格者	600	658	658	692	686				
	入学者(A)	299	317	320	311	304				
	入学定員(B)	280	280	280	280	280				
	A/B	1.07	1.13	1.14	1.11	1.09				

学部名	学科名	入試の種類		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2013年度 入学者の 学科計に対す る割合(%)	2013年度 入学者の 学部計に対す る割合(%)
東が丘看護学部	看護学科	一般入試	志願者		340	987	1,322	1,325	73.8	73.8
			合格者		114	208	248	272		
			入学者(A)		64	105	84	76		
			入学定員(B)		60	75	75	75		
			A/B		1.07	1.40	1.12	1.01		
		指定校推薦入試	志願者		13	13	12	15	14.6	14.6
			合格者		13	13	12	15		
			入学者(A)		13	13	12	15		
			入学定員(B)		30	15	15	15		
			A/B		0.43	0.87	0.80	1.00		
		公募制推薦入試	志願者		50	24	51	34	11.7	11.7
			合格者		27	16	13	12		
	入学者(A)			27	16	13	12			
	入学定員(B)			10	10	10	10			
	A/B			2.70	1.60	1.30	1.20			
	学 科 計	志願者		403	1,024	1,385	1,374	100.0		
		合格者		154	237	273	299			
		入学者(A)		104	134	109	103			
		入学定員(B)		100	100	100	100			
A/B			1.04	1.34	1.09	1.03				
学 部 合 計	志願者		403	1,024	1,385	1,374		100.0		
	合格者		154	237	273	299				
	入学者(A)		104	134	109	103				
	入学定員(B)		100	100	100	100				
	A/B		1.04	1.34	1.09	1.03				
大 学 合 計	志願者		1,927	2,148	3,385	3,761	3,994			
	合格者		600	658	895	965	985			
	入学者(A)		299	317	454	420	407			
	入学定員(B)		280	280	380	380	380			
	A/B		1.07	1.13	1.19	1.11	1.07			

<大学院研究科>

研究科名	専攻名	入試の種類		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	入学者の課程計に対する割合(%)	入学者の研究科計に対する割合(%)
医療保健学研究科	医療保健学専攻(修士課程)	一般入試	志願者	20	28	27	29	27	/	/
			合格者	20	25	23	26	26		
			入学者(A)	20	25	22	25	25		
			入学定員(B)	20	20	20	25	25		
			A/B	1.00	1.25	1.10	1.00	1.00		
		推薦入試	志願者	0	2	1	0	0		
			合格者	0	2	1	0	0		
			入学者(A)	0	2	1	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B							
		課程計	志願者	20	30	28	29	27		
			合格者	20	27	24	26	26		
	入学者(A)		20	27	23	25	25			
	入学定員(B)		20	20	20	25	25			
	A/B		1.00	1.35	1.15	1.00	1.00			
	医療保健学専攻(博士課程)	一般入試	志願者	5	7	2	2	2		
			合格者	4	6	2	2	2		
			入学者(A)	4	6	2	2	2		
			入学定員(B)	4	4	4	4	4		
			A/B	1.00	1.50	0.50	0.50	0.50		
課程計		志願者	5	7	2	2	2			
		合格者	4	6	2	2	2			
		入学者(A)	4	6	2	2	2			
		入学定員(B)	4	4	4	4	4			
		A/B	1.00	1.50	0.50	0.50	0.50			
専攻計	志願者	25	37	30	31	29				
	合格者	24	33	26	28	28				
	入学者(A)	24	33	25	27	27				
	入学定員(B)	24	24	24	29	29				
	A/B	1.00	1.38	1.04	0.93	0.93				
研究科合計	志願者	25	37	30	31	29				
	合格者	24	33	26	28	28				
	入学者(A)	24	33	25	27	27				
	入学定員(B)	24	24	24	29	29				
	A/B	1.00	1.38	1.04	0.93	0.93				

研究科名	専攻名	入試の種類		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	入学者の課程計に対する割合(%)	入学者の研究科計に対する割合(%)
看護学 研究科	看護学専攻(修士課程)	一般入試	志願者		7	11	21	27		
			合格者		7	7	16	20		
			入学者(A)		7	6	16	17		
			入学定員(B)		20	20	30	30		
			A/B		0.35	0.30	0.53	0.57		
		推薦入試	志願者		14	17	14	14		
			合格者		14	15	14	14		
			入学者(A)		14	15	14	14		
			入学定員(B)		0	0	0	0		
			A/B							
		課程計	志願者		21	28	35	41		
			合格者		21	22	30	34		
	入学者(A)			21	21	30	31			
	入学定員(B)			20	20	30	30			
	A/B			1.05	1.05	1.00	1.03			
専攻計	志願者		21	28	35	41				
	合格者		21	22	30	34				
	入学者(A)		21	21	30	31				
	入学定員(B)		20	20	30	30				
	A/B		1.05	1.05	1.00	1.03				
研究科合計	志願者		21	28	35	41				
	合格者		21	22	30	34				
	入学者(A)		21	21	30	31				
	入学定員(B)		20	20	30	30				
	A/B		1.05	1.05	1.00	1.03				
大学院合計	志願者		25	58	58	70				
	合格者		24	54	48	62				
	入学者(A)		24	54	46	58				
	入学定員(B)		24	44	44	59				
	A/B		1.00	1.23	1.05	0.97	0.98			

- [注] 1 空欄部分に数値を入力してください。網掛けの欄には計算式が入っています。
2 「A/B」「2013年度入学者の学科計に対する割合(%)」「2013年度入学者の学部計に対する割合(%)」は小数第2位まで求めてください。
3 学部・学科、博士課程前期(修士)課程、博士課程後期(博士)課程、専門職大学院等、各学位課程ごとに学生募集別で記入してください。
4 「入試の種類」は、大学の実態に合わせて作成してください。ただし、「一般入試」欄には大学入試センター試験を含めてください。
5 セメスター制の採用により、秋学期入学など、年に複数回の入学時期を設定している場合は、それぞれの学期について作表してください。
6 学科内に専攻等を設け、その専攻等ごとに入学定員を設定している場合は、専攻等ごとに作表してください。
7 留学生入試を実施している場合、交換留学生は含めないでください。
8 入学定員が若干名の場合は「0」として記入してください。
9 法科大学院において未修・既修を分けて入試を実施していない場合は、両者をひとつにまとめて記入してください。

医療保健学研究科修士課程における研究生・特別研究生の受け入れ状況

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
研究生	0	2 名	2 名	9 名
特別研究生	0	1 名	1 名	1 名
計	0	3 名	3 名	10 名

1. 修士課程(修了年限 2 年)は平成 19 年度設置である。
2. 研究生は、本学大学院修士課程を修了した者であり、特別研究生は他大学の大学院修士課程を修了した者である。
3. 平成 23 年度修士課程特別研究生は、財団法人日中医学協会「日中笹川医学奨学金制度」第 34 期研究者受け入れによる、中国の保健医療に従事する専門家を受け入れたものである。

東京医療保健大学学生支援に関する基本方針

1 目的

この基本方針は、本学の建学の精神及び教育目標に基づき、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に解決することのできる人材の育成を図るとともに、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができるよう、修学・生活全般を総合的に支援する環境を整備することを目的とする。

2 基本方針

(1) 関係部署の連携

関係部署は緊密に連携し、組織の効果的な活用を通じて、学生に対する修学支援、生活支援及び進路支援を行う。

(2) 学生に対する修学支援

学生に対するガイダンス機能の充実を図りながら、学生が修学する上で必要とする情報を提供して修学支援を行う。

(3) 学生に対する生活支援

学生が社会性や協調性を身につけ、健康で自立した学生生活を送ることができるように環境を整備し、充実した学生生活を送る上で学生が必要とする生活支援を行う。

(4) 学生に対する進路支援

学生が主体的に進路選択や職業選択を行うことができるよう、キャリアガイダンス等を充実するなど、学生が必要とする進路支援を行う。

東京医療保健大学スカラシップ創設要綱

本学独自の奨学制度として、スカラシップ制度（“いのち”のプロジェクト）を下記により創設する。

記

- 1 「KMC スカラシップ」（スカラシップⅠ）
一般入学試験前期日程において、入学試験成績上位5名程度の入学者に対して、入学金及び1年間の授業料を免除する。
- 2 「THCU スカラシップ」（スカラシップⅡ）
一般入学試験前期日程において、入学試験成績上位10名程度（スカラシップⅠ対象者を除く）の入学者に対して、1年間の授業料を半額免除する。
- 3 スカラシップⅠ及びⅡの2年次以降の対象者は、前年度の成績評価（スカラシップ制度内規）により改めて審査を行い認定するものとする。
- 4 スカラシップについての事務は学生支援センターにおいて行う。

以上

附 則 この要綱は、平成17年4月1日より適用する。

スカラシップ制度内規

本学のスカラシップ制度（“いのち”のプロジェクト）の2年次以降における再審査の方法等は以下のように取り扱う。

- 1 前年度1年間（前・後期セメスター）の成績の総合評価により、各学科別に成績順位をつけ、原則として、上位1及び2番を1年間の授業料全額免除対象者、上位3～5番を授業料の半額免除対象者とする。
- 2 成績の総合評価の方法
 - (1) 履修科目の中で、単位を取得できなかった科目があった場合は成績の総合評価対象者から除く。
 - (2) 前年度単位取得科目の各科目の素点を合計し、原則として取得科目数で除算した平均点を成績とするが、各学科会議において成績の総合評価を決定する。
 - (3) 総合評価で同じ順位の者がある場合には、課外活動等の実績を勘案し成績順位を決定する。
- 3 スカラシップ給付候補者（以下「候補者」という）の推薦は学科長会議において行い、理事長は、学科長会議からの推薦に基づきスカラシップ給付者を決定する。
- 4 学科長会議において候補者の推薦を行った後、休学願が提出された場合には、原則として推薦は取消さないこととする。なお、候補者の推薦後に疑義が生じた場合には、学科長会議において再審査を行うことができることとする。

附則 この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成21年6月24日から施行する。

V 学生支援

(表15) 奨学金給付・貸与状況

医療保健学部・東が丘看護学部

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 $A/B*100$	支給総額 (C)	1件当たり支給額 C/A
スカラシップ I	学内	給付(授業料全学免除)	29	1,557	1.9	24,600,000	848,276
スカラシップ II	学内	給付(授業料半額免除)	49	1,557	3.1	20,400,000	416,327
日本学生支援機構	学外	貸与	689	1,557	44.3	585,936,000	850,415
東京都看護修学資金	学外	貸与	3	811	0.4	2,064,000	688,000

大学院医療保健学研究科(修士課程・博士課程)

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 $A/B*100$	支給総額 (C)	1件当たり支給額 C/A
THCU修士課程スカラシップ	学内	給付(授業料一部免除)	4	48	8.3	800,000	200,000
THCU博士課程スカラシップ	学内	給付(授業料一部免除)	6	10	60.0	1,800,000	300,000
日本学生支援機構	学外	貸与	1	58	1.7	2,112,000	2,112,000

大学院看護学研究科(修士課程)

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 $A/B*100$	支給総額 (C)	1件当たり支給額 C/A
日本学生支援機構	学外	貸与	17	59	28.8	22,800,000	1,341,176

[注] 1 2012年度実績をもとに作表してください。

2 学部・大学院共通、学部対象、大学院対象の順に作成してください。

3 当該奨学金が学部学生のみを対象とする場合は、「在籍学生総数」欄には学部学生の在籍学生総数を、大学院学生のみを対象とする場合は、大学院の在籍学生総数を記載してください。

4 日本学生支援機構による奨学金も記載してください。

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程
スカラシップ〈学納金免除〉創設要綱

本大学院独自の奨学制度(学納金免除)として、修士課程の大学院生に対するスカラシップ制度を下記により創設する。

記

1 「THCU修士課程スカラシップ」(以下 スカラシップという)

本大学院修士課程の入学者で、スカラシップ〈学納金免除〉を申請した者を対象とする。選考対象は原則 2 名以内とし、年間 1,000,000 円の授業料の内、年間 500,000 円を在学期間(最長 2 年間、但し、休学期間を除く)にわたり毎年免除する。

但し、以下を附帯条件とする。

- ①入学年度から 2 年間にわたり年間学納金免除総額上限を 1,000,000 円とする。
- ②対象者を 2 名以上とすることも可とし、対象者の人数により 1 人当たりの年間免除額を 1/2 の 250,000 円或いは 1/3 の 166,000 円等とすることにより、年間免除総額は上限の範囲内で繰り回す。
- ③年間免除総額上限に対して枠空きが生じた場合は、次年度以降に繰越ができるものとする。

2 スカラシップの支給方法については、2 年毎を目途に必要な応じて見直すこととする。

3 スカラシップに関わる事務は大学院事務室において行う。

4 平成 22 年度から実施する。

附則 この要綱は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程
スカラシップ〈学納金免除〉制度内規

本大学院の「THCU修士課程スカラシップ」（以下 スカラシップという）の審査の方法等を以下のように取り扱う。

- 1 本大学院修士課程の入学者で、スカラシップ〈学納金免除〉を申請した者を対象とする。選考対象は原則2名以内とし、2名以上とする場合は、附帯条件に従い免除額を定める。
- 2 スカラシップ給付候補者(以下「候補者」という)の推薦は、入学試験の成績等の評価により研究科長会議において行い、理事長は、研究科長会議からの推薦に基づき候補者を決定する。
- 3 研究科長会議において候補者の推薦を行った後、休学願が提出された場合には、原則として推薦は取り消さないこととする。なお、候補者の推薦後に疑義が生じた場合には、研究科長会議にて再審査を行うことができる。
- 4 平成22年度から実施する。

附則 この内規は、平成22年4月1日より施行する。

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 博士課程(感染制御学)
スカラシップ〈学納金免除〉創設要綱

本大学院独自の奨学制度(学納金免除)として、博士課程(感染制御学)の大学院生に対するスカラシップ制度を下記により創設する。

記

- 1 「THCU博士課程スカラシップ」(以下 スカラシップという)
本大学院修士課程から本大学院博士課程(感染制御学)への入学者で、スカラシップ〈学納金免除〉を申請した者を対象とする。選考対象は原則2名以内とし、年間1,400,000円の授業料の内、年間600,000円を在学期間(最長3年間、但し、休学期間を除く)にわたり毎年免除する。
但し、以下を附帯条件とする。
 - ①年間の学納金免除総額上限を1,800,000円とする。
 - ②対象者を2名以上とすることも可とし、対象者の人数により1人当たりの年間免除額を1/2の300,000円或いは1/3の200,000円等とすることにより、年間免除総額は上限の1,800,000円の範囲内で繰り回す。
 - ③年間免除総額上限の1,800,000円に対して枠空きが生じた場合は、次年度以降に繰越ができるものとする。
- 2 スカラシップの支給方法については、3年毎を目途に必要な応じて見直すこととする。
- 3 スカラシップに関わる事務は大学院事務室において行う。
- 4 平成21年度から実施する。

附則 この要綱は、平成21年12月9日から施行する。

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 博士課程(感染制御学)
スカラシップ〈学納金免除〉制度内規

本大学院の「THCU博士課程スカラシップ」(以下 スカラシップという)の審査の方法等を以下のように取り扱う。

- 1 本大学院博士課程(感染制御学)の入学者で、スカラシップ〈学納金免除〉を申請した者を対象とする。選考対象は原則2名以内とし、2名以上とする場合は、附帯条件に従い免除額を定める。
- 2 スカラシップ給付候補者(以下「候補者」という)の推薦は、入学試験の成績等の評価により研究科長会議において行い、理事長は、研究科長会議からの推薦に基づき候補者を決定する。
- 3 研究科長会議において候補者の推薦を行った後、休学願が提出された場合には、原則として推薦は取り消さないこととする。なお、候補者の推薦後に疑義が生じた場合には、研究科長会議にて再審査を行うことができる。
- 4 平成21年度から実施する。

附則 この内規は、平成21年12月9日より施行する。

東京医療保健大学ハラスメントに関する取扱細則

(目的)

第1条 この細則は、東京医療保健大学就業規則及び人権倫理委員会規程に基づきハラスメント防止等に関する取扱いを定めるものである。

(定義)

第2条 ハラスメントとは、次の各号に掲げる行為等をいう。

- (1) セクシュアル・ハラスメント：教育・研究又は就業の場において、相手方の意に反する性的言動を行い、相手方に利益又は不利益を与えること及び就学、就労、教育・研究の環境を著しく損なうこと等。
- (2) アカデミック・ハラスメント：教育・研究の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的・精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。
- (3) パワー・ハラスメント：就業の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的・精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。

(相談窓口)

第3条 ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対応するため、ハラスメント相談窓口を置く。

(相談員)

第4条 ハラスメント相談窓口には相談員を置く。相談員は、人権倫理委員会委員が兼務するほか、人権倫理委員会が決定する者をもって充てる。

- 2 相談員は、苦情の申し出に対応し相談に関わるとともに、ハラスメントに起因する問題の解決方法として、調停委員会及び調査委員会の設置を求めることができることを、申出人に説明するものとする。
 - (1) 相談員は苦情の申し出及び相談の事案を人権倫理委員会委員長に報告するものとする。
 - (2) 相談員は、申出人が調停委員会又は調査委員会の設置を求めた場合には、速やかに人権倫理委員会に報告しなければならない。
 - (3) 相談員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。

(調停委員会)

第5条 人権倫理委員会は、ハラスメントに関して、話し合いによる解決を目指す調停の申し立てがあったときは、男女の構成に配慮したハラスメント調停委員会（以下「調停委員会」という。）を設置する。

- (1) 人権倫理委員会委員 1名。
 - (2) 申立人の所属する学科もしくは部署の職員 1名。
 - (3) その他、人権倫理委員会が必要と認める者1名以上を加える。
- 2 調停委員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。
 - 3 調停委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選とする。
 - 4 委員の任期は、当該事案に関する調停委員会の任務が終了するまでとする。
 - 5 調停委員会は、当該事案に関し、調停の申立人及び被申立人（以下両者を「当事者」という。）の間での話し合いによる解決を目指し調停を行う。
 - (1) ハラスメントに関して、話し合いによる解決を目指す調停を申し立てた者を申立人、申立人から申し立てられた者を被申立人という。
 - (2) 当事者は、調停に際し、付添人（学外者も可）1名を伴うことができる。
 - (3) 申立人が、所属長等への告知を望まない場合は、所属学科及び部署の責任者には報告せずに調停を進める。
 - (4) 申立人及び被申立人は、必要がある場合には理由書を添えて、人権倫理委員会委員長に対して、それぞれ1回に限り調停委員の交替を申し出ることができる。
 - (5) 人権倫理委員会委員長は、第3号により調停委員の交替の申し出があった場合には、人権倫理委員会に諮り、合理的な理由があると認める場合には、調停委員の交替を認めることができる。
 - (6) 人権倫理委員会委員長は、第4号により委員の交替を認める場合には、人権倫理委員会に諮った後、速やかに委員の補充を行い、当事者に通知する。
 - (7) 第3号の申し出について、人権倫理委員会が委員の交替についての合理的な理由がないと判断する場合には、人権倫理委員会委員長は、その旨、当事者に通知する。

(調停)

第6条 調停は、次の各号に定める場合に終了するものとする。

- (1) 当事者間で合意が成立したとき。
 - (2) 当事者が、調停の打ち切りを申し出たとき。
 - (3) 調停委員会が、当事者間で合意が成立する見込みがなく、調停不能と判断したとき。
- 2 調停が合意に達して終了した場合、調停委員会は当事者間の合意事項を文書に取りまとめるものとする。
 - (1) 調停が終了した場合、調停委員会は当該事案の概要と調停結果を速やかに当事者の氏名を明記して人権倫理委員会に報告するものとする。
 - (2) 人権倫理委員会委員長は、調停結果を当事者の所属長及び学長に報告する。その際、申立人が望まない場合は申立人の氏名は明示しない。

- (3) 調停不能の結果となった場合、調停委員会は、調停に代わる手続き（調査委員会の設置）について当事者に説明しなければならない。

（ハラスメント調査委員会）

第7条 人権倫理委員会は、次の各号に該当する場合、ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置する。

- (1) 大学に対して何らかの強制的措置を要求する申し立てがあったとき。
- (2) 人権倫理委員会が救済、制裁及び環境改善の措置が必要と認めたとき。
- 2 調査委員会の構成員については、個別の事案に応じて外部委員を含め、学長が任命することとする。
- 3 調査委員会に委員長を置き、委員長は学長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員の任期は、当該事案に関する調査委員会の任務が終了するまでとする。
- 5 委員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。
- 6 調査委員会は、次に掲げる事項を行う。
 - (1) ハラスメントの事実関係の調査。
 - (2) 当事者からの事情聴取。
 - (3) 当事者間では事実の確認が十分にできないと認められる場合、第三者からの事実関係等の聴取。
 - (4) 調査結果に基づいて措置すべき対応案。
 - (5) その他、当該事案の解決に必要な事項。

（調査報告）

第8条 調査終了後、調査委員会は、事案の概要、調査経過及び結果並びに措置すべき対応案を速やかに人権倫理委員会に報告しなければならない。

- 2 人権倫理委員会は、調査委員会の調査報告に基づき審議を行い、その結果を速やかに学長に報告するものとする。

（不服申立て）

第9条 調査の結果合意された、大学並びに関係部局によって取られる被申立人の処分・研修、被害者の救済、環境改善等の措置について、調査委員会は直ちに当事者に説明しなければならない。

- 2 当該措置について不服がある場合、当事者は調査委員会に速やかに申し立てを行うものとする。
- 3 当事者により不服申し立てがあった場合、調査委員会は当該事案について再審議を行うことができる。

（事後措置）

第10条 学長は、人権倫理委員会の報告に基づき、処分又は学習・就業環境の改善等必要な事後措置を行わなければならない。

(守秘義務)

第11条 調停委員会及び調査委員会の委員は、任期中及び任期後において、任務上知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(その他)

第12条 この細則に定めるほか、ハラスメント防止等に関して必要な事項については、人権倫理委員会に於いて定めることとする。

附則

この細則は、平成21年12月9日から施行する。

東京医療保健大学東が丘看護学部ハラスメントに関する取扱細則

(目的)

第1条 東京医療保健大学ハラスメントに関する取扱細則に定める外、東が丘看護学部におけるハラスメント（以下「ハラスメント」という。）に関する取扱いを定めるものである。

(相談窓口)

第2条 ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対応するため、ハラスメント相談窓口を置く。

(相談員)

第3条 ハラスメント相談窓口には相談員を置く。相談員は、自己点検・評価委員会委員、学生生活支援委員会委員が兼務するほか、自己点検・評価委員会が決定する者をもって充てる。

2 相談員は、苦情の申し出に対応し相談に関わるとともに、ハラスメントに起因する問題の解決方法として、調停委員会及び調査委員会の設置を求めることができることを、申出人に説明するものとする。

(1) 相談員は、苦情の申し出及び相談の事案を自己点検・評価委員会委員長に報告するものとする。

(2) 相談員は、申出人が調停委員会又は調査委員会の設置を求めた場合には、速やかに自己点検・評価委員会に報告しなければならない。

(3) 相談員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。

(調停委員会)

第4条 自己点検・評価委員会は、ハラスメントに関して、話し合いによる解決を目指す調停の申し立てがあったときは、男女の構成に配慮したハラスメント調停委員会（以下「調停委員会」という。）を設置する。

(1) 自己点検・評価委員会委員1名。

(2) 申立人の所属する学部もしくは部署の職員1名。

(3) その他、自己点検・評価委員会が必要と認める者1名以上を加える。

2 調停委員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。

3 調停委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選とする。

4 委員の任期は、当該事案に関する調停委員会の任務が終了するまでとする。

5 調停委員会は、当該事案に関し、調停の申立人及び被申立人（以下両者を「当事者」という。）の間での話し合いによる解決を目指し調停を行う。

(1) ハラスメントに関して、話し合いによる解決を目指す調停を申し立てた者を申立人、申立人から申し立てられた者を被申立人という。

(2) 当事者は、調停に際し、付添人（学外者も可）1名を伴うことができる。

- (3) 申立人が、所属長等への告知を望まない場合には、学部及び部署の責任者には報告せず調停を進める。
- (4) 申立人及び被申立人は、必要がある場合には理由書を添えて、自己点検・評価委員会委員長に対して、それぞれ1回に限り調停委員の交替を申し出ることができる。
- (5) 自己点検・評価委員会委員長は、第4号により調停委員の交替の申し出があった場合には、自己点検・評価委員会に諮り、合理的な理由があると認める場合には、調停委員の交替を認めることができる。
- (6) 自己点検・評価委員会委員長は、第5号により委員の交替を認める場合には、自己点検・評価委員会に諮った後、速やかに委員の補充を行い、当事者に通知する。
- (7) 第3号の申し出について、自己点検・評価委員会が委員の交替についての合理的な理由がないと判断する場合には、自己点検・評価委員会委員長は、その旨、当事者に通知する。

(調停)

第5条 調停は、次の各号に定める場合に終了するものとする。

- (1) 当事者間で合意が成立したとき。
- (2) 当事者が、調停の打ち切りを申し出たとき。
- (3) 調停委員会が、当事者間で合意が成立する見込みがなく、調停不能と判断したとき。

2 調停が合意に達して終了した場合、調停委員会は当事者間の合意事項を文書に取りまとめるものとする。

- (1) 調停が終了した場合、調停委員会は当該事案の概要と調停結果を速やかに当事者の氏名を明記して自己点検・評価委員会に報告するものとする。
- (2) 自己点検・評価委員会委員長は、調停結果を当事者の所属する学部長及び学長に報告する。その際、申立人が望まない場合は申立人の氏名は明示しない。
- (3) 調停不能の結果となった場合、調停委員会は、調停に代わる手続き（調査委員会の設置）について当事者に説明しなければならない。

(ハラスメント調査委員会)

第6条 自己点検・評価委員会は、次の各号に該当する場合、ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置する。

- (1) 大学に対して何らかの強制的措置を要求する申し立てがあったとき。
- (2) 自己点検・評価委員会が救済、制裁及び環境改善の措置が必要と認めたとき。

2 調査委員会の構成員については、個別の事案に応じて外部委員を含め、学部長が任命することとする。

3 調査委員会に委員長を置き、委員長は学部長が指名する者をもって充てる。

- 4 委員の任期は、当該事案に関する調査委員会の任務が終了するまでとする。
- 5 委員は、プライバシーの保護及び秘密保持に努めなければならない。
- 6 調査委員会は、次に掲げる事項を行う。
 - (1) ハラスメントの事実関係の調査。
 - (2) 当事者からの事情聴取。
 - (3) 当事者間では事実の確認が十分にできないと認められる場合、第三者からの事実関係等の聴取。
 - (4) 調査結果に基づいて措置すべき対応案。
 - (5) その他、当該事案の解決に必要な事項。

(調査報告)

第7条 調査終了後、調査委員会は、事案の概要、調査経過及び結果並びに措置すべき対応案を速やかに自己点検・評価委員会に報告しなければならない。

- 2 自己点検・評価委員会は、調査委員会の調査報告に基づき審議を行い、その結果を速やかに学長及び学部長に報告するものとする。

(事後措置)

第8条 学長及び学部長は、自己点検・評価委員会の報告に基づき、処分又は学習・就業環境の改善等必要な事後措置を行わなければならない。

(その他)

第9条 この細則に定めるほか、ハラスメント防止等に関して必要な事項については自己点検・評価委員会に於いて定めることとする。

附則

この細則は、平成23年10月19日から施行する。

ハラスメントを知る。

「そんなつもりじゃなかったのに……」と後悔する前に、どのような行為・言動がハラスメントになりうるかを理解することが大切です。

男女差なく、同性間でも起こりうる“セクハラ”

セクシュアル・ハラスメント

教育・研究又は就業の場において、相手方の意に反する性的言動を行い、相手方に利益又は不利益を与えること及び就学、就労、教育・研究の環境を著しく損なうこと等。

たとえば――

- 「セクハラにあうのは君が悪い」「その程度は我慢しろ」「怪くかわせ」等言う。
- スリーサイズや体重的な身体的スペックをしつこく尋ねる。
- コンパで男子全員による全裸芸があり、参加が苦痛だった。

学内の上下関係が引き起こす“アカハラ”

アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的・精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。

たとえば――

- 授業中に教授から名指して罵詈雑言を浴びせられた。
- 時に過失もないのに研究室への出入りを禁じられた。
- 進級をたてに到底不可能な短期間の論文提出を命じられた。

職場の上下関係が引き起こす“パワハラ”

パワー・ハラスメント

就業の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。

たとえば――

- 上司に個人的に嫌われており結果を積み上げても昇進とは無縁。
- 上司の信仰する宗教への入信を強要された。
- 同僚のセクハラを上司に訴えたが問題を長期間放置された。

あなたのなにげない言葉・態度に、耐えている人がいるかもしれない――。



さまざまなお考え方・立場の人が集う大学のキャンパス。ちよつとした発言や行動に感じた不快感がハラスメントへと繋がりを、学習・研究・就業に支障をきたしてしまふ人もいます。東京医療保健大学では、「ハラスメントに関する取扱細則」（別項参照）を策定し、ハラスメント撲滅に取り組んでいます。

ハラスメントのないキャンパスをつくるには、どうしたらいいか、具体的に考えてみましょう。

ハラスメントをふせぐ。

すべての人が加害者にも被害者にもなりうるハラスメントの防止には、ひとりひとり当事者意識をもって取り組むことが必要です。

1 お互いの人格を尊重する

先輩／後輩、教育職員／学生など、大学には人間関係の序列がたしかに存在しますが、それは人格の優劣ではありません。普段から互いを尊重し信頼関係を築くことが重要です。

2 ハラスメント＝人権侵害だと認識する

加害者側は悪意がない場合もあり問題が矮小化されがちですが、人の命を奪う事態に発展することもあります。ハラスメントを軽く考えず、その重大さを認識しましょう。

3 見て見ぬふりをしない

自分が直接の被害者ではなくても、ハラスメントの現場を見たり聞いたりした場合には積極的に介入しましょう。周囲の意識の高さはハラスメントの抑止力になります。

ハラスメントにあったら。

ハラスメントをそのまま放置していると、修復可能なトラブルに発展しかねません。そうなる前に、問題解決のための行動を起こしましょう。

1 自分の意思を相手にはっきり伝える

加害者側はハラスメント行為を行っているという自覚がない場合もあり、黙っているとその言動が受け入れられると誤解されたままになってしまいます。

2 状況を客観的に記録しておく

日時・場所・状況・具体的なやりとり等を、できるだけ客観的に書き残しておきましょう。問題を解決していくうえで重要な資料になります。

3 ハラスメント相談窓口を利用する

周囲に知られたくない場合には、裏表紙に記載された相談窓口を利用しましょう。相談員がガイドラインに従い、プライバシーを保持したまま問題解決に取り組みます。

平成 25 年度 進路指導・ガイダンスの実施状況（医療保健学部）

事項	看護学科	医療栄養学科・医療情報学科
1. 自己分析 アセスメント	—	2 年次生を対象に、進路意識の早期確立を目指す。アセスメント結果の解説として自己分析講座を実施。医療情報学科は前期、医療栄養学科は後期。
2. 総合ガイダンス	4 年次生は 4 月に、3 年次生は 4 月及び 12 月に、就職活動の進め方に関する総合ガイダンスを実施。	4 年次生は 4 月、3 年次生は 4 月、7 月及び 10 月に、就職活動の進め方等に関するガイダンスを実施。
3. グループ面談	—	3 年次生の 5 月に、学生支援センター職員と学生 6 名がグループ面談し、進路・就職総合ガイダンス等で説明した就職活動準備に関する基本的な事柄をグループで話し合い再確認する。
4. 個人面談	「看護の統合と実践Ⅲ」のゼミ担当教員が 4 年次生に対し就職活動での病院選択の視点、応募について面談等、支援する。	3 年次生に対し、学生支援センターの職員が前期、後期にそれぞれ 1 回、就職活動に関する支援を目的に面談を実施。
5. 就職支援講座	3 年次生を対象に、公務員試験対策講座、社会人マナー講座、履歴書自己紹介書書き方講座、面接の受け方講座を学科毎に実施。（4 月～2 月）	
	3 年次生を対象に、小論文、作文の書き方講座を実施。（2 月）	3 年次生を対象に、就職活動概論講座、自己分析講座、自己 PR 文書作成講座、エントリーシート書き方講座、グループディスカッション講座、SPI 対策講座（8 回）を実施。（4 月～2 月）

事項	看護学科	医療栄養学科・医療情報学科
6. E-Testing	—	3年次生に、パソコンからインターネット経由で就職筆記試験対策模擬試験が受験できるプログラムを供与。年3回、全国模擬試験を実施。
7. 保証人合同説明会	—	3年次生保証人を対象に就職環境や本学就職支援等に関して、医療栄養学科、医療情報学科合同の説明会を実施。(7月27日(土))
8. 先輩の就職活動体験を聞く会	3年次生が、卒業生や就職先が決定した4年次生から就職活動体験を聞く会を実施。(看護学科12月、医療栄養学科11月、医療情報学科は10月)	
9. 病院説明会	実習病院12施設(東京通信病院他)、学生が希望する病院39施設(東京慈恵会医科大学附属病院等)を招聘し説明会を実施。(5月18日(土))	—
10. 企業研究 キャリア講座	—	就職実績のある企業を中心に医療栄養学科、医療情報学科それぞれ25社程度を学内に招聘し、業界や企業の説明会を実施。(11月~1月)

平成 25 年度 進路指導・ガイダンスの実施状況（東が丘看護学部）

事項	内容
1. 総合ガイダンス	4 年次生及び 3 年次生を対象に、就職活動の進め方に関する総合ガイダンスを実施。(4 月)
2. 個人面談	卒業研究の領域担当教員が個人面談を実施し就職活動での病院選択の視点、応募について支援する。4 年次生の 5 月より就職試験の模擬面接を実施。
3. 就職支援講座	3 年次生を対象に、公務員試験対策講座、社会人マナー講座、履歴書自己紹介書書き方講座、小論文、作文の書き方講座、面接の受け方講座を実施。(2 月)
4. 病院説明会	国立病院機構主催の病院説明会及び学生が希望する病院を学内に招聘する病院説明会を実施。(2 月)
5. 看護学生フォーラム	国立病院機構関信ブロック看護学生フォーラム(25.4.26(金)幕張メッセ)に 3 年次生が参加。学校紹介やパネリストとして発表し、午後には国立病院機構の病院説明会に参加した。

第4期卒業生を対象としたアンケート結果について

医療保健学部の平成23年度第4期卒業生261名を対象として、平成25年度に病院・企業等勤務先における勤務実態調査を行った(平成25年7月上旬～8月末)。その際に、大学で学んだことや活動したことで役に立っていること等についてアンケートを行ったところ、その主な回答は次のとおりであった。なお、アンケートの回答率については毎年度20%前後でありあまり高いことから平成25年度においては、氏名、住所、電話番号、現在の勤務先等を任意としましたが、今後、アンケート実施方法の工夫を行ってできるだけ多くの卒業生にアンケートに協力をしていただくよう質問事項の見直しを行うなど工夫を行ってまいります。

回答状況

区分	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
看護学科	114	20	17.5
医療栄養学科	99	14	14.1
医療情報学科	48	6	12.5
計	261	40	15.3

※前年までの回答状況

学科名	平成22年度実数 (第1期卒業生)			平成23年度実数 (第2期卒業生)			平成24年度実数 (第3期卒業生)		
	対象者数	回答者数	回答率(%)	対象者数	回答者数	回答率(%)	対象者数	回答者数	回答率(%)
看護学科	85	14	16.5	104	17	16.3	109	27	24.8
医療栄養学科	91	10	11	113	23	20.4	107	30	28
医療情報学科	72	10	13.9	70	7	10	75	7	9.3
計	248	34	13.7	287	47	16.4	291	64	22.7

1. 大学で学んだ科目や学内の活動で今の仕事に役立っていることは何ですか？
また大学でもっと勉強しておけばよかったと思う科目があればお聞かせください。

【看護学科】

- 実習が一番役に立った。薬に関する知識、医療機器に関する知識を増やしておけばよかった。
- 実習は様々なことが学べました。実際の現場を見ながら、患者さんと直接関わるため、コミュニケーションについても学べました。現在、NICU(新生児集中管理室)で働いていますが、大学時代ほとんど学ぶ機会がなかったので、もう少し勉強しておけばよかったと思います。
- 実習、基礎看護学、機能看護学、情報リテラシーが役に立っている。統計学、パソコンはもっと勉強しておけば良かった。

- 機能看護学の講義やグループワークが役に立っている。そのおかげで、アサーティブなコミュニケーションを心がけるようになったと思う。
- サークル活動はもちろん、授業では機能看護学がとても役に立っている。毎朝の病院でのカンファレンスの際に発言を上手くできる要因の一つだと思いました。
- 卒業論文を1人でやりきったことで自信がついた。
- 全科目が仕事で役立っている。
- 就職前に看護技術（点滴づくり、採血など）を復習しておく、働いてから仕事がしやすいと思った。
- 薬理をもっと勉強しておけばよかった。患者の持参する薬や内服している薬への知識が薄くもっと深く学んでおけばよかった。また、実際の患者に起きていることを解剖生理とむすびつけるのが大変である。解剖生理、病態生理をもっと勉強しておけばよかった。
- 夏期や直前での国試対策講座でそれまで理解できていないことを集中的に学ぶことが出来た。そして、この時整理した資料を今でも見返すことがある。
- 実際働いてみると、大学で受けた講義を業務に活かすことは難しかった。大学ではその場だけの勉強だったので全く頭に入っていなかったことを実感した。

【医療栄養学科】

- 栄養学、食品学、調理学、解剖生理学の知識を使うことが多く、もっと勉強すべきだった。さらに、薬を勉強する上で薬理学も勉強しておけば良かったと思う。
- 臨床栄養学、献立作成演習は、仕事に役立っている。フードスペシャリスト論、応用栄養学はもっと勉強しておけば良かったと思う。
- 生化学は難しかったが、面白かった。今の仕事で使う場合は少ないが、やっていなければ調理の現場にも入れなかったと思うので、やって良かったと思う。
- 臨床検査、臨床栄養学実習、臨床栄養学は、医師から食事の相談を受けた時や、献立をたてる際、患者さんの病態や検査値などをある程度分かっていないといけない為、大学で学んでおいて良かったと感じている。
- 給食経営管理論は暗記だけになってしまっていて、現場でいざ使おうという時に思い出せない。もっと勉強すべきだった。
- 調理実習と給食経営管理論実習と病院実習は役に立っていると思う。今の施設は、栄養ケアを行っているので、栄養ケアは勉強しておけばよかった。また献立作成、発注も行っているため、給食経営管理論ももっときちんと勉強しておけばよかった。
- 臨床栄養学は、大学で学んだ知識や基礎になり仕事場で活かしていると思います。
- 病院で役に立つのは臨床系の科目、栄養系の科目、基礎の解剖生理学です。本気で病院を目指すとしたら、国試の解剖、基礎栄養、臨床栄養、病理は必須です。
- 役に立ったのは応用栄養学です。もっと勉強すれば良かったと思うのは給食経営管理論実習です。
- 食品衛生学で学んだ食品添加物や微生物に関する知識が今の仕事で一番役立っている。もっとしっかり在学中に学んでおけばよかった。
- 基礎栄養学、臨床栄養学、生化学、応用栄養学等。臨床については、期間（Ⅰ～Ⅱくらいまで）が長いにも関わらず、幅が狭い気がした。
- 仕事をする中で積極的にコミュニケーションを図ることが出来ているのはボランティア活動に参加してきた姿勢のお陰だと実感します。
- もっと一般大学の人達とボランティアや学生団体で交流した方が良かったと思います。

【医療情報学科】

- ネットワーク、データベース、C言語が役に立っている。医療系の授業が充実していたので、もっと医学の知識をつけておけばよかったと後悔。現在の会社でシステムのスペシャリストはたくさんいるが医療情報のスペシャリストはあまりいないため、もっと活躍の場が広がったと思う。
 - カルテの読み方の講義や英語に力を入れたほうがよかった。
 - 役立っていること…全て。
 - 電子カルテのシステム系の技術、仕組みについて役に立っている。プログラミング（アプリケーション）についてもっと勉強しておいた方が良かった。
 - 企業実習では社会人としての振舞いや毎日毎日の仕事の流れが違うことで、その日のうちにやらなければならないのが当時とはとても学べたと思います。
 - 分析関係の勉強をもっとやりたかったです。データサイエンスや情報科学はよかった。
2. 大学の授業や実習、学生支援全般等、ご感想等あればお願いします。

【看護学科】

- ゼミなどで何か縦のつながりがあれば良いなと思った。（サークル以外でも）
- 看護師になる前に実際に看護の業務はどのくらい大変か、夜勤の実習や多重業務など実感できるような実習があったらいいなと思いました。
- 学生支援センターには大変お世話になりました。
- 4年生では毎日学校で自習させていただきました。自習室の存在はとてもありがたかったです。

【医療栄養学科】

- 国試対策では徹底的に追い詰めて頂けたこと感謝しております。関わって頂いた皆様、誠にありがとうございました。
- 授業では熱心な先生方の講義を受けることができ仕事でも役立っているのが良かった。学生支援センターの方々のきめ細かな対応や卒業後のサポートなどもしっかりして頂いて感謝しています。
- どの先生方もとても熱心で良かったです。就活の際も精神的にもサポートしてくださり、とても心強く、就活に専念することができました。
- 大学4年の時の病院実習は就職試験と重なり、せつかくのチャンスを断ることになった友人も多く、私もその1人でした。もう少し実習の時期を考えてほしいと思いました。
- 模試で120点越えないと全科目のレポートを書かせるというやり方は、やめた方がいいと思う。そのせいで勉強時間がけずられて、覚えられるものも覚えられなくなる。
- 私がこれから共に住む仲間は他の一般大学出身です。（早稲田、東京大大学院、明治 etc.）その皆は、大学3年生あるいは、もっと早い時期から就職や進路に関して向き合い尽力してきました。その時間も、情報も、人も（人の資源）ありました。しかし私達は3年も授業びっしりです。私達の学科は、専門職資格を取得しますが、多くは一般企業に入ります。ですので、1年、2年の前期位から一般企業の情報と求める資格や能力を獲得するための行動、一般の企業へのインターンへの積極的参加をした方が良いと思います。

- 実習の際、就職面接が重なってしまい、そのことを担当の先生へ話したところ、就職の面接を優先しても良いと言って下さったが、先生によっては実習を優先するようにとすることもあったことでした。実習も大事ですが就職も将来がかかっている大事なことなので、もう少し融通をきかせてもらえればと思います。
- 先生や就活支援の方など皆さんにとっても手厚く指導頂いたと思いますが（もちろんとても感謝していますが）甘える学生が多いと感じた。国試にせよ、就活にせよ、もっと自立して自主的に動けるような指導をして頂いた方が社会にでてからも役に立つと思います。
- 国家試験の対策や就職支援は様々なサポートをして頂き、とても感謝しています。ありがとうございました！！

【医療情報学科】

- 学内コンテンツの充実化。資格試験取得対策講座の充実化。学校周辺のコンビニの充実化。支援センターの人たち好きでした！優しくしてくださってありがとうございます。感謝しています。
- 百聞は一見にしかずで実習は本当に勉強になり、今でも役立っています。学生支援としては事務局の方々がもっと医療情報等、学生がやっている内容に関しての理解の幅が広がればよいと感じました。そうすれば学生の就職や活動の幅も大きくなると感じます。
- 学生対象のカウンセリングをもっと充実してほしい。

3. 大学時代を振り返り、力を入れたことは何ですか？

	項 目	最大2 つまで
a	大学の講義や実習	25 名
b	自学習(予習復習、e-testing など)	3 名
c	サークル活動	6 名
d	ボランティア活動	4 名
e	アルバイト	18 名
f	その他(ゼミ・卒論・学友会・習い事など)	5 名

- 卒研、学会発表というとても貴重な経験をさせて頂き、自信につながった。
- 大学の授業や課題については休まず頑張ったり、夜遅くまたは土日を利用して頑張っていた方だと思うけれど、それだけでは足りないことも多い。
- 大学でも一生懸命やっていたつもりだったが、もっと、興味を持って講義を受けていればよかったと思う。管理栄養士の職に就いてから、もっと授業を受けたかったと思った。
- 大学 1~2 年の頃の全員で受ける授業ではうるさくて全然集中できなかった。3~4 年では国試に向けてクラスも勉強する雰囲気になっていたし、選択の少人数授業とかがあって自分の勉強したい分野をしっかりと勉強できた。
- 国家試験対策がしっかりとしていたので、自学習も懸命にとり組めたと思う。
- 学外活動で人生をかけて付き合いたいと互いに思える仲間達と出会えたのは一番の財産です。
- 生活費を稼ぐ必要があったためアルバイトを頑張った。
- 色々な場所で色々な働き方をすることで様々な社会経験ができると思いアルバイトに力をいれていました。

4. 母校の後輩にメッセージをお願いします。

【看護学科】

- 看護は日々勉強です。まずは卒業、国試合格頑張ってください。
- 看護師、保健師は色々な場所で働くことができ、仕事にやりがいを感じられます。
- 大学時代に学んだことは、看護師になるうえで基本だと思いました。大変なこともたくさんあると思いますが、頑張ってください。就職したら休みがあまりないので、大学時代にしかできないことを思う存分に、楽しんでください。
- 国試の勉強は本当に辛かったです。友だちとの息抜き、励ましあって乗り切ることができました。大学の思い出のひとつにもなっているので、国試だけにせず思い出になるよう頑張りすぎず頑張ってください。
- たくさん遊んで勉強して教養のあるナースになって下さい。何よりも患者さんの声が支えです。
- 努力は無駄にならないので、自分を信じてがんばって下さい。
- ”今”を大切にその時に頑張れる最大限の努力をして下さい。そのことが働いてから自信に変わるはず。悩んだときは…とことん悩んで！！遊ぶときはとことん遊ぶ！！とっても、とっても大事なことです！
- 実習などで学んだことは必ず現場で役に立ちます。後悔しないように頑張って勉強してほしいです。

【医療栄養学科】

- どの業界へ行っても、資格の存在があなたの社会での可能性を広げてくれます。頑張ってください。辛く苦しいことも多いですが負けないでください。
- 4年間はあっという間なので、勉強やバイトや遊びも頑張って充実した大学生活を送って下さい！
- 小さいキャンパスだからこそ、ひとり一人に親身になって下さったと思います。第1志望の大学ではありませんでしたが、卒業した今、この大学に入学して良かったと感じています。
- 大学は、分からないことがあったらすぐに先生に聞くことができる恵まれた場所だと思います。学生の時期にいっぱい勉強して、自分の好きな分野を見つけて行って欲しいです。
- 何事も日々コツコツやるのが大切だと今実感しています。今しかできないことを一生懸命やって下さい！
- 1年間学校や病院で働いてみて、栄養士は体力勝負だということがよく分かりました。在校生の皆さんももう一度どうして自分が栄養士になりたいと思ったのか考えて進路を決めた方がいいと思います。
- 卒業時に就職先が決まっていなくてとても不安だとは思いますが『卒業までには就職先を決める』のではなく、時間をかけて自分が納得のできる就職先、ここで働きたいと思える就職先を見つけてください。時間がかかっても必ずみつかります！！
- 経団連が就活時期の遅延化を認めました。ここでじゃあ後から就活すればいいやと思う人と、自主的に早期に動いてネットワークを構築していく人との間で「就活格差」が、いっそう広がります。皆さんが目指している仕事は、本当にあなたの人生にとって幸せな選択ですか？条件や待遇など裏事情をどこまで知っていますか？条件がどんな時いい顔ができるか、条件の許容範囲はどこからどこまでですか？それらを満たすための選択と実現できるための力はいつまでに、どうやって身に付けていきますか？キャリアプランは早ければ早い程、その後の人生を豊かにすると思います。

- 大学で学んでいることに、何一つムダなことはなかったと、就職した今、とても感じています。後悔のないよう、4年間しっかり大学生活を楽しみつつ勉強して下さい。
- 資格の勉強が忙しい、を理由に就活をおろそかにしてしまったことを後悔しています。焦ることなく卒業間際まで就活すれば良かったです。後悔先に立たず、です。
- 大学でしか学べないこと（学問に限らず）は多くあると思うので、大学生だからとダラダラしすぎないで頑張ってくださいと思います。（個人的には、授業で学ぶこと以外にも自主的に勉強したかったです。課題が多すぎて、手が出せませんでした・・・）

【医療情報学科】

- 全ての講義それぞれの内容は今後の活動に繋がるため、授業を大切に受けてほしいと感じます。特に4年次はとても大事だと思いますので、ただアルバイトをするのではなく、研究活動や留学等、今しかできないことをやったほうがいいです。
- 有名大学に負けない専門技術を身につけ、視野を広げ頑張ってください。4年間は短いです。
- 遊びも全力、勉強も全力で頑張ってください。
- システム開発という仕事はとても難しいですがやりがいがあります。何かを作ることが好きな人、何かを形として表現したい人、新たなことに挑戦したい人は是非是非エンジニアになって世の中に貢献してってください。可能性は無限大にある環境です。
- 大学では日々何となく過ごしたり遊んでいるのも楽しいですが、何か目標を持ってその目標に向かって日々過ごすことで就職活動でもきちんと『自分』という存在をアピールできると思うので、これからの学生時代を有意義に過ごしてほしいと思います。

東京医療保健大学の環境整備に関する実施計画

【目標】

1. 本学の教育理念・教育目標・教育目的を達成するために必要な施設・設備等の整備を図る。
2. 教育研究環境の整備・充実に努める。
3. 施設・整備等の円滑な維持・管理に努める。

【中期展望】

1. 各学部・各学科・各研究科における教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた講義室・実習室・実験室・演習室の設備及び実験・実習に必要な施設の一層の整備・充実に努めることとする。
なお、平成 23 年度に受審した大学評価において大学基準協会から教育研究等環境に関して「医療保健学部の演習室は極めて狭いので、学生の学修に配慮した環境を整えるよう改善が望まれる。」と指摘されたことから、医療保健学部演習室の拡充整備に鋭意努めることとする。
2. 教育研究等を支援する環境等の整備・充実に努める。
 - ・各キャンパスをつなぐ学内 LAN 及びデスクネットの円滑な整備に努める。
 - ・各キャンパスにおいては、バリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。
 - ・各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに、施設・設備の老朽化に対応した適切な整備を図る。
 - ・各学部・各学科・各研究科の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。
3. 災害防災対策規程及び各キャンパス震災等災害対応マニュアルに基づき、教職員及び学生の安全確保を図るとともに、本学の施設・設備・土地等を災害から保護する方策を講ずることとする。

【平成 23 年度整備計画】

○五反田キャンパス

- ・ G304・G305 教室のプロジェクター更新（9 月）。
- ・ 体育館の冷暖房設備設置（12 月）。

- 世田谷キャンパス
 - ・ A202・A203・A301・A302・A401 教室のプロジェクター更新（9月）。
 - ・ 老朽化している別館教室の扉の交換（8～9月）。
 - ・ 体育館の冷暖房設備設置。
- 国立病院機構キャンパス
 - ・ 新校舎の改修移転工事。
- 学生寮
 - ・ なでしこ寮の厨房及び食堂の改修。
 - ・ 和敬寮の増築。
- 震災等災害対応マニュアルに定める地震災害時における防災体制の周知徹底を図る。
 - ・ 防災訓練の実施。
 - ・ 緊急対応の備蓄品の整備。
 - ・ 薬品等危険物の保管及び管理の徹底。

【平成 24 年度整備計画】

- 五反田キャンパス
 - ・ 体育館の冷暖房設備設置。
- 世田谷キャンパス
 - ・ 体育館の冷暖房設備設置。
 - ・ 新館屋上の防水工事及びウッドデッキ等の改修。
 - ・ 別館屋上の防水工事。
 - ・ 別館空調設備の改修。
- 国立病院機構キャンパス
 - ・ HM206 教室に液晶モニター等設置。
 - ・ 緊急対応の備蓄品の整備（防災訓練を併せ実施）。

【平成 24 年度追加整備計画】

- 五反田キャンパス
 - ・ 第二別館のエレベーターに戸開走行保護装置の設置（予定）。
 - （実費経費を見積依頼中、25 年度に実施することもある）
- 世田谷キャンパス
 - ・ 本館のエレベーターに戸開走行保護装置の設置（予定）。
 - （実費経費を見積依頼中、25 年度に実施することもある）
- 国立病院機構キャンパス
 - ・ 本館及び研究棟のエレベーターに戸開走行保護装置の設置（予定）。
 - （実費経費を見積依頼中、25 年度に実施することもある）

【平成 25 年度整備計画】

- ①演習室等の拡張のために五反田及び世田谷校舎周辺で賃借物件の確保を図る。
- ②各キャンパスエレベーターに戸開走行保護装置を設置する。
- ③世田谷キャンパスについては次の整備を行う。
 - ・別館屋上の防水最終工事。
 - ・別館教室等の照明設備をLED照明等に改修。
- ④国立病院機構キャンパスについては別館5階に演習室等9室を整備する。

附則

この実施計画は、平成 23 年 10 月 19 日から施行する。

附則

平成 24 年度の実施計画は、平成 24 年 7 月 18 日から施行する。

附則

この実施計画は、平成 24 年 12 月 5 日から施行する。

附則

平成 25 年度の実施計画は、平成 25 年 5 月 15 日から施行する。

(表19) 教員研究費内訳

学部・研究科等	研究費の内訳	2008年度		2009年度		2010年度		
			研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	
医療保健学部	研究費総額	123,010,753	100%	147,430,486	100%	135,089,508	100.0%	
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	96,943,260	78.8%	103,172,586	70.0%	95,151,258	70.4%
		学内共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%
		科学研究費補助金	20,183,743	16.4%	29,757,635	20.2%	23,220,000	17.2%
	学外	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	1,000,000	0.8%	2,400,000	1.6%	1,197,000	0.9%
		奨学寄附金	3,883,750	3.2%	9,936,265	6.7%	12,500,000	9.3%
		受託研究費	1,000,000	0.8%	2,164,000	1.5%	3,021,250	2.2%
		共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%	

学部・研究科等	研究費の内訳	2011年度		2012年度		
		研究費（円）	研究費総額に対する割合（％）	研究費（円）	研究費総額に対する割合（％）	
医療保健学部	研究費総額	136,821,124	100.0%	124,350,391	100.0%	
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	84,079,124	61.5%	88,345,391	71.0%
		学内共同研究費	0	0.0%		0%
		その他	0	0.0%		0%
	学外	科学研究費補助金	25,040,000	18.3%	16,510,000	13.3%
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0	0.0%	0	0%
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	4,215,000	3.0%	3,960,000	3.2%
		奨学寄附金	21,330,000	15.6%	15,155,000	12.2%
		受託研究費	2,157,000	1.6%	380,000	0.3%
		共同研究費	0	0.0%	0	0%
		その他	0	0.0%	0	0%

学部・研究科等	研究費の内訳	2010年度		2011年度		2012年度		
		研究費（円）	研究費総額に対する割合（%）	研究費（円）	研究費総額に対する割合（%）	研究費（円）	研究費総額に対する割合（%）	
東が丘看護学部	研究費総額	31,216,708	100%	42,961,157	100%	44,210,809	100%	
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	26,766,708	85.7%	35,551,157	82.8%	32,380,809	73%
		学内共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%
	学外	科学研究費補助金	4,450,000	14.3%	7,410,000	17.2%	11,830,000	27%
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		奨学寄附金	0	0%	0	0%	0	0%
		受託研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%

学部・研究科等	研究費の内訳	2010年度		2011年度		2012年度		
		研究費（円）	研究費総額に対する割合（％）	研究費（円）	研究費総額に対する割合（％）	研究費（円）	研究費総額に対する割合（％）	
学部合計 〔医療保健学部 東が丘看護学部〕	研究費総額	166,306,216	100%	179,782,281	100%	168,561,200	100%	
	学内	学 經常研究費 (教員当り積算校費総額)	121,917,966	73.3%	119,630,281	66.5%	120,726,200	71.6%
		学 学内共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		学 その他	0	0%	0	0%	0	0%
		学 科学研究費補助金	27,670,000	16.7%	32,450,000	18.0%	28,340,000	16.9%
	学外	政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	1,197,000	0.7%	4,215,000	2.3%	3,960,000	2.3%
		奨学寄附金	12,500,000	7.5%	21,330,000	12%	15,155,000	9.0%
		受託研究費	3,021,250	1.8%	2,157,000	1.2%	380,000	0.2%
		共同研究費	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%	

(表20) 科学研究費の採択状況

学部・研究科等	科 学 研 究 費								
	2008年度			2009年度			2010年度		
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100
医療保健学部	10	3	30.0	11	3	27.3	7	3	42.9
東が丘看護学部	—	—	—	—	—	—	0	0	0.0
計	10	3	30.0	11	3	27.3	7	3	42.9

学部・研究科等	科 学 研 究 費					
	2011年度			2012年度		
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100
医療保健学部	10	2	20.0	20	5	25.0
東が丘看護学部	7	4	57.1	6	2	33.3
計	17	6	35.3	26	7	26.9

- [注] 1 教員、助手が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入してください。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないでください。

科学研究費補助金に関する全学説明会実施状況

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日時	22.7.30(金) 16:30～18:00	23.8.4(木) 18:00～19:30	24.8.1(水) 16:30～18:00	25.7.31(水) 16:30～18:00
場所	五反田キャンパス 304教室	国立病院機構 キャンパス別館 H511教室	五反田キャンパス G304教室	五反田キャンパス G304教室
講師	文部科学省 研究振興局 学術研究助成課 岡本 和久 課長補佐	大分県立看護 科学大学 甲斐 倫明 研究科長	独立行政法人 日本学術振興会 研究事業部 研究助成第一課 中山 亮 課長代理	文部科学省 研究振興局 学術研究助成課 中塚 淳子 課長補佐
参加者数	50名	40名	62名	67名

(表28) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料 の所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内数)	内国書	外国書			2010年度	2011年度	2012年度	
附属世田谷図書館	44,824	36,964	264	114	1,545	1,283	2,516	1,489	1,735	
附属五反田図書館	18,475	17,830	213	76	1,198	0	1,898	1,708	1,398	附属五反田図書館は附属世田谷 図書館・附属東が丘図書館契約 分の電子ジャーナルを利用。
附属東が丘図書館	2,283	2,282	91	20	72	2,541	1,323	743	203	2010年4月1日付で新規開設。
計	65,582	57,076	568	210	2,815	3,824	5,737	3,940	3,336	

[注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。

3 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

4 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(表29) 図書館利用状況

図書館の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	年間 開館 日数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数			備 考
					2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度	
附属世田谷 図書館	1 (1)	2 (2)	271	月～金 9:00 ～ 20:00	40,480人	44,542人	46,822人	4,552冊	4,322冊	4,805冊	
				土 9:00 ～ 17:00	()	()	()	(教員 357 職員 168 学生 4,027)	(教員 316 職員 126 学生 3,880)	(教員 625 職員 178 学生 4,002)	
				日祭日 : ～ :	()	()	()				
				長期休暇中 9:00 ～ 17:00	()	()	()				
附属五反田 図書館	1 (1)	3 (3)	270	月～金 9:00 ～ 20:00	38,467人	37,032人	31,716人	12,006冊	12,984冊	12,092冊	長期休暇中の開館 時間は9月第2週 9:00～18:00第3週 以降9:00～20: 00
				土 9:00 ～ 17:00	()	()	()	(教員 1,062 職員 79 学生10,865)	(教員 1,284 職員 96 学生11,604)	(教員 1,531 職員 100 学生1,046)	
				日祭日 : ～ :	()	()	()				
				長期休暇中 9:00 ～ 17:00	()	()	()				
附属東が丘 図書館	1 (1)	3 (3)	263	月～火、木～金 9:00 ～ 20:00	—	—	37,269人	397冊	2,436冊	4,786冊	2010年4月1日付で 新規開設。 2010～2011年度の 年間利用者数は、 入館システム未設 置のため不明。
				水、土 9:00 ～ 17:00	()	()	()	(教員 72 職員 36 学生 289)	(教員 428 職員 109 学生 1,899)	(教員 549 職員 68 学生 4,169)	
				日祭日 : ～ :	()	()	()				
				長期休暇中 9:00 ～ 17:00	()	()	()				

[注] 1 スタッフ数は、専任、非常勤ごとに、司書の資格を有するものを () 内に内数で記入してください。

2 年間利用者数・貸出冊数には、一般開放による地域住民等の人数や冊数は含めないで、学生及び教職員の利用状況を記入してください。

3 「開館時間」に上記以外の時間帯がある場合は、作表してください。

4 「年間利用者数(延べ数)」および「年間貸出冊数」について、教員・職員・学生の別に内訳を把握している場合は、() 内に記入してください。

東京医療保健大学の社会連携・協力に関する基本方針

- 本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としており、教育、研究とともに社会貢献を本学の重要な使命としている。

 - この教育目標及び使命に基づき、医療系の大学として教育・研究の充実・発展を図るとともに、医療・健康・保健面での社会貢献を積極的に推進し、地域との連携・協力を組織的に推進するため、「社会連携・協力に関する基本方針」を次のとおり定める。
- 1、本学の教育・研究に係る成果を基にした社会へのサービス活動及び社会貢献の一環として、地域の区等との連携・協力により医療・健康・保健をテーマとした公開講座を積極的に開催する。
 - 2、医療系の大学に学ぶ学生として、社会貢献・社会活動に関する意識の涵養を図り地域社会との交流を深めるため、医療等に関わるボランティア活動及び地域の行事等に参加して地域との交流を深める活動等への積極的な参加を推進する。
 - 3、教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究及び受託研究を積極的に推進するとともに、その成果を社会に公表する。
 - 4、本学の教育・研究の活動状況等について、ウェブサイト等による情報公開を積極的に推進するとともに、社会からの意見・要望等を真摯に受け止め適切な措置を講ずることとする。
 - 5、地域社会に開かれた大学として大学の施設の開放及び図書館利用の拡充に努める。

公開講座実施状況(平成23年度～平成25年度)

	平成23年度					
後援・共催	品川区共催		世田谷区共催		品川区後援	
実施日時	23.5.29(日) 10:00～12:00		23.10.15(土) 10:00～12:00		23.11.19(日) 10:00～12:00	
実施場所	こみゆにていプラザ八潮		新樹苑		五反田キャンパス	
受講料	無料		無料		無料	
講座の内容	「転倒予防としてのフットケア」		「上手な病院の選び方、かかり方」 地域で安心して生活していくために		「これから妊娠を 考えているあなたへ」	
講師	医療情報学科准教授 山下 和彦		看護学科准教授 真野 響子		助産学専攻科教授 米山 万里枝	
参加者数	56名		60名		24名	
アンケート回答者数	54名 (回収率 96.4%)		34名 (回収率 56.7%)		24名 (回収率 100.0%)	
性別	女性44名、男性10名		女性28名、男性6名		女性23名、男性1名	
年代	70歳以上	40.7%	70歳以上	73.5%	50～69歳	4.2%
	50～69歳	57.4%	50～69歳	23.5%	30～49歳	58.3%
	50歳未満	1.9%	50歳未満	3.0%	10～29歳	37.5%
在住	品川区	98.1%	世田谷区	100.0%	品川区	98.1%
	その他の区等	1.9%	その他の区等	0.0%	その他の区等	1.9%
感想	とてもわかりやすかった	94.4%	とてもわかりやすかった	82.4%	とてもわかりやすかった	87.5%
	とてもためになった	96.3%	とてもためになった	82.4%	とてもためになった	95.8%
講座を知った方法	チラシ・ポスター	17.8%	世田谷区報	40.0%	チラシ・ポスター	25.0%
	友人・知人	5.4%	チラシ・ポスター	22.9%	友人・知人	20.8%
	その他	76.8%	友人・知人	11.4%	大学のHP等	54.2%
			その他	25.7%		

	平成24年度					
後援・共催	品川区共催		世田谷区共催		品川区後援	
実施日時	24.5.27(日)10:00～12:00		24.6.23(土) 10:00～12:00		24.11.17(土)10:00～12:00	
実施場所	こみゆにていプラザ八潮		新樹苑		五反田キャンパス	
受講料	無料		無料		無料	
講座の内容	「生きるための心(性)の教育」		「腎臓の働きが衰えている人の食事」		「知っておきたい こどもの病気と健康管理」	
講師	看護学科准教授 渡會 睦子		医療栄養学科教授 森本 修三		看護学科准教授 富岡 晶子	
参加者数	20名		38名		10名	
アンケート回答者数	13名 (回収率 65%)		34名 (回収率 89.5%)		7名 (回収率 70.0%)	
性別	女性11名、男性2名		女性29名、男性5名		女性7名、男性0名	
年代	70歳以上	25.0%	70歳以上	74.3%	50～69歳	28.6%
	50～69歳	25.0%	50～69歳	22.9%	30～49歳	71.4%
	50歳未満	50.0%	50歳未満	2.8%	10～29歳	0.0%
在住	品川区	69.2%	世田谷区	91.4%	品川区	71.4%
	その他の区等	30.8%	その他の区等	8.6%	その他の区等	28.6%
感想	とてもわかりやすかった	100.0%	とてもわかりやすかった	91.4%	とてもわかりやすかった	100.0%
	とてもためになった	84.6%	とてもためになった	91.4%	とてもためになった	85.7%
講座を知った方法	チラシ・ポスター	30.8%	世田谷区報	42.9%	チラシ・ポスター	42.3%
	友人・知人	30.8%	チラシ・ポスター	34.3%	大学のHP等	57.7%
	大学のHP等	38.4%	友人・知人	11.4%		
			その他	11.4%		

	平成25年度					
後援・共催	品川区共催		世田谷区共催		品川区共催	
実施日時	25.5.26(日)10:00～12:00		25.10.20(日) 10:00～12:00		25.11.16(土)10:00～12:00	
実施場所	こみゆにていプラザ八潮		上北沢ホーム		五反田キャンパス	
受講料	無料		無料		無料	
講座の内容	「男女共同参画時代こそ知っておきたいライフイベントと女性の健康・災害と備え」		「転倒予防のための足部ケアと身体機能の向上」		「老化を予防する(アンチエイジング)」	
講師	看護学科准教授 岩崎 和代		医療情報学科教授 山下 和彦		医療栄養学科准教授 神田 裕子	
参加者数	27名		18名		70名	
アンケート回答者数	26名 (回収率 96.3%)		14名 (回収率 77.8%)		62名 (回収率 88.6%)	
性別	女性22名、男性4名		女性10名、男性4名		女性41名、男性20名、無記名1名	
年代	70歳以上	46.2%	70歳以上	57.2%	70歳以上	45.2%
	50～69歳	46.2%	50～69歳	35.7%	50～69歳	40.3%
	50歳未満	7.6%	49歳以下	7.1%	49歳以下	14.5%
在住	品川区	57.7%	世田谷区	100.0%	品川区	69.4%
	その他の区等	42.3%	その他の区等	0.0%	その他の区等	30.6%
感想	とてもわかりやすかった	96.2%	わかりやすかった	92.8%	わかりやすかった	92.0%
	とてもためになった	88.5%	参考になった	92.8%	参考になった	95.2%
講座を知った方法	チラシ・ポスター	26.9%	世田谷区報	46.7%	品川区報	48.5%
	友人・知人	46.2%	チラシ・ポスター	46.7%	チラシ・ポスター	27.9%
	大学のHP等	26.9%	その他	6.6%	友人・知人	10.3%
					その他	13.3%

大学院公開講座等実施状況 医療保健学研究科（平成23年度～平成25年度）

	平成23年度 大学院公開講座	平成24年度 大学院公開講座
実施日時	23.7.9（土） 13：00～16：00	24.7.7（土） 13：00～16：00
実施場所	時事通信ホール	時事通信ホール
受講料	3,000円	3,000円
講座名	「新しい時代に向けての感染制御」	「感染制御策の向上を目指して」
講座の内容	感染制御学コースの大学院生及び感染制御実践看護学講座修了生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報を解説。	感染制御学コースの大学院生及び感染制御実践看護学講座修了生、受講生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、国内外の最新の情報解説。
講師	小林 寛伊（東京医療保健大学長） 大久保 憲（東京医療保健大学医療情報学科長） 東京医療保健大学大学院生15名 感染制御実践看護学講座修了生1名	小林 寛伊（東京医療保健大学長） 大久保 憲（東京医療保健大学医療情報学科長） 東京医療保健大学大学院生12名、修了生1名 感染制御実践看護学講座修了生2名
参加者数	177名	176名
アンケート回答者数	72名(40.7%)	50名(28.4%)
講座を知った方法	勤務先等からの案内 67% 大学院のホームページ 19% チラシ・ポスター・雑誌 14%	大学院からの案内メール、郵送物 45% 勤務先・知人からの案内 27% 大学ホームページ 8% 雑誌の広告 4% その他 16%
公開講座の時間	ちょうど良い 90% 長い 2% 短い 8%	ちょうど良い 94% 長い 4% 短い 2%
公開講座の内容	妥当 79% 難しい 11% もう少し専門的でも良い 10%	妥当 80% 難しい 12% もう少し専門的でも良い 6% その他 2%

	平成25年度 大学院公開講座	
実施日時	25.7.6(土) 12:30~16:00	
実施場所	時事通信ホール	
受講料	3,000円	
講座名	「感染制御 -2013年の話題-」	
講座の内容	感染制御学の大学院生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報、感染関連法規等を解説。感染制御実践看護学講座及び感染制御学研究センター東京・大阪の紹介。	
講師	小林 寛伊 (東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科長) 大久保 憲 (東京医療保健大学 医療情報学科長) 菅原 えりさ (東京医療保健大学大学院 准教授) 吉田 理香 (東京医療保健大学大学院 准教授) 東京医療保健大学大学院生10名	
参加者数	173名	
アンケート回答者数	63名 (36.4%)	
講座を知った方法	大学院からの案内メール、郵送物	49%
	勤務先・知人からの案内	27%
	大学ホームページ	8%
	雑誌の広告	6%
	その他	10%
公開講座の時間	ちょうど良い	92%
	長い	4%
	短い	4%
公開講座の内容	妥当	87%
	難しい	9%
	もう少し専門的でも良い	4%

大学院公開講座実施状況 看護学研究科（平成23年度～平成25年度）

	平成23年度
実施日時	24. 3. 13(火) 18:00～20:00
実施場所	国立病院機構キャンパス
受講料	1,000円
講座名	「急性期のナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割」
講座の内容	米国スタンフォード大学病院の救急医療現場でナースプラクティショナーとして活躍しているChan, Garrett氏の活動内容についての講演。
講師	Chan, Garrett（米国スタンフォード大学病院） 臨床准教授
参加者数	115名
アンケート回答者数	アンケートは行わなかった
講座を知った方法	
公開講座の時間	
公開講座の内容	

	平成24年度	平成25年度
実施日時	24. 10. 29(月) 17:30～19:00	25. 6. 10(月) 18:00～19:30
実施場所	国立病院機構キャンパス	国立病院機構キャンパス
受講料	1,000円	1,000円
講座名	「オーストラリアにおける看とり～現状と課題～」	「米国におけるナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割」
講座の内容	ターミナルケアの世界的権威者であるマーガレット・オコナー氏の、海外におけるターミナルケアの現状についての講演。	Chan, Garrett氏の、米国におけるナースプラクティショナーの歴史的発展の経緯、実際の活動経験、未来に向けての課題等の講演。
講師	マーガレット・オコナー オーストラリア、モナシュ大学医療看護科学学部 教授	Chan, Garrett（米国スタンフォード大学病院） 臨床准教授
参加者数	90名	73名
アンケート回答者数	60名	58名
講座を知った方法 (学外者のみ)	大学のホームページ 0% 大学からのチラシ 31% 友人・知人からの案内 23% その他（勤務先等からの案内） 46%	大学のホームページ 12% 大学からのチラシ 19% 友人・知人からの案内 7% その他（教員等からの案内） 24% 無回答 38%
公開講座の時間	適当 87% 長い 0% 短い 5% その他（途中から参加） 5% 無回答 3%	適当 95% 長い 0% 短い 2% 無回答 3%
開始時間	適当 70% もっと早い時間がよい 8% もっと遅い時間がよい 19% その他（土曜日） 3%	適当 78% もっと早い時間がよい 14% もっと遅い時間がよい 3% 無回答 5%
公開講座の内容	すごく良かった 15% 良かった 52% 普通 21% 難しい 7% その他（もう少し専門的でも良い） 3% 無回答 2%	すごく良かった 47% 良かった 42% 普通 5% 難しい 3% 無回答 3%

医療保健学部学生による課外活動の状況について（平成21年度以降の主なもの）

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
1. 医療に関わる活動・参加	N T T 東日本 関東病院（品川区）におけるトリアージ訓練	21.10.8（木）	110名	・大事故、災害時における救命の順序を決める訓練に参加し、医療系の大学で学ぶ学生としてその重要性を認識する機会となった。
		22.10.7（木）	110名	
		23.10.13（木）	113名	
		24.10.11（木）	96名	
		25.10.10（木）	34名	
2. 高齢者・障がい者等への介助及び支援活動	中延複合施設（品川区）のくつろぎ祭り	21.9.5（土）	12名	・祭りの当日、高齢者・障がい者の食事等の支援活動により介護の深みを体験することができた。
		22.9.4（土）	3名	
		23.9.17（土）	5名	
		24.10.6（土）	8名	
		25.10.12（土）	8名	
	社会福祉法人 三徳会（品川区）の成幸ホームの成幸まつり	21.8.29（土）	3名	同上
	社会福祉法人 三徳会 荏原ホーム（品川区）の荏原まつり	21.8.8（土）	1名	同上
		22.9.4（土）	3名	
	一般社団法人 たまみずき基金 第1回オータムキャンプ	25.10.13（日）～ 14（月）	4名	・障がいを持った方の支援を行っている「たまみずき基金」が障がい児を対象として企画実施した新潟県湯沢町の1泊2日のオータムキャンプにおいて、障がい児に1対1で付添い介護を行うことにより、障がいを持った子供たちとの関わりを体験する貴重な機会となった。
	松が谷福社会館（台東区）における車いすのメンバーとベネチアンガラスのストラップ作り	24.8.5（日）	3名	・医療栄養学科の学生が調理等に関する支援を行うことにより自己啓発に役立った。

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
2. 高齢者・障がい者等への介助及び支援活動	西宮工場キッチンスタジオ(兵庫県西宮市)における小学生を対象とした料理教室のスタッフ	23. 8.10(水)	7名	・医療栄養学科の学生が調理等に関する支援を行うことにより自己啓発に役立った。
	武蔵野市立千川小学校における小学生に対する食育活動	23. 9. 5(月)～ 9.29(木)	9名	同上
		24. 9.12(水)～ 9.26(水)	4名	
3. 地元の行事等に参加して地域との交流を深める活動	公益社団法人日本リウマチ友の会東京支部第50回総会・記念大会	24. 4. 29(月)	3名	・医療保健学部看護学科の学生がボランティアで参加し受付・案内・誘導等の業務を行い、自己啓発に役立った。
		22.10. 2(土)～ 10. 3(日)	9名	・大学所在地の地元の活動に積極的に参加することにより、住民との交流・コミュニケーションを円滑に行えるようになった。
	23.10. 1(土)～ 10. 2(日)	8名		
	24.10. 6(土)～ 10. 7(日)	12名		
	25.10. 5(土)～ 6(日)	9名		
	N T T 東日本関東病院(品川区)ふれあいフェスティバル	21. 5.23(土)	30名	
		22. 5.29(土)	42名	
23. 5.28(土)		40名		
24. 5.26(土)		40名		
25. 5.18(土)		40名		
東京都看護協会が主宰する看護の日の記念行事である看護フェスタ2013に参加	25. 5.12(日)	8名	・看護フェスタ2013においては、看護学科学生等で構成するチアダンスサークルが参加して、日頃の練習の成果を披露するとともに来場者の誘導を積極的に行うなど記念行事の円滑な実施に貢献した。	

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
3. 地元の行事等に 参加して地域と の交流を深める 活動	せたがや福祉区民学 会 第1回学生交流会 に参加	25.10.23(水)	5名	・世田谷区にある本学等 4大学の学生、世田谷区、 福祉施設の職員等が参加 して、福祉の心をキーワー ドとした区民学会に本学の 手話ボランティアサークル が参加してサークルの活動 内容の発表を行うとともに 意見交換等を行っており、 福祉に関心を持つ有意義な 機会となった。
	品川区立日野第三 小学校養護教諭不在 期間の保健室におけ るボランティア	21.11.30(月)～ 12.11(金)	27名	・地元の小学生への支援を 通して医療系の大学の学生 として教員及び保護者の信 頼を得るとともに参加した 学生の勉学意欲を一層向上 させる機会となった。
	品川区立日野第三 小学校 発育測定ボラ ンティア	22. 5.17(月)	2名	同上
	品川区立日野第三 小学校 3・4年生遠足 引率	22. 5.20(木)	1名	・地元の小学生への支援を 通して医療系の大学の学生 として教員及び保護者の信 頼を得るとともに参加した 学生の勉学意欲を一層向上 させる機会となった。
	世田谷線沿線上町 周辺のクリーン活動	24. 9. 2(日)	8名	・地域活動に参加し地元商店 街の方々との交流を深める ことができた。
	天祖神社(上町)子供 神輿を地元の方々と 担ぐお手伝い	24. 9. 9(日)	8名	同上
	世田谷八幡宮の大人 神輿を地元の方々と 担ぐお手伝い	24. 9. 16(日)	12名	同上

東が丘看護学部学生による課外活動の状況について(平成22年度以降の主なもの)

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
1. 医療に関わる活動・参加	東京医療センター(目黒区)における大規模災害訓練への参加	23.10.25(火) 24.10.11(木) 25.10.29(火)	101名 134名 90名	・大事故、災害時における救命のトリアージ訓練に参加し、医療系の大学で学ぶ学生としてその重要性を認識する機会となった。
	東日本大震災で被災し福島県南相馬市、宮城県山元町、岩手県釜石市等の病院・仮設住宅におられる方々に足浴の後にアロマトリートメントの実施	24.12~ 25.12	述べ30名	・年に数回、学生が被災地の病院・仮設住宅を訪問してアロマトリートメントを行うことにより被災者等の癒しと元気回復に寄与する有意義な活動となっている。
2. 病院等における活動	東京医療センター(目黒区)における各種コンサート演奏	22.12.10(金) 23.8.8(月) 23.12.26(月) 24.8.8(水) 24.12.26(月)	11名 9名 9名 12名 12名	・器楽によるクラシック音楽を演奏し、入院患者さん等への癒しに寄与いたしました。
	東埼玉病院(埼玉県蓮田市)における「芸術鑑賞会」等参加	23.8.16(火) 24.5.29(火)	9名 9名	同上
3. 地元の行事等に参加して地域との交流を深める活動	東京医療センター(目黒区)における七夕イベント	23.6.30(木)~ 7.8(金) 24.6.29(金)~ 7.9(月) 25.6.29(土)~ 7.8(月)	5名 5名 15名	・東京医療センター1階外来ホールにおける七夕イベントの笹の飾り付けや短冊を作成し、朝・夕に枯笹の清掃などを行い、イベント終了後、短冊を神社に奉納し祈禱を行っていただきました。
	あきさみよ豪徳寺沖縄祭り(世田谷区)	22.10.10(月)	3名	・地域の祭りにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。

活動内容	活動場所	実施時期	参加者数	目的・効果
3. 地元の行事等に 参加して地域と の交流を深める 活動	フィオーレコンサート 深沢区民センター (世田谷区)	22.11.3(水)	3名	・ピアノ教室のクリスマスコンサートにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。
	HugHugChu 子育てボランティアコンサート (中野区)	23.9.11(水)	9名	・子育てをしている親子と0～3歳児の子供に音楽を楽しんでいただきました。
	豪徳寺商店街「たまにゃん祭り」(世田谷区)	24.5.13(日)	9名	・地域の祭りにおいてクラシック音楽サークルが日頃の成果を披露し、また参加者と交流を行いました。
	八幡親子のつどいの 広場 子育てボランティアコンサート (千葉県市川市)	24.8.28(火)	10名	・子育てをしている親子と0～3歳児の子供に音楽を楽しんでいただきました。
4. 目黒区消防団に 入団して消防 活動に参加	目黒区内	23.1.1(土) 39名入団 24.7.25(水) 24名入団 25.7.18(木) 55名入団	現在 112名が 在籍	・消防団の活動は、消防団始式、東京消防出初式、水防訓練、消防操法大会、総合防災訓練等の活動があり、わが街を災害から守るという使命感のもと、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っています。

海外研修の実施状況（平成 18 年度～平成 25 年度）

<全学合同海外研修> 毎年度各学科において希望する学生概ね 30 名程度が参加。

実施 年度	訪 問 地	訪 問 先 (医療施設、大学等)	内 容
平成 25 年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 26. 3. 9(日) ～ 3.17(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ハワイ大学看護・歯科衛生学部看護学科シミュレーションセンター。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○ダイヤモンドヘッド・クリニック。 ○シュライナーズ小児病病院。 ○コクア・カヒリ・バレーヘルスセンター。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療の現状と課題～日米の比較から。 ・米国におけるシミュレーション教育。 ・シミュレーションの基礎。 ・ハワイにおける地域保健。 ・米国の看護教育。 ・重症患者への看護・栄養サービスシミュレーション。 ・シミュレーション教育における IT 専門家の役割。 ・遠隔医療。 ・アメリカの病院における医療提供体制。
平成 24 年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 25. 3. 11(月) ～ 3.18(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ハワイ大学医学部シミュレーション研究センター、看護学部、栄養学部。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○シュライナーズ小児病病院。 ○クアキニ・ナーシングホーム。 ○クアキニ医療センター。 ○ダイヤモンドヘッド・クリニック。 ○ハワイ州防災センター。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療の現状と課題～日米の比較から。 ・アメリカにおける医療安全の最近の動向。 ・ハワイ原住民の歴史と健康。 ・アメリカの看護教育。 ・ハワイの公衆食育活動。 ・病院管理栄養士の仕事及び厨房見学。 ・医療 IT の動向。 ・遠隔医療による慢性疾患管理。 ・防災時に使う医療 IT。 ・病院見学、シミュレーションセンターでの演習。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成23年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 24. 3. 12(月) ～ 3. 19(月)	○ハワイ大学医学部シミュレーション研究センター、看護学部、社会学部。 ○シャミナーデ大学看護学科。 ○クィーンズ医療センター。 ○シュライナーズ小児病院。 ○クアキニ・ナーシングホーム。 ○クアキニ医療センター。	・アメリカの医療の現状と課題。 ・アメリカにおける医療安全の最近の動向。 ・ハワイ原住民の歴史と健康。 ・アメリカの看護教育。 ・ハワイの救急医療システム。 ・ハワイの公衆食育活動。 ・病院管理栄養士の仕事及び厨房見学。 ・医療ITの動向。 ・遠隔医療による慢性疾患管理。 ・病院見学、シミュレーションセンターでの演習等。
平成22年度	東日本大震災のため中止	—	—
平成21年度	アメリカ ハワイ州 ホノルル 22. 3. 15(月) ～ 3. 22(月)	○ハワイ大学医学部、看護学部、栄養学部。 ○クアキニ医療センター。 ○クィーンズ医療センター救命センター。 ○トリップラー陸軍医療センター。 ○クアキニ・ナーシングホーム。	・アメリカの医療制度。 ・アメリカの看護・栄養・医療情報の最近の傾向。 ・医療IT機器実習、医療ITプログラムデモ。 ・大学の授業見学、学生との交流。 ・アメリカの栄養士の職域と役割。 ・さまざまな医療職の役割。 ・遠隔医療見学、医療英語レッスン、介護施設慰問等。 ・座学だけでなく実習、大学の授業を体験、また慰問を通じた現地の高齢者との交流。
平成20年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 21. 3. 24(火) ～ 3. 30(月)	○セント・ポール。 ○ロイヤル・ジュビリー。 ○ビクトリア州立大学。 ○カナダ医療情報センター。	・カナダの医療制度及びその問題点。 ・カナダの病院における医療IT技師・看護師・管理栄養士の役割。 ・看護教育制度及び医療情報教育制度。 ・医療情報センターの役割。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成19年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 19.9.19(水) ～ 9.26(水)	○ロイヤル・ジュビリー。 ○セント・ポール。 ○ブリティッシュ・コロンビア 大学病院。 ○ビクトリア州立大学。 ○フレーザー保健局。	・カナダの医療制度。 ・カナダの医療における医療 IT 技師・看護師・管理栄養 士の役割。 ・保健局の役割。
平成18年度	カナダ バンクーバー ビクトリア 18.9.23(土) ～ 9.30(土)	○ロイヤル・ジュビリー。 ○セント・ポール。 ○バンクーバー・ジェネラル病院。 ○ビクトリア州立大学。 ○カモソンカレッジ。 ○フレーザー保健局。	同 上

<医療保健学部医療情報学科による海外専門研修> 毎年度希望する学生概ね10名程度が参加。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成25年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 26.2.13(木) ～ 2.24(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○グループヘルス。 ○ノースウエスト医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○シアトル大学。 ○スエディッシュ医療センター。	・アメリカの医療制度全般と 医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が 果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の 質改善。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・看護テレフォントリアージ の実態と IT。 ・e-ICU。
平成24年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 25.2.18(月) ～ 3.4(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○グループヘルス。 ○ベイビューマナー。 ○ノースウエスト医療センター。 ○ヴァリー・コミュニケーションズ ・センター。 ○シアトル大学。 ○スエディッシュ医療センター。 ○クオリスヘルス。	・アメリカの医療制度全般と 医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が 果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の 質改善。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・救急車派遣における IT 活用。 ・e-ICU。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成23年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 24.2.21(火) ～ 3.4(日)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○マルタイケア。 ○クオリスヘルス。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス ○タコマジェネラル病院 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 制度。 ・アメリカにおける医療 IT 教育。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・救急車派遣における IT 活用。 ・e-ICU。
平成22年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 23.2.20(日) ～ 3.5(土)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 最新事情。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT。 ・患者用電子カルテ (PHR)。 ・テレヘルス、在宅ケアに関する医療情報の導入。 ・模擬電子カルテへの入力、遠隔手術ロボットの操作体験等、座学だけでなく実践を通じた体験。
平成21年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 22.2.22(月) ～ 3.8(月)	○シアトル大学看護学部シミュレーションセンター。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター。 ○グループヘルス 等。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの医療制度全般と医療 IT 最新事情。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・データ収集・分析と医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT。 ・患者用電子カルテ、テレヘルス等。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
平成 20年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 21. 2. 23(月) ～ 3. 9(月)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○州立ワシントン大学。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター 等。	・アメリカの医療制度全般。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・ITと医療の質改善。 ・テレフォントリアージと医療 IT、等。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。
平成 19年度	アメリカ ワシントン州 シアトル、 タコマ 20. 2. 18(月) ～ 3. 2(日)	○タコマ・コミュニティ・カレッジ。 ○ノースウエスタン大学。 ○セントジョセフ医療センター。 ○国立VA医療センター。 ○エバーグリーン医療センター 等。	・アメリカの医療制度全般。 ・アメリカにおける医療 IT 活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性。 ・座学だけでなく実践を通じた体験。

<医療保健学部看護学科による海外専門研修>

平成 18年度	アメリカ ワシントン州 シアトル 19. 3. 17(土) ～ 3. 29(木)	○シアトル・パシフィック大学 保健科学学部。	・大学での各種講義及び関連医療施設での講義・見学を通じて、アメリカの医療制度、看護制度、看護師の役割拡大のあり方等を学習。
------------	--	---------------------------	---

東京医療保健大学の国際交流に関する基本方針

- 本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としている。
- この教育目標に基づき、実践を重視した教育・研究の充実・発展を図るため、国際的通用性の高い教育・研究を組織的に推進することとし、「国際交流に関する基本方針」を次のとおり定める。
 - 1、教職員・学生に係る海外派遣・海外実習を積極的に推進するとともに、海外派遣・海外実習プログラムの充実を図る。
 - 2、海外からの教職員・学生の受け入れを積極的に行うとともに、これを通して本学の国際化を推進する。
 - 3、海外の大学等との国際交流協定の締結を推進する。
 - 4、全学的な重点プロジェクトに沿って国際共同研究の推進を図るとともに、国際的シンポジウム等の企画・実施を図る。
 - 5、国際交流に係る事業実施及び推進に伴う経費については、補助金その他の外部資金の確保に努める。

大学院医療保健学研究科における海外研修実施状況(平成23年度～平成25年度)

年度	期間	訪問地	参加院生数	実施内容
平成 23年度	10月13日(木) ～ 10月15日(土)	大韓民国 釜山	5名	<p>第10回東アジア感染制御カンファレンス (EACIC 2011 The 10th East Asian Conference on Infection Control and Prevention)に参加して、院生が次のテーマで発表等を行った。</p> <p>「A Respiratory Protector to Use When a Disaster Occurred」(災害時における呼吸用防護具の適切な使用について)(黒須一見 博士課程2回生)</p> <p>「The Contamination of Loan Instruments Detected by Adenosine Tri-Phosphate Quantitatively」(業者貸出手術器械の汚染についてATP測定による定量的評価)(岡崎悦子 博士課程3回生)</p> <p>「Microbial Flora Recovered from Surgical Instruments Used in Abdominal Surgery」(開腹手術に使用された手術器械から検出される微生物叢)(齋藤祐平 修士課程 平成19年度生)</p> <p>「The Quantitative Evaluation of Alcohol Hand Rubbing Reflecting Busy Healthcare Setting」(臨床現場を反映したアルコールラビングの視覚的評価)(嶽本智子 修士課程 平成21年度生)</p> <p>また、仁済大(Inje Univ.)の附属病院 海雲台白病院を見学後、金容鎬学長(Prof. Yong-Ho Kim)との合同ミーティングにおいて、中央材料室、無菌病棟、外科系集中治療室等についてディスカッションを行った。</p>
	11月8日(火) ～ 11月11日(金)	オーストラリア メルボルン	8名	<p>第5回アジア太平洋感染制御学会 (APSIC 2011 The 5th International Congress of the Asia Pacific Society of Infection Control)に参加して院生が次のテーマで発表等を行った。</p> <p>「The Role of Leadership of Infection Control Nurse in Clinical Setting」(医療現場におけるリーダーシップ ICNの役割)(吉田理香 博士課程2回生)</p> <p>「Infection Control Measures in Disaster Area of Tsunami」(津波災害における感染制御対策)(菅原えりさ 博士課程1回生)</p> <p>「Efficacy of Repeated Application of Povidone-Iodine on Skin: a Preliminary Study」(皮膚に対するポビドンヨード反復使用の効果についての予備検討)(齋藤祐平 修士課程 平成19年度生)</p> <p>「A Comparison of Residual Antimicrobial Activity in Some Chlorhexidine-containing Antiseptic Formulations」(Chlorhexidine含有殺菌消毒薬の残留殺菌活性の比較)(曾川芳郎 博士課程1回生)</p> <p>「Removal of the Bloody Soil among Thin Space of Surgical Instruments After Use」(細小間隙器材の洗浄効果)(竹内千恵 博士課程1回生)</p>

平成 24年度	—	—	—	—
平成 25年度	9月30日(月) ～ 10月2日(水)	イギリス ロンドン	2名	<p>感染制御ソサエティー2013 (Infection Prevention Society 2013)に参加して、 教員および院生が次のテーマでポスター発表を 行った。</p> <p>「Duration time for hand rub based on the hand hygiene behavior of healthcare workers in hospital wards」 (臨床現場の手指衛生行動に基づくアルコールラビング 時間の検討)(菅原えりさ准教授)</p> <p>「The Influence of Hydrogen Peroxide Sterilisation on Plastic Surface」 (過酸化水素滅菌におけるプラスチック表面への影響) (吉田理香准教授)</p> <p>「Influence of different guidelines on actual practices for SSI prevention in hospitals」 (病院におけるSSI防止実践業務におよぼす多種ガイド ラインの影響)(齋藤祐平研究生)</p> <p>「The Optimal Number of Beds Able to be Managed by One Infection Control Nurse or Doctor in Japan」 (感染管理認定看護師およびインフェクションコントロ ールドクターの必要人数)(中田諭研究生)</p> <p>「Decontamination of non-critical vessels used for patients in ward by small dishwasher」 (家庭用食器洗浄機による病棟でのノンクリティカル容 器清浄化)(神明朱美 修士課程 平成24年度生)</p>
	11月6日(水) ～ 11月9日(土)	トルコ アンタルヤ	2名	<p>第14回滅菌供給業務世界会議 (WFHSS2013 World Forum for Hospital Sterile Supply)、教員および院生が次のテーマで ポスター発表を行った。</p> <p>「The Influence of Low Temperature Sterilisation on Plastic Surface」 (低温滅菌におけるプラスチック表面への影響) (吉田理香准教授)</p> <p>「A study on the reliability of pouch with a side gusset type of sealing quality」 (滅菌バッグの信頼性、ガゼットタイプパウチのシーリン グの質の評価に関する研究) (神貴子 博士課程3回生)</p> <p>「Study on Cleanliness of Loan Instruments by Adenosine Triphosphate」 (アデノシン三リン酸検査キットを使用した業者貸出手術 器械洗浄後の評価) (田中加津美 修士課程 平成25年度生)</p>

大学院医療保健学研究科における外国からの講師による講演等一覧(平成24年度～平成25年度)

年度	実施年月日	場所	参加者数	講義等の内容
平成 24年度	11月16日(金) 7:45～8:25	東京ビッグサイト 1F Room1 (Reception HallA)	教員 及び 院生 50名	<p>“Infection Prevention and Control System in China” (「中国における感染制御システム」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるリュイ・リー(Liuyi Li MD) 中国 北京大学第一病院 感染制御部主任教授が、第11回東アジア感染制御カンファレンス(EACIC 2012)のため来日した機会に「中国における感染制御システム」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月23日 (金・祝日) 7:30～8:00	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 30名	<p>“Properties of antiseptics in wound management-comparison of efficacy and tolerance” (「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」)</p> <p>本学教授(非常勤)であるアクセル・クラマー(Axel Kramer PhD) ドイツ グライフスワルド大学医学部主任教授が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「創傷管理における生体消毒薬の特性-有効性と限界」に関する講演及び意見交換等を行った。</p> <p>“Sterilisation and Supply in Hospital” (「病院における滅菌と供給」)</p> <p>本学客員教授である ジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「病院における滅菌と供給」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
	11月24日(土) 8:00～8:30	大阪リーガロイヤル ホテル ウエストウイング 2F 松の間	教員 及び 院生 35名	<p>“Hospital infection control in 2012: new solutions for old and resurgent problems” (「2012年 病院感染制御:古くて復活した問題に対する新しい解決法」)</p> <p>本学客員教授であるジョナサン・オッター(Jonathan Otter PhD) 英国 キングス・カレッジ特別研究員が、第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS 2012)のため来日した機会に「2012年病院感染制御:古くて復活した問題に対する新しい解決法」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>
平成 25年度	5月29日(水) 17:30～18:30	大学院 別館 D104室	教員 及び 院生 20名	<p>“Topics on Infection Prevention and Control” (「感染制御のトピックス」)</p> <p>本学客員教授であるジェラルド・イー・マクドーネル(Gerald E.McDonnell PhD) 米国 ステリス社副社長が、日本企業への講演のため来日した機会に「感染制御のトピックス」に関する講演及び意見交換等を行った。</p>

大学院公開講座の実施概要(25.7.6(土))

平成25年7月6日(土) 12:30~16:00 時事通信ホールにおいて「感染制御-2013年の話題-」と題し、大学院公開講座を開催しました。小林研究科長の基調講演、大久保副学長による教育講演、大学院在学生による発表及びパネルディスカッションを行いました。参加者は173名でした。

○実施内容

・テーマ 「感染制御 -2013年の話題-」

基調講演	最近の新しい動き	小林 寛伊 研究科長 教授
教育講演	感染関連法規／通知にみる感染制御策の変遷	大久保 憲 教授
研究発表等	「インфекション・コントロール・チーム ラウンド時介入リスト」による実用評価の分析	修士課程2年 萱島 すが
	軟性内視鏡細管の洗浄について	修士課程2年 小林 マキ子
	家庭用小型食器洗浄機を用いた再使用医用器材の除菌・洗浄効果	修士課程2年 神明 朱美
	低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌装置における滅菌コンテナを使用した滅菌性能の検証	修士課程2年 鈴木 美千代
	カーテンに付着した微生物の生存	修士課程2年 中島 由美子
	電子機器や映像を使用した手指衛生場面の評価 ～データロガー、ビデオカメラを使用して～	修士課程2年 森山 由紀
	感染防止対策加算による感染制御効果と課題	博士課程2年 鈴木 明子
	培養細胞に対する過酸化水素の影響	博士課程2年 高野 海哉
	熱水消毒用インジケータの開発	博士課程3年 岡崎 悦子
	滅菌の質保証 -滅菌バッグシールの問題点-	博士課程3年 神 貴子
	感染制御実践看護学講座の紹介	大学院准教授 菅原 えりさ
感染制御学研究センター東京・大阪について	大学院准教授 吉田 理香	

○参加者の状況

区分	人数
企業関係者	51名
医療機関関係者	50名
本学大学院生・修了生	47名
本学教職員	25名
合計	173名

○参加者からの主な感想

- ・興味深いテーマでした。一所懸命取り組まれている内容で、感銘を受けました。
- ・最新情報、また、エビデンスに基づいた研究結果が参考になりました。
- ・とても興味深い研究内容でした。食洗機の使用は、今後検討を深めていきたいと考えます。IIL (ICT ラウンド時介入項目リスト) の結果は当院と同じような結果です。どのように比較検討するか考えていたところなので、参考になりました。
- ・学生の皆さんの発表を聞くことで、自分自身の研究についての課題を確認することができ、大変勉強になりました。滅菌バッグの種類やヒートの組合せについて自施設をすぐに確認したいと思います。
- ・過酸化水素の生体に関する影響の続報が大変気になります。
- ・素晴らしい取り組みだと思います。最近の動向が分かり、とても有益な講座だと思います。

VI 管理運営・財務

(表31) 事務組織 (2013年5月1日現在)

	部署名	専任職員		常勤嘱託職員	兼務職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
大学事務局	企画部	4	1	0	0	1	0	5
	教務部	6	1	0	0	1	2	9
	総務人事部	6	1	2	0	4	1	13
	経理財務部	3	1	0	0	2	0	5
	学生支援センター	6	2	5	0	0	0	11
	入試広報部	7	2	6	0	1	0	14
	研究協力等推進部	2	1	2	0	0	0	4
	東が丘看護学部等事務部	7	2	0	0	1	0	8
	大学院事務室	3	1	0	0	1	0	4
	図書館事務室	2	0	1	0	0	0	3
合計		46	12	16	0	11	3	76

- [注] 1 それぞれの部署について、業務の内容から「法人業務系」と「大学業務系」に大別して記載してください。
- 2 「専任職員」欄には、期間の定めのない雇用で、常時勤務している職員数を、「常勤嘱託職員」欄には、期間の定めはあるが、専任職員に準じた雇用形態をとっている職員数を、「兼務職員」欄には、雇用期間が6カ月以上の兼務している職員数を、「派遣職員」欄には、労働者派遣契約を締結することにより受け入れている職員数をそれぞれ記入してください。なお、いずれにも該当しない職員には、「その他」欄に記入してください。
- 3 部長・次長など「課」に属さない職員は、「部」でまとめて記入してください。
- 4 部単位に「小計」、各系ごとに「計」を入れ、それぞれ集計してください。
- 5 「助手」は含めないでください。

東京医療保健大学の財務に係る年度別比率の目標について
(平成 24 年度～平成 28 年度)

1. 本学においては、平成 23 年度に大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審いたしました。大学評価結果の「財務」においては次の指摘を受けました。
 - (1) 中・長期目標及び財政計画は、大学の将来の方向を決める重要な計画であるため、速やかに策定し実施されることが望まれる。
 - (2) 財務比率を算出し他大学との比較検討を行っているが、指標・達成目標がない。法人運営の一環として達成目標の設定と到達度・評価の検証は必要であるので検討が望まれる。
2. 大学評価における指摘を踏まえて、本学では、平成 24 年度をスタートとする 5 年間の中期目標・計画を策定し実施しており、中期目標・計画においては、「東京医療保健大学の財政計画（平成 24 年度～平成 28 年度）」を定めておりますが、このたび、平成 23 年度決算に基づき、「東京医療保健大学の財務に係る年度別比率の目標について（平成 24 年度～平成 28 年度）」を定めるものです。
3. 年度別比率としては、人件費比率、人件費依存率、教育研究経費比率、管理経費比率、借入金等利息比率、帰属収支差額比率、消費支出比率、消費収支比率、学生生徒等納付金比率、寄付金比率、補助金比率、基本金組入比率、減価償却費比率の 13 項目ごとに比率の目標を定めております。今後、毎年度、決算に基づいて各年度の目標値との差異を評価するとともに、必要に応じて根拠を示した上で最終年度の目標値を改定することも予定しております。
4. この年度別比率の目標については、平成 24 年 7 月 18 日をもって定めることといたします。

東京医療保健大学の財務に係る年度別比率目標（平成24年度～平成28年度）

（平成22年度私大平均は、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」（平成23年12月発行）による、大学部門 学生数1～2千人規模の125校平均値である。）

単位：%

		算式（*100）	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			私大平均	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	58.5	52.8	56.5	55.3	53.4	53.4	53.4
			各年度とも、平成23年度実績を踏まえ私大平均58.5%を下回る目標値とした。東が丘看護学部は、平成25年度に完成年度を迎えることから、平成26年度以降さらに低下する見込。						
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	78.1	67.1	68.3	66.2	66.2	66.2	66.2
			各年度とも、平成23年度実績を踏まえ私大平均78.1%を下回る目標値とした。						
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	33.3	28.4	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8
			平成23年度実績を踏まえ私大平均33.3%に近づける目標値とした。						
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.1	10.3	10.2	10.1	10.0	9.9	9.8
			平成23年度実績が10.3%であり、私大平均8.1%より高いことから、各年度0.1%低下する目標値とした。						
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.3	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6
			借入依存が少し高いため、平成23年度実績0.8%は私大平均0.3%を上回っているが、平成26年度以降2年毎に0.1%低下する目標値とした。						
6	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	-2.3	7.7	3.0	4.0	6.6	6.6	6.6
			私大平均は、-2.3%とマイナスだが、平成23年度実績を踏まえ各年度ともプラス目標値としている。平成24年度及び平成25年度においては、東が丘新校舎移転費用等がかさむことからやや低くなるが、平成26年度以降は6.6%確保を目標値とした。						

		算 式 (* 100)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			私大平均	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
7	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	102.3	92.3	97.5	96.1	93.4	93.4	93.4
			この数値は低いことが望ましく、各年度とも、平成23年度実績を踏まえ私大平均102.3%を下回る目標値とした。						
8	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	116.3	112.7	110.0	110.0	108.0	108.0	108.0
			この数値は低いことが望ましく、各年度とも、平成23年度実績を踏まえ私大平均116.3%を下回る目標値とした。						
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	74.9	78.7	78.4	78.1	77.8	77.5	77.2
			この数値は、安定的に推移すること、かつ比率があまり高くない方が望ましいことから、私大平均に近づける目標値とした。						
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	2.5	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	2.0
			平成23年度実績は1.8%であり、私大平均2.5%を下回っていることから、寄付金収入確保のため、2年毎に0.1%増加する目標値とした。						
11	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.5	11.9	12.0	12.0	14.1	14.1	14.2
			平成23年度実績は11.9%であるが、東が丘看護学部が完成年度を迎える翌年度の平成26年度からは私学助成補助金が交付されることから、増加する目標値とした。						
12	基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	12.1	18.1	18.0	17.0	17.0	16.0	16.0
			この比率が、高すぎると消費収支均衡を崩す要因となるため、平成23年度実績を踏まえ2年毎に1%低下する目標値とした。						
13	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	12.6	7.1	6.4	6.2	6.7	6.7	6.7
			この数値は、消費支出とされているもののうち、消費されずに蓄積される割合を示したものであるが、平成23年度実績を若干下回る目標値とした。						

東京医療保健大学の財政計画（平成24年度～平成28年度）

（1）資金収支の状況（以下の4頁から7頁は、中期目標・計画における財政計画に係る資料です。）

（単位：千円）

科 目		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,425,700	2,566,600	2,566,600	2,566,600	2,566,600
	手数料収入	87,800	87,800	87,800	87,800	87,800
	寄付金収入	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500
	補助金収入	323,000	323,000	430,000	430,000	430,000
	国庫補助金	323,000	323,000	430,000	430,000	430,000
	都道府県補助金	0	0	0	0	0
	市区町村補助金	0	0	0	0	0
	資産運用収入	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	39,000	39,000	39,000	39,000	39,000
	雑収入	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
	借入金等収入	300,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	前受金収入	545,000	545,000	545,000	545,000	545,000
	その他の収入	430,000	430,000	430,000	430,000	430,000
	資金収入調整勘定	▲ 530,000	▲ 530,000	▲ 530,000	▲ 530,000	▲ 530,000
	前年度繰越支払資金	910,000	856,147	738,969	724,591	746,213
合計	4,588,700	4,575,747	4,565,569	4,551,191	4,572,813	
支 出 の 部	人件費支出	1,658,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
	教育研究経費支出	711,575	730,000	730,000	730,000	730,000
	管理経費支出	281,500	315,000	315,000	315,000	315,000
	借入金等利息支出	25,800	25,800	25,800	25,800	25,800
	借入金等返済支出	269,324	279,324	283,524	247,524	247,524
	施設関係支出	80,000	0	0	0	0
	設備関係支出	261,700	200,000	200,000	200,000	200,000
	資産運用支出	0	0	0	0	0
	その他の支出	776,654	786,654	786,654	786,654	786,654
	[予備費]					
	資金支出調整勘定	▲ 332,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 200,000
	次年度繰越支払資金	856,147	738,969	724,591	746,213	767,835
	合計	4,588,700	4,575,747	4,565,569	4,551,191	4,572,813

(2) 消費収支の状況

(単位：千円)

科 目		24年 度	25年 度	26年 度	27年 度	28年 度
消費収入の部	学生生徒等納付金(ア)	2,425,700	2,566,600	2,566,600	2,566,600	2,566,600
	帰属収入					
	手数料	87,800	87,800	87,800	87,800	87,800
	寄付金(イ)	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500
	補助金(ウ)	323,000	323,000	430,000	430,000	430,000
	資産運用収入	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
	資産売却差額(エ)	0	0	0	0	0
	事業収入	39,000	39,000	39,000	39,000	39,000
	雑収入	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
	合 計 (オ)	2,933,700	3,074,600	3,181,600	3,181,600	3,181,600
消費支出の部	基本金組入額(カ)	178,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	(第1号基本金組入額)	178,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	(第2号基本金組入額)	0				
	(第3号基本金組入額)	0				
	(第4号基本金組入額)	0				
消費収入(オ-カ)(キ)	2,755,700	2,944,600	3,051,600	3,051,600	3,051,600	
消費支出の部	人件費(ク)	1,658,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
	教育研究経費(ケ)	875,575	894,000	912,280	912,280	912,280
	管理経費(コ)	301,220	334,720	334,720	334,720	334,720
	うち、減価償却額	181,720	181,720	200,000	200,000	200,000
	借入金等利息(サ)	25,800	25,800	25,800	25,800	25,800
	資産処分差額(シ)	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	0	0	0	0	0
	[予備費]					
	消費支出合計(セ)	2,860,595	2,954,520	2,972,800	2,972,800	2,972,800
当年度消費収入超過額(キ-セ) (又は△当年度消費支出超過額)	▲ 104,895	▲ 9,920	78,800	78,800	78,800	
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)	▲ 1,669,268	▲ 1,774,163	▲ 1,784,083	▲ 1,735,283	▲ 1,686,483	
(何) 年度消費支出準備金繰入額	0	0	0	0	0	
(何) 年度消費支出準備金取崩額	0	0	0	0	0	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)	▲ 1,774,163	▲ 1,784,083	▲ 1,735,283	▲ 1,686,483	▲ 1,637,683	
(参考) (オ) - (セ)	73,105	120,080	208,800	208,800	208,800	
{(オ)-(イ)-(エ)} - {(セ)-(シ)-(ス)}	32,605	79,580	168,300	168,300	168,300	

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

資 産 の 部						負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
科 目	2 4 年 度	2 5 年 度	2 6 年 度	2 7 年 度	2 8 年 度	科 目	2 4 年 度	2 5 年 度	2 6 年 度	2 7 年 度	2 8 年 度
固 定 資 産 (a)	7,323,000	7,478,000	7,633,000	7,788,000	7,943,000	負 債 (e)	2,361,330	2,349,806	2,244,282	2,178,758	2,113,234
有 形 固 定 資 産	6,450,000	6,430,000	6,410,000	6,390,000	6,370,000	固 定 負 債 (f)	1,411,330	1,409,806	1,344,282	1,278,758	1,213,234
うち、土地	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	うち、長期借入金	972,980	989,456	941,932	894,408	846,884
うち、建物	3,316,000	3,216,000	3,116,000	3,016,000	2,916,000	うち、長期未払金	396,000	378,000	360,000	342,000	324,000
うち、構築物	200,000	190,000	180,000	170,000	160,000	うち、退職給与引当金	42,350	42,350	42,350	42,350	42,350
うち、教育研究用機器備品	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	流 動 負 債 (g)	950,000	940,000	900,000	900,000	900,000
そ の 他 の 固 定 資 産	873,000	1,048,000	1,223,000	1,398,000	1,573,000	うち、短期借入金	79,324	83,524	47,524	47,524	47,524
うち、借地権	0	0	0	0	0	うち、未払金	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
うち、有価証券	0	0	0	0	0	うち、前受金 (h)	545,000	545,000	545,000	545,000	545,000
うち、長期貸付金	0	0	0	0	0	基 本 金 (i)	7,759,980	7,819,246	8,016,592	8,209,938	8,422,284
うち、特定資産	0	0	0	0	0	ア. 第1号基本金	7,183,480	7,242,546	7,439,692	7,631,838	7,843,984
流 動 資 産 (b)	1,024,147	906,969	892,591	914,213	954,835	イ. 第2号基本金	0	0	0	0	0
うち、現金・預金 (c)	856,147	738,969	724,591	746,213	786,835	ウ. 第3号基本金	369,500	369,700	369,900	371,100	371,300
うち、有価証券	118,000	118,000	118,000	118,000	118,000	エ. 第4号基本金	207,000	207,000	207,000	207,000	207,000
その他	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	消 費 収 支 差 額 (j)	▲ 1,774,163	▲ 1,784,083	▲ 1,735,283	▲ 1,686,483	▲ 1,637,683
合 計 (d)	8,347,147	8,384,969	8,525,591	8,702,213	8,897,835	(何) 年度	0	0	0	0	0
						消 費 支 出 準 備 金					
						翌年度繰越消費収入					
						超過額又は△翌年度	▲ 1,774,163	▲ 1,784,083	▲ 1,735,283	▲ 1,686,483	▲ 1,637,683
						繰越消費支出超過額					
						合 計 (e)+(i)+(j)	8,347,147	8,384,969	8,525,591	8,702,213	8,897,835
						減価償却額の累計額	2,000,000	2,180,000	2,380,000	2,580,000	2,780,000
						の合計額					
						基本金未繰入額 (k)	1,200,000	1,150,000	1,100,000	1,050,000	1,000,000

資金収支・消費収支の財政計画の根拠

資金収支・消費収支の財政計画の共通の科目

区 分		年度別の各科目の増減内訳		
収	1	学生・生徒等納付金収入	東が丘看護学部が平成25年度に完成年度を迎え、4学年が揃うため学納金収入が増加。	
	2	手数料収入	各年度とも前年度実績並みに計上。	
	3	寄付金収入	各年度とも前年度実績並みに計上。	
	4	補助金収入	東が丘看護学部が平成25年度に完成年度を迎え、翌年度から同学部の補助金約100百万円が増加。	
	5	資産運用収入	各年度とも奨学基金運用収入、受取利息配当金収入、施設設備利用料を計上。	
	6	資産売却収入	該当なし。	
	7	事業収入	各年度とも寮費収入39百万円を計上。	
	8	雑収入	各年度とも前年度実績並みに計上。	
	9	長期借入金収入	平成24年度は、三菱東京から長期100百万円借入。	
	10	短期借入金収入	学納金収入が、5月、11月の2回に分けて入金となるため、三菱東京よりの繋ぎ資金200百万円を毎年度借入し、期末に返済している。	
	入	11	前受金収入	翌年度授業料を計上。
		12	その他の収入	預かり金受入収入、前期末未収入金収入、仮払金回収収入などを計上。
		13	資金収入調整勘定	各年度とも、前年度前受金収入、未収入金収入を計上。
14		人件費支出	東が丘看護学部の教員が、完成年度の平成25年度まで増加するため、人件費が比例して増加。	
支	15	教育研究経費支出	東が丘看護学部の学生、教員が、完成年度の平成25年度まで増加するため、教育研究経費が比例して増加。	
	16	管理経費支出	東が丘看護学部の学生、教員が、完成年度の平成25年度まで増加するため、管理経費が比例して増加。	
	17	借入金等利息支出	借入利息26百万円を計上。	
	18	借入金等返済支出	三菱東京よりの繋ぎ資金200百万円の返済と既存長期借入返済。	
	19	施設関係支出	平成24年度は、東が丘看護学部等の校舎移転に伴う改修費80百万円を計上。	
	20	設備関係支出	教育研究機器備品、その他備品、図書費を計上。	
	出	21	資産運用支出	該当なし。
		22	その他の支出	前期末未払金支払支出、前期末長期未払金支払支出、預り金支払支出、保証金支払支出。
		23	資金支出調整勘定	各年度とも、未払金、長期未払金を計上。

25. 7. 17

大学経営会議

「東京医療保健大学の財務に係る年度別比率の目標について(平成 24 年度～平成 28 年度)」及び「東京医療保健大学中期目標・計画に定める財政計画(平成 24 年度～平成 28 年度)」の改定について

1. 「東京医療保健大学の財務に係る年度別比率の目標について(平成 24 年度～平成 28 年度)」については、毎年度、決算に基づいて各年度の目標値との差異を評価するとともに必要に応じて根拠を示した上で最終年度の目標値を改定することと定めております。
2. このたび平成 24 年度決算に基づいて平成 24 年度に定めた年度別比率について、人件費比率など 13 項目の目標値について検証を行ったところ、各項目について目標値と実績に差異が生じていることが明らかとなりました。
ついては、平成 24 年度決算の実績を踏まえて平成 25 年度以降の目標値を修正するとともに平成 26 年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い(100 名→200 名)、平成 25 年度以降の人件費比率など 13 項目の目標値を改定いたします。
3. また、「東京医療保健大学中期目標・計画に定める財政計画(平成 24 年度～平成 28 年度)」については、平成 24 年度決算の実績に基づいて平成 25 年度以降の収入・支出予定額の見直しを行うとともに平成 26 年度からの東が丘看護学部の入学定員増に伴い収入・支出予定額を見直す必要があることから財政計画の改定を行います。

東京医療保健大学の財務に係る年度別比率目標（平成24年度～平成28年度）

（平成22年度私大平均は、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」（平成23年12月発行）による、大学部門 学生数1～2千人規模の125校平均値である。） 単位：%

		算式（*100）	平成22年度	平成23年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
			私大平均	実績	目標値	実績	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	58.5	52.8	56.5	56.1	55.3	55.3	53.4	57.5	53.4	56.5	53.4	55.9
			平成24年度は目標値を0.4%下回り目標範囲内となった。平成26年度以降は東が丘看護学部入学定員増に伴い教職員の補充が先行するため、当初目標値より高めとした。											
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	78.1	67.1	68.3	69.2	66.2	66.2	66.2	70.3	66.2	68.7	66.2	67.7
			平成24年度は目標値を若干上回った。平成26年度以降は東が丘看護学部入学定員増に伴い教職員の補充が先行するため、当初目標値より高めとした。											
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	33.3	28.4	29.8	30.9	29.8	29.8	29.8	30.2	29.8	31.0	29.8	30.8
			平成24年度は教育研究経費増加により目標値を若干上回った。平成26年度以降は、東が丘看護学部入学定員増に伴い数年間は教育研究支出が増加するため、当初目標値より若干高めとした。											
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.1	10.3	10.2	10.0	10.1	10.3	10.0	10.3	9.9	10.3	9.8	10.0
			平成24年度は目標値を0.2%下回り目標範囲内となった。平成25年度以降は、平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い管理経費増加を見込み当初目標値より若干高めとした。											
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.3	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7	0.9	0.6	0.9
			平成24年度は目標値とおり0.8%となった。平成26年度以降は、キャンパスの改修等が必要となることからこれを借入により調達する計画とし当初目標値より高めとした。											
6	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	-2.3	7.7	3.0	1.8	4.0	3.2	6.6	1.1	6.6	1.2	6.6	2.5
			平成24年度は人件費及び教育研究経費の増加により目標値を1.2%下回った。平成25年度以降は、平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い新コース設置費用及び教職員補充による人件費増加により学生が4学年揃う平成29年度までは低く推移する。											

		算式(*100)	平成22年度	平成23年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
			私大平均	実績	目標値	実績	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値	当初目標値	修正目標値
7	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	102.3	92.3	97.5	98.2	96.1	96.9	93.4	98.9	93.4	98.9	93.4	97.5
			平成24年度は人件費及び教育研究経費の増加により、目標値を0.7%上回った。平成25年度以降は、平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い新コース設置費用及び教職員補充による人件費増加により当初目標値より高めとした。											
8	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	116.3	112.7	110.0	115.6	110.0	113.0	108.0	113.0	108.0	113.0	108.0	110.0
			平成24年度は人件費及び教育研究経費の増加により目標値を5.6%上回った。平成25年度以降は、平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い新コース設置費用及び教職員補充による人件費増加により当初目標値より高めとした。											
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	74.9	78.7	78.4	81.2	78.1	80.0	77.8	77.8	77.5	77.5	77.2	77.2
			この数値は安定的に推移することかつ比率があまり高くない方が望ましいが、平成26年度からは東が丘看護学部に係る私学助成補助金が交付されることから当初目標値どおり推移するものと見込んだ。											
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	2.5	1.8	1.8	1.6	1.8	1.8	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
			平成24年度は目標値より0.2%下回った。平成25年度以降は、当初目標値どおりとした。											
11	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.5	11.9	12.0	10.2	12.0	10.0	14.1	13.0	14.1	13.0	14.2	13.0
			平成24年度は東が丘看護学部の学生数増加により帰属収入が増加したが、補助金対象外であるため目標値より1.80%下回った。平成25年度は前年度実績とほぼ同じ目標値とした。また平成26年度以降は東が丘看護学部入学定員増に伴い目標値を修正した。											
12	基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	12.1	18.1	18.0	15.1	17.0	17.0	17.0	17.0	16.0	16.0	16.0	16.0
			この比率は高すぎると消費収支均衡を崩す要因となる。平成24年度は目標値を2.9%下回ったが、平成25年度以降は当初目標値どおりとした。											
13	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	12.6	7.1	6.4	8.6	6.2	9.0	6.7	8.7	6.7	8.7	6.7	8.7
			平成24年度は施設関係支出及び設備関係支出の増加により目標値を2.2%増加した。平成25年度以降は、平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い施設関係支出及び設備関係支出の増加が見込まれることから、当初目標値より高めとした。											

東京医療保健大学の財政計画（平成24年度～平成28年度）

25.7.17改定

(1) 資金収支の状況

(以下の4頁から7頁は、中期目標・計画における財政計画に係る資料です。)

(単位：千円)

科 目		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
収入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,439,446	2,425,700	2,636,900	2,566,600	2,852,000	2,566,600	3,017,000	2,566,600	3,187,000	2,566,600
	手数料収入	106,434	87,800	93,200	87,800	115,000	87,800	115,000	87,800	115,000	87,800
	寄付金収入	47,530	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500
	補助金収入	307,803	323,000	310,000	323,000	400,000	430,000	420,000	430,000	440,000	430,000
	国庫補助金	307,664	323,000	310,000	323,000	400,000	430,000	420,000	430,000	440,000	430,000
	都道府県補助金	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市区町村補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資産運用収入	4,090	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
	資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業収入	48,920	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000
	雑収入	51,714	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000
	借入金等収入	300,000	300,000	300,000	200,000	300,000	200,000	400,000	200,000	300,000	200,000
	前受金収入	545,000	545,000	670,000	545,000	670,000	545,000	670,000	545,000	670,000	545,000
	その他の収入	600,000	430,000	600,000	430,000	600,000	430,000	600,000	430,000	600,000	430,000
	資金収入調整勘定	▲ 530,000	▲ 530,000	▲ 650,000	▲ 530,000	▲ 650,000	▲ 530,000	▲ 650,000	▲ 530,000	▲ 650,000	▲ 530,000
	前年度繰越支払資金	1,061,083	910,000	979,121	856,147	950,000	738,969	860,000	724,591	900,000	746,213
合計	4,982,020	4,588,700	5,057,421	4,575,747	5,355,200	4,565,569	5,550,200	4,551,191	5,680,200	4,572,813	
支出 の 部	人件費支出	1,670,593	1,658,000	1,744,000	1,700,000	2,004,000	1,700,000	2,074,000	1,700,000	2,159,000	1,700,000
	教育研究経費支出	708,392	711,575	724,660	730,000	798,000	730,000	869,000	730,000	899,000	730,000
	管理経費支出	268,575	281,500	285,950	315,000	315,000	315,000	330,000	315,000	330,000	315,000
	借入金等利息支出	25,196	25,800	27,000	25,800	30,000	25,800	33,000	25,800	36,000	25,800
	借入金等返済支出	279,324	269,324	283,524	279,324	314,768	283,524	294,216	247,524	294,216	247,524
	施設関係支出	277,472	80,000	50,000	0	50,000	0	120,000	0	50,000	0
	設備関係支出	261,272	261,700	250,000	200,000	250,000	200,000	320,000	200,000	250,000	200,000
	資産運用支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の支出	962,075	776,654	942,287	786,654	933,432	786,654	959,984	786,654	911,984	786,654
	[予備費]										
	資金支出調整勘定	▲ 450,000	▲ 332,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 350,000	▲ 200,000	▲ 200,000	▲ 200,000
	次年度繰越支払資金	979,121	856,147	950,000	738,969	860,000	724,591	900,000	746,213	950,000	767,835
合計	4,982,020	4,588,700	5,057,421	4,575,747	5,525,200	4,565,569	5,550,200	4,551,191	5,730,200	4,572,813	

(2) 消費収支の状況

科 目		24 年 度		25 年 度		26 年 度		27 年 度		28 年 度	
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金(ア)	2,439,446	2,425,700	2,636,900	2,566,600	2,852,000	2,566,600	3,017,000	2,566,600	3,187,000	2,566,600
	帰属収入	106,434	87,800	93,200	87,800	115,000	87,800	115,000	87,800	115,000	87,800
	手数料	47,530	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500	40,500
	寄付金(イ)	307,803	323,000	310,000	323,000	400,000	430,000	420,000	430,000	440,000	430,000
	補助金(ウ)	4,090	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
	資産運用収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資産売却差額(エ)	48,920	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000	47,000	39,000
	事業収入	51,714	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000	26,000	13,000
	雑収入	3,005,937	2,933,700	3,158,300	3,074,600	3,485,200	3,181,600	3,670,200	3,181,600	3,860,200	3,181,600
	合計(オ)	409,934	178,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	基本金組入額(カ)	404,648	178,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	(第1号基本金組入額)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(第2号基本金組入額)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(第3号基本金組入額)	5,286	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(第4号基本金組入額)	2,596,003	2,755,700	3,028,300	2,944,600	3,355,200	3,051,600	3,540,200	3,051,600	3,730,200	3,051,600	
消費収入(オ-カ)(キ)	1,687,185	1,658,000	1,744,000	1,700,000	2,004,000	1,700,000	2,074,000	1,700,000	2,159,000	1,700,000	
消費 支出 の 部	人件費(ク)	928,565	875,575	957,660	894,000	1,053,000	912,280	1,139,000	912,280	1,189,000	912,280
	教育研究経費(ケ)	301,978	301,220	331,170	334,720	360,000	334,720	380,000	334,720	380,000	334,720
	管理経費(コ)	253,577	181,720	278,220	181,720	300,000	200,000	320,000	200,000	340,000	200,000
	うち、減価償却額	25,197	25,800	27,000	25,800	30,000	25,800	33,000	25,800	36,000	25,800
	借入金等利息(サ)	8,274	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資産処分差額(シ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)										
	[予備費]										
	消費支出合計(セ)	2,951,199	2,860,595	3,059,830	2,954,520	3,447,000	2,972,800	3,626,000	2,972,800	3,764,000	2,972,800
当年度消費収入超過額(キ-セ) (又は△当年度消費支出超過額)	▲355,196	▲104,895	▲31,530	▲9,920	▲91,800	78,800	▲85,800	78,800	▲33,800	78,800	
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)	▲1,669,268	▲1,669,268	▲2,024,464	▲1,774,163	▲2,055,994	▲1,784,083	▲2,147,794	▲1,735,283	▲2,233,594	▲1,686,483	
(何) 年度消費支出準備金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(何) 年度消費支出準備金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)	▲2,024,464	▲1,774,163	▲2,055,994	▲1,784,083	▲2,147,794	▲1,735,283	▲2,233,594	▲1,686,483	▲2,267,394	▲1,637,683	
(参考) (オ)-(セ)	54,738	73,105	98,470	120,080	38,200	208,800	44,200	208,800	96,200	208,800	
{(オ)-(イ)-(エ)}-{(セ)-(シ)-(ス)}	15,482	32,605	57,970	79,580	▲2,300	168,300	3,700	168,300	55,700	168,300	

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

資 産 の 部						負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
科 目	2 4 年 度	2 5 年 度	2 6 年 度	2 7 年 度	2 8 年 度	科 目	2 4 年 度	2 5 年 度	2 6 年 度	2 7 年 度	2 8 年 度
固 定 資 産 (a)	7,749,800	7,653,000	7,808,000	7,973,000	8,138,000	負 債 (e)	2,743,997	2,569,596	2,463,333	2,551,117	2,538,901
有 形 固 定 資 産	6,701,333	6,430,000	6,410,000	6,390,000	6,370,000	固 定 負 債 (f)	1,715,699	1,629,596	1,563,333	1,651,117	1,638,901
うち、土地	1,788,478	1,788,478	1,788,478	1,788,478	1,788,478	うち、長期借入金	1,072,980	1,158,780	1,144,012	1,249,796	1,255,580
うち、建物	3,501,790	3,440,000	3,325,000	3,280,000	3,095,000	うち、長期未払金	583,398	411,495	360,000	342,000	324,000
うち、構築物	124,939	120,000	115,000	110,000	105,000	うち、退職給与引当金	59,321	59,321	59,321	59,321	59,321
うち、教育研究用機器備品	791,627	800,000	800,000	870,000	870,000	流 動 負 債 (g)	1,028,298	940,000	900,000	900,000	900,000
そ の 他 の 固 定 資 産	1,048,467	1,223,000	1,398,000	1,583,000	1,768,000	うち、短期借入金	69,324	83,524	114,768	94,216	94,216
うち、借地権	0	0	0	0	0	うち、未払金	239,063	280,000	280,000	280,000	280,000
うち、有価証券	0	0	0	0	0	うち、前受金 (h)	607,370	670,000	670,000	670,000	670,000
うち、長期貸付金	0	0	0	0	0	基 本 金 (i)	8,421,379	8,254,564	8,517,627	8,720,643	8,981,659
うち、特定資産	0	0	0	0	0	ア. 第1号基本金	7,821,805	8,280,000	8,730,000	9,180,000	9,630,000
流 動 資 産 (b)	1,129,527	1,115,166	1,025,166	1,065,166	1,115,166	イ. 第2号基本金	0	0	0	0	0
うち、現金・預金 (c)	979,121	950,000	860,000	900,000	950,000	ウ. 第3号基本金	369,574	369,650	369,700	369,750	369,800
うち、有価証券	115,166	115,166	115,166	115,166	115,166	エ. 第4号基本金	230,000	235,000	240,000	245,000	250,000
その他	35,239	50,000	50,000	50,000	50,000	消 費 収 支 差 額 (j)	▲ 2,286,049	▲ 2,055,994	▲ 2,147,794	▲ 2,233,594	▲ 2,267,394
合 計 (d)	8,879,327	8,768,166	8,833,166	9,038,166	9,253,166	(何) 年度	0	0	0	0	0
						消 費 支 出 準 備 金					
						翌年度繰越消費収入					
						超過額又は△翌年度	▲ 2,286,049	▲ 2,055,994	▲ 2,147,794	▲ 2,233,594	▲ 2,267,394
						繰越消費支出超過額					
						合 計 (e)+(i)+(j)	8,879,327	8,768,166	8,833,166	9,038,166	9,253,166
						減価償却額の累計額	2,166,056	2,433,000	2,699,000	2,965,000	3,230,000
						の合計額					
						基本金未繰入額 (k)	1,432,296	1,180,000	1,100,000	1,050,000	1,000,000

資金収支・消費収支の財政計画の根拠

25.7.17改定

資金収支・消費収支の財政計画の共通の科目

区 分		年度別の各科目の増減内訳
収 入	1	学生・生徒等納付金収入 東が丘看護学部が平成25年度に完成年度を迎えたこと、また平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い毎年度増加。
	2	手数料収入 平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い、検定料収入が増加。
	3	寄付金収入 各年度とも前年度実績並みに計上。
	4	補助金収入 平成26年度から東が丘看護学部に係る経常費補助金が交付されるが、経常費補助金が削減傾向にあることから当初目標より低めとした。
	5	資産運用収入 各年度とも奨学基金運用収入、受取利息配当金収入、施設設備利用料を計上。
	6	資産売却収入 該当なし。
	7	事業収入 各年度とも寮費収入40百万円、受託事業収入7百万円を計上。
	8	雑収入 各年度とも26百万円を計上。
	9	長期借入金収入 平成25年度以降、各キャンパス改修費用等により三菱東京から毎年借入する計画。
	10	短期借入金収入 学納金収入が5月、11月の2回に分けて入金となるため、三菱東京から繋ぎ資金200百万円を毎年度借入し期末に返済している。
	11	前受金収入 翌年度授業料を計上。平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い前受金収入は増加。
	12	その他の収入 預かり金受入収入、前期末未収入金収入、仮払金回収収入などを計上。
	13	資金収入調整勘定 各年度とも、前年度前受金収入、未収入金収入を計上。
支 出	14	人件費支出 平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い、学年進行により教職員を補充するため人件費が比例して増加。
	15	教育研究経費支出 平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い、学年進行により教育研究経費が比例して増加。
	16	管理経費支出 平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴い、学年進行により管理経費が比例して増加。
	17	借入金等利息支出 三菱東京からの借入により毎年3百万円増加。
	18	借入金等返済支出 三菱東京からの繋ぎ資金200百万円の返済と既存長期借入返済。当初計画比の増加は借入が増加したことによる。
	19	施設関係支出 平成26年度からの東が丘看護学部入学定員増に伴う施設関係支出を計上。
	20	設備関係支出 教育研究機器等備品費及び図書費を計上。
	21	資産運用支出 該当なし。
	22	その他の支出 前期末未払金支払支出、前期末長期未払金支払支出、預り金支払支出、保証金支払支出。当初計画比預かり金支払、長期未払金が増加。
	23	資金支出調整勘定 各年度とも、未払金、長期未払金を計上。



- [大学概要](#)
- [入試情報](#)
- [学部・専攻科](#)
- [学生支援](#)
- [キャンパスライフ](#)
- [大学院](#)

HOME → [大学概要](#) → [教育情報の公開](#)

○ [大学概要](#)

- 建学の精神
- 大学評価（認証評価）結果
- 中期目標・計画
- 教育情報の公開
- 理事長メッセージ
- 学長メッセージ
- 学則
- 校歌
- 組織図
- 紀要
- 自己点検・評価
- 設置計画履行状況報告書
- デジタルパンフレット
- 財務情報の公開



学校教育法施行規則に基づく教育情報の公開

東京医療保健大学は、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）に基づき教育研究活動等に関わる情報を公開します。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること
 - [建学の精神](#) ■ [大学学則](#) ■ [大学院学則](#)
 - [社会連携・協力に関する基本方針](#) ■ [国際交流に関する基本方針](#)
- ② 教育研究上の基本組織に関すること
 - [大学組織及び事務組織](#)
 - [学部・研究科の理念・目的](#)
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - [教員組織の編成方針](#)
 - [教育職員数・事務職員数（嘱託職員含む）](#)
 - [年齢別教員数](#)
 - [教員一人当たりの学生数\(平成25年度\)](#)
 - [専任教員数と非常勤教員数の比率\(平成25年度\)](#)
 - [教員の紹介](#)
 - ・ [医療保健学部](#) [看護学科](#) [医療栄養学科](#) [医療情報学科](#)
 - ・ [東が丘看護学部](#) [看護学科](#)
 - ・ [助産学専攻科](#)
 - ・ [医療保健学研究科](#) [修士課程](#) [博士課程](#)
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - [入学者受け入れの方針](#)
 - [志願者・合格者・入学者数の推移](#)
 - [学生定員及び在籍学生数](#)
 - [卒業\(修了\)者数及び学位授与数](#)
 - [退学・除籍者数](#)
 - [留年者数](#)
 - [社会人学生数](#)
 - [留学生数及び海外派遣学生数](#)
 - [就職・進学状況](#)
 - [医療保健学部](#) [看護学科](#) [医療栄養学科](#) [医療情報学科](#)
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - [教育課程編成・実施の方針](#)
 - [講義内容等](#)
 - ・ [医療保健学部](#) [看護学科](#) [医療栄養学科](#) [医療情報学科](#)
 - ・ [東が丘看護学部](#) [看護学科](#)
 - ・ [助産学専攻科](#)
 - ・ [医療保健学研究科](#) [修士課程](#) [博士課程](#)
 - ・ [看護学研究科](#) [修士課程](#)
 - [授業カレンダー](#)
 - ・ [医療保健学部](#)
 - ・ [東が丘看護学部\(1年次・2年次・3年次・4年次\)](#)
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

-  [オープンキャンパス](#)
-  [入試説明会・進学ガイダンス](#)
-  [学外進学相談会](#)
-  [学部・学科見学会](#)
-  [東京医療保健大学は 助産学基準協会の大学基準に適合していると認定されました。](#)
-  [中期目標・計画](#)
-  [点検・評価報告書](#)
-  [東ヶ丘看護学部年報](#)
-  [シラバス](#)
-  [ご寄附のお願い](#)

図書館	
公開講座	
就職・進路	
学内専用コンテンツ	

 検索


- 学位授与の方針
- 医療保健学部履修規程
- 東が丘看護学部履修規程

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- 環境整備に関する実施計画
- 校地、校舎、講義室・演習室等の面積

⑧ 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

- 学部・専攻科・研究科の入学金、授業料等

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- 学生支援に関する基本方針
- 学生支援について
- 就職支援スケジュール

⑩ 社会連携・社会貢献に関すること

- 社会連携・協力に関する基本方針の策定について
- 公開講座実施状況(平成23年度～平成25年度)
- 大学院公開講座等実施状況(医療保健学研究科 平成23年度～平成25年度)
- 大学院公開講座等実施状況(看護学研究科 平成23年度～平成25年度)
- 「ボランティア論」及び「ボランティア活動」のシラバス
- 医療保健学部学生による課外活動の状況について(平成21年度以降の主なもの)
- 東が丘看護学部学生による課外活動の状況について(平成22年度以降の主なもの)
- 国際交流事業・海外の協定相手校
- 産官学連携事業
- 大学間連携事業

↑ ページの先頭へ戻る

東京医療保健大学 所在地

五反田キャンパス	〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
世田谷キャンパス	〒154-8568 東京都世田谷区世田谷3-11-3
国立病院機構キャンパス	〒152-8558 東京都目黒区東が丘2-5-1

Copyright © 2010 東京医療保健大学 All rights reserved.

受験生の方へ

在学生の方へ

保護者の方へ

病院・企業の方へ

> アクセス

> Q&A

> 個人情報について

> リンク

> サイトマップ



資料請求はこちらから

東京医療保健大学
TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY○ [大学概要](#)○ [入試情報](#)○ [学部・専攻科](#)○ [学生支援](#)○ [キャンパスライフ](#)○ [大学院](#)

HOME

> [大学概要](#)> [財務情報の公開](#)○ [大学概要](#)[建学の精神](#)[大学評価（認証評価）結果](#)[中期目標・計画](#)[教育情報の公開](#)[理事長メッセージ](#)[学長メッセージ](#)[学則](#)[校歌](#)[組織図](#)[紀要](#)[自己点検・評価](#)[設置計画履行状況報告書](#)[デジタルパンフレット](#)[財務情報の公開](#)

大学概要

財務情報の公開

財務情報の公開

学校法人青葉学園（東京医療保健大学）は、財務情報を下記により公開しています。

[平成22年度の財務情報はこちらから](#)[平成23年度の財務情報はこちらから](#)

1. [平成24年度 決算説明書](#)
2. [平成24年度 資金収支計算書](#)
3. [平成24年度 消費収支計算書](#)
4. [平成24年度 貸借対照表](#)
5. [平成24年度 財産目録](#)
6. [平成24年度 事業報告書](#)
7. [監事監査報告書](#)
8. [独立監査人の監査報告書](#)
9. [消費収支計算書関係比率（法人全体のもの）（大学基礎データ\(表6\)）（2008年度～2012年度）](#)
10. [消費収支計算書関係比率（大学単独のもの）（大学基礎データ\(表7\)）（2008年度～2012年度）](#)
11. [貸借対照表関係比率（私立大学のみ）（大学基礎データ\(表8\)）（2008年度～2012年度）](#)
12. [科学研究費の採択状況（大学データ集\(表21\)）（2007年度～2012年度）](#)
13. [学外からの研究費（大学データ集\(表22\)）（2012年度実績）](#)

[オープンキャンパス](#)[入試説明会・
進学ガイダンス](#)[学外進学相談会](#)[学部・学科見学会](#)東京医療保健大学は
財団法人大学基準協会の大学基準に
適合していると認定されました。[中期目標・計画](#)[点検・評価報告書](#)[東ヶ丘看護学部年報](#)[シラバス](#)[ご寄附のお願い](#)

- 図書館 
- 公開講座 
- 就職・進路 
- 学内専用コンテンツ 

東京医療保健大学
携帯サイトはこちら 



[↑ ページの先頭へ戻る](#)

東京医療保健大学 所在地

五反田キャンパス	〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
世田谷キャンパス	〒154-8568 東京都世田谷区世田谷3-11-3
国立病院機構キャンパス	〒152-8558 東京都目黒区東が丘2-5-1

Copyright © 2010 東京医療保健大学 All rights reserved.